

平成28年度 医学科授業計画

医師は自らの天職をよく承知していなければならぬ。ひとたびこの職務を選んだ以上、もはや医師は自分自身のものでなく、病める人のものである。もしそれを好まぬなら、他の職業を選ぶがよい。

【開学の祖 ポンペ ファン メールデルフォールトの言葉】

長崎大学医学部医学科

目 次

はじめに	1
アクセシビリティ	2
試験成績の発表	2
追試験に関する取扱い	3
共用試験の判定基準に関する申合せ	4
医学部カリキュラムの概要	5
学年・学期別の試験科目一覧	12
平成23年度以前入学者の科目の読替え表	14
平成24～27年度入学者の科目の読替え表	15
長崎大学ナンバリング・システムについて	16
学年・学期別授業計画	
1年次授業計画	19
2年次授業計画	51
3年次授業計画	91
4年次授業計画	143
5年次授業計画	199
6年次授業計画	203

科目別目次

1年次科目

授業時間割	19
医と社会Ⅰ	20
生体分子系	24
人体構造系Ⅰ	27
発生・組織系	30
内臓機能・体液系Ⅰ	35
プレリサーチセミナー	37
国際医療英語	39
地域医療ゼミ	40
熱帯医学ゼミ	42
医学ゼミ	43
医学英語	45
学部モジュール科目	47

2年次科目

授業時間割	51
人体構造系Ⅱ	53
発生・組織系Ⅱ	57
動物性機能系	61
内臓機能・体液系Ⅱ	65
医と社会Ⅱ	68
神経・感覚器系Ⅱ	71
感染系	73
免疫系	76
病理総論系	78
腫瘍系	80
基礎医学T B L	82
プレリサーチセミナー	84
国際医療英語	85
医学ゼミ	86
医学英語	90

3年次科目

授業時間割	91
医と社会Ⅲ	92
環境因子系	96
薬理系	98
病理各論系	102
循環器系	106
呼吸器系	109
消化器系	111
感染症系	115
臨床医学T B LⅠ・Ⅱ	117
血液・リンパ系	118
内分泌・代謝・栄養系	121
免疫・アレルギー疾患系	123
腎泌尿器系	125
生殖系	127
小児系	130
放射線医学	132

プレリサーチセミナー	134
リサーチセミナー	135
国際医療英語	137
医学ゼミ	138
医学英語	141

4年次科目

授業時間割	143
医と社会Ⅳ	144
人体構造系Ⅲ	146
薬理系Ⅲ	148
病理各論系Ⅲ	151
精神系	154
脳・神経系	156
皮膚系	158
運動系	160
視覚系	162
耳鼻咽喉口腔系	164
衛生学・分子疫学	166
公衆衛生学	168
外科治療学	170
臨床医学T B LⅢ	174
法医学系	175
診断学	177
臨床検査医学	183
臨床疫学・医療情報学	185
臨床薬理学	187
東洋医学	189
総合病理学	191
臨床推論P B L	192
臨床実習	193
医学ゼミ	194
アドバンストリサーチセミナー	197
医学英語	198

5年次科目

授業時間割	199
臨床実習	200
高次臨床実習	201
アドバンストリサーチセミナー	202

6年次科目

授業時間割	203
臨床総括講義 (卒前集中講義)	204
高次臨床実習	206
アドバンストリサーチセミナー	207

はじめに

長崎大学医学部医学科では「大学教育における基本的教養と専門の基盤となる幅広い知識を修得させるとともに、医学に関する高度の専門的知識を修得させ、自立性と社会性を身につけた医師及び科学的創造性をもった医学者を育成すること」を教育目標としております（医学部規程第2条）。

この目標達成のために学科教育では、

- 1) 医学医療の知識と総合的理解（医学を学ぶ）
- 2) 科学性及び医学的創造性の養成（科学を学ぶ）
- 3) 医師としての社会的責任感及び自立性の確立（人間を学ぶ）

を図ることを重視し、この3点をバランスよく併せ持ったカリキュラムが実施されています。一般教育（全学教育）と専門教育を楔形に合わせた6年一貫教育形態が取り入れられており、平成10年度と平成14年度の改訂を経て、その概要は次頁以下に示した通りです。

医学医療の知識の修得と総合的理解の点では基礎医学から臨床医学へと展開していく医学教育の順次性を重視した年次別の授業科目が開設されています。即ち、1年次では2年次以降に学ぶ教科の基盤作りが行えるように、「医科生物学入門」をはじめとする医学の基礎科目が開講されます。2年次では人体の構造、生理機能をさらに詳細にかつ統合的に理解し医学の基礎作りが行えるように、3・4年次においては疾患の発生機序、病態の理解を基に診断、治療、予防の原理の理解へと進み、5・6年次でそれまでに得られた知識を臨床実習や臨床総括講義を通してより実戦的なものとして整理体系づけると共に、診療に必要な思考力、判断力及び技術を養成できるように授業科目が配置されています。

特に4年次からは「Problem-based learning (PBL)」が導入され自己問題解決能力の向上を図ると共に、4・5年次の各科ローテーションを軸とする「臨床実習」と5・6年次の選択必修となる「高次臨床実習」を通して、より現場に即した実習内容が提供されることになっています。また、長崎大学医学部のユニークな授業科目として1年次には「医学史・原爆医学と長崎」が、3年次には「熱帯医学」と「感染症学」を融合させた「感染症系」が設けられています。さらに、4・5年次の「臨床実習」では「離島実習」があり、実際に五島列島などでの離島医療の現場に接していただきます。それらによって、長崎の歴史と地域性に根ざした上で、日本の医療が担うべき国際的な立場の認識、さらにこれからの社会において必要と思われる医師、医学者の国際的感覚をも養っていただくことが期待されています。

科学性及び医学的創造性の養成については、各教科の授業でも当然行われますが、学生の科学的好奇心の喚起、科学的創造性の育成を図って、3年次に10週間の「リサーチセミナー」の期間が設けられています。この期間は医学部基礎系研究室と熱帯医学研究所の各部門で、各自が選択した研究テーマについて終日研究活動に従事することになります。また、平成14年度からの新カリキュラムでは必修選択科目の少人数教育「医学ゼミ」が開始され、特定の分野を深く学ぶことが可能になります。また、6年次の最終講義として卒前集中講義を設けました。

医学教育においては早い時期での医療への接触が大切だとされています。それを踏まえて、「医と社会」が設けられ、そこでは病院体験や看護体験実習での医療現場への参加や、今日的医療テーマについて専門教員を交えての討論の機会が用意されています。

さらに2・3年次の「医と社会」では、医学・医療の社会に入り自立する為の精神的基盤作りを図れるように医の倫理、医療心理学、医学・医療社会問題等について学習します。一方、4～6年次での臨床実習では、実戦的な知識・技術を身に付けるばかりでなく、多くの患者さんに接することによって職業的使命感を養っていただくことが期待されています。

最初に述べた本医学部医学科の教育目標を十分に理解し、“医学を学び”、“科学を学び”、“人間を学ぶ”自立性と社会性を身に付けた医師、科学的創造性を持った医学者に育ていただくことを切望します。

アクセシビリティ

長崎大学では、全ての学生が平等に教育を受ける機会を確保するため、修学の妨げとなり得る社会的障壁の除去及び合理的配慮の提供に取り組んでいます。授業における合理的配慮等のサポートについては、担当教員または「アシスト広場」(障がい学生支援室)にご相談下さい。

アシスト広場 (障がい学生支援室) 連絡先

(TEL) 095-819-2006 (FAX) 095-819-2948

(E-MAIL) support@ml.nagasaki-u.ac.jp

試験成績の発表

専門の成績 (可否) については掲示にてお知らせします。

成績結果に疑義がある場合は、成績発表後、1週間以内に学務係へ問い合わせてください。

また、評価については、年度末にお知らせします。

追試験に関する取扱い

平成25年12月18日
医学科会議決定

長崎大学医学部規程第14条の規定に基づく追試験の取扱いは、下記のとおりとする。

1. 病気その他やむを得ない理由により専門教育科目の定期試験を受けることができなかつた者に対し、教務委員会において審議し、追試験を行うことがある。病気その他やむを得ない理由とは、次の各号のいずれかに該当する場合をいう。

- (1) 入院加療を要する病気又は重度の負傷の場合（医師の診断書等の提出を要する）
- (2) 忌引の場合（会葬御礼のカード等の提出を要する）
- (3) 交通機関の事故・不通の場合（証明できる書類の提出を要する）
- (4) その他、教務委員会が正当と認める理由である場合

対象となるものは、定期試験実施後、すみやかに上記証明書を添えて追試験願いを提出しなければならない。

2. 本人の不注意（寝過ぎ、時間割誤認など）によるものについては、追試験は認められない。また教務委員会での審査にて、定期試験が受験可能であったと判断されるものについては、追試験を許可しない。

3. 追試験を受けようとする者は、担当教員の指定する日時に追試験を受験しなければならない。

4. 当該授業科目の追試験は1回限りとする。

5. 追試験の評価は科目責任者の判断にて減点される場合がある。

6. 尚、専門科目の定期試験以外の試験はこの申し合わせ事項を適応せず、追試験実施の有無は各科目責任者の判断によるものとする。

共用試験の判定基準に関する申合せ

〔平成 28 年 1 月 6 日〕
医学科会議決定

共用試験の判定基準について、下記のとおり申し合わせる。

記

- 第1 共用試験の合格の判定は、CBT 及び OSCE の両方に合格した者に対し行う。
- 第2 共用試験を不合格と判定された者は、翌年度 4 年次科目の臨床推論 PBL、臨床医学 TBLⅢ、診断学を聴講の上、CBT 及び OSCE の両方を受験しなければならない。
- 2 前項の科目について、各授業を行った時数の 3 分の 1 を超えて欠席した者に対しては、CBT 及び OSCE の受験資格を認めない。
- 3 第1項の科目を除く 4 年次科目の聴講については、学生からの申出により、各科目責任者が判断する。
- 第3 CBT 本試験の評価については、能力値(以下 IRT 値)359 以上をもって合格とし、IRT 値 359未満の場合には再試験を行う。なお、追・再試験の評価についても、IRT 値 359 以上をもって合格とする。
- 第4 OSCE 本試験の評価については、すべてのステーションで 60 点以上を取得することをもって合格とし、60 点未満のステーションがあった場合には、当該ステーションについて再試験を行う。なお、追・再試験の評価についても、60 点以上を合格とする。
- 第5 共用試験の本試験及び追・再試験において、病気、忌引、その他特段の事情なく欠席又は遅刻した者は不合格とする。
- 2 前項の規定により、本試験を不合格となった者は追・再試験の対象としない。

附 則

この申合せは、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この申合せは、平成 23 年 11 月 16 日から施行する。

附 則

この申合せは、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この申合せは、平成 27 年 8 月 5 日から施行する。

附 則

この申合せは、平成 28 年 1 月 6 日から施行する。

医学部カリキュラムの概要 (1年次生)

(平成28年度以降入学者用)

1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次			
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
<p>医と社会I</p> <p><u>正常構造と機能</u></p> <p>生体分子系</p> <p>人体構造系I</p> <p>発生・組織系</p> <p>内臓機能・体液系 I</p>		<p>医と社会II</p> <p><u>正常構造と機能</u></p> <p>人体構造系II</p> <p>神経・感覚器系</p> <p>動物性機能系</p> <p>内臓機能・体液系 II</p> <p><u>疾患総論</u></p> <p>感染系</p> <p>免疫系</p> <p>腫瘍系</p> <p>環境因子系</p>		<p>医と社会III</p> <p><u>疾患総論</u></p> <p>病理総論系</p> <p>基礎医学TBL</p> <p>薬理系</p> <p><u>疾患各論</u></p> <p>血液・リンパ系</p> <p>循環器系</p> <p>呼吸器系</p> <p>感染症系</p> <p>腎泌尿器系</p> <p>内分泌・代謝・栄養系</p> <p>消化器系</p> <p>運動系</p> <p>生殖系</p>		<p>医と社会IV</p> <p><u>正常構造と機能</u></p> <p>人体構造系III</p> <p><u>疾患各論</u></p> <p>精神系</p> <p>免疫・アレルギー系</p> <p>脳・神経系</p> <p>皮膚系</p> <p>視覚系</p> <p>耳鼻咽喉口腔系</p> <p>小児系</p>		<p><u>臨床実習</u></p> <p>臨床実習</p> <p>高次臨床実習I</p>		<p><u>臨床実習</u></p> <p>高次臨床実習II</p>		<p>卒業試験</p>	
<p><u>学部モジュール</u></p> <p>医科生物学入門</p> <p>医学史・原爆医学と長崎</p> <p>Communication Skill in English</p>				<p><u>診療の基本</u></p> <p>放射線医学</p> <p>臨床検査医学</p> <p><u>基礎研究実習</u></p> <p>リサーチセミナー</p>		<p><u>医学・医療と社会</u></p> <p>衛生学・分子疫学</p> <p>公衆衛生学</p> <p>地域医療学</p> <p>法医学系</p> <p><u>診療の基本</u></p> <p>診断学</p> <p>外科治療学</p> <p>臨床疫学・医療情報学</p> <p>臨床薬理学</p> <p>東洋医学</p> <p>総合病理学</p> <p>臨床推論PBL</p> <p><u>臨床実習</u></p> <p>臨床実習</p>							
		<p>教養教育</p>											
<p>医学総合セミナー</p>													
<p>医学英語</p>													

医学部カリキュラムの概要 (2年次生)

(平成27年度以降入学者用)

1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
<p>医と社会I</p> <p><u>入門科目</u></p> <p>人間生物学</p> <p><u>正常構造と機能</u></p> <p>生体分子系</p>	<p>人体構造系I</p> <p>分子遺伝系</p> <p>神経・感覚器系I</p> <p>発生・組織系I</p> <p>内臓機能・体液系I</p>	<p>医と社会II</p> <p><u>正常構造と機能</u></p> <p>人体構造系II</p> <p>発生・組織系II</p> <p>動物性機能系</p> <p>内臓機能・体液系II</p>	<p>神経・感覚器系II</p> <p><u>疾患総論</u></p> <p>感染系</p> <p>免疫系</p> <p>病理総論系</p> <p>腫瘍系</p> <p>基礎医学TBL</p>	<p>医と社会III</p> <p><u>疾患総論</u></p> <p>環境因子系</p> <p>薬理系I</p> <p>病理各論系I</p>	<p>薬理系II</p> <p>病理各論系II</p> <p><u>疾患各論</u></p> <p>循環器系</p> <p>呼吸器系</p> <p>消化器系</p> <p>感染症系</p>	<p>医と社会IV</p> <p><u>正常構造と機能</u></p> <p>人体構造系III</p> <p><u>疾患総論</u></p> <p>薬理系III</p> <p>病理各論系III</p>	<p><u>疾患各論</u></p> <p>精神系</p> <p>脳・神経系</p> <p>皮膚系</p> <p>運動系</p> <p>視覚系</p> <p>耳鼻咽喉口腔系</p>	<p><u>臨床実習</u></p> <p>臨床実習II</p> <p>高次臨床実習I</p>	<p><u>診療の基本</u></p> <p>臨床総括講義</p> <p><u>臨床実習</u></p> <p>高次臨床実習II</p>	<p>卒業試験</p>	
<p><u>学部モジュール</u></p> <p>細胞生物学</p> <p>医学史・原爆医学と長崎</p> <p>医学統計学</p>		<p>教養教育</p>		<p><u>診療の基本</u></p> <p>臨床医学TBL I</p> <p>放射線医学</p> <p>臨床医学TBL II</p>		<p><u>医学・医療と社会</u></p> <p>衛生学・分子疫学</p> <p>法医学系</p> <p>公衆衛生学</p>		<p><u>診療の基本</u></p> <p>外科治療学</p> <p>臨床医学TBL III</p> <p>診断学</p> <p>臨床検査医学</p> <p>臨床疫学・医療情報学</p> <p>臨床薬理学</p> <p>東洋医学</p> <p>総合病理学</p> <p>臨床推論PBL</p>		<p><u>臨床実習</u></p> <p>臨床実習I</p>	
<p>医学総合セミナー</p>											
<p>医学英語</p>											

医学部カリキュラムの概要 (3年次生)

(平成26年度以降入学者用)

1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医と社会I			医と社会II		医と社会III		医と社会IV				
<u>入門科目</u>		<u>正常構造と機能</u>		<u>疾患総論</u>		<u>正常構造と機能</u>		<u>臨床実習</u>		<u>診療の基本</u>	
人間生物学		人体構造系II	神経・感覚器系II	環境因子系	薬理系II	人体構造系III		臨床実習II		臨床総括講義	
<u>正常構造と機能</u>		発生・組織系II		薬理系I	病理各論系II	<u>疾患総論</u>		高次臨床実習I		<u>臨床実習</u>	
生体分子系	人体構造系I	動物性機能系		病理各論系I		薬理系III				高次臨床実習II	
	分子遺伝系	内臓機能・体液系II				病理各論系III					
	神経・感覚器系I		<u>疾患総論</u>	循環器系	血液・リンパ系		<u>疾患各論</u>				
	発生・組織系I		感染系	呼吸器系	内分泌・代謝・栄養系	精神系					
	内臓機能・体液系I		免疫系	消化器系	免疫・アレルギー疾患系	脳・神経系					
			病理総論系	感染症系	腎泌尿器系	皮膚系					
			腫瘍系		生殖系	運動系					
			基礎医学TBL		小児系	視覚系					
						耳鼻咽喉口腔系					
<u>学部モジュール</u>				<u>診療の基本</u>		<u>医学・医療と社会</u>					
細胞生物学				臨床医学TBL I	放射線医学	衛生学・分子疫学	法医学系				
医学は長崎から					臨床医学TBL II	公衆衛生学					
原爆医学概論											
	医学統計学										
				<u>基礎研究実習</u>		<u>診療の基本</u>					
					リサーチセミナー	外科治療学	診断学				
						臨床医学TBL III	臨床検査医学				
							臨床疫学・医療情報学				
							臨床薬理学				
							東洋医学				
							総合病理学				
							臨床推論PBL				
							<u>臨床実習</u>				
							臨床実習I				
											卒業試験
医学総合セミナー											
医学英語											

医学部カリキュラムの概要 (4・5年次生)

(平成24年度以降入学者用)

1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次		
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
<p>医と社会I</p> <p><u>入門科目</u></p> <p>人間生物学</p> <p><u>正常構造と機能</u></p> <p>生体分子系</p>	<p>医と社会II</p> <p><u>正常構造と機能</u></p> <p>人体構造系II 発生・組織系II 動物性機能系 内臓機能・体液系II</p> <p><u>疾患総論</u></p> <p>神経・感覚器系II</p> <p>感染系 免疫系 病理総論系 腫瘍系 基礎医学TBL</p>	<p>医と社会III</p> <p><u>疾患総論</u></p> <p>環境因子系 薬理系I 病理各論系I</p> <p><u>疾患各論</u></p> <p>循環器系 呼吸器系 消化器系 感染症系</p> <p><u>診療の基本</u></p> <p>臨床医学TBL I</p>	<p>医と社会IV</p> <p><u>正常構造と機能</u></p> <p>人体構造系III</p> <p><u>疾患総論</u></p> <p>薬理系III 病理各論系III</p> <p><u>疾患各論</u></p> <p>精神系 脳・神経系 皮膚系 運動系 視覚系 耳鼻咽喉口腔系</p> <p><u>医学・医療と社会</u></p> <p>衛生学・分子疫学 公衆衛生学</p> <p><u>診療の基本</u></p> <p>外科治療学 臨床医学TBL III</p> <p><u>臨床実習</u></p> <p>臨床実習 I</p>	<p><u>臨床実習</u></p> <p>臨床実習 II 高次臨床実習I</p>	<p><u>診療の基本</u></p> <p>臨床総括講義</p> <p><u>臨床実習</u></p> <p>高次臨床実習II</p>	<p>卒業試験</p>	<p>医学総合セミナー</p> <p>医学英語</p>	<p>教養教育</p> <p>医学統計学</p>	<p>学部モジュール</p> <p>人間生物学 細胞生物学 医学は長崎から 原爆医学概論</p>	<p>正常構造と機能</p> <p>人体構造系I 分子遺伝系 神経・感覚器系I 発生・組織系I 内臓機能・体液系I</p>	<p>血液・リンパ系 内分泌・代謝・栄養系 免疫・アレルギー疾患系 腎泌尿器系 生殖系 小児系</p>	<p>法医学系 診断学 臨床検査医学 臨床疫学・医療情報学 臨床薬理学 東洋医学 総合病理学 臨床推論PBL</p>

医学部カリキュラムの概要 (6年次生)

(平成23年度以降入学生用)

1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
<p>医と社会</p> <p style="text-align: center;"><u>入門科目</u></p> <p>人間生物学</p> <p>細胞生物学</p> <p>原爆医学概論</p> <p>医学は長崎から</p> <p style="text-align: center;"><u>正常構造と機能</u></p> <p style="text-align: center;">人体構造系</p>	<p>医と社会</p> <p style="text-align: center;"><u>正常構造と機能</u></p> <p>人体構造系</p> <p>生体分子系</p> <p>分子遺伝系</p> <p style="text-align: center;">内臓機能・体液系</p>	<p>医と社会</p> <p style="text-align: center;"><u>疾患総論</u></p> <p>感染系</p> <p>免疫系</p> <p>環境因子系</p> <p>薬理系</p> <p>病理総論系</p> <p>分子病態系</p> <p>腫瘍系</p> <p style="text-align: center;"><u>疾患各論</u></p> <p>血液・リンパ系</p> <p>循環器系</p> <p>呼吸器系</p> <p>内分泌・代謝・栄養系</p>	<p>医と社会</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">リサーチセミナー</p> <p style="text-align: center;"><u>疾患各論</u></p> <p>脳・神経系</p> <p>運動系</p> <p>消化器系</p> <p>腎泌尿器系</p> <p>生殖系</p> <p>視覚系</p> <p>耳鼻咽喉口腔系</p> <p>免疫・アレルギー疾患系</p> <p style="text-align: center;"><u>医学・医療と社会</u></p> <p>法医学系</p> <p>社会医学系</p> <p style="text-align: center;"><u>診療の基本</u></p> <p>診断学</p> <p>放射線医学</p> <p>臨床検査医学</p> <p>外科治療学</p>	<p>医と社会</p> <p style="text-align: center;"><u>診療の基本</u></p> <p>臨床疫学・医療情報学</p> <p>臨床薬理学</p> <p>臨床総括講義</p> <p>(PBLチュートリアル)</p> <p style="text-align: center;"><u>臨床実習</u></p> <p>臨床実習</p>	<p>医と社会</p> <p style="text-align: center;"><u>診療の基本</u></p> <p>臨床総括講義</p> <p style="text-align: center;"><u>臨床実習</u></p> <p>高次臨床実習</p> <p style="text-align: center;">卒業試験</p>						
全学教育											
医学総合セミナー (選択科目)											
医学英語											

医学部カリキュラムの概要（学士2年前期編入学）

（平成25年度以降2年次編入学生適用）

1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
		医と社会I	医と社会II		医と社会III	医と社会IV					
			入門科目		疾患総論		正常構造と機能		臨床実習		診療の基本
		人間生物学		環境因子系	薬理系	人体構造系III		臨床実習II		臨床総括講義	
			正常構造と機能		病理各論系		疾患総論	高次臨床実習I			臨床実習
		生体分子系	分子遺伝系		疾患各論	薬理系				高次臨床実習II	
		人体構造系II	神経・感覚器系I		血液・リンパ系	病理各論系					
		発生・組織系II	内臓機能・体液系I	循環器系	内分泌・代謝・栄養系		疾患各論				
		動物性機能系	神経・感覚器系II	呼吸器系	免疫・アレルギー疾患系	精神系					
		内臓機能・体液系II		消化器系	腎泌尿器系	脳・神経系					
			疾患総論	感染症系	生殖系	皮膚系					
			感染系		小児系	運動系					
			免疫系		診療の基本	視覚系					
			病理総論系		放射線医学	耳鼻咽喉口腔系					
			腫瘍系		臨床医学TBL I	医学・医療と社会					
			基礎医学TBL		臨床医学TBL II	衛生学・分子疫学	法医学系				
					基礎研究実習	公衆衛生学					
						診療の基本					
						診断学					
					リサーチセミナー	臨床検査医学					
						臨床疫学・医療情報学					
						臨床薬理学					
						東洋医学					
						総合病理学					
						臨床推論PBL					
						臨床実習					
						臨床実習 I					
					医学ゼミ						
					医学英語						卒業試験

医学部カリキュラムの概要(学士2年後期編入学)

(平成24年度以降2年後期編入生適用)

1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次			
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
(編入生適用)		医と社会 <u>正常構造と機能</u> 人体構造系 生体分子系 分子遺伝系 神経・感覚器系 発生・組織系 動物性機能系 内臓機能・体液系		医と社会 <u>正常構造と機能</u> 人体構造系 <u>疾患総論</u> 感染系 免疫系 環境因子系 病理総論系 病理各論系 分子病態系 腫瘍系 薬理系		医と社会 <u>疾患各論</u> 脳・神経系 運動系 消化器系 腎泌尿器系 生殖系 視覚系 耳鼻咽喉口腔系 免疫・アレルギー疾患系		医と社会 <u>疾患各論</u> 皮膚系 精神系 小児系 感染症系(含熱帯医学)		<u>診療の基本</u> 臨床疫学・医療情報学 臨床薬理学 臨床総括講義 (PBLチュートリアル) <u>臨床実習</u> 臨床実習		<u>診療の基本</u> 臨床総括講義 <u>臨床実習</u> 高次臨床実習	
		医学ゼミ		リサーチセミナー 血液・リンパ系 循環器系 呼吸器系 内分泌・代謝・栄養系		医学・医療と社会 法医学系 社会医学系 <u>診療の基本</u> 診断学 放射線医学 臨床検査医学 外科治療学							
						医学ゼミ						卒業試験	
				医学英語									

学年・学期別の試験科目一覧（一般学生用）

学 年	前 期 末 試 験 期 間	後 期 末 試 験 期 間
1 年次		生体分子系 人体構造系 I 発生・組織系 内臓機能・体液系 I
2 年次	人体構造系 II 発生・組織系 II 動物性機能系 内臓機能・体液系 II	神経・感覚器系 II 感染系 免疫系 病理総論系 腫瘍系
3 年次	環境因子系 薬理系 I 病理各論系 I 循環器系 呼吸器系 消化器系 感染症系（含熱帯医学）	薬理系 II 病理各論系 II 血液・リンパ系 内分泌・代謝・栄養系 免疫・アレルギー疾患系 腎泌尿器系 生殖系 小児系 放射線医学
4 年次	人体構造系 III 薬理系 III 病理各論系 III 精神系 脳・神経系 皮膚系 運動系 視覚系 耳鼻咽喉口腔系 衛生学・分子疫学 公衆衛生学 外科治療学	法医学系 診断学 臨床検査医学 東洋医学
5 年次		
6 年次	卒業試験	卒業試験

学年・学期別の試験科目一覧（学士編入学者用）

学 年	前 期 末 試 験 期 間	後 期 末 試 験 期 間
2 年次	人間生物学 人体構造系Ⅱ 発生・組織系Ⅱ 動物性機能系 内臓機能・体液系Ⅱ	生体分子系 分子遺伝系 神経・感覚器系Ⅰ 内臓機能・体液系Ⅰ 神経・感覚器系Ⅱ 感染系 免疫系 病理総論系 腫瘍系
3 年次	環境因子系 薬理系Ⅰ 病理各論系Ⅰ 循環器系 呼吸器系 消化器系 感染症系（含熱帯医学）	薬理系Ⅱ 病理各論系Ⅱ 血液・リンパ系 内分泌・代謝・栄養系 免疫・アレルギー疾患系 腎泌尿器系 生殖系 小児系 放射線医学
4 年次	人体構造系Ⅲ 薬理系Ⅲ 病理各論系Ⅲ 精神系 脳・神経系 皮膚系 運動系 視覚系 耳鼻咽喉口腔系 衛生学・分子疫学 公衆衛生学 外科治療学	法医学系 診断学 臨床検査医学 東洋医学
5 年次		
6 年次	卒業試験	卒業試験

平成23年度以前入学者の科目の読替え表

平成23(2011)年度以前入学者カリキュラム科目				
開講年次	科目区分	科目	受講学期	旧カリ単位数
1年	医と社会	医と社会	1前	7.5
2年	医と社会	医と社会	2後	
3年	医と社会	医と社会	3前・後	
4年	医と社会	医と社会	4前	
1年	入門科目	人間生物学	1前・後	4.0
1年	入門科目	細胞生物学	1前	1.0
1年	入門科目	原爆医学概論	1前	0.5
1年	入門科目	医学は長崎から	1前	0.5
1年	入門科目	医学統計学	1後	1.0
1年	入門科目	生物化学	1後	1.0
1年	入門科目	生物・化学実習	1後	2.0
1年	正常構造と機能	人体構造系	1後	6.5
2年	正常構造と機能	人体構造系	2前	
2年	正常構造と機能	生体分子系	2前	2.5
2年	正常構造と機能	分子遺伝系	2前	2.0
2年	正常構造と機能	神経・感覚器系	2後	2.0
2年	正常構造と機能	発生・組織系	2後	3.0
2年	正常構造と機能	動物性機能系	2後	2.5
2年	正常構造と機能	内臓機能・体液系	2前・後	3.5
2年	正常構造と機能	(生理学実習)	2前	
3年	疾患総論	感染系	3前	3.5
3年	疾患総論	免疫系	3前	2.0
3年	疾患総論	環境因子系	3前	1.0
3年	疾患総論	薬理系(薬理学実習含む)	3前	2.5
3年	疾患総論	病理総論系	3前	1.5
3年	疾患総論	病理各論系	3前・後	4.0
3年	疾患総論	分子病態系	3前	1.0
3年	疾患総論	腫瘍系	3前	1.0
3年	疾患各論	血液・リンパ系	3後	1.5
3年	疾患各論	循環器系	3後	2.5
3年	疾患各論	呼吸器系	3後	2.0
3年	疾患各論	内分泌・代謝・栄養系	3後	1.5
3年	基礎研究実習	リサーチセミナー	3後	9.0
4年	疾患各論	免疫・アレルギー疾患系	4前	1.0
4年	疾患各論	脳・神経系	4前	2.5
4年	疾患各論	運動系	4前	1.5
4年	疾患各論	消化器系	4前	2.5
4年	疾患各論	腎泌尿器系	4前	1.5
4年	疾患各論	生殖系	4前	2.5
4年	疾患各論	視覚系	4前	1.0
4年	疾患各論	耳鼻咽喉口腔系	4前	1.5
4年	疾患各論	皮膚系	4後	1.5
4年	疾患各論	精神系	4後	1.5
4年	疾患各論	小児系	4後	1.5
4年	疾患各論	感染症系	4後	2.0
4年	医学・医療と社会	法医学系	4後	1.5
4年	医学・医療と社会	社会医学系	4前・後	5.0
4年	診療の基本	診断学	4後	3.0
4年	診療の基本	放射線医学	4後	1.0
4年	診療の基本	臨床検査医学	4後	1.0
4年	診療の基本	外科治療学	4後	2.0
5年	診療の基本	臨床疫学・医療情報学	5前・後	0.5
5年	診療の基本	臨床薬理学	5前・後	0.5
5年	診療の基本	臨床総括講義	5前・後	8.5

平成24(2012)～平成27(2015)年度入学者カリキュラム					
開講年次	科目区分	科目	受講学期	新カリ単位数	
1年	医と社会	医と社会I	1前	2.5	4科目履修すると読替え
2年	医と社会	医と社会II	2後	2.0	
3年	医と社会	医と社会III	3前・後	2.5	
4年	医と社会	医と社会IV	4前	0.5	
1年	入門科目	人間生物学	1前	2.0	4単位に読替え
1年	学部モジュール科目	細胞生物学	1前	2.0	1単位に読替え
1年	学部モジュール科目	原爆医学概論	1前	2.0	0.5単位に読替え
1年	学部モジュール科目	医学は長崎から	1前	2.0	0.5単位に読替え
1年	学部モジュール科目	医学統計学	1後	2.0	1単位に読替え
					読替え科目なし
					読替え科目なし
1年	正常構造と機能	人体構造系 I	1後	2.0	3科目履修すると読替え
2年	正常構造と機能	人体構造系 II	2前	3.5	
4年	正常構造と機能	人体構造系III	4前	1.0	
1年	正常構造と機能	生体分子系	1前	3.0	2.5単位に読替え
1年	正常構造と機能	分子遺伝系	1後	2.0	
1年	正常構造と機能	神経・感覚器系I	1後	1.5	2科目履修すると読替え
2年	正常構造と機能	神経・感覚器系II	2後	0.5	
1年	正常構造と機能	発生・組織系I	1後	0.5	2科目履修すると読替え
2年	正常構造と機能	発生・組織系II	2前	2.5	
2年	正常構造と機能	動物性機能系	2前	2.5	
1年	正常構造と機能	内臓機能・体液系I	1後	1.0	2科目履修すると読替え
2年	正常構造と機能	内臓機能・体液系II	2前	2.5	
2年	正常構造と機能	(生理学実習)	2前		
2年	疾患総論	感染系	2後	3.5	
2年	疾患総論	免疫系	2後	2.0	
3年	疾患総論	環境因子系	3前	1.0	
3年	疾患総論	薬理系(薬理学実習含む) I	3前	2.5	3科目履修すると読替え
3年	疾患総論	薬理系(薬理学実習含む) II	3後		
4年	疾患総論	薬理系(薬理学実習含む) III	4前		
2年	疾患総論	病理総論系	2後	1.5	3科目履修すると読替え
3年	疾患総論	病理各論系 I	3前	4.0	
3年	疾患総論	病理各論系 II	3後		
4年	疾患総論	病理各論系 III	4前		
2年	疾患総論	基礎医学TBL	2後	1.0	
2年	疾患総論	腫瘍系	2後	1.0	
3年	疾患各論	血液・リンパ系	3後	1.5	
3年	疾患各論	循環器系	3前	2.5	
3年	疾患各論	呼吸器系	3前	2.0	
3年	疾患各論	内分泌・代謝・栄養系	3後	1.5	
3年	基礎研究実習	リサーチセミナー	3後	11.5	9単位に読替え
3年	疾患各論	免疫・アレルギー疾患系	3後	1.0	
4年	疾患各論	脳・神経系	4前	2.5	
4年	疾患各論	運動系	4前	1.5	
3年	疾患各論	消化器系	3前	2.5	
3年	疾患各論	腎泌尿器系	3後	1.5	
3年	疾患各論	生殖系	3後	2.5	
4年	疾患各論	視覚系	4前	1.5	1単位に読替え
4年	疾患各論	耳鼻咽喉口腔系	4前	1.5	
4年	疾患各論	皮膚系	4前	1.5	
4年	疾患各論	精神系	4前	1.5	
3年	疾患各論	小児系	3後	1.5	
3年	疾患各論	感染症系	3前	2.0	
4年	医学・医療と社会	法医学系	4後	1.5	
4年	医学・医療と社会	衛生学・分子疫学	4前	1.5	5単位に読替え
4年	医学・医療と社会	公衆衛生学	4前	1.5	
4年	診療の基本	診断学	4後	3.0	
3年	診療の基本	放射線医学	3後	1.0	
4年	診療の基本	臨床検査医学	4後	1.0	
4年	診療の基本	外科治療学	4前	2.0	
4年	診療の基本	* 臨床疫学・医療情報学	4後	0.5	
4年	診療の基本	* 臨床薬理学	4後	0.5	
3年	診療の基本	* 臨床医学TBL I	3前	2.0	8.5単位に読替え
3年	診療の基本	* 臨床医学TBL II	3後	1.0	
4年	診療の基本	* 臨床医学TBL III	4前	1.0	
4年	診療の基本	* 東洋医学	4後	0.5	
4年	診療の基本	* 総合病理学	4後	1.0	
4年	診療の基本	* 臨床推論PBL	4後	3.0	
4年	臨床実習	* 臨床実習	4後		

※H27年度までに下記の3科目を未履修でかつ3, 4年次に「*」の科目を履修する機会がなかった者のみ適用する科目					
5年	診療の基本	臨床疫学・医療情報学	5前・後	0.5	3科目に読替え
5年	診療の基本	臨床薬理学	5前・後	0.5	
5年	診療の基本	臨床総括講義	5前・後	8.5	
5年	臨床実習	臨床実習	5前・後	42.0	42単位に読替え
6年	診療の基本	臨床総括講義(卒前集中講義)	6前		
6年	臨床実習	高次臨床実習	6前	18.0	
5年	臨床実習	臨床実習	5前・後	55.0	42単位に読替え
6年	診療の基本	臨床総括講義	6前	3.0	
6年	臨床実習	高次臨床実習II	6前	20.0	

※ の開講年次が変更になった科目については、新カリの開講年次において履修し、進級要件は、旧カリの開講年次の要件に含める。

※ の開講年次が変更になった科目については、新カリの開講年次において履修するが、進級要件には含めない。

平成24～平成27年度入学者の科目の読替え表

平成24(2012)～平成27(2015)年度入学者カリキュラム					
開講年次	科目区分	科目	受講学期	単位数	
1年	医と社会	医と社会I	1前	2.5	
2年	医と社会	医と社会II	2後	2.0	
1年	入門科目	人間生物学(※)	1前	2.0	
1年	学部モジュール科目	細胞生物学	1前	2.0	
1年	学部モジュール科目	原爆医学概論	1前	2.0	
1年	学部モジュール科目	医学は長崎から	1前	2.0	
1年	学部モジュール科目	医学統計学	1後	2.0	
1年	正常構造と機能	人体構造系 I	1後	2.0	
2年	正常構造と機能	人体構造系 II	2前	3.5	
1年	正常構造と機能	生体分子系	1前	3.0	
1年	正常構造と機能	分子遺伝系(※)	1後	2.0	
1年	正常構造と機能	神経・感覚器系I(※)	1後	1.5	
2年	正常構造と機能	神経・感覚器系II	2後	0.5	
1年	正常構造と機能	発生・組織系I	1後	0.5	
2年	正常構造と機能	発生・組織系II	2前	2.5	
2年	正常構造と機能	動物性機能系	2前	2.5	
1年	正常構造と機能	内臓機能・体液系I	1後	1.0	
2年	正常構造と機能	内臓機能・体液系II(※)	2前	2.5	
2年	疾患総論	感染系	2後	3.5	
2年	疾患総論	免疫系	2後	2.0	
3年	疾患総論	環境因子系	3前	1.0	
2年	疾患総論	腫瘍系	2後	1.0	

平成28(2016)年度以降入学者カリキュラム					
開講年次	科目区分	科目	受講学期	単位数	
1年	医と社会	医と社会I	1前・後	2.0	
2年	医と社会	医と社会II	2前・後	2.0	
1年	学部モジュール科目	医科生物学入門	1前	1.0	2単位に読替え
1年	学部モジュール科目	医科生物学入門	1前	1.0	2単位に読替え
1年	学部モジュール科目	医学史・原爆医学と長崎	1前	2.0	各2単位に読替え
1年	学部モジュール科目	医学統計学	1後	2.0	
1年	正常構造と機能	人体構造系 I	1前・後	2.0	
2年	正常構造と機能	人体構造系 II	2前	3.5	
1年	正常構造と機能	生体分子系	1前・後	1.5	3単位に読替え
2年	正常構造と機能	分子遺伝系	2後	2.0	
2年	正常構造と機能	神経・感覚器系	2前	2.0	1科目履修で2科目に読替え
1年	正常構造と機能	発生・組織系	1前・後	2.0	1科目履修で2科目に読替え
2年	正常構造と機能	動物性機能系	2前	1.5	2.5単位に読替え
1年	正常構造と機能	内臓機能・体液系I	1後	3.5	
2年	正常構造と機能	内臓機能・体液系II	2前	0.5	
2年	疾患総論	感染系	2後	2.5	3.5単位に読替え
2年	疾患総論	免疫系	2後	1.5	2単位に読替え
2年	疾患総論	環境因子系	2後	1.0	
2年	疾患総論	腫瘍系	2後	0.5	1単位に読替え

平成24(2012)～平成27(2015)年度入学者

※ の開講年次が変更になった科目については、平成28(2016)年度以降カリの開講年次において履修し、進級要件は平成24(2012)～平成27(2015)年度カリの開講年次の要件に含める。

※ の開講年次が変更になった科目については、平成28(2016)年度以降カリの開講年次において履修し、進級要件は平成28(2016)年度カリの開講年次の要件に含める。なお、開講しない年度の再履修については成績評価のみを実施する。

※ 内臓機能・体液系IIの未修得学生は平成28(2016)年度以降カリの内臓機能・体液系Iも再履修すること。

平成28(2016)年度編入学生

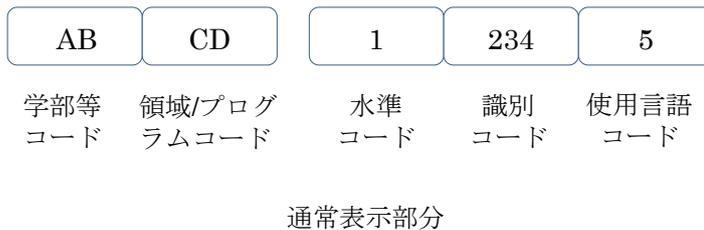
※ 朱書きの科目については、平成28(2016)年度に別途補講・試験等を行う。

長崎大学ナンバリング・システムについて

長崎大学ナンバリング・システムとは、長崎大学で開講されているすべての授業科目（教養教育科目・学部専門科目・大学院専門科目等。旧カリキュラム科目は除く）に対し、授業内容・レベル等に応じて特定の記号や数字やナンバーを付与し、教育課程表やシラバスに記載することにより、体系的な教育プログラムの実現を目指す方法のことであります。

1 長崎大学ナンバリング・システムの統一フォーマット

長崎大学の全授業科目には、以下のような統一した形式でナンバーが付されています：



表示例

専門教育科目 医と社会 GEFY 11111

【学部等コード】科目を提供する学部や研究科等を表す2文字の英文字です。医学科は「ME」で統一されています。

【領域/プログラムコード】科目を提供する学部等のカリキュラム体系上の大きな区分を表す2文字の英文字です。医学科は「ME」で統一されています。

【水準コード】科目の授業のレベルを示す1桁の数字です。数字と学年は必ずしも一致するものではありません。識別コードの詳細については表2を参照ください。

【識別コード】「領域/プログラムコード」で大きく区分された科目群を更に識別するための3桁の数字です。学部・研究科ごとに独自の規則で識別コードが付与されています。

【使用言語コード】その科目の授業中に使用される言語を表す1桁の数字です。表3を参照ください。

2 長崎大学ナンバリング・システムの特徴

識別コード

識別コードによって、授業科目の履修体系上でのおよその位置づけが一目で識別できます。

3 ナンバリング・システムの活用方法

記号や数字の意味することを理解した上で、便覧等に示された学部や研究科ごとの科目ナンバリング付与規則を理解してください。慣れてくると、科目ナンバーを見るだけで、カリキュラム体系上どのような位置づけの科目であるか分かるようになります。

識別コードは、体系的に設計してありますので、科目選択や履修順序を判断する際に利用してください。

シラバスに履修の前提とする科目が科目ナンバーで記載されている場合があります。そのときは、NU-Webの検索機能でどのような科目であるか調べてください（平成27年10月以降使用可）。

専門的な学習を行うようになったら、科目ナンバーの学問分類からその科目の学問上の位置づけを把握することで、履修科目の体系に関する理解が更に深まります。

表 2

0 : 卒業要件外科目 (大学入学前に修得する内容の科目, リメディアル科目, 卒業要件外授業科目)	
1 : 学部専門科目 (入門的内容の科目), 教養教育科目 (語学上級科目, 高年次対象科目を除く)	学部科目
2 : 学部専門科目 (基礎的内容の科目), 教養教育科目 (語学上級, 高年次対象科目)	
3 : 学部専門科目 (発展的内容の科目), 教養教育科目 (高年次対象科目)	
4 : 学部専門科目 (卒業論文・卒業研究関連科目, 医・歯・薬5～6年科目)	

表 3

1 : 日本語で行う授業	6 : ドイツ語で行う授業
2 : 英語で行う授業	7 : フランス語で行う授業
3 : 日本語と英語のバイリンガル授業	8 : オランダ語で行う授業
4 : 中国語で行う授業	9 : 日本語と英語以外の外国語のバイリンガル授業
5 : 韓国語で行う授業	0 : (予備)

授業科目区分	科目名	ナンバリング	
医と社会	医と社会Ⅰ	MEME21011	
	医と社会Ⅱ	MEME21021	
	医と社会Ⅲ	MEME31031	
	医と社会Ⅳ	MEME31041	
入門科目	人間生物学	MEME12011	
正常構造と機能	人体構造系Ⅰ	MEME23011	
	人体構造系Ⅱ	MEME23021	
	生体分子系	MEME23031	
	分子遺伝系	MEME23041	
	動物性機能系	MEME23071	
	人体構造系Ⅲ	MEME33101	
	神経・感覚器系Ⅰ	MEME23111	
	発生・組織系Ⅰ	MEME23121	
	内臓機能・体液系Ⅰ	MEME23131	
	神経・感覚器系Ⅱ	MEME23141	
	発生・組織系Ⅱ	MEME23151	
	内臓機能・体液系Ⅱ	MEME23161	
	疾患総論	感染系	MEME24011
		免疫系	MEME24021
環境因子系		MEME34031	
薬理系		MEME34041	
病理総論系		MEME24051	
病理各論系		MEME34081	
腫瘍系		MEME24101	
基礎医学TBL		MEME24111	
疾患各論	血液・リンパ系	MEME35011	
	循環器系	MEME35021	
	呼吸器系	MEME35031	
	内分泌・代謝・栄養系	MEME35041	
	免疫・アレルギー疾患系	MEME35051	
	脳・神経系	MEME35061	
	皮膚系	MEME35071	
	運動系	MEME35081	
	消化器系	MEME35091	
	腎泌尿器系	MEME35101	
	生殖系	MEME35111	
	視覚系	MEME35121	
	耳鼻咽喉口腔系	MEME35131	
	精神系	MEME35141	
	小児系	MEME35151	
	感染症系	MEME35161	
	医学・医療と社会	法医学系	MEME36011
		社会医学系	MEME36021
衛生学・分子疫学		MEME36031	
公衆衛生学		MEME36041	
	公衆衛生学	MEME36051	

授業科目区分	科目名	ナンバリング
診療の基本	診断学	MEME37011
	放射線医学	MEME37021
	臨床検査医学	MEME37031
	外科治療学	MEME37041
	臨床疫学・医療情報学	MEME37051
	臨床薬理学	MEME37061
	臨床総括講義	MEME47071
	臨床医学TBLⅠ	MEME37081
	臨床医学TBLⅡ	MEME37091
	臨床推論PBL	MEME37131
臨床実習	臨床実習	MEME48011
	高次臨床実習Ⅰ	MEME48311
	高次臨床実習Ⅱ	MEME48321
基礎研究実習	リサーチセミナー	MEME39011
	プレリサーチセミナーⅠ	MEME29041
	プレリサーチセミナーⅡ	MEME29051
	プレリサーチセミナーⅢ	MEME39061
	アドバンスリサーチセミナーⅠ	MEME39071
	アドバンスリサーチセミナーⅡ	MEME39081
	アドバンスリサーチセミナーⅢ	MEME49091
	アドバンスリサーチセミナーⅣ	MEME49101
	アドバンスリサーチセミナーⅤ	MEME49111
	医学総合セミナー	医学ゼミⅠ
医学ゼミⅡ		MEME20021
医学ゼミⅢ		MEME30031
地域医療ゼミ		MEME20091
熱帯医学ゼミ		MEME20251
医学英語	国際医療英語Ⅰ	MEME20172
	国際医療英語Ⅱ	MEME20182
	医学英語Ⅰ	MEME21512
	医学英語Ⅱ	MEME21522
	医学英語Ⅲ	MEME21532
医学英語Ⅳ	MEME21542	
学部モジュール	人間生物学	MEME16011
	細胞生物学	MEME16021
	医学統計学	MEME16031
	原爆医学概論	MEME16041
	医学は長崎から	MEME16051
	医学史・原爆医学と長崎	MEME16061
	Communication Skill in English	MEME16073

医 と 社 会 I

責任者	氏名	安武 亨	内線	7987
	教室	先端医育センター	e-mail	toru@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16:30～17:30		

対象年次・学期	1年（前期・後期）	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2.5
英語名	Medicine and Society		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

医学生として図書館の利用法、プライマリヘルスケアから先進医療についてまで幅広い知識を得るとともに、チーム医療および患者の立場に立った医療に必要な患者の心の理解、患者とのコミュニケーションを学ぶ。同時に体験実習を通して、医師の立場から（病院実習）、リハビリ、介護の面から病院やリハビリ施設で病める人の立場に立った医療を実感する。また、地域包括ケアシステムを理解し、診療器具を実際に操作する中で、診療の心得を習得する。

2. 授業内容（講義・実習項目）

1) 実習

- (1) 学内演習（保健学科と共修）
- (2) 病院見学 長崎大学病院医局
- (3) 患者に寄り添う心得
- (4) 学外施設見学 リハビリテーション施設（保健学科と共修）

2) 医学テーマ

- (1) チーム医療・ワークショップ（保健学科と共修）
- (2) 実習の心得：病院オリエンテーション（保健学科と共修）
- (3) プロフェッショナリズム
- (4) 地域包括ケアシステム
- (5) 地域医療
- (6) 臓器移植・再生医療
- (7) 熱帯医学
- (7) 対人関係
- (8) プライマリヘルスケア
- (9) 感染症
- (10) 臨床倫理
- (11) 図書館の利用法

3. 教科書、参考書等

適宜プリントを配付する

4. 成績評価の方法・基準

実習状況、出欠状況などを総合して評価する。講義・実習には全て出席すること。授業回数の3分の1を超えて欠席した者は失格とする。

5. 教員名

地域包括ケア教育センター：永田康浩、久芳さやか、西野文子、松坂雄亮、濱口由子
 保健学科教務委員会：楠葉洋子、松浦江美、森藤香奈子、坂本淳哉、岩永竜一郎、
 保健学科：沖田実、東登志夫、宮原春美、
 保健学実践教育研究センター：井口茂
 教学担当理事：松坂誠應
 地域医療学：前田隆浩、小屋松淳
 長崎大学病院長：増崎英明
 長崎大学病院看護部長：萩原絹子
 先端医育センター：安武亨、田中邦彦、江川亜希子
 医療教育開発センター長：浜田久之
 学術情報部（図書館担当者）：志波原智美、後藤史彦
 非常勤：荒木利卓（長崎医療センター）
 非常勤：八坂貴宏（長崎県離島医療圏組合上五島病院長）

熱帯医学研究所長：森田公一
第二外科教授：江口晋
非常勤：永田耕司（活水女子大学看護学部看護学科教授）
熱帯医学研究所教授：有吉紅也
長崎大学大学院グローバルヘルス研究科教授：Sharon Cox

「ようこそ先輩」
外傷センター：宮本俊之
臨床検査医学：柳原克紀
産婦人科：増崎英明

6. 備考

学外実習については、オリエンテーションを行うので実施要項に従う。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

H28年度(1年前期)

月	日	曜日	校時	授業内容	担当講座等・教員	教室	
4	11	月	3	ようこそ先輩(1)「骨を診るコツ」	外傷センター 宮本 俊之	第1講義室	
4	12	火	1	授業ガイダンス	保健学科教務委員 教務担当理事：松坂誠應 宮原晴美(保)、沖田実(保)、東登志夫(保) 地域包括ケア教育センター	第2講義室	
			2	チーム医療(1)：クライアントの理解と現代医療を支える医療専門職者の役割 総論			
			3	チーム医療(2)：クライアントの理解と現代医療を支える医療専門職者の役割 (保健学科と共修)			
4	18	月	3	ようこそ先輩(2)	臨床検査医学 柳原 克紀	第1講義室	
4	19	火	1	チーム医療(3)：クライアントの理解と現代医療を支える医療専門職者の役割	保健学科教務委員、 地域医療学 看護部長：萩原絹子 リハビリテーション部	第2講義室	
			2	チーム医療(4)：クライアントの理解と現代医療を支える医療専門職者の役割 大学病院におけるチーム医療とQOL			
			3	ワークショップ(1)“望ましいチーム医療について考える” (保健学科と共修)			
4	25	月	3	ようこそ先輩(3)「発生学と進化論」	長崎大学病院長 増崎 英明	第1講義室	
4	26	火	1	ワークショップ(2)“望ましいチーム医療について考える” ワークショップ(3)発表 (保健学科と共修)	保健学科教務委員 病院長：増崎英明 地域包括ケア教育センター	第2講義室	
			2				
			3				
5	2	月	3	ようこそ先輩(4)「代謝(タイシャ)学って、面白い!？」	第一内科 阿比留 教生	第1講義室	
5	10	火	1	実習の心得：病院オリエンテーション (保健学科と共修)	地域包括ケア教育センター、保健学科、 先端医療センター	第4講義室	
			2	病院見学オリエンテーション “大学病院の役割”	先端医療センター 安武亨		
			3	医師のキャリアパスとプロフェッショナリズム	医療教育開発センター 浜田久之		
				A	B		
5	17	火	1	病院見学 (長崎大学病院医局)	図書館の利用法・情報検索実習	長崎大学病院医局	
			2		患者に寄り添う心得		地域包括ケア教育センター 先端医療センター・医学分館
			3				
5	24	火	1	図書館の利用法・情報検索実習	病院見学 (長崎大学病院医局)	長崎大学病院医局	
			2	患者に寄り添う心得			地域包括ケア教育センター 先端医療センター・医学分館
			3				
6	7	火	1	病院見学のフィードバック・まとめ	地域包括ケア教育センター 先端医療センター	第1講義室	
			2				
6	14	火	1	学外施設オリエンテーション (保健学科と共修)	地域包括ケア教育センター 保健学科 先端医療センター	第2講義室 セミナー室 視聴覚室 ボンペ会館	
			2				
			3				
			4	臨床倫理入門	長崎医療センター 荒木利卓	第2講義室	
			5	プライマリヘルスケア	上五島病院 八坂貴宏		
			6	未定	未定		

				A	B				
6	21	火	1	学外施設見学 (保健学科と共修)	学内演習 (保健学科と共修)	地域包括ケア教育センター 保健学科、 先端医育センター	第4講義室		
			2						
			3						
			4						
			5						
			6						
6	28	火	1	学内演習 (保健学科と共修)	学外施設見学 (保健学科と共修)	地域包括ケア教育センター 保健学科、 先端医育センター	第4講義室		
			2						
			3						
			4						
			5						
			6						
7	5	火	1	学外施設見学のフィードバック・まとめ (保健学科と共修)		地域包括ケア教育センター	第4講義室		
			2						
			3						
			4	熱帯医学	熱研・森田公一	第2講義室			
							5	臓器移植・再生医療	第二外科・江口晋
							6	未定	未定
7	11	月	3	ようこそ先輩 (5)	未定	ボードインホール			
7	12	火	1	対人関係	活水女子大学 永田耕司	第2講義室			
			2	感染症とは	熱研・有吉紅也 グローバルヘルス研究科・Sharon Cox				
			3						

H28年度(1年後期)

月	日	曜日	校時	授業内容	担当講座等・教員	教室
12	5	月	3	ようこそ先輩 (6)	4年生	第2講義室
2	6	月	3	ようこそ先輩 (7)	未定	第1講義室

生 体 分 子 系

責任者	氏 名	伊 藤 敬	内 線	7037
	教 室	生化学	e-mail	tito@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日午後1時～午後5時		

対象年次・学期	1年・前期後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	3
英語名	Biochemistry		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

生化学は生命現象を物質レベルの変化で説明しようとする学問である。すなわち生化学的知識とその思考法は生命現象の理解のみならず基礎と臨床を含めた医学全般を理解するためにも不可欠である。生体分子系の講義では、蛋白質、糖質、脂質などの生体分子(Biomolecule)の構造・機能・代謝について、生化学的な基本的事柄を学び、細胞、臓器さらには個体の機能や形態と関連させながら分子レベルで理解することを学ぶ。これらの基礎知識の習得のみでなく、種々の疾患の病態や治療を分子レベルで理解しようとする姿勢を養うことが目標である。

さらに講義の内容の一部は実習により再確認する。実験・学習に際しての心構え・態度を養い、また実験結果のまとめ方を学ぶ。各実験項目は各担当教官が設定した目標に従い、計画されているが、学生個々がこの項目の実験を行うことにより、何を学び、何を修得するのか、目標を定め実験にあたるのが極めて大切になる。そのためには、予習が不可欠であり、各項目の内容等については、予め各担当教官からの説明があるが、実習の手引を熟読して内容を理解した上で実験を行うこと。

2. 授業内容（講義・実習項目）

次の項目について講義を行う。

(1)生命に必要な元素 (2)有機化合物 (3)化学反応論 (4)有機電子論 (5)不飽和炭化水素 (6)医薬品の化学 (7)生体分子(糖質、脂質、アミノ酸、タンパク質、核酸) (7)酵素の構造と機能 (8)代謝総論 (9)糖質の代謝 (10)脂質の代謝 (11)ヌクレオチドの代謝 (12)アミノ酸の代謝 (13)ポルフィリンの代謝 (14)臓器に特有な生化学

3. 教科書

書 名	著 者	出 版 社	定 価
ヴォート生化学上下(3版) 又は ヴォート基礎生化学(3版)	村松正實 訳	東京化学同人	13,400円
	村松正實 訳	東京化学同人	7,600円

4. 成績評価の方法・基準

授業内容について100点満点の筆答試験を行い、60点以上を合格とし成績評価とする。実習に関してはレポート、実習状況、出欠状況等を総合して評価する。生化学実習は生化学試験受験のための必修課題である。

5. 教員名

生化学：伊藤 敬、中川武弥、米田光宏、相原仁
薬学部教員：山田 耕史、齋藤 義紀
非常勤：宮西隆幸（環境科学部）、
奥田晶彦（埼玉医科大学）
井上聡（東京大学・埼玉医科大学）

6. 備考（準備学習等） 教科書による予習復習

7. アクティブラーニング アクティブラーニングを加味する。

生体分子系授業予定（1年前期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
5	9	月	2	生命に必要な元素とその振舞い	原子の電子配置、化学結合と混成起動	薬学部・山田 耕史	1講
5	9	月	3	有機化合物の多様性	立体構造の表示と異性体の分類、命名	薬学部・山田 耕史	1講
5	16	月	5	有機化合物の振舞い	電気陰性度、酸性度、共鳴、芳香族性	薬学部・山田 耕史	1講
5	16	月	6	化学反応論	結合エネルギーと遷移状態、速度支配と熱力学支配、反応中間体	薬学部・山田 耕史	1講
5	23	月	5	有機電子論	電子の流れ図の書き方と考え方、反応の分類、極性反応、ラジカル反応	薬学部・山田 耕史	1講
5	23	月	6	不飽和炭化水素の化学	アルケン、アルキン、芳香族化合物	薬学部・齋藤 義紀	1講
5	30	月	5	含酸素有機化合物の化学	アルコール、エーテル、カルボニル化合物	薬学部・齋藤 義紀	1講
5	30	月	6	含窒素有機化合物の化学	アミン、複素環化合物	薬学部・齋藤 義紀	1講
6	6	月	5	生体エネルギー学の基礎(1)	エネルギー学と熱力学	薬学部・齋藤 義紀	1講
6	6	月	6	生体エネルギー学の基礎(2)	生物学的酸化還元反応	薬学部・齋藤 義紀	1講
6	13	月	5	代謝総論	細胞内小器官と代謝	生化学・伊藤	1講
6	13	月	6	代謝総論	代謝の全体像と調節	生化学・伊藤	1講
6	20	月	5	酵素の構造・機能	酵素の一般的性質、酵素の触媒機構	生化学・伊藤	1講
6	20	月	6	酵素の構造・機能	酵素と補酵素の作用機構	生化学・伊藤	1講
6	27	月	5	酵素の構造・機能	酵素反応速度論、酵素の調節機構	生化学・伊藤	1講
6	27	月	6	代謝総論	ミトコンドリア呼吸鎖と酸化的リン酸化	生化学・伊藤	1講
7	4	月	5	代謝総論	アセチルCoAの異化とクレブス回路	生化学・伊藤	1講
7	4	月	6	糖質の代謝	解糖系、アセチルCoA生成グリコーゲン	生化学・伊藤	1講
7	11	月	5	ゲノム医学	未分化幹細胞維持の機構	埼玉医大・奥田	1講
7	11	月	6	ゲノム医学	エストロゲン受容体と癌化	埼玉医大・井上	1講
10	4	火	1	糖質の代謝	ペントースリン酸サイクル	生化学・伊藤	1講
10	4	火	2	糖質の代謝	糖新生、解糖と糖新生の相互関係	生化学・伊藤	1講
10	11	火	1	糖質の代謝	糖鎖修飾	生化学・伊藤	1講
10	11	火	2	糖質の代謝	ムコ多糖とプロテオグリカン	生化学・伊藤	1講

生体分子系授業予定（1年前期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
10	18	火	1	脂質の代謝	脂肪酸の酸化とケトン体形成	生化学・伊藤	1講
10	18	火	2	脂質の代謝	ケトン体形成とエネルギー	生化学・伊藤	1講
10	25	火	1	脂質の代謝	脂肪酸の合成	生化学・伊藤	1講
10	25	火	2	脂質の代謝	不飽和脂肪酸とエイコサノイド	生化学・伊藤	1講
11	1	火	1	脂質の代謝	貯蔵脂質と膜脂質	生化学・伊藤	1講
11	1	火	2	脂質の代謝	ステロイドの代謝	生化学・伊藤	1講
11	8	火	1	核酸の代謝	核酸の構造と種類	生化学・伊藤	1講
11	8	火	2	核酸の代謝	ヌクレオチドの合成分解と再利用	生化学・伊藤	1講
11	15	火	1	アミノ酸の代謝	アミノ酸の代謝と窒素平衡	生化学・伊藤	1講
11	15	火	2	アミノ酸の代謝	尿素回路	生化学・伊藤	1講
11	22	火	1	臓器の生化学	骨格筋と平滑筋の生化学	環境科学・宮西	1講
11	22	火	2	臓器の生化学	心筋細胞の生化学	環境科学・宮西	1講
12	20	火	4	生化学実習	1. 蛋白質の部分精製とSDS電気泳動	生化学・伊藤、 中川、水崎、相原	実1
12	20	火	5	生化学実習	1. 蛋白質の部分精製とSDS電気泳動	生化学・伊藤、 中川、水崎、相原	実1
12	20	火	6	生化学実習	1. 蛋白質の部分精製とSDS電気泳動	生化学・伊藤、 中川、水崎、相原	実1
1	10	火	4	生化学実習	2. カラムクロマトグラフィーに関する実験	生化学・伊藤、 中川、水崎、相原	実1
1	10	火	5	生化学実習	2. カラムクロマトグラフィーに関する実験	生化学・伊藤、 中川、水崎、相原	実1
1	10	火	6	生化学実習	2. カラムクロマトグラフィーに関する実験	生化学・伊藤、 中川、水崎、相原	実1
1	17	火	4	生化学実習	3. 核酸の制限酵素処理とアガロース電気泳動法	生化学・伊藤、 中川、水崎、相原	実1
1	17	火	5	生化学実習	3. 核酸の制限酵素処理とアガロース電気泳動法	生化学・伊藤、 中川、水崎、相原	実1
1	17	火	6	生化学実習	3. 核酸の制限酵素処理とアガロース電気泳動法	生化学・伊藤、 中川、水崎、相原	実1

人 体 構 造 系 I

責任者	氏 名	弦 本 敏 行	内 線	7021
	教 室	肉眼解剖学（解剖学第二）	e-mail	tsurumot@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月曜17:00-18:00		

対象年次・学期	1年・前期, 後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2
英語名	Human Body Structure 1		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

ねらい：人体構造系は「肉眼解剖学」の知識を習得する学問である。講義並びに実習を通して人体の諸構造を理解するための解剖学的知識を修得するとともに、解剖学以外の基礎医学、臨床医学、社会医学などを学ぶための基礎学力をも身につける。その際学ぶ解剖学用語は、一つの概念を表現するために約束された記号であり、かつ将来、臨床医学を学ぶ上で必須の公用語でもある。また、骨学実習は骨の構造を自分の目で観察し正確に記載してゆくという科学的学習態度の初歩を身につける機会として位置づけられる。

到達目標：人体の肉眼解剖学的な種々の諸構造について適切な解剖学用語を用いて具体的に説明できる。

2. 授業内容（講義・実習項目）

骨学, 筋学, 脈管学, 内臓学, 末梢神経学の講義および骨学実習を行う

3. 教科書、参考書等（★は教科書、必携）

書 名	著 者	出版社	定価(税抜)
★グレイ解剖学（第3版）	塩田浩平 他訳	エルゼビア・ジャパン	12,000 円
★ネッター解剖学アトラス 骨学実習の手びき	相磯貞和 訳 寺田春水、藤田恒夫	南江堂 南山堂	10,000 円 4,000 円
分担解剖学1（総説・骨学・筋学）	小川鼎三、森 於菟他	金原出版	9,300 円
分担解剖学2（脈管学・神経系）	平沢 興 他	金原出版	10,600 円
分担解剖学3（感覚器学・内臓学）	小川鼎三 他	金原出版	8,600 円

4. 成績評価の方法・基準

骨学, 筋学, 脈管学, 内臓学についての筆答試験および骨学についての実習試験を行い、総合的に評価する

・受験資格 講義：2/3以上出席, 実習：原則として皆出席（無届欠席は失格）

・分野と配点 骨学実習—50点, 骨学—50点, 筋学—50点, 脈管学—50点
内臓学—100点

・試験と評価 ○本試験：分野毎に合否を評価
○再試験：本試験の不合格分野のみを受験
再試験後、課題レポート等も併せて総合的に評価する

※ 本試験, 再試験とも無届欠席は失格とする

5. 教員名

肉眼解剖学分野：弦本敏行、岡本圭史、佐伯和信

顎顔面解剖学分野（歯学部）：真鍋義孝、北川賀一、小山田常一

6. 備考（準備学習等）

- ・毎時間、教科書（グレイ解剖学）を必ず持参すること
- ・骨学実習については、実習予定表に沿って十分に予習しておく

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

人体構造系 I 授業予定（1年前期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	11	月	4	骨学 1	骨学総論	解剖 2・弦本	第 2 講義室
			5	骨学実習 1	全身骨格の概観	解剖 2・弦本、岡本、佐伯	第 1 実習室
			6				
4	18	月	4	骨学 2	上肢の骨・脊椎	解剖 2・弦本	第 2 講義室
			5	骨学実習 2	上肢の骨・脊椎の観察 (歯学部1年生との共修)	解剖 2・弦本、岡本、佐伯 歯学部・真鍋、北川、小 山田	第 1 実習室
			6				
4	25	月	4	骨学 3	下肢の骨・胸郭	解剖 2・弦本	第 2 講義室
			5	骨学実習 3	下肢の骨・胸郭の観察 (歯学部1年生との共修)	解剖 2・弦本、岡本、佐伯 歯学部・真鍋、北川、小 山田	第 1 実習室
			6				
5	2	月	4	骨学 4	頭蓋①	歯学部・真鍋	第 2 講義室
			5	骨学実習 4	頭蓋の観察① (歯学部1年生との共修)	解剖 2・弦本、岡本、佐伯 歯学部・真鍋、北川、小 山田	第 1 実習室
			6				
5	9	月	4	骨学 5	頭蓋②	歯学部・真鍋	第 2 講義室
			5	骨学実習 5	頭蓋の観察② (歯学部1年生との共修)	解剖 2・弦本、岡本、佐伯 歯学部・真鍋、北川、小 山田	第 1 実習室
			6				
5	16	月	1	筋学 1	筋学総論	解剖 2・佐伯	第 1 講義室
			2	筋学 2	頭頸部の筋	解剖 2・佐伯	第 1 講義室
5	30	月	1	筋学 3	胸腹部の筋	解剖 2・佐伯	第 1 講義室
			2	筋学 4	背部の筋	解剖 2・佐伯	第 1 講義室
6	6	月	1	筋学 5	上肢の筋①	解剖 2・佐伯	第 1 講義室
			2	筋学 6	上肢の筋②	解剖 2・佐伯	第 1 講義室
6	13	火	1	筋学 7	下肢の筋①	解剖 2・佐伯	第 1 講義室
			2	筋学 8	下肢の筋②	解剖 2・佐伯	第 1 講義室

人体構造系 I 授業予定（1年後期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
9	26	月	1	脈管学 1	脈管学総論、心臓①	解剖 2・弦本	第 1 講義室
			2	脈管学 2	心臓②	解剖 2・弦本	第 1 講義室
10	3	月	1	脈管学 3	心臓③	解剖 2・弦本	第 1 講義室
			2	脈管学 4	動脈系①	解剖 2・弦本	第 1 講義室
10	17	月	1	脈管学 5	動脈系②	解剖 2・弦本	第 1 講義室
			2	脈管学 6	動脈系③	解剖 2・弦本	第 1 講義室
10	24	月	1	脈管学 7	静脈系	解剖 2・弦本	第 1 講義室
			2	脈管学 8	胎児循環、リンパ系	解剖 2・弦本	第 1 講義室
10	31	月	1	内臓学 1	内臓学総論、消化器系①	解剖 2・弦本	第 1 講義室
			2	内臓学 2	消化器系②	解剖 2・弦本	第 1 講義室
11	7	月	1	内臓学 3	消化器系③	解剖 2・弦本	第 1 講義室
			2	内臓学 4	消化器系④	解剖 2・弦本	第 1 講義室
11	14	月	1	内臓学 5	消化器系⑤	解剖 2・弦本	第 1 講義室
			2	内臓学 6	消化器系⑥	解剖 2・弦本	第 1 講義室
11	21	月	1	内臓学 7	呼吸器系①	解剖 2・佐伯	第 1 講義室
			2	内臓学 8	呼吸器系②	解剖 2・佐伯	第 1 講義室
11	28	月	1	内臓学 9	呼吸器系③	解剖 2・佐伯	第 1 講義室
			2	内臓学 10	呼吸器系④	解剖 2・佐伯	第 1 講義室
12	5	月	1	内臓学 11	泌尿器系①	解剖 2・弦本	第 1 講義室
			2	内臓学 12	泌尿器系②	解剖 2・弦本	第 1 講義室
12	12	月	1	内臓学 13	男性生殖器系①	解剖 2・弦本	第 1 講義室
			2	内臓学 14	男性生殖器系②	解剖 2・弦本	第 1 講義室
12	19	月	1	内臓学 15	女性生殖器系①	解剖 2・弦本	第 1 講義室
			2	内臓学 16	女性生殖器系②	解剖 2・弦本	第 1 講義室
1	16	月	1	内臓学 17	会陰	解剖 2・弦本	第 1 講義室
			2	内臓学 18	腹膜	解剖 2・弦本	第 1 講義室
1	23	月	1	内臓学 19	内分泌器系①	解剖 2・弦本	第 1 講義室
			2	内臓学 20	内分泌器系②	解剖 2・弦本	第 1 講義室
1	30	月	1	授業総括 1	各系統間の連関	解剖 2・弦本	第 1 講義室
2	6	月	1	授業総括 2	総括講義 解剖学実習に向けて 1	解剖 2・弦本	第 1 講義室
			2	授業総括 3	総括講義 解剖学実習に向けて 2	解剖 2・弦本	第 1 講義室

発 生 ・ 組 織 系

責任者	氏名	小路 武彦	内線	7027
	教室	解剖学第三（組織発生解剖学）	e-mail	tkoji@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	(木) 16:30～18:00		

対象年次・学期	1年・前期・後期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	2
英語名	Human development and Histology		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

医師となるために必要とされる正常人体組織学と発生学の基礎知識を修得する。それらの知識と組織標本観察力は、病理組織学を始め後に続いて修得する基礎および臨床科目を十分に理解するのに必要である。よって、それら諸科目との関連性を強調しながら、現代発生学および組織学の知識のエッセンスを伝えたい。

本講義により顕微鏡像から組織・器官を特定でき、その形態的特徴を適切な用語を用いて説明できることを到達目標とする。また、各器官の発生学についても説明できる事とする。

2. 授業内容（講義・実習項目）

発生学および組織学総論・各論の講義を行う。講義と平行して組織学の実習を行い、実習内容を必要に応じてチェックする。講義は第一講義室で行い、実習は第二実習室で行う。

3. 教科書、参考書等

書名	著者	出版社	定価
教科書			
カラー機能組織学（原著第2版）	J. B. Kerr	医歯薬出版	10,800 円
標準組織学 総論（5版）	藤田尚男、藤田恒夫	医学書院	8,856 円
標準組織学 各論（4版）	藤田尚男、藤田恒夫	医学書院	12,960 円
参考書			
The Developing Human: Clinically Oriented Embryology (10版)	K. L. Moore & T. V. N. Persuad	Saunders	14,072 円
標準細胞生物学（2版）	石川春律、近藤尚武 柴田洋三郎 編	医学書院	5,832 円
ラングマン人体発生学（11版）	T. W. Sadler	医歯薬出版	9,072 円
ムーア人体発生学（8版）	K. L. Moore	医歯薬出版	12,960 円
永遠の不死：精子形成細胞の生物学	小路武彦 編	サイエンス社	2,376 円

4. 成績評価の方法・基準

成績の評価は、学期末に行うカラースライドを用いたペーパーテストに実習参加態度を加味し、最終合否判定を行う。また、LACSに掲げる小テストの達成状況を成績評価に加味する。なお、期末試験の受験には講義及び実習時間数の2/3以上の出席が必要でありこれに満たない場合は失格となる。

ペーパーテストは発生学分野30点、組織学講義分野30点、組織学実習分野40点の100点満点とし、合計点が60点以上で、3分野中2分野の得点が60%以上、1分野の得点が45%以上である場合を合格とする。再試験は年度末に1回だけ行う。

5. 教員名

解剖学第三：小路武彦、柴田恭明、遠藤大輔、穂山直太郎

口腔解剖第一：真鍋義孝

第二内科：西野友哉／北村峰昭

非常勤講師：井上靖久、江島邦彰、進 正志、藤田 守、菱川善隆

6. 備考（準備学習等）

教科書・参考書を用いて予習しておくこと。

7. アクティブラーニング

講義・実習の資料および小テストを順次LACSへアップロードする。自主学習の指定した時間帯は実習室を開放するので各自で予習・復習に活用すること。また、LACSへ掲げる小テストに関しては全問正解するまで完遂すること。小テストの達成状況は試験の成績評価に加味する。

発生・組織系授業予定（1年通年）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	26	火	5	1. 生殖細胞形成	A. 体細胞分裂と成熟分裂	解剖3・小路	1講
4	26	火	6	1. 生殖細胞形成	B. 成熟過程における形態学的変化	解剖3・小路	1講
5	10	火	5	2. 排卵から着床まで		非常勤・井上	1講
5	10	火	6	3. 2層性胚盤		非常勤・井上	1講
5	17	火	5	4. 3層性胚盤		非常勤・井上	1講
5	17	火	6	5. 胚子期	A. 三胚葉誘導 B. 2か月中の外形	非常勤・井上	1講
5	24	火	5	6. 胎児期	A. 胎児の発生	非常勤・井上	1講
5	24	火	6	7. 体腔と漿膜	A. 体腔の形成	非常勤・江島	1講
5	31	火	3	細胞・組織の概念 上皮組織・支持組織	・分類・上皮細胞間の特殊分化 ・腺（唾液腺）・結合組織	解剖3・小路	1講
5	31	火	4	実習説明	諸注意、顕微鏡引き渡し	解剖3・小路 柴田 遠藤 穠山	実2
5	31	火	5	上皮組織	実習		
5	31	火	6				
6	7	火	3	支持組織 筋組織	・軟骨 ・平滑筋・骨格筋・心筋	解剖3・小路	1講
6	7	火	4		実習	解剖3・小路 柴田 遠藤 穠山	実2
6	7	火	5				
6	7	火	6				
10	4	火	3	脈管系	・心臓脈管の発生 ・血液 ・毛細血管・動脈・静脈 ・心臓	解剖3・穠山	1講
10	4	火	4		実習	解剖3・小路 柴田 遠藤 穠山	実2
10	4	火	5				
10	4	火	6				
10	11	火	3	リンパ性器官	・リンパ性器官の発生 ・リンパ ・リンパ節・脾臓・胸腺	非常勤・進	1講
10	11	火	4		実習	解剖3・小路 柴田 遠藤 穠山	実2
10	11	火	5				
10	11	火	6				
11	1	火	3	消化器系（口腔）	・口腔 ・歯 ・唾液腺	口腔解剖Ⅰ・真鍋	1講
11	1	火	4		実習	解剖3・小路 柴田 遠藤 穠山	実2
11	1	火	5				
11	1	火	6				

発生・組織系授業予定（1年通年）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室	
11	8	火	3	消化器系（Ⅰ）	・消化管の発生 ・咽頭 ・食道・胃・小腸・大腸	非常勤・藤田	1講	
11	8	火	4		実習		解剖3・小路 柴田 遠藤 穠山 非常勤・藤田	実2
11	8	火	5					
11	8	火	6					
11	15	火	3	消化器系（Ⅱ）	・肝臓・胆嚢の発生・肝臓と胆嚢 ・膵臓の発生・膵臓	非常勤・菱川	1講	
11	15	火	4		実習		解剖3・小路 柴田 遠藤 穠山 非常勤・菱川	実2
11	15	火	5					
11	15	火	6					
11	22	火	3	呼吸器系	・呼吸器系の発生 ・鼻腔・喉頭・気管・肺	解剖3・柴田	1講	
11	22	火	4		実習		解剖3・小路 柴田 遠藤 穠山	実2
11	22	火	5					
11	22	火	6					
11	29	火	3	泌尿器系	・泌尿器系の発生 ・腎臓・尿管・膀胱・尿道	内科2・西野／北村	1講	
11	29	火	4		実習		解剖3・小路 柴田 遠藤 穠山	実2
11	29	火	5					
11	29	火	6					
12	6	火	3	男性生殖器系	・男性生殖器系の発生 ・精巣・精路とその付属腺	解剖3・小路	1講	
12	6	火	4		実習		解剖3・小路 柴田 遠藤 穠山	実2
12	6	火	5					
12	6	火	6					
12	13	火	3	女性生殖器系	・女性生殖器の発生・卵巣・卵管 ・子宮・膣・外陰部・胎盤・乳腺	非常勤・江島	1講	
12	13	火	4		実習		解剖3・小路 柴田 遠藤 穠山 非常勤・江島	実2
12	13	火	5					
12	13	火	6					
1	24	火	3	内分泌系（Ⅰ）	・下垂体 ・上皮小体 ・甲状腺	解剖3・遠藤	1講	
1	24	火	4		実習		解剖3・小路 柴田 遠藤 穠山	実2
1	24	火	5					
1	24	火	6					

発生・組織系授業予定（1年通年）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室	
1	31	火	3	内分泌系（Ⅱ）	・松果体・副腎・消化管の内分泌 ・パラグングリオン	解剖3・遠藤	1講	
1	31	火	4		実習		解剖3・小路 柴田 遠藤 穠山	実2
1	31	火	5					
1	31	火	6					
2	7	火	4	特殊染色実習	チューター制による組織標本染色実習	解剖3・小路 柴田 遠藤 穠山	実2	
2	7	火	5					
2	7	火	6					

内臓機能・体液系 I

責任者	氏名	蒔田 直昌	内線	7031
	教室	分子生理学（生理学第一）	e-mail	nagasakiimp@gmail.com
	オフィスアワー	講義曜日の17:00～（ただし試験前1週間を除く）		

対象年次・学期	1年・後期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	1
英語名	Physiology of Visceral Function and Body Fluid		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

正常の生命現象を主として機能的な側面から探求することによって、「命がどうできているか」という医学の基礎知識を学ぶ。臨床の場においても、生体の生理現象や病的状態を個体・臓器・細胞・遺伝子という異なるレベルで観察・考察し、知識を臨床に応用させることの重要性を体験する。個々の内臓機能を学ぶ臓器の生理学を基礎に、恒常性維持のための統合的調節機構の観点から生体機能を理解できるよう講義を行う。

2. 授業内容（講義項目）

- | | | |
|----------|----------|-----------|
| 1) 細胞生理学 | 5) 呼吸器 | 9) 内分泌・代謝 |
| 2) 自律神経系 | 6) 腎・排泄 | 10) 体温調節 |
| 3) 循環器 | 7) 酸塩基平衡 | |
| 4) 消化器 | 8) 血液・体液 | |

講義は指定した教科書の図を中心にパワーポイントで説明を交えて行う。講義用スライド・資料は各自以下のHPからダウンロードすること。紙の資料は配布しない。

- 分子生理学HP <http://cvmp.med.nagasaki-u.ac.jp/> or <http://www.nagasaki-molphys.org>
- 長崎大学LACS <https://lacs.nagasaki-u.ac.jp/>

3. 教科書・参考図書

書名	著者	出版社	定価
標準生理学 第8版	福田 康一郎 他	医学書院	12,960円
ギャノン生理学 24版	岡田泰伸 他	丸善	10,800円
ガイトン生理学 原著第11版	御手洗 玄洋 他	エルゼビア	21,600円
ボロン ブールペープ 生理学	泉井 亮 他	西村書店	10,260円
人体の正常構造と機能 第2版	坂井 建雄 他	日本医事新報	19,440円

4. 成績評価の方法・基準

期末試験は、試験範囲を分子生理学（細胞生理、自律神経、循環、呼吸、腎・排泄、酸塩基平衡、血液・体液、体温）と原研医療（内分泌・代謝、消化器）に分け、同時に実施する。それぞれの試験範囲について60点以上を合格とし、不合格の範囲に対して再試験を1回行う。出題・配点は講義のコマ数に応じる。期末試験の結果、出席で成績を評価する。試験の受験資格、追試験に関しては医学部規定の通り。

5. 教員名

講義担当 分子生理学： 蒔田直昌、辻 幸臣、石川泰輔
 原研医療： 山下俊一・光武範吏
 循環器内科： 前村浩二
 非常勤講師： 上田陽一（産業医大）・井上靖久（活水女子大学）
 松本逸郎（活水女子大学）

6. アクティブラーニング 加味する

内臓機能・体液系 I 授業予定（1年後期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
9	26	月	4	細胞生理	細胞生理学	分子生理・蒔田	1講
9	26	月	5	自律1	自律神経求心性神経と内臓-内臓反射	分子生理・蒔田	1講
9	26	月	6	自律2	自律神経系とストレス反応	産業医大・上田	1講
10	3	月	4	循環器1	心臓の構造・心筋の構造・イオンチャネル	分子生理・蒔田	1講
10	3	月	5	循環器2	心臓の自動性・膜電位・活動電位	分子生理・蒔田	1講
10	3	月	6	循環器3	心筋の興奮伝導と収縮の連関	分子生理・蒔田	1講
10	17	月	3	循環器4	ポンプとしての心臓	分子生理・蒔田	1講
10	17	月	4	循環器5	心電図	分子生理・蒔田	1講
10	17	月	5	循環器6	血管の機能・構造	分子生理・蒔田	1講
10	17	月	6	循環器7	心血管系の形態と機能	非常勤講師・井上	1講
10	24	月	4	循環器(特別講義)	循環生理と臨床医学の接点	循環器内科・前村	1講
10	24	月	5	循環器8	静脈・リンパ系、微小循環、局所循環	分子生理・蒔田	1講
10	24	月	6	循環器9	心臓中枢、血管中枢、循環反射	分子生理・蒔田	1講
10	31	月	4	消化器1	消化器総論	原研医療・光武	1講
10	31	月	5	消化器2	上部消化管	原研医療・光武	1講
10	31	月	6	消化器3	下部消化管	原研医療・光武	1講
11	7	月	4	消化器4	肝胆膵	原研医療・光武	1講
11	14	月	4	呼吸1	肺の構造、呼吸運動、肺気量	分子生理・石川	1講
11	14	月	5	呼吸2	肺コンプライアンス、気道抵抗、閉塞性と拘束性疾患	分子生理・石川	1講
11	14	月	6	呼吸3	ガス交換（酸素の運搬）、ヘモグロビンと酸素飽和度	分子生理・石川	1講
11	21	月	3	呼吸4	ガス交換(炭酸ガスの運搬)、換気血流比	分子生理・石川	1講
11	21	月	4	呼吸5	肺循環（肺血流、肺血管抵抗、肺内圧）	分子生理・石川	1講
11	21	月	5	呼吸6	呼吸調節、呼吸中枢	分子生理・石川	1講
11	21	月	6	腎・排泄1	腎臓の構造と機能	分子生理・辻	1講
11	28	月	3	腎・排泄2	糸球体、傍糸球体装置	分子生理・辻	1講
11	28	月	4	腎・排泄3	尿細管の機能、再吸収、尿の濃縮	分子生理・辻	1講
11	28	月	5	腎・排泄4	電解質の再吸収と分泌、クリアランス	分子生理・辻	1講
11	28	月	6	腎・排泄5	血圧の調節、中枢神経系による調節（ホルモンと自律神経系）	分子生理・辻	1講
12	5	月	4	腎・排泄6	排尿反射、酸塩基平衡の腎の代償	分子生理・辻	1講
12	5	月	5	酸・塩基平衡	血液ガス、pH、酸塩基平衡調節	分子生理・石川	1講
12	5	月	6	酸・塩基平衡	呼吸性と代謝性酸・塩基平衡異常	分子生理・石川	1講
12	12	月	4	血液と体液1	骨髄幹細胞、赤血球の機能、ヘモグロビン	分子生理・辻	1講
12	12	月	5	血液と体液2	白血球・リンパ球と生体防御	分子生理・辻	1講
12	12	月	6	血液と体液3	血小板、血液凝固、線溶、補体系	分子生理・辻	1講
12	19	月	4	血液と体液4	血漿成分の機能	分子生理・辻	1講
12	19	月	5	血液と体液5	細胞外液と細胞内液	分子生理・辻	1講
1	16	月	4	内分泌・代謝・体温1	内分泌総論	原研医療・山下	1講
1	16	月	5	内分泌・代謝・体温2	視床下部・下垂体	原研医療・山下	1講
1	16	月	6	内分泌・代謝・体温3	副腎・性腺	原研医療・山下	1講
1	23	月	4	内分泌・代謝・体温4	基礎代謝と体温調節	非常勤講師・松本	1講
1	23	月	5	内分泌・代謝・体温5	高体温（発熱とうつ熱）と低体温の病態生理	非常勤講師・松本	1講
1	23	月	6	自習	自習		1講
1	30	月	3	内分泌・代謝・体温6	甲状腺、副甲状腺	原研医療・山下	1講
1	30	月	4	内分泌・代謝・体温7	心血管内分泌	原研医療・山下	1講
1	30	月	5	内分泌・代謝・体温7	同化と異化	原研医療・山下	1講
1	30	月	6	内分泌・代謝・体温8	骨代謝	原研医療・山下	1講

プレリサーチセミナー

責任者	氏名	柳原 克紀	内線	7574
	教室	臨床検査医学（病態解析・診断学）	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日の17:00～18:00		
対象年次・学期	1年～3年：通年		講義形態	担当教員が講義形態を決定する。
必修・選択	必修 (研究医枠及び熱帯医学研究医枠)		単位数	各1単位
英語名	Pre research seminar			

1. 授業のねらい・目標

基礎医学を担う研究者の育成により卓越した教育及び研究成果を社会に還元することは医学部の使命である。基礎教室配属による少人数教育により基礎科学に必須の基礎的学力や柔軟な応用力を身につけ、科学的思考により問題を解決できる将来の医療人を養うことを目標とする。

2. 配属教室の選択方法

配属教室は、2年次前期終了後に、科目責任者と相談のうえ、仮配属として決定し、3年次のプレリサーチセミナー及びリサーチセミナーで本配属とする。

また、リサーチセミナーの海外実習については、配属教室と相談のうえ、派遣学生としての応募を可能とする。

3. 配属教室

医学部基礎系、熱帯医学研究所及び原爆後障害医療研究所の各教室

4. 授業内容等

1年次：論文研究（ゼミ形式）と各教室研究内容の紹介セミナー

2年次前期：先導生命科学支援センター及び共同利用研究センターにおいて、研究医実習を行う。

2年次後期～3年次：配属教室において、研究テーマ・目標を設定し実験を行う。

5. 成績評価の方法・基準

1年次：出席状況及び課題レポート等により総合判断で評価する。

2年次：出席状況及び課題レポート等により総合判断で評価する。

3年次：配属教室での活動、研究成果に基づき配属先の担当教員が100点満点で評価する。

6. 指導教員など

医学部基礎系教室等の教員

7. 備考（準備学習等）

担当教員が提示する。

8. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

平成28年度 1年生 プレリサーチセミナー 日程表

火曜日・7校時(16:30~17:30)

学期	回数	日程	教室名等	学生の集合場所
前期	1	4月19日	オリエンテーション (教務委員長)	病院12階 臨床検査医学教授室
	2	4月26日	感染分子	基礎棟8階 感染分子解析学教室
	3	5月10日	病理学第一	基礎棟5階 病理学第一教室
	4	5月17日	予備日1	
	5	5月24日	薬理学	基礎棟4階 薬理学教室セミナー室
	6	5月31日	解剖学第三	基礎棟2階 小会議室
	7	6月7日	衛生学・分子疫学	基礎棟7階 衛生学・分子疫学教室
	8	6月14日	解剖学第二	基礎棟2階 解剖学第二教室
	9	6月21日	免疫学	基礎棟7階 免疫学教室
	10	6月28日	生化学	基礎棟6階 生化学教室
	11	7月5日	原研遺伝	原研棟2階 原研遺伝教室
	12	7月12日	前期振り返り (教務委員長)	病院12階 臨床検査医学教授室
後期	1	10月4日	予備日2	
	2	10月11日	解剖学第一	基礎棟3階 解剖学第一教室
	3	10月18日	生理学第二	基礎棟3階 生理学第二教室
	4	10月25日	生理学第一	基礎棟3階 生理学第一教室
	5	11月1日	原研病理	原研棟3階 原研病理教室
	6	11月8日	原研幹細胞	原研棟1階 原研幹細胞教室
	7	11月15日	原研放射	原研棟4階 原研放射教室
	8	11月22日	原研国際	原研棟4階 研修室
	9	11月29日	予備日3	
	10	12月6日	原研分子	原研棟4階 研修室
	11	12月13日	法医学	基礎棟6階 法医学教室教授室
	12	12月20日	原研医療	原研棟3階 原研医療教室
	13	1月10日	病理学第二	歯学部本館5階 病理診断科学教室
	14	1月17日	公衆衛生学	基礎棟7階 公衆衛生学教室
	15	1月24日	全体の振り返り (教務委員長)	病院12階 臨床検査医学教授室

English for International Medicine

Instructors: Luc Loosveldt/Jim Briganti

Class Time : to be decided

E-mail: lluc@nagasaki-u.ac.jp

Office Hours: to be announced in class

Course Objectives	
<p>This course is designed for students interested in careers in international medicine. Focus will be on developing relevant and effective communication techniques, building fluency in spoken and written English, and reinforcing critical thinking skills in English. A range of materials will be introduced to discuss global health issues. Students will be asked to research and introduce their own materials in class to show their understanding.</p>	
Required Textbooks	
<p>A range of materials will be used to introduce global health issues for discussion.</p>	
Topics	
1	First topic - pre-discussion, useful vocabulary and phrases, assignment of group roles
2	Small group discussion of readings - preparation of introductory presentation
3	Short presentations with Q&A
4	In-group review of short presentations + choosing the next topic
5	Small group discussion of readings - preparation of second short presentation
6	Short presentations with Q&A
7	In-group review of short presentations + choosing the next topic
8	Small group discussion of readings - preparation of third short presentation
9	Short presentations with Q&A
10	In-group review of short presentations + choosing the next topic
11	Small group discussion of readings - preparation of fourth short presentation
12	Short presentations with Q&A
13	Choosing the topic for the final presentation, preparing the poster
14	Review of the poster + practice sessions
15	Final poster presentations + evaluations and review of performance
Course work and Evaluation	
<p>Students will be evaluated on the basis of classwork, assignments, group work, group presentation, on-line forum participation, written assignments, and review tests. A detailed breakdown of the evaluation process will be provided in class.</p>	
<p><i>*The above syllabus is meant as a general guide, not a definite time table.</i></p>	

地域医療ゼミ

(テーマ: へき地・離島医療入門)

責任者	氏名	調 漸	内 線	7774
	教 室	へき地病院再生支援・ 教育機構	e-mail	shirabe@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	10:00-16:00		
対象年次・学期	1年：前期		講義形態	講義・実習
必修・選択	必修 (地域医療枠・地域医療特別 枠)		単位数	1
英語名				

1. 授業のねらい・方法・到達目標

長崎県で展開されているへき地や離島医療の現状を学ぶ

2. 授業科目の選択方法

新入生オリエンテーション時に説明する

3. 授業の内容

平戸市の平戸市民病院内のへき地病院再生支援・教育機構、地域臨床教育拠点において合宿形式で保健・医療・福祉が連携した地域包括医療・ケアを実習と講義を通して学習する。地域の最前線での経験を基に来るべき未来に求められる医療について考える。

坂本キャンパスで、地域医療の最前線で活躍している医療者による講義を行う。

4. 開講時間

夏期休暇中に2泊3日程度の集中講義と、坂本キャンパスでの講義（金曜日8時限目17:40～18:40）を行う。講義は指定した日に受講する（平成28年5月6日、7月1日を予定している）

5. 教科書、参考書等

インターネット検索サイトや書籍などを利用して地域医療について調べておくことが望ましい。

6. 成績評価の方法・基準

出席、合宿参加、レポート提出

7. 教員名

中桶 了太
調 漸

8. 備考（準備学習等）

臨床教育拠点への移動は公共交通機関の利用が望ましい。

地域医療ゼミ

(テーマ: しまで学ぶ地域医療)

責任者	氏名	前田 隆浩	内線	7578, 0959-74-5045
	教室	離島・へき地医療学講座	e-mail	tmaeda@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	午後4時30分～午後5時30分		

対象年次・学期	1年：前期・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修 (地域医療枠・地域医療特別枠)	単位数	前期, 後期 各1単位
英語名	Comprehensive community medicine in remote islands		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

島嶼部における地域医療の現場を体験し、地域における保健・医療・福祉の役割と機能、そして地域包括ケアについての基礎を理解する。

2. 授業科目の選択方法

新入生オリエンテーション時に説明する。

3. 授業の内容

坂本キャンパスで実施される地域医療研究会で地域医療への知識と理解を深める。そのうえで五島市で行われる集中合宿(2泊3日)に参加し、講義・ワークショップ・施設訪問など現場の地域医療を体験してより理解を深める。

4. 開講時間

地域医療研究会(未定・2か月に1回開催予定)

長崎地域医療セミナー in GOTO 8月19日(金)～8月21日(日)

5. 教科書、参考書等

地域医療テキスト 自治医科大学(監修) 医学書院 ISBN978-4-260-00805-1

(購入は必須ではありません。当講座で貸し出しします。)

6. 成績評価の方法・基準

出席・態度・発表を加味して評価する。

7. 指導教員など

離島・へき地医療学講座、地域医療学分野、へき地病院再生支援・教育機構

地域包括ケア教育センター

8. 備考(準備学習等)

地域医療研究会および長崎地域医療セミナー in GOTOの両方への参加が必須です。地域医療について事前に学習し、自分の意見を持ってからゼミに臨むことが望まれます。ゼミは、基本的に長崎大学医学部と長崎純心大学現代福祉学科との共同で開催します。交通手段は、事前に学務係よりフェリーチケットが配布されます。宿泊費の負担はありませんが、地域医療セミナー期間中の食費については5000円/人(実費)を予定しています。

9. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

熱帯医学ゼミ

(テーマ: 熱帯医学入門)

責任者	氏名	有吉 紅也	内線	7840
	教室	熱帯医学研究所	e-mail	kari@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月曜12:00~12:30		

対象年次・学期	1年：前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修 (熱帯医学研究医)	単位数	1
英語名	Introduction of Tropical Medicine		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

授業のねらいは、将来熱帯医学研究医を目指す学生に、熱帯医学における医学研究の重要性を理解させ、熱帯医学に関連する幅広い視野を持たせることにある。その方法として、本学において進行中の医学研究活動を紹介し、本学の取り組みに興味を頂かせる。

2. 授業科目の選択方法

新入生オリエンテーション時に説明する。

3. 授業の内容

熱帯医学に関係する医学研究を実施している本学医学系教室及び熱帯医学研究所教室の教授が、各分野の背景を平易な用語で説明しながら、研究活動の概要を紹介する。

4. 開講時間・場所

月曜日 7校時 (16:30-17:30) ・熱帯医学研究所1階小会議室

5. 教科書、参考書等

6. 成績評価の方法・基準

出席状況、レポート (英文) 提出等を考慮して評価する。

7. 指導教員など

8. 備考 (準備学習等)

9. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

医学ゼミ

責任者	氏名	柳原 克紀	内線	7574
	教室	臨床検査医学（病態解析・診断学）	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日の17:00～18:00		

対象年次・学期	1年：前期、後期 2年：前期、後期 3年：前期 4年：前期	講義形態	担当教員が講義形態を決定する。
必修・選択	必修	単位数	前期、後期各1
英語名	Small group medical seminar		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

必修選択の科目であり、各科目10名前後の少人数教育を行う。自らが特に学習したい分野を選択し、その分野についてコアとなる教科内容を越えて特定の内容を深く掘り下げる学習を行う。当該分野の医学・科学に対する探求心・問題解決能力の育成と、より深い理解を目指す。少人数で担当教員との双方向性の授業を行うことにより教官と親しく交流すると共に、1年次から4年次まで学年間の壁を越えて共に学ぶ環境を提供する。AO学生は、医学ゼミを通して当該領域の知識を深める。

2. 授業科目の選択方法

- 各開講科目について、教育目標、授業内容、担当教員、開講場所、開講時間帯等を公示する。
- 各学年開始前に、前期・後期別に受講希望科目を学務係に提出する（第3希望まで）。
- 第1希望を優先し、各科目へ学生の割り振りを行う。

3. 教科書、参考書等

担当教員が提示する。

4. 成績評価の方法・基準

1、2年次前期・後期、3年次前期、4年次前期に開講する。3年次への進級には2年次で1単位以上、4年次への進級には3年次までに2単位以上、5年次への進級には4年次までに3単位以上修得する必要がある。卒業のための最低修得単位数は3単位である。

5. 指導教員など

医学科、熱帯医学研究所、先導生命科学研究支援センター教員

6. 備考（準備学習等）

担当教員が提示する。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

平成28年度「医学ゼミ」開講テーマ一覧(1年生)

教室	責任者名	ゼミテーマ(サブタイトル)	目的・方針	内容	対象学年 開講時期	開講時間	場所	評価方法	備考
神経生理 (第二生理)	篠原 一之	心の個人差の脳科学	英語論文、原著輪読を通して心の個人差の脳科学基盤について理解を深めるとともに、英語読解・プレゼンテーション能力を養う。	近年、性格をはじめとした心の個人差、及び、社会的コミュニケーション能力障害を呈する発達障害と、脳機能・形態、遺伝子多型、内分泌機能との関わりが明らかになりつつある。そこで、これら心の個人差・発達障害の生物学的基盤に関する最新の研究論文を読み、その内容に関するプレゼンと議論を行う。これらの活動を通して、心の科学に関する理解を深めるとともに、臨床・研究活動に必須の英語読解・プレゼン能力を身につける。	1年後期 2年後期	金曜日1校時	神経機能学教室	レポート、出席、発表内容等を加味して総合的に評価する。	
地域医療学	前田 隆浩	地域医療学入門	地域医療の現状について、自ら調べ、現場のプロフェッショナルから話を聞き、地域医療を理解する。	・地域医療に関する論文(邦文・欧文)や記事、教科書、書籍を集めまとめる。 ・WS形式で知識を共有し理解を深める。 ・実際に地域医療の現場のプロフェッショナルに話を聞く。 ・現在の地域医療について把握し、地域医療の今後について考える。 ・月に一回程度行われる、地域医療の現場で働く人を招いて行う研究会に出席する。	1年前期 2年前期 3年前期 4年前期	・金曜日1校時(7回程度) ・月一回程度18時～20時30分(地域医療研究会・曜日不定)(4回程度) 上記2つ全てに出席が必要でず。	地域医療学分野セミナー室(医学部基礎棟5階)ポルペ会館(予定)	出席とレポートとゼミ受講態度	
地域医療学	前田 隆浩	しまで学ぶ地域医療集中ゼミ	島嶼部における地域医療の現場を体験し、地域における保健・医療・福祉の役割と機能、そして地域包括ケアについての基礎を理解する。	坂本キャンパスで実施される地域医療研究会で地域医療への知識と理解を深める。そのうえで五島市で行われる集中合宿(2泊3日)に参加し、講義・ワークショップ・施設訪問など現場の地域医療を体験してより理解を深める。	1年前期 2年前期 3年前期	地域医療研究会(未定・2か月に1回開催予定)長崎地域医療セミナー in GOTO 8月19日(金)～8月21日(日)	地域医療研究会(坂本キャンパス)長崎地域医療セミナー in GOTO(長崎県五島市)	出席・発表・レポート	地域医療研究会および長崎地域医療セミナー in GOTOの両方への参加が必須です。地域枠入学生を主な対象としますが、地域医療に関心のある地域枠でない学生さんの受講も可です。 ※地域医療セミナー期間中の食費については5000円/人を予定しています。
原研国際	高村 昇	国際保健入門(1)	推薦入学国際枠で入学した学生を中心に、世界を目指す医師・医学者を養成する目的で、原研における活動、特に国際保健分野における活動を紹介します。勿論、一般入試での学生も歓迎する。	AO国際枠で入学した学生を中心に、世界を目指す医師・医学者を養成する目的で、原研における活動、特に国際保健分野における活動を紹介します。勿論、一般入試での学生も歓迎する。	1年前期	月曜日5校時	原研棟3階コミュニティセンター	出席状況、ゼミにおける発表内容等を考慮して評価する。	
へき地病院再生支援・教育機構	調 漸 中桶 了太	離島・へき地医療の達人から学ぶ	へき地や離島医療の現状を学び、これからの地域医療や我が国のこれからの医療について考える	離島・へき地の第一線で活躍する多職種によるを双方向性の講義を中心とする。地域医療に密接に関係する家庭医や、病院総合医、プライマドクターとして活躍する医師のほか行政や地域の保健師も講師として招き、「地域医療」という漠然としたイメージをリアルな物として認識する。ゼミの後半では平戸市民病院で夏合宿や、実際にへき地や離島医療を体験する離島ツアーも2泊3日程度で開催する予定である。地域枠学生に限らず、幅広い学生の参加を歓迎する。	1年前期 2年後期 3年前期 4年前期	金曜日 18:00～19:30	医学部基礎棟 1階 視聴覚教室1	出席、講義のレポート、最終日に実施する地域医療に関するプレゼンテーション等で総合的に判定する。 1年次に関しては地域医療合宿での地域医療実習への出席を必須とする。	地域医療、へき地・離島医療に関心のある一般枠の学生の受講も歓迎する。

English Foundation Course for First Year Medical Students

Instructors: Luc Loosveldt
Jim Briganti

Class Time: to be decided

E-mail: lluc@nagasaki-u.ac.jp
jbriganti@nagasaki-u.ac.jp

Office Hours: to be announced in class

Course Objectives	
The aim of the course is to develop students' English and critical thinking skills in a cooperative and supportive environment. Students will be asked to actively engage in English. The language skills learned in this course will serve as a foundation for future Medical English courses and for the types of language skills needed in medical students future roles as healthcare professionals.	
Required Textbooks	
<i>Readings to be assigned in class.</i>	
Syllabus*	
1	Introduction and overview of the course – self-introductions, study goals, first reading assignment
2	Medical Vocabulary + first main reading
3	Medical language Main Ideas and Supporting Ideas - finding the main idea, skimming and scanning
4	Main Ideas and Supporting Ideas - using outlines
5	Main Ideas and Supporting Ideas - Paragraphs and the Topic Sentence
6	Organizational Structure - second main reading
7	Organizational Structure - Organizing information, recognizing and understanding relationships within a text
8	Organizational Structure - Organizing information, recognizing reference
9	Coherence and Cohesion - connectors and transition words, speech markers
10	Coherence and Cohesion - Cohesion and coherence in the paragraph
11	Summarizing - third main reading
12	Summarizing - preparing narrative summaries
13	Non-verbal communication and Inference
14	Final group presentations and assessment
15	Final group presentations and assessment
Course work and Evaluation	
Students will be evaluated on the basis of class participation, assignments, vocabulary quizzes, group presentations and final group reports.	
<i>*The above syllabus is a general guide, not a definite time table, and is subject to change..</i>	

学部モジュール(医科生物学入門)

学期	前期	曜日・校時	木1・2、金1・2
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード		科目番号	
授業科目名	●医科生物学入門		
編集担当教員	永山 雄二		
授業担当教員名(科目責任者)	永山 雄二		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	永山 雄二、李 桃生、吉浦 孝一郎、浦田 芳重、小路 武彦、蒔田 直昌、由井 克之、森 望、篠原 一之		
科目分類	学部モジュール科目		
対象年次	1年	講義形態	講義科目
教室	以下の授業内容に記載のとおり。		
対象学生(クラス等)	医学科1年生		
担当教員Eメールアドレス	nagayama@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	原爆後障害医療研究所		
担当教員TEL	095-819-7173		
担当教員オフィスアワー	毎日、7:30-8:50		
授業の概要及び位置づけ	生物学や生命科学、ひいては医学の基礎となる生物学を高校の教科書である「生物基礎」と「生物」を使って学ぶ。同時に医学英語に親しみ、英語専門用語も身に付ける。		
授業到達目標	「生物と遺伝子」、「生物の体内観光の維持」、「生命現象と物質」、「生殖と発生」、「英物の環境応答」、「遺伝と遺伝病」、「がんの基礎」について説明できる。		
授業方法(学習指導法)	講義		
授業内容		内容・教室	
	回		
	1	生物基礎第1編第1章1、生物第1編第1章1～3	3講
	2	同上	3講
	3	生物第1編第1章4～5	4講
	4	同上	4講
	5	生物基礎第1編第1章2～3、生物第1編第2章1～2	G-38講義室(文教キャンパス)
	6	生物基礎第1編第2章1～2、生物第1編第3章1～2	3講
	7	生物第1編第3章3～4	3講
	8	生物基礎第1編第2章3、生物第2編第4章1～3	G-38講義室(文教キャンパス)
	9	生物第2編第4章4～6	1講
	10	同上	1講
	11	生物基礎第2編第3章1～2	3講
	12	生物基礎第2編第3章4、生物第1編第1章5	3講
	13	生物第3編第5章2～3	3講
	14	生物基礎第2編第3章3、生物第3編第5章1&4	3講
	15	同上	3講
16	予備	4講	
キーワード	細胞、DNA、染色体、遺伝子、代謝、免疫		
教科書・教材・参考書	生物基礎、生物(数研出版)		
成績評価の方法・基準等	出席2/3以上が必要。 5/27の試験60点以上で合格。本試のみ。		
受講要件(履修条件)	原則すべての講義に出席できること。		
備考(URL)			
学生へのメッセージ	医学専門科目のための入門講義です。基礎知識をしっかり身につけて、将来の専門科目に備えてください。		
アクティブラーニング	アクティブラーニングを加味する。		

学部モジュール(医学史・原爆医学と長崎)

学期	前期	曜日・校時	木1、金2
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20162016000601	科目番号	20160006
授業科目名	●医学史・原爆医学と長崎		
編集担当教員	高村 昇		
授業担当教員名(科目責任者)	高村 昇		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	高村 昇, 山下 俊一, 宮崎 泰司, 中島 正洋		
科目分類	学部モジュール科目		
対象年次	1年	講義形態	講義科目
教室	以下の授業内容に記載のとおり。		
対象学生(クラス等)	1年・前期		
担当教員Eメールアドレス	takamura@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	国際保健医療福祉学研究分野(原研国際)		
担当教員TEL	095-819-7170		
担当教員オフィスアワー	金曜日午後5時～6時		
授業の概要及び位置づけ	本授業のねらいは、長崎における西洋医学教育の歴史について、さらには放射線被ばくによる健康影響の実態を学び、長崎大学医学部で学ぶことの意義を再認識し、原爆被爆者、さらには世界のヒバクシャについての最新の知見に触れることにあります。そのために、まずは西洋医学伝来と放射線、放射線被ばくについての基礎知識を整理し、原爆の実相、そして放射線被ばくによる急性影響と晩発性影響(後障害)を、血液疾患や甲状腺疾患などを中心に学びます。さらには、昨年発生した福島第一原子力発電所の発生にあたって実際に長崎大学から医療支援にあたった医師による、事故対策の実際についての講義も予定しています。		
授業到達目標	1. 長崎における西洋医学の歴史について概説できる。 2. 放射線についての基礎的事項について、概説することができる。 3. 原爆被爆者の健康影響について概説することができる。		
授業方法(学習指導法)	各教官による講義を中心に進めていくが、講義の終わりには随時質問を受け付けるので、積極的に質問すること。 また、最終講義時にはまとめと質疑の時間を別途設けるものとする。		
授業内容	回	内容・教室	
	1	5/13金 オリエンテーション 1. 医学史とは? 原爆医療とは?(原研国際・高村) 3講	
	2	5/19木 医学史と長崎(1) 2. ツェンペリー、シーボルトとモーニッケの医学と博物学(長崎原爆病院・相川) 3講	
	3	5/20金 医学史と長崎(2) 3. 養生所と日本の近代医学(長崎原爆病院・相川) 3講	
	4	5/26木 医学史と長崎(3) 4. 南蛮医学と紅毛医学(ヴォルフガング・ミヒエル) 3講	
	5	5/27金 医学史と長崎(4) 5. 原爆と医師: 永井隆はじめ原爆医療の先駆者(原研医療・山下) 3講	
	6	6/2木 原爆被爆者医療(1) 6. 被爆者腫瘍の病理疫学(原研病理・中島) 3講	
	7	6/3金 原爆被爆者医療(2) 7. 原爆の造血に対する影響(原研内科・宮崎) 4講	
	8	6/9木 原爆被爆者医療(3) 10. 被爆者の健康管理(原研情報室・横田) 2講	
	9	6/10金 原爆被爆者医療(4) 被爆者医療行政の実際(厚生労働省・中田) 4講	
	10	6/16木 核兵器の非人道性(1) 8. 国際人道法と核兵器(RECNA・広瀬) 3講	
	11	6/17金 核兵器の非人道性(2) 11. 核兵器の非人道性をめぐる国際的な動向(RECNA・中村) 4講	
	12	6/23木 放射線事故対策(1) 12. 核実験、原子力災害と健康影響(原研国際・高村) 2講	
	13	6/24金 放射線事故対策(2) 13. 緊急被ばく医療(国際ヒバクシャ医療センター・宇佐) 1講	
	14	6/30木 放射線事故対策(3) 14. 福島第一原子力発電所事故対応(福島県立医科大学・大津留) 専斎ホール	
	15	7/7木 まとめ 15. 講義まとめ、質疑応答(原研国際・高村) 専斎ホール	
キーワード	原爆 放射線 チェルノブイリ 福島 被ばく医療		
教科書・教材・参考書	特に指定しない。必要に応じて、講義の際に資料を配布する。		
成績評価の方法・基準等	テーマに従い、レポートを提出することによって評価を行う。		
受講要件(履修条件)			
備考(URL)	http://abomb.med.nagasaki-u.ac.jp/abdi/index.html		
学生へのメッセージ	事前に原爆資料館や国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館、永井隆記念館などを訪問して自己学習をしておくこと。		
アクティブラーニング	アクティブラーニングを加味する。		

学部モジュール(医学統計学)

学期	後期	曜日・校時	月16:30-18:00
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20162016000301	科目番号	20160003
授業科目名	●医学統計学		
編集担当教員	本多 正幸		
授業担当教員名(科目責任者)	本多 正幸		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	本多 正幸,三根真理子,近藤久義		
科目分類	学部モジュール科目		
対象年次	1年	講義形態	講義科目
教室	医学部CBT室もしくは第1講義室		
対象学生(クラス等)	医学部1年		
担当教員Eメールアドレス	m-honda@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	医療情報学		
担当教員TEL	095-819-7536		
担当教員オフィスアワー	16:30-17:30 火曜日		
授業の概要及び位置づけ	<p>医学統計特有の手法も存在するが、まず統計学の基本を理解することが肝要である。確率などの数学的な素養があることを前提とするが、1年次であることを考え基本的な概念、考え方を理解することを目標とし、高次学年や将来における医学研究の基礎力となる統計学の知識の習得を目指す。また、IT化の時代であり、コンピュータ演習を通して統計学およびデータ分析の基礎を学習する。</p>		
授業到達目標	<p>以下の2点を到達目標とする。</p> <p>1) 科学的方法における統計学の位置付けを理解し、記述統計学、確率分布の概念と代表的分布、母集団と標本における推測統計学などを中心に学習し、基礎的事項を説明できる。</p> <p>2) 医学データ、臨床データ等を用いた演習を通して、基礎的事項の理解を深め、データ見る目を養うとともに基本的なデータ解析ができる。</p>		
授業方法(学習指導法)	<p>講義形式と演習形式(医学部CBT室)</p> <p>担当:</p> <p>医療情報学: 本多正幸(1回目~5回目)</p> <p>原研情報: 三根真理子(6, 7回目, 13~15回目)</p> <p>原研情報: 近藤久義(8回目~12回目)</p> <p>※なお、講義順、担当は変更する場合あり</p>		
授業内容	<p>統計学の基礎的事項を講義、演習を通して理解させる。講義は、原則プレゼンソフトにより行うが、参考書等に掲載されている医学論文掲載データ等を実例として紹介する。また、演習は各自PCを用いて、表計算ソフト、統計解析ソフトなどの実習を通して統計解析手法を体験する。</p>		
	回	内容	
	1	オリエンテーション(目的・概要、研究デザイン(相対危険度とオッズ比))	
	2	記述統計 I (平均、中央値、SD、SE)	
	3	確率・確率分布 I (確率とベイズの定理、臨床判断学)	
	4	確率・確率分布 II (正規分布と2項分布)	
	5	記述統計 II (相関と回帰)	
	6	演習 I	
	7	演習 II	
	8	母集団と標本(5回目までの補足を含む) 第1講義室orCBT室	
	9	推測統計 I (推定、区間推定、t分布)	
	10	推測統計 II (仮説検定の概念、標本の大きさの計算)	
	11	推測統計 III (1標本検定と2標本検定) 第1講義室orCBT室	
	12	推測統計 IV (分割表検定、分散分析と多重比較)	
	13	演習 III	
	14	演習 IV	
	15	まとめ	
16			
キーワード			
教科書・教材・参考書	<p>教科書は特にしてしない。教材、資料等は授業中に配布する。また、下記の本を参考書として指定するが、特に購入する必要はない。また、別の参考書等は適宜紹介する。</p> <p>(参考:「論文が読める! 早わかり統計学 -臨床研究データを理解するためのエッセンス-」(第2版)、メディカル・サイエンス・インターナショナル)</p>		
成績評価の方法・基準等	定期考査60%、授業中の課題に対する取り組み状況20%、レポート20%		
受講要件(履修条件)			
備考(URL)			
学生へのメッセージ			

学部モジュール (Communication Skill in English)

学期	前期	曜日・校時	木2
開講期間			
必修選択	必	単位数	1.0
時間割コード		科目番号	
授業科目名	●Communication Skill in English		
編集担当教員	柳原 克紀		
授業担当教員名(科目責任者)	柳原 克紀		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	柳原 克紀、プリガンティ ジェイムス、ロースフェルト ルーク、佐賀大学・青木洋介教授 ほか		
科目分類	学部モジュール科目		
対象年次	1年	講義形態	講義科目
教室	[医学科]第2講義室、第3講義室、セミナー室、視聴覚セミナー室、グビローニングセンターセミナー室、専齋ホール		
対象学生(クラス等)	医学科1年生		
担当教員Eメールアドレス	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	臨床検査医学(病態解析・診断学)		
担当教員TEL	095-819-7574		
担当教員オフィスアワー	月～金曜日の17:00～18:00		
授業の概要及び位置づけ	<p>本科目は、WritingとReadingに係る講義を中心として、医学英語・科学英語に親しみ、本学科における英語及び医学学習への円滑な導入を目的とする。</p> <p>授業の最後には班ごとのポスタープレゼンテーションを行い、アクティブラーニングを推進する。</p> <p>また、グループワークを通じ、学習における自主性・協調性・英語スキルを養い、今後医学英語を学ぶことの足がかりとする。</p>		
授業到達目標			
授業方法(学習指導法)	講義		
授業内容		内容	
	回		
	1	イントロダクション(5/19、第3講義室)	
	2	医学英語(5/26、第3講義室)	
	3	医学英語(6/2、第3講義室)	
	4	留学生とのディスカッション(6/9、2講・セミナー・視聴覚・グビロ)	
	5	特別講義(6/16、第3講義室)	
	6	プレゼンテーション準備((6/23、2講・セミナー・視聴覚・グビロ)	
	7	プレゼンテーション(6/30、専齋ホール)	
8	プレゼンテーション(7/7、専齋ホール)		
キーワード			
教科書・教材・参考書			
成績評価の方法・基準等			
受講要件(履修条件)			
備考(URL)			
学生へのメッセージ			
アクティブラーニング	アクティブラーニング(授業の1/3以上、2/3未満)を実施する。		

平成28年度 授業時間割 学士2年前期

月	日	月								日	火								日	水						日	木						日	金								
		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6			
		8:50 \$	10:00 \$	11:10 \$	13:00 \$	14:10 \$	15:20 \$	16:30 \$	17:40 \$		8:50 \$	10:00 \$	11:10 \$	13:00 \$	14:10 \$	15:20 \$	16:20 \$	18:00 \$		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$			
3	28	9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:30	18:40	29	9:50	11:00	12:10	14:00	15:10	16:20	17:50	19:30	30	10:20	12:00	14:30	16:10	17:50	19:30	31	10:20	12:00	14:30	16:10	17:50	19:30	1	10:20	12:00	14:30	16:10	17:50	19:30			
4	4									5									6								7								8							
	11	医学英語A	医学英語B	医と社会	人体構造系骨学	骨学実習				12	医と社会(共修)	医学英語C	医英B	医英A	国際医療英語				13	動物性機能系	内臓機能・体液系II	人体構造系II					14	系II	発生・組織系II						15	医学ゼミ	動物性機能系	人体構造系II				
	18									19									20								21								22							
	25									26									27								28								29	昭和の日						
5	2									3	憲法記念日								4	みどりの日						5	こどもの日						6									
	9	英語B	生体分子系							10	医と社(共修)	医学英語C	発生						11								12								13							
	16	人構系骨		英語B						17	医と社会	医学英語C	発生						18								19								20							
	23	英語C	英語B							24									25								26								27							
	30	人体構造系筋学		英語B						31	英語B	英語C	発生組織系・支持組織上皮組織	国際医療英語					1								2	内臓機能・体液系II	発生・組織系II													
6	6									7	医と社会	発生組織系・支持組織筋組織						8	動物性機能系	内臓機能・体液系II	人体構造系II					9								10	医学ゼミ	動物性機能系	人体構造系II					
	13									14									15								16								17							
	20	医学英語C	医学英語B							21									22								23								24							
	27									28									29								30								1							
7	4									5									6								7								8							
	11									12	医と社会	英語C						13								14								15								
	18									19									20								21								22	予備	人体構造系II					
	25	海の日								26	試験期間								27																							
		試験期間								2	試験期間								3	試験期間						4	試験期間						5	試験期間								
8	1	試験期間								2	試験期間								3	試験期間						4	試験期間						5	試験期間								
	8	夏季休業								9	夏季休業								10	夏季休業						11	山の日						12	夏季休業								
	15	夏季休業								16	夏季休業								17	夏季休業						18	夏季休業						19	夏季休業								
	22	夏季休業								23	夏季休業								24	夏季休業						25	夏季休業						26	夏季休業								
	29	夏季休業								30	夏季休業								31	夏季休業						1	夏季休業						2	夏季休業								
9	5	試験期間								6	試験期間								7	試験期間						8	試験期間						9	試験期間								
	12	試験期間								13	試験期間								14	試験期間						15	試験期間						16	試験期間								

平成28年度 授業時間割 学士2年後期

月	日	月								日	火								日	水						日	木						日	金								
		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5	6	7	8		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6			
		8:50 \$	10:00 \$	11:10 \$	13:00 \$	14:10 \$	15:20 \$	16:30 \$	17:40 \$		8:50 \$	10:00 \$	11:10 \$	13:00 \$	14:10 \$	15:20 \$	16:20 \$	18:00 \$		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$			
9	19	敬老の日								20	試験期間								21	試験期間						22	秋分の日						23									
	26	人体構造系脈管		内臓機能体液系細胞生理・自律循環器						27									28								29	病理総論系							30	医学ゼミ	免疫系	感染系				
10	3									4									5								6								7							
	10	体育の日								11									12								13								14							
	17	人体構造系脈管		内臓機能体液系循環器						18	生体分子系							19	基礎医学TBL							20	腫瘍系							21								
	24	人体構造系消化器		内臓機能体液系消化器						25								26								27								28								
	31									1								2								3	文化の日						4	腫瘍系								
11	7	人体構造系		内臓機能体液系呼吸器						8								9								10	創生記念講演会	医と社会II						11								
	14	人体構造系呼吸器		内臓機能体液系呼吸						15								16								17								18								
	21	人体構造系		酸塩基平衡						22								23	労働感謝の日						24	腫瘍系																
	28	人体構造系泌尿生殖		内臓機能体液系腎・排泄						29								30	感染系							1								2								
12	5	人体構造系	医と社会	酸塩基平衡						6								7								8								9								
	12	人体構造系女性生殖器		内臓機能体液系血液体液						13								14								15								16								
	19	人体構造系								20								21	感染系							22	病理総論系							23	天皇誕生日							
	26	冬季休業								27	冬季休業								28	冬季休業						29	冬季休業						30	冬季休業								
1	2	振替休日								3	冬季休業								4	冬季休業						5	冬季休業						6									
	9	成人の日								10								11								12								13	医学ゼミ	免疫系	感染系					
	16	人体構造系内分泌代謝		内臓機能体液系内分泌代謝						17								18	感染系							19	病理総論系							20								
	23	人体構造系		体温						24								25								26								27	免疫系II	神経系						
	30	人構								31								1								2								3	予備							
2	6	人体構造系	医と社会	内臓機能体液系						7								8								9								10	試験期間							
	13	退職教授記念講演会								14	退職教授記念講演会								15	試験期間						16	試験期間						17	試験期間								
	20	試験期間								21	試験期間								22	試験期間						23	試験期間						24	試験期間								
	27	試験期間								28	試験期間								29	試験期間						30	試験期間						31	試験期間								
3	6	試験期間								7	試験期間								8	試験期間						9	試験期間						10	試験期間								
	13	試験期間								14	試験期間								15	試験期間						16	試験期間						17	試験期間								
	20	春季休業								21	春季休業								22	春季休業						23	春季休業						24	春季休業								
	27	春季休業								28	春季休業								29	春季休業						30	春季休業						31	春季休業								

人体構造系 II

責任者	氏名	弦本敏行	内線	7021
	教室	肉眼解剖学(解剖学第二)	e-mail	tsurumot@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	18:00-19:00		

対象年次・学期	2年・前期	講義形態	実習
必修・選択	必修	単位数	3.5
英語名	Human Body Structure 2		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

ねらい：解剖学実習は御遺体にメスを入れるという特殊な実習でもあるので、知的修得ばかりでなく「心の学習」の場でもあることを自覚、認識して臨まなくてはならない。人体構造系は「肉眼解剖学」の知識を習得する学問である。講義並びに実習を通して人体の諸構造を理解するための解剖学的知識を修得するとともに、解剖学以外の基礎医学、臨床医学、社会医学などを学ぶための基礎学力をも身につける。その際学ぶ解剖学用語は、一つの概念を表現するために約束された記号であり、かつ将来、臨床医学を学ぶ上で必須の公用語でもある。また、解剖学実習は剖検した構造物を自分の目で観察し正確に記載してゆくという科学的学習態度の初歩を身につける機会として位置づけられる。

到達目標：人体の肉眼解剖学的な種々の諸構造について、適切な解剖学用語を用いて具体的に説明できる。

2. 授業内容

解剖学実習を決められた手技に則って行う。

3. 教科書、参考書等 (★は教科書、必携)

書名	著者	出版社	定価(税抜)
★グラント解剖学実習	新井良八 監訳	西村書店	4,800 円
★ネッター解剖学アトラス	相磯貞和 訳	南江堂	10,000 円
★グレイ解剖学 (for students)	塩田浩平 他訳	エルゼビア・ジャパン	10,000 円
分担解剖学 1 (総説・骨学・筋学)	小川鼎三、森 於菟他	金原出版	9,300 円
分担解剖学 2 (脈管学・神経系)	平沢 興 他	金原出版	10,600 円
分担解剖学 3 (感覚器学・内臓学)	小川鼎三 他	金原出版	8,600 円

4. 成績評価の方法・基準

解剖学実習について、口答試験および筆答試験を行う

- (1) 受験資格 原則として皆出席(無届欠席は失格)
- (2) 試験と評価 ○実習中に口答ないし筆答試験を行う
○本試験
○再試験

再試験後、口答試験結果、課題レポート等も併せて、総合的に評価する

※ 本試験、再試験とも無届欠席は失格とする。

5. 教員名

肉眼解剖学分野：弦本敏行、岡本圭史、佐伯和信

非常勤講師：分部哲秋(長崎医療技術専門学校)

6. 備考(解剖学実習事前学習等について)

- (1) 解剖学実習をプログラム通りに進行させるためには解剖内容の正確な理解が必要であり、十分な予習を必要とする
 - 1) 配布するプリントの一般的解剖手技を十分学習し、各構造物の剖出の仕方を実践できるようにしておく

- 2) 実習プログラムに沿って予習しておく
 - ①解剖の大きな流れは3～4回先まで把握する
 - ②頁ごとの手順を理解し、割出すべき構造物について予習ノートを作成する
 - ③実習日での事前学習は困難であるので、休日等を利用してできるだけ先へ進めておく
- (2) 実習中は各班にiPadを貸与するが、教科書は必ず購入すること
- (3) 事前に配布される諸注意に沿って、実習に必要な物を注文・購入しておくこと
- (4) 11月9日に催される解剖体慰霊祭には、ご遺族が出席されます。節度ある身なり・服装・態度をもって必ず出席してください。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	1	金	3 4	解剖学実習 1	実習オリエンテーション (解剖学実習総論)	解剖2・弦本、岡本 佐伯	第2 講義室
4	6	水	3 4	解剖学実習 2	解剖体安置、洗滌 背部の皮剥と皮下	解剖2・弦本、岡本 佐伯	解剖 実習室
4	8	金	3 4	解剖学実習 3	背部の皮下	解剖2・弦本、岡本 佐伯	解剖 実習室
4	13	水	3 4	解剖学実習 4	背部浅層	解剖2・弦本、岡本、佐伯 非常勤講師・分部	解剖 実習室
4	15	金	3 4	解剖学実習 5	頸部の皮剥と皮下、浅層① 胸部・腹部の皮剥と皮下	解剖2・弦本、岡本 佐伯	解剖 実習室
4	20	水	3 4	解剖学実習 6	頸部浅層② 浅胸筋	解剖2・弦本、岡本、佐伯 非常勤講師・分部	解剖 実習室
4	22	金	3 4	解剖学実習 7	頸部深層、胸鎖関節開放 腋窩	解剖2・弦本、岡本 佐伯	解剖 実習室
4	27	水	3 4	解剖学実習 8	側腹筋 上肢離断	解剖2・弦本、岡本、佐伯 非常勤講師・分部	解剖 実習室
5	6	金	3 4	解剖学実習 9	腹直筋 上肢の皮剥と皮下	解剖2・弦本、岡本 佐伯	解剖 実習室
5	11	水	3 4	解剖学実習 10	胸腔・腹腔の開放 胸膜、腹膜、自然位の胸腹部内臓 肩部、上腕伸側	解剖2・弦本、岡本、佐伯 非常勤講師・分部	解剖 実習室
5	13	金	3 4	解剖学実習 11	胸膜、肺、縦隔・心臓① 上腕屈側	解剖2・弦本、岡本 佐伯	解剖 実習室
5	18	水	3 4	解剖学実習 12	縦隔・心臓② 前腕伸側と手背①	解剖2・弦本、岡本、佐伯 非常勤講師・分部	解剖 実習室
5	20	金	3 4	解剖学実習 13	小腸・大腸① 前腕伸側、手背②	解剖2・弦本、岡本 佐伯	解剖 実習室
5	25	水	3 4	解剖学実習 14	小腸・大腸②、上腹部内臓① 前腕屈側、手掌①	解剖2・弦本、岡本、佐伯 非常勤講師・分部	解剖 実習室
5	27	金	3 4	解剖学実習 15	前腕屈側、手掌② 上腹部内臓②	解剖2・弦本、岡本 佐伯	解剖 実習室
6	1	水	3 4	解剖学実習 16	背部深層	解剖2・弦本、岡本、佐伯 非常勤講師・分部	解剖 実習室

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
6	3	金	3 4	解剖学実習 1 7	上腹部内臓、小腸・大腸の摘出 後腹膜臓器 後腹壁、横隔膜	解剖2・弦本、岡本 佐伯	解剖 実習室
6	8	水	3 4	解剖学実習 1 8	骨盤部・殿部・会陰の皮剥と皮下 外生殖器と会陰	解剖2・弦本、岡本、佐伯 非常勤講師・分部	解剖 実習室
6	10	金	3 4	解剖学実習 1 9	腰部離断・骨盤折半・骨盤内臓 頭部離断・環椎後頭関節開放 硬膜・内頭蓋底	解剖2・弦本、岡本 佐伯	解剖 実習室
6	15	水	3 4	解剖学実習 2 0	下肢の皮剥と皮下	解剖2・弦本、岡本 佐伯	解剖 実習室
6	22	水	3 4	解剖学実習 2 1	骨盤の血管・神経 顔面の皮剥と皮下（浅層①）	解剖2・弦本、岡本 佐伯	解剖 実習室
6	29	水	3 4	解剖学実習 2 2	顔面の皮剥と皮下（浅層②） 大腿伸側・内側①	解剖2・弦本、岡本 佐伯	解剖 実習室
7	6	水	3 4	解剖学実習 2 3	咽頭・喉頭 顔面浅層③ 大腿伸側・内側②	解剖2・弦本、岡本 佐伯	解剖 実習室
7	7	木	3 4	解剖学実習 2 4	顔面深層① 殿部、大腿屈側①	解剖2・弦本、岡本 佐伯	解剖 実習室
7	13	水	3 4	解剖学実習 2 5	顔面深層② 殿部、大腿屈側②	解剖2・弦本、岡本 佐伯	解剖 実習室
7	14	木	3 4	解剖学実習 2 6	鼻腔 下腿屈側、足底①	解剖2・弦本、岡本 佐伯	解剖 実習室
7	20	水	3 4	解剖学実習 2 7	口蓋、口腔 下腿屈側、足底②	解剖2・弦本、岡本 佐伯	解剖 実習室
7	21	木	3 4	解剖学実習 2 8	眼窩、外耳・中耳・内耳 下腿外側・伸側・足背	解剖2・弦本、岡本 佐伯	解剖 実習室
7	22	金	3 4	解剖学実習 2 9	上肢の関節	解剖2・弦本、岡本 佐伯	解剖 実習室
7	27	水	3 4	解剖学実習 3 0	下肢の関節	解剖2・弦本、岡本 佐伯	解剖 実習室
7	28	木	3 4	解剖学実習 3 1	納棺、実習室清掃	解剖2・弦本、岡本 佐伯	解剖 実習室

発 生 ・ 組 織 系 II

責任者	氏 名	小路 武彦	内 線	7027
	教 室	解剖学第三 (組織発生解剖学)	e-mail	tkoji@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	(木) 16:30~18:00		

対象年次・学期	2年・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2.5
英語名	Human development and Histology		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

医師となるために必要とされる正常人体組織学と発生学の基礎知識を修得する。それらの知識と組織標本観察力は、病理組織学を始め後に続いて修得する基礎および臨床科目を十分に理解するのに必要である。よって、それら諸科目との関連性を強調しながら、現代発生学および組織学の知識のエッセンスを伝えたい。

本講義により顕微鏡像から組織・器官を特定でき、その形態的特徴を適切な用語を用いて説明できることを到達目標とする。また、各器官の発生学についても説明できる事とする。

2. 授業内容 (講義・実習項目)

講義と平行して組織学の実習を行い、実習内容を必要に応じてチェックする。講義は第一講義室で行い、実習は第二実習室で行う。

3. 教科書、参考書等

書 名	著 者	出版社	定 価
教科書			
カラー機能組織学 (原著第2版)	J. B. Kerr	医歯薬出版	10,800 円
標準組織学 総論 (5版)	藤田尚男、藤田恒夫	医学書院	8,856 円
標準組織学 各論 (4版)	藤田尚男、藤田恒夫	医学書院	12,960 円
参考書			
The Developing Human: Clinically Oriented Embryology (10版)	K. L. Moore & T. V. N. Persuad	Saunders	14,072 円
標準細胞生物学 (2版)	石川春律、近藤尚武 柴田洋三郎 編	医学書院	5,832 円
ラングマン人体発生学 (11版)	T. W. Sadler	医歯薬出版	9,072 円
ムーア人体発生学 (8版)	K. L. Moore	医歯薬出版	12,960 円
永遠の不死：精子形成細胞の生物学	小路武彦 編	サイエンス社	2,376 円

4. 成績評価の方法・基準

成績の評価は、学期末に行うカラースライドを用いたペーパーテストに実習参加態度を加味し、最終合否判定を行う。また、LACSに掲げる小テストの達成状況を成績評価に加味する。なお、期末試験の受験には講義及び実習時間数の2/3以上の出席が必要でありこれに満たない場合は失格となる。

ペーパーテストは組織学講義分野40点、組織学実習分野60点の100点満点とし、合計点が60点以上で、1分野の得点が45%以上である場合を合格とする。再試験は年度末に1回だけ行う。

5. 教員名

解剖学第三 : 小路武彦、柴田恭明、遠藤大輔、穂山直太郎
 口腔解剖第一 : 真鍋義孝
 第二内科 : 西野友哉 / 北村峰昭
 非常勤講師 : 進 正志、藤田 守、菱川善隆、江島邦彰

6. 備考（準備学習等）

一年次前期の「Human Biology」で学んだ内容を復習しておくこと。

7. アクティブラーニング

講義・実習の資料および小テストを順次LACSへアップロードするので各自で予習・復習に活用すること。また、LACSへ掲げる小テストに関しては全問正解するまで完遂すること。小テストの達成状況は試験の成績評価に加味する。

	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	7	木	2	細胞組織の概念 上皮組織・支持組織	・分類 ・上皮細胞間の特殊分化 ・腺（唾液腺）・結合組織	解剖3・小路	1講
			3	実習説明	諸注意、顕微鏡引渡し	解剖3・小路 柴田 遠藤 亀山	実2
			4	上皮組織	実習		
4	14	木	2	支持組織 筋組織	・軟骨 ・平滑筋　・骨格筋　・心筋	解剖3・小路	1講
			3		実習	解剖3・小路 柴田 遠藤 亀山	実2
			4				
4	21	木	2	脈管系	・心臓脈管系の発生　・血液 ・毛細血管　・動脈　・静脈 ・心臓	解剖3・亀山	1講
			3		実習	解剖3・小路 柴田 遠藤 亀山	実2
			4				
4	28	木	2	リンパ性器官	・リンパ性器官の発生・リンパ ・リンパ節・脾臓・胸腺	非常勤・進	1講
			3		実習	解剖3・小路 柴田 遠藤 亀山	実2
			4				
5	12	木	2	消化器系（口腔）	・口腔　・歯 ・唾液腺	口腔解剖1・真鍋	1講
			3		実習	解剖3・小路 柴田 遠藤 亀山	実2
			4				
5	19	木	2	消化器系(I)	・消化管の発生　・咽頭 ・食道　・胃　・小腸　・大腸	非常勤・藤田	1講
			3		実習	解剖3・小路 柴田 遠藤 亀山	実2
			4				
5	26	木	2	消化器系(II)	・肝臓、胆嚢の発生 ・肝臓と胆嚢　・膵臓の発生 ・膵臓	非常勤・菱川	1講
			3		実習	解剖3・小路 柴田 遠藤 亀山	実2
			4				
6	2	木	2	呼吸器系	・呼吸器系の発生　・鼻腔 ・喉頭　・気管　・肺	解剖3・柴田	1講
			3		実習	解剖3・小路 柴田 遠藤 亀山	実2
			4				

	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
6	9	木	2	男性生殖器系	・男性生殖器系の発生 ・精巣 ・精路とその付属腺	解剖 3 ・小路	1講
			3		実習	解剖 3 ・小路 柴田 遠藤 樋山	実2
			4				
6	16	木	2	泌尿器系	・泌尿器系の発生 ・腎臓 ・尿管 ・膀胱 ・尿道	内科 2 ・西野／北村	1講
			3		実習	解剖 3 ・小路 柴田 遠藤 樋山	実2
			4				
6	23	木	2	女性生殖器系	・女性生殖器系の発生 ・卵巣・卵管 ・子宮 ・膣 ・外陰部 ・胎盤 ・乳腺	非常勤・江島	1講
			3		実習	解剖 3 ・小路 柴田 遠藤 樋山 非常勤・江島	実2
			4				
6	30	木	2	内分泌系(I) ・ (II)	・下垂体 ・上皮小体 ・甲状腺 ・松果体 ・副腎 ・消化管の内分泌 ・パラグングリオン	解剖 3 ・遠藤	1講
			3		実習	解剖 3 ・小路 柴田 遠藤 樋山	実2
			4				

動物性機能系

責任者	氏名	篠原 一之	内線	7033
	教室	生理学第二 (神経機能学)	e-mail	kazuyuki@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16時30～17時30分		

対象年次・学期	2年・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2.5
英語名	Neurobiology and Behavior		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

動物性機能生理学では脳および神経の機能について学習する。最近急速に発展した脳・神経機能を学ぶためには、神経細胞レベルからヒトの認知・行動レベルまで、トータルに学ばねばならない。そこで、授業では、脳・神経科学を、1) 体の内外からの情報を受けて解釈する感覚系、2) 情報に基づいて判断を行う統合系、3) 行動を組織して実行する運動系、に分けて、それぞれ分子レベルから現象レベルまで統合的に理解し、脳・神経系学問領域における思考力を養う。

最近、脳・神経科学領域の進歩は目まぐるしい。膨大な情報の中から、将来医師となった時に知っておくべき、基礎的知識から最先端医療に応用可能な知識を授業で学ぶ。具体的には、神経細胞の情報伝達機構、神経再生、脳の統合機能（記憶、情動、本能）、感覚受容・知覚等のテーマについて、統合的システムとして理解できるようになり、脳・神経科学関連疾患の病態、病因、治療についての考察ができることも目標とする。

2. 授業内容（講義・実習項目）

講義：神経科学に含まれる事象について、細胞レベル、運動系の末梢から中枢まで、感覚系、統合的脳機能へと、そのメカニズムと全体における位置付けを重要視しながら、発展的に進めていく。項目によっては各専門家を呼び、高度な最新の内容をわかりやすく講義してもらう。

実習：人体を用いた神経、筋の興奮現象の測定を体験し、観察される現象の機構を説明できるようにする。感覚系および中枢を介した反応についていくつかの課題を実行し、背景となる神経機構についての基本的性質を考察し理解する。

講義用スライド・資料等は、「長崎大学LACS」にアップロードするので、各自以下のURLからダウンロードすること。原則として、講義の際に資料の配布はしない。

・長崎大学LACS <https://lacs.nagasaki-u.ac.jp/>

3. 教科書、参考書等

書名	著者	出版社	定価
人体生理学	篠原一之 他共著	朝倉書店	3,800 円
生理学テキスト	大地陸男 著	文光堂	4,800 円
標準生理学	本郷 利憲 他共著	医学書院	12,600 円
ニューロンの生物学	Fred Delcomyn (小倉明彦・富永恵子 訳)	南江堂	8,800 円
第3版カールソン 神経科学テキスト	Neil. R. Carlson (泰羅雅登・中村克樹 訳)	丸善	18,900 円
Principles of Neural Science	Eric. R. Kandel	McGraw-Hill Companies	10,699 円

4. 成績評価の方法・基準

原則として筆答試験による。（実習も考慮する。）

5. 教員名

生理学第二：篠原一之、土居裕和、菊野雄一郎、澤野恵梨香、樽見航

耳鼻咽喉科：高橋晴雄

眼科：北岡隆

麻酔科：北條美能留

歯学部・口腔生理：岡田幸雄

非常勤講師：内匠透（理化学研究所）

友田明美（福井大学）

中村孝博（明治大学）

6. 備考（準備学習等）

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員		教室
4	1	金	2	入門	神経科学の基礎と歴史	生理2	篠原	2講
4	6	水	1	入門	神経系を構成する諸要素（形態・機能・分子）	生理2	樽見	2講
4	8	金	2	興奮	静止状態のニューロンと膜電位	生理2	土居	3講
4	13	水	1	興奮	ニューロンの興奮とその伝導	生理2	土居	2講
4	15	金	2	シナプス	シナプス伝達	生理2	篠原	2講
4	20	水	1	シナプス	神経伝達物質の放出と受容体	生理2	澤野	2講
4	22	金	2	神経細胞死	神経細胞の死	生理2	樽見	2講
4	27	水	1	神経細胞死	神経細胞の再生	生理2	澤野	2講
5	6	金	2	運動系	大脳基底核	生理2	土居	2講
5	11	水	1	運動系	骨格筋の構造・機能	生理2	菊野	2講
5	13	金	2	運動系	運動系システムの階層性	生理2	菊野	2講
5	18	水	1	運動系	脊髄反射	生理2	菊野	2講
5	20	金	2	感覚系	嗅覚	生理2	篠原	2講
5	25	水	1	運動系	小脳	生理2	土居	2講
5	27	金	2	運動・感覚	運動と感覚の連関	生理2	土居	2講
6	1	水	1	感覚系	視覚	眼科	北岡	2講
6	3	金	2	感覚系	聴覚	耳鼻科	高橋	2講
6	8	水	1	感覚系	体性感覚	生理2	菊野	2講
6	10	金	2	感覚系	痛覚	麻酔科	北條	2講
6	15	水	1	感覚系	平衡感覚	生理2	菊野	2講
6	17	金	2	感覚系	味覚	口腔生理	岡田	2講
6	17	金	3	生理学実習	1. 誘発筋電図、脳機能計測	生理2	篠原・土居 ・菊野・ 澤野・樽見	実1
6	17	金	4		2. 神経情報学			実1

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員		教室
6	22	水	1	統合脳	高次感覚機能	生理2	樽見	2講
6	24	金	2	統合脳	睡眠と脳波	生理2	篠原	2講
6	24	金	3	生理学実習	1. 誘発筋電図、脳機能計測	生理2	篠原・土居 ・菊野・ 澤野・樽見	実1
6	24	金	4		2. 神経情報学			実1
6	29	水	1	統合脳	学習と記憶（脳内メカニズム）	生理2	澤野	2講
7	1	金	2	統合脳	情動（大脳辺縁系）	生理2	篠原	2講
7	1	金	3	生理学実習	1. 誘発筋電図、脳機能計測	生理2	篠原・土居 ・菊野・ 澤野・樽見	実1
7	1	金	4		2. 神経情報学			実1
7	6	水	1	統合脳	意識と注意	生理2	土居	2講
7	8	金	2	統合脳	脳機能の分子的基盤	理研	内匠	1講
7	8	金	3	生理学実習	1. 誘発筋電図、脳機能計測	生理2	篠原・土居 ・菊野・ 澤野・樽見	実1
7	8	金	4		2. 神経情報学			実1
7	13	水	1	統合脳	学習と記憶（シナプスの可塑性）	生理2	澤野	2講
7	15	金	2	統合脳	発達に伴う脳の可塑性	福井大学	友田	2講
7	15	金	3	生理学実習	1. 誘発筋電図、脳機能計測	生理2	篠原・土居 ・菊野・ 澤野・樽見	実1
7	15	金	4		2. 神経情報学			実1
7	20	水	1	統合脳	本能行動（視床下部）	生理2	樽見	2講
7	21	木	2	統合脳	大脳連合野	生理2	澤野	2講
7	27	水	1	統合脳	生体リズム	明治大学	中村	2講

内臓機能・体液系Ⅱ

責任者	氏名	蒔田 直昌	内線	7031
	教室	分子生理学（生理学第一）	e-mail	nagasakimp@gmail.com
	オフィスアワー	講義曜日の17:00～（ただし試験前1週間を除く）		

対象年次・学期	2年・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2.5
英語名	Physiology of Visceral Function and Body Fluid		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

正常の生命現象を主として機能的な側面から探求することによって、「命がどうできているか」という医学の基礎知識を学ぶ。臨床の場においても、生体の生理現象や病的状態を個体・臓器・細胞・遺伝子という異なるレベルで観察・考察し、知識を臨床に応用させることの重要性を体験する。

- 1) 個々の内臓機能を学ぶ臓器の生理学を基礎に、恒常性維持のための統合的調節機構の観点から生体機能を理解できるよう講義を行う。
- 2) 実習では循環、呼吸、血糖調節機能の実習を体験することにより基本的な知識の応用力と臨床生理学的知識の獲得をはかる。

2. 授業内容（講義・実習項目）

講義項目	実習項目
1) 循環器	1) 心電図・肺機能
2) 呼吸器	2) 心音・血圧・心エコー
2) 腎臓・排泄	3) 循環反射・消化器
3) 体温調節	4) 血糖調節
4) 内分泌・代謝	
5) 消化器	

講義は教科書の図を中心にパワーポイントで説明を交えて行う。講義用スライド・資料は各自以下のURLからダウンロードすること。基本的に、紙の資料は配布しない。

- 分子生理学HP <http://cvmp.med.nagasaki-u.ac.jp/> or <http://www.nagasaki-molphys.org>
- 長崎大学LACS <https://lacs.nagasaki-u.ac.jp/>

3. 教科書・参考図書

書名	著者	出版社	定価
標準生理学 第8版	福田 康一郎 他	医学書院	12,960円
ギャノン生理学 24版	岡田泰伸 他	丸善	10,800円
ガイトン生理学 原著第11版	御手洗 玄洋 他	エルゼビア	21,600円
ボロン プールペープ 生理学	泉井 亮 他	西村書店	10,260円
人体の正常構造と機能 第2版	坂井 建雄 他	日本医事新報	19,440円
図解心電図テキスト 第6版	Dale Dubin	文光堂	4,860円

4. 成績評価の方法・基準

実習は全て履修し、レポートを提出する（手書きのこと。PC入力、コピーは認めない）。期末試験は、9月8日（10:00-12:00）。試験範囲を分子生理学（循環器、呼吸、腎臓・排泄、体温調節）と原研医療（内分泌・代謝、消化器）に分け、同時に実施する。それぞれの試験範囲について60点以上を合格とし、不合格の範囲に対して再試験を1回行う。出題・配点は講義のコマ数に応じる。期末試験の結果、出席、実習レポートで成績を評価する。試験の受験資格、追試験に関しては医学部規定の通り。

5. 教員名

講義担当	分子生理学：	蒔田直昌・辻 幸臣・石川泰輔
	原研医療：	山下俊一・光武範吏
	循環器内科：	前村浩二
	非常勤講師：	望月直樹（国立循環器病研究センター）・井上靖久（活水女子大学）・松本逸郎（活水女子大学）・児島将康（久留米大学）
実習担当	蒔田直昌・辻 幸臣・石川泰輔・Daniel T. Harrell (TA)	

6. アクティブラーニング 加味する

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	6	水	2	呼吸1	肺の構造、呼吸運動、肺気量	分子生理・石川	2講
4	7	木	1	腎・排泄1	腎臓の構造と機能	分子生理・辻	1講
4	13	水	2	呼吸2	肺コンプライアンス、気道抵抗、閉塞性と拘束性疾患	分子生理・石川	2講
4	14	木	1	腎・排泄2	糸球体、傍糸球体装置	分子生理・辻	1講
4	20	水	2	呼吸3	ガス交換（酸素の運搬）、ヘモグロビンと酸素飽和度	分子生理・石川	2講
4	21	木	1	腎・排泄3	尿細管の機能、再吸収、尿の濃縮	分子生理・辻	1講
4	27	水	2	呼吸4	ガス交換（炭酸ガスの運搬）、換気血流比	分子生理・石川	2講
4	28	木	1	腎・排泄4	電解質の再吸収と分泌、クリアランス	分子生理・辻	1講
5	11	水	2	循環器1	心血管系の形態と機能	分子生理・非常勤講師 井上	2講
5	12	木	1	腎・排泄5	血圧の調節、中枢神経系による調節（ホルモンと自律神経系）	分子生理・辻	1講
5	18	水	2	呼吸5	肺循環（肺血流、肺血管抵抗、肺内圧）	分子生理・石川	2講
5	19	木	1	呼吸6	呼吸調節、呼吸中枢	分子生理・石川	1講
5	25	水	2	循環器2	血管の機能・構造	分子生理・蒔田	2講
5	26	木	1	循環器3	静脈系、リンパ系、微小循環	分子生理・蒔田	1講
6	1	水	2	循環器特別講義	循環生理と臨床医学の接点	循環器内科・前村	2講
6	2	木	1	循環器4	局所循環（冠、脳、肝）	分子生理・蒔田	1講
6	8	水	2	循環器5	心臓中枢、血管中枢、循環反射	分子生理・蒔田	2講
6	9	木	1	循環器特別講義	特別講義	分子生理・非常勤講師 望月	1講
6	15	水	2	体温調節 1	基礎代謝と体温調節	分子生理・非常勤講師 松本	2講
6	16	木	1	実習の説明	実習の説明	分子生理 石川	1講
6	17	金	3	生理学実習	グルコース負荷試験、心音・血圧測定、超音波検査法（心臓・腹部内臓）、心電図、肺機能検査	分子生理 蒔田・辻・石川	実1、2
6	17	金	4	生理学実習			実1、2

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
6	22	水	2	体温調節 2	高体温（発熱とうつ熱）と低体温の病態生理	分子生理・非常勤講師 松本	2講
6	23	木	1	内分泌 1	内分泌総論	原研・光武	1講
6	24	金	3	生理学実習	グルコース負荷試験、心音・血圧測定、超音波検査法(心臓・腹部内臓)、心電図、肺機能検査	分子生理 蒔田・辻・石川	実1、2
6	24	金	4	生理学実習			実1、2
6	29	水	2	内分泌 2	視床下部、下垂体	原研・山下	2講
6	30	木	1	内分泌 3	甲状腺、副甲状腺	原研・山下	1講
7	1	金	3	生理学実習	グルコース負荷試験、心音・血圧測定、超音波検査法(心臓・腹部内臓)、心電図、肺機能検査	分子生理 蒔田・辻・石川	実1、2
7	1	金	4	生理学実習			実1、2
7	6	水	2	内分泌 4	副腎、性腺	原研・山下	2講
7	7	木	1	内分泌 5	心血管内分泌	原研・山下	2講
7	7	木	2	内分泌 6	同化と異化	原研・山下	2講
7	8	金	3	生理学実習	グルコース負荷試験、心音・血圧測定、超音波検査法(心臓・腹部内臓)、心電図、肺機能検査	分子生理 蒔田・辻・石川	実1、2
7	8	金	4	生理学実習			実1、2
7	13	水	2	内分泌 7	骨代謝	原研・山下	2講
7	14	木	1	消化器 1	消化器総論	原研・光武	2講
7	14	木	2	消化器 2	上部消化管	原研・光武	2講
7	15	金	3	自習	自習		実1、2
7	15	金	4				実1、2
7	20	水	2	消化器 3	下部消化管	原研・光武	2講
7	21	木	1	内分泌 8	内分泌特別講義	原研・特別講義 久留米大・児島	2講
7	27	水	2	消化器 4	肝胆膵	原研・光武	2講

医 と 社 会 II

責任者	氏名	安武 亨	内線	7987
	教室	先端医育センター	e-mail	toru@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16時30分～17時30分		

対象年次・学期	2年・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2
英語名	Medicine and Society		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

病める人と良好なコミュニケーションが行え、病気を診るだけでなく病める人の心とおかれている環境を洞察しうる医師となる。病気を治療するだけでなく医療チームや家族と力を合わせ、患者の家庭や社会への復帰と社会の偏見を克服して患者の社会参加を真摯にめざす医師となる。

患者の立場に立った医療を行える医師を目指すために、老健施設などの体験を通して、患者との良好なコミュニケーションのとり方、患者の診察法、チーム医療の重要性を理解する。また高齢者と接する際の医学生としての基本的マナーや心構えおよび対応の仕方などを学ぶ。前学年に引き続き地域包括ケアシステムの理解をさらに深め、診療器具を実際に操作する中で、診療の心得を習得する。長崎純心大学、保健学科との共修を通して医療・福祉・介護の多方面からの視点を理解し尊重する。

2. 授業内容（講義・実習項目）

- A 医療と人間（保健学科と共修）
人の心の発達、性と生、高齢期を生きる、医療人と患者及び家庭との関係の4区分で講義を行う。
1. 人の心の発達
乳幼児と親の心、子供と社会 児童虐待の現状から、子供の心の発達、学童期、思春期
 2. 性と生
人間の性 概論、ドメスティックバイオレンス
 3. 高齢期を生きる
高齢期介護の実際、認知症高齢者を家族と地域で支える、地域における高齢者の生活を考える
 4. 医療人と患者及び家族との関係
緩和ケア・ターミナルケア・ホスピスケア
- B Early Exposure（医学科）
老健施設などの体験実習に参加し、体験に基づいたレポートを作成する。
- C 診療の心得（診療マナー、バイタルサインの取り方、超音波や心電計等の基本操作）
- D 事例検討（長崎純心大学、保健学科と共修）

3. 教科書、参考書等

必要に応じて各講義の最初の時間に紹介する。

4. 成績評価の方法・基準

実習状況、出欠状況などを総合して評価する。講義・実習にはすべて出席すること。

授業回数の3分の1を超えて欠席した者は失格とする。

- A：出欠状況及び授業を行った教員の評価結果を総合して決定する。講義・実習には全て出席すること。
- B：体験に基づいたレポートを提出する。
レポート、発表会、出欠状況などを総合して評価する。講義・実習には全て出席すること。講義を欠席した学生には別途課題を課す。
- C：出欠状況、実習態度、レポートなどを総合して評価する。
- D：出欠状況、実習態度、レポートなどを総合して評価する。

5. 教員名

委員：医育支援センター：安武亨、田中邦彦、江川亜希子、保健学科教務委員

A 1：川原ゆかり（長崎短期大学保育学科教授）、小柳憲司（長崎県立こども医療福祉センター診療部長）、福田雅文（みさかえの園むつみの家施設長）

A 2：安日泰子（やすひウィメンズヘルスクリニック院長）、中田慶子（DV防止ながさき）

A 3：陣野紀代美（長崎市医師会保健福祉センター）、菅崎弘之（すがさきクリニック院長）、石松隆和（工学部）

A 4：中尾勘一郎（ホーム・ホスピス 中尾クリニック院長）、

B, C, D：地域包括ケア教育センター：永田康浩、久芳さやか、西野文子、
松坂雄亮、濱口由子

地域医療学：前田隆浩、門田耕一郎、田山淳（保健・医療推進センター）

保健学科：中尾理恵子（保健学科）

D：非常勤：潮谷有二（長崎純心大学教授）、宮野澄男（長崎純心大学准教授）、
保健学科：井口 茂

6. 備考

学外実習については、オリエンテーションを行うので実施要項に従う。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

H28年度(2年後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容		担当講座等・教員	教室
9	28	水	3	性と生1	オリエンテーション	人間の性、概論	非常勤・安日泰子(保健学科と共修)	2講
9	28	水	4	人の心の発達1	乳児と親の心		非常勤・福田雅文(保健学科と共修)	2講
10	5	水	3	人の心の発達2	子供と社会 児童虐待の現状から		非常勤・川原ゆかり(保健学科と共修)	2講
10	5	水	4	高齢期を生きる1	高齢者介護の実際		非常勤・陣野紀代美(保健学科と共修)	2講
10	12	水	3	人の心の発達3	子供の心の発達、学童期、思春期		非常勤・小柳憲司(保健学科と共修)	2講
10	12	水	4	性と生2	ドメスティックバイオレンス		非常勤・中田慶子(保健学科と共修)	2講
10	19	水	3	医療人と患者及び家族との関係	緩和ケア・ターミナルケア・ホスピスケアって?		非常勤・中尾勤一郎(保健学科と共修)	2講
10	19	水	4	地域包括	共修事前授業		非常勤:長崎純心大学・潮谷有二	2講
10	26	水	3	地域包括	共修【医学科・保健学科・長崎純心大学】		地域包括ケア教育センター 先端医育センター、地域医療学	2講
10	26	4	2講					
11	2	水	3	地域包括	共修【医学科・保健学科・長崎純心大学】		地域包括ケア教育センター 先端医育センター、地域医療学	2講
11	2	4	2講					
11	10	木	3	高齢期を生きる2	認知症高齢者を家族と地域で支える		非常勤・菅崎弘之(保健学科と共修)	2講
11	10	木	4	高齢期を生きる3	地域における高齢者の生活を考える		非常勤・石松隆和(保健学科と共修)	2講
11	16	水	3	地域医療	「認知行動療法の適用とその効果」		保健医療推進センター・田山淳	2講
11	16	水	4		「高齢者・障害者の健康生活支援～在宅療養の高齢者を中心に」		保健学科・中尾理恵子	2講
11	30	水	3	地域包括	実習オリエンテーション		地域包括ケア教育センター 先端医育センター、地域医療学	2講
11	30	水	4					2講
12	7	水	1	Early Exposure	高齢者診療施設(老健施設)	診療の心得	地域包括ケア教育センター 先端医育センター、地域医療学	1講
12	7	水	2					1講
12	7	水	3	Early Exposure	高齢者診療施設(老健施設)	診療の心得	地域包括ケア教育センター 先端医育センター、地域医療学	1講
12	7	水	4					1講
12	14	水	1	Early Exposure	診療の心得	高齢者診療施設(老健施設)	地域包括ケア教育センター 先端医育センター、地域医療学	1講
12	14	水	2					1講
12	14	水	3	Early Exposure	診療の心得	高齢者診療施設(老健施設)	地域包括ケア教育センター 先端医育センター、地域医療学	1講
12	14	水	4					1講
12	21	水	3	地域包括	実習の振り返り		地域包括ケア教育センター 先端医育センター、地域医療学	1講
12	21	水	4					1講
1	4	水	3	地域包括	地域包括ケアにおける患者・家族の理解		地域包括ケア教育センター 先端医育センター、地域医療学	1講
1	4	水	4					1講
1	11	水	3	地域包括	地域包括ケアシステムのまとめ		地域包括ケア教育センター 先端医育センター、地域医療学	1講
1	11	水	4					1講

神 経 ・ 感 覚 器 系 II

責 任 者	氏 名	森 望	内 線	7017
	教 室	神経形態学 (解剖学第一)	e-mail	morinosm@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	火曜日の16:00-18:00		

対象年次・学期	2年・後期	講義形態	講義・実習・演習
必修・選択	必修	単位数	0.5
英語名	Neuroanatomy of the human brain		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

実物のヒト脳（ご遺体の死後脳）の解剖を通して、ヒトの脳の構造的成り立ちを理解することを目的とする。立体的な理解を深めるとともに、神経解剖学用語（日英）についても改めて学習し、正確な記憶に努める。

2. 授業内容（講義・実習項目）

実習直前の授業は、1年時の神経解剖学講義（「神経・感覚器系 I」）の復習と実習へ向けてのオリエンテーションとする。4人で一グループとし、各グループで協力してご遺体の脳による系統的な脳解剖実習を行う。脳血管系の観察から脳全体の構造把握、脳幹部と小脳の離断観察のち、脳の内部構造、脳断面の観察へと進む。毎回の実習で、現場での観察と記録を重視する。神経解剖学用語（日英）についても改めて理解を深める。

3. 教科書、参考書等 （★ は教科書、必携）

書 名	著 者	出版社	定 価
★神経解剖実習書	神経形態学（解剖学第一）教室篇		（非売品）
★解剖学アトラスⅢ神経系と感覚器（第6版）	W.Kahle（著）、平田（訳）	文光堂	5,600円

4. 成績評価の方法・基準

実習レポート50%、期末試験50%とするが、講義・実習・演習への参加態度も含めて総合評価する。

5. 教員名

解剖学第一：森 望、松本 弦、村井清人

6. 備考（準備学習等）

実習前に教科書（アトラス）等によく復習しておくこと。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

神経・感覚器系Ⅱ授業予定（2年後期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
11	18	金	3	講義	脳解剖実習オリエンテーション	森・松本・村井	1講
11	18	金	4	講義	神経解剖総復習（実習前総括講義）	森	1講
11	25	金	3	実習1	脳の外観、脳膜、脳底、血管系の観察	森・松本・村井	解剖実習室
11	25	金	4	実習2	大脳皮質外側面（回と溝）の観察	森・松本・村井	解剖実習室
12	2	金	3	実習3	小脳・脳幹の離断、小脳の解剖	森・松本・村井	解剖実習室
12	2	金	4	実習4	脳幹の解剖、脳神経の観察	森・松本・村井	解剖実習室
12	9	金	3	実習5	大脳半球正中断、内側面の観察、海馬、帯状束、脳弓の剖出	森・松本・村井	解剖実習室
12	9	金	4	実習6	島、連合線維、レンズ核、放線冠の剖出	森・松本・村井	解剖実習室
12	16	金	3	実習7	大脳半球前頭断面の観察	森・松本・村井	解剖実習室
12	16	金	4	実習8	大脳半球水平断面の観察	森・松本・村井	解剖実習室
1	20	金	2	演習1	神経解剖学用語演習	森	1講
1	27	金	2	演習2	脳解剖アトラス演習	森	1講

感 染 系

責任者	氏 名	西田 教行	内 線	7059
	教 室	感染分子解析学	e-mail	noribaci@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	木曜日午後4時30分から6時30分		

対象年次・学期	2年・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	3.5
英語名	Medical Microbiology and Parasitology		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

感染系ではヒトに感染し、病気を起こす微生物（ウイルス・細菌・真菌・原虫・ぜん虫）の生物学的特性と生活環について学び理解する。さらに病気を起こすメカニズムを学び、この授業の終了後には、主要な病原体のもつ生物学的特徴と、感染の結果どのようなメカニズムで発症するのか説明できる。また病原体の地理的分布や、発生頻度、流行状況についての基本的な疫学事項を述べるができる。さらに、これらの治療やワクチンその他による予防法についても説明できる。講義と実習を通しての知識の習得にとどまらず、グループ研究を通して自ら疑問をもち、問題を発見し問題解決力を養うことを目指している。

2. 授業内容（講義・実習項目）

授業はウイルス学・細菌学（真菌を含む）・寄生虫学（原虫を含む）に大別して行い、学内外の専門家による分担講義とする。各論的内容はグループ学習と発表を中心に行い、講義で内容を補いかつ最先端の研究に触れる。実習の目的は、実際の病原体に触れることにより、現実の「もの」をみる感覚を養い、危険な病原体の取り扱い方法について学び、さらに鑑別診断のロジックを体得することにある。時間は限られているので各論で取り上げていない病原体については自己学習とする。

3. 教科書、参考書

書 名	著 者	出 版 社	定 価
微生物学 基礎から臨床へのアプローチ (2012)	神谷茂、河野茂 監訳	メディカルサイ エンスインターナ ショナル	8,300円
ブラック微生物学 2版(2007)	林英生ら監訳	丸善	7,900 円
標準微生物学 10版 (2009)	平松啓一・中込治	医学書院	7,350 円
戸田新細菌学 33版 (2007)	吉田真一・柳雄介	南山堂	15,000 円
図説人体寄生虫学 7版(2006)	吉田幸雄・有菌直樹	南山堂	9,450 円

4. 成績評価の方法・基準

学習態度および到達目標への達成度を課題レポート（3割）、実習レポート（2割）、発表（1割）、定期考査5割（分担出題）により総合評価し、60点以上の得点をもって合格とする。科目責任者の責任で（分担出題によらず）、再試験・再再試を行うことがある。

5. 教員名

感染免疫学講座：西田教行（教授）中込 治（教授）中山浩次（教授）石川岳大（准教授）石橋大輔（准教授）久保嘉直（准教授）渡辺 健（助教）中垣岳大（助教）布施隆行（助教）熱帯医学研究所：平山謙二（教授）森田公一（教授）金子 修（教授）濱野真二郎（教授）山本太郎（教授）安田二郎（教授）皆川昇（教授）上村春樹（講師）矢幡一英（助教）早坂大輔（助教）大学病院検査部：柳原克紀（教授）賀来敬仁（助教）小佐井康介（助教）臨床感染症学：泉川公一（教授）保健学科：佐藤克也（教授）非常勤講師；国立感染症研究所 宮崎義継（部長）琉球大学 山城 哲（教授）

6. 備考

教員の都合により、講義の入れ替えを行うことがある。実習への出席は白衣着用を条件とする。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
9	23	金	3	感染系ガイダンス	ガイダンス	西田 教行 (感染分子)	1 講
9	23	金	4	ウイルス学	ウイルスと人間社会	西田 教行 (感染分子)	1 講
9	30	金	3	ウイルス学	ウイルスの構造と複製機構・病原性	久保 嘉直 (感染分子)	1 講
9	30	金	4	個別指導	グループワーク (発表準備)	西田 教行 (感染分子)	1 講
10	7	金	3	ウイルス学	ウイルス感染と宿主免疫応答	石橋 大輔 (感染分子)	1 講
10	7	金	4	個別指導	グループワーク	西田 教行 (感染分子)	1 講
10	14	金	3	ウイルス学	出血熱ウイルス (エボラなど)	安田 二郎 (熱研)	1 講
10	14	金	4	個別指導	グループワーク	西田 教行 (感染分子)	1 講
10	21	金	3	ウイルス学	免疫不全を起こすウイルス (HIV)	久保 嘉直 (感染分子)	1 講
10	21	金	4	個別指導	グループワーク	西田 教行 (感染分子)	1 講
10	28	金	3	ウイルス学	肝炎ウイルス (HBVなど)	佐藤 克也 (保健学科)	1 講
10	28	金	4	個別指導	グループワーク	西田 教行 (感染分子)	1 講
11	4	金	3	ウイルス学	脳炎を起こすウイルス (JEVなど)	森田 公一 (熱研)	1 講
11	4	金	4	ウイルス学	肺炎を起こすウイルス (インフルエンザ・SARSなど)	渡辺 健 (リーディング)	1 講
11	11	金	3	ウイルス学	下痢を起こすウイルス感染 (ロタ・ノロなど)	中込 治 (分子疫学)	1 講
11	11	金	4	ウイルス学	腫瘍ウイルス (EBV, HPVなど)	西田 教行 (感染分子)	1 講
11	17	木	3	細菌学総論	細菌の構造と分類	中山 浩次 (歯学部)	1 講
11	24	木	3	細菌学総論	細菌の代謝	中山 浩次 (歯学部)	1 講
11	30	水	1	細菌学総論	細菌の遺伝学	中山 浩次 (歯学部)	1 講
11	30	水	2	ウイルス学	特別講義 マダニ媒介ウイルス	早坂 大輔 (熱研)	1 講
12	1	木	3	細菌学総論	細菌性毒素	小佐井 康介 (検査部)	2 講
12	8	木	3	細菌学各論	嫌気性菌と滅菌	柳原 克紀 (検査部)	1 講
12	15	木	3	細菌学各論	抗酸菌	泉川 公一 (臨床感染症学)	1 講
12	21	水	1	細菌学各論	細菌性下痢	山城 哲 (琉球大学)	1 講
12	21	水	2	細菌学各論	腸内細菌	山城 哲 (琉球大学)	1 講
12	22	木	3	細菌学総論	化学療法と薬剤耐性菌	柳原 克紀 (検査部)	1 講

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
1	4	水	1	中間試験	ウイルス学	西田 教行 (感染分子)	1 講
1	4	水	2	ウイルス学実習	採血	中垣 岳大 (感染分子)	実1
1	5	木	3	細菌学各論	クラミジア	賀来 敬仁 (検査部)	1 講
1	5	木	4	細菌学各論	マイコプラズマ	賀来 敬仁 (検査部)	1 講
1	6	金	3	細菌学各論	真菌 (1)	宮崎 義継 (感染研)	1 講
1	6	金	4	細菌学各論	真菌 (2)	宮崎 義継 (感染研)	1 講
1	11	水	1	原虫学	原虫学総論	金子 修 (熱研)	1 講
1	11	水	2	原虫学	トリパノソーマ	上村 春樹 (熱研)	1 講
1	12	木	3	原虫学	マラリア	矢幡 一英 (熱研)	1 講
1	12	木	4	原虫学	腸管寄生原虫	金子 修 (熱研)	1 講
1	13	金	3	原虫学実習	原虫学実習	金子 修 (熱研)	実2
1	13	金	4	原虫学実習 (予備)	原虫学実習 (予備)	金子 修 (熱研)	実2
1	18	水	1	寄生虫学	寄生虫学総論	濱野 真二郎 (熱研)	1 講
1	18	水	2	寄生虫学	線虫学	濱野 真二郎 (熱研)	1 講
1	18	水	3	細菌学実習	グラム染色と薬剤感受性試験	石橋 大輔 (感染分子)	実1、2
1	18	水	4	細菌学実習	グラム染色と薬剤感受性試験	石橋 大輔 (感染分子)	実1、2
1	19	木	3	細菌学実習	グラム染色と薬剤感受性試験	石橋 大輔 (感染分子)	実1、2
1	19	木	4	細菌学実習	グラム染色と薬剤感受性試験	石橋 大輔 (感染分子)	実1、2
1	20	金	3	寄生虫学	吸虫学・条虫学	濱野 真二郎 (熱研)	1 講
1	20	金	4	寄生虫学	熱帯病としての寄生虫学	濱野 真二郎 (熱研)	1 講
1	25	水	1	寄生虫学実習	寄生虫学実習	濱野 真二郎 (熱研)	実2
1	25	水	2	寄生虫学実習	寄生虫学実習	濱野 真二郎 (熱研)	実2
1	25	水	3	ウイルス学実習	インフルエンザウイルスの定量 (初日)	布施 隆行 (感染分子)	実1、2
1	25	水	4	ウイルス学実習	インフルエンザウイルスの定量 (初日)	布施 隆行 (感染分子)	実1、2
1	26	木	3	熱帯病学	neglected diseases	平山 謙二 (熱研)	1 講
1	26	木	4	病害昆虫学	病害昆虫学	皆川 昇 (熱研)	1 講
1	27	金	3	ウイルス学実習	インフルエンザウイルスの定量 (2日目)	布施 隆行 (感染分子)	実1、2
1	27	金	4		予備日		1 講
2	1	水	1	感染症学 (1)	感染症学の基礎	山本 太郎 (熱研)	1 講
2	1	水	2	感染症学 (2)	国際保健	山本 太郎 (熱研)	1 講
2	1	水	3	ウイルス学	特別講義 スーパーコンピューターと論理的感染創薬	石川 岳志 (リーディング)	1 講
2	1	水	4	ウイルス学	薬害感染症問題	西田 教行 (感染分子)	1 講

免 疫 系

責任者	氏 名	由 井 克 之	内 線	7070
	教 室	免疫学 (免疫学)	e-mail	katsu@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	12:30～13:00		

対象年次・学期	2年・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2
英語名	Immunology		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

ねらい： 免疫系は、ウイルス・細菌・寄生虫など外界の生物や異物の侵入に対して、個体の恒常性維持のために発達した生体系であり、この系を構成する様々な細胞・分子群は、複雑な相互作用を営みながら秩序正しく行動している。この免疫系の成り立ちの基本原則とその破綻の結果生ずる病態の基礎を理解し知識を身につけることが第一目標である。免疫学は実験医学であり個々の原理は実験によって裏付けられている。これらの実験の基本を理解し、医科学の科学的検証法を学ぶことが第二の目標である。

さらに、学生諸君が自ら「なぜ？」との疑問を発生し、医科学における真理の探究とその応用に思いを馳せることを期待する。講義および実習においては、単に事実の羅列や記憶ではなく、その基礎にある科学的思想と実験的検証に対する理解を深め、問題解決能力の養成を重視する。

到達目標：ヒト免疫系の基本的な仕組みと、免疫系に関連して生ずる様々な病態について説明できる。

2. 授業内容（講義・実習項目）

免疫細胞の認識・分化・活性化・エフェクター機能・制御機構を中心に免疫系の基本原則について講義・実習を行う。さらに、外的内的恒常性の変化に対して免疫系がどのように機能するか、またその制御機構の破綻とその病態について講義する。

2. 教科書、参考書等

書 名	著 者	出 版 社	定 価
Janeway's Immunobiology, 9th ed. 免疫生物学 原著第7版	Kenneth Murphy 笹月健彦 (翻訳)	Garland Science 南江堂	10,644円 8,964円
Cellular and Molecular Immunology, 8th ed. 分子細胞免疫学 原著第7版	A. K. Abbas他 松島綱治他 (翻訳)	Saunders エルゼビアジャパン	10,613円 10,548円

4. 成績評価の方法・基準

筆記試験（中間試験10%、本試験90%）。但し、出席・実習レポートも考慮する。

5. 教員名

免疫学：由井克之、都田真奈、木村大輔、Masoud Akbari

リウマチ・膠原病内科学（内科学第一）：川上 純

小児科学：森内浩幸

病院皮膚科：原 肇秀

病院第二外科：日高 匡章

非常勤講師：鶴殿平一郎（岡山大学）、吉開泰信（九州大学）

6. 備考（準備学習等）

教科書等の該当する部分を読むこと。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
9	23	金	2	免疫学入門	免疫系の特徴、免疫細胞と組織	免疫・由井	2講
9	29	木	3	自然免疫	パターン認識受容体	免疫・由井	2講
9	29	木	4	自然免疫	自然免疫応答、サイトカイン	免疫・由井	2講
9	30	金	2	自然免疫	補体	免疫・由井	2講
10	6	木	3	抗原認識	抗体の構造と機能	免疫・由井	2講
10	6	木	4	抗原認識	T細胞の抗原認識	免疫・由井	2講
10	7	金	2	抗原認識	抗原受容体遺伝子	免疫・由井	2講
10	13	木	3	免疫学実習	抗原抗体反応	免疫・木村他	実1
10	13	木	4				実1
10	14	金	2	免疫応答	MHC	免疫・由井	2講
10	20	木	3	免疫学実習	リンパ球の分離と同定	免疫・Akbari他	実2
10	20	木	4				実2
10	21	金	2	免疫応答	T細胞活性化とシグナル伝達	免疫・由井	2講
10	27	木	3	免疫学実習	抗体産生細胞の同定・フローサイトメトリー	免疫・都田他	実2
10	27	木	4				実2
10	28	金	2	免疫応答	T細胞の分化と選択	免疫・由井	2講
11	11	金	2	免疫応答	細胞性免疫応答	免疫・由井	2講
11	17	木	4	免疫応答	液性免疫応答	免疫・由井	2講
11	18	金	2		中間テスト	免疫・由井	2講
11	24	木	4		中間まとめ	免疫・由井	1講
11	25	金	2	免疫応答	免疫寛容と制御	免疫・由井	1講
12	1	木	4	免疫応答	免疫系の細胞動態、スーパー抗原	免疫・由井	2講
12	2	金	2	免疫応答	自然免疫リンパ球	免疫・由井	2講
12	8	木	4	免疫応答	免疫不全	小児科・森内	2講
12	9	金	2	免疫と病気	粘膜免疫他	免疫・由井	2講
12	15	木	4	免疫と病気	自己免疫疾患	内科1・川上	1講
12	16	金	2	免疫と病気	移植	外科2・日高	1講
12	22	木	4	免疫と病気	アレルギー	皮膚科・原	2講
1	6	金	2	免疫と病気	感染免疫と生体防御	非常勤・吉開	1講
1	13	金	2	免疫と病気	腫瘍免疫の最前線	非常勤・鶴殿	2講
1	27	金	1		まとめ	免疫・由井	2講

病理総論系

責任者	氏名	下川 功	内線	7051
	教室	病理学（旧第一病理学）	e-mail	shimo@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月曜日、水曜日の17:00-18:00（電話で所在を確認すること）		

対象年次・学期	2年・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
英語名	General Pathology		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

病理学は疾病（病気）の原因や病態を探究する学問である。病理総論では、まず疾病や病的現象について総体的に把握し理解する。人間に病気を起こす原因（病因）や、それに対する生体の基本的な防御機構や反応を学び、それが組織や臓器にどのような形態的、機能的障害を与えるかを理解する。その上で、関連臓器や人体そのものに与える影響を考えていく。病理学を正しく理解するためには、解剖学、生理学、生化学などの基礎教科の十分な知識が要求される。加えて、医学英語に習熟するために、英語の教科書を用いる。疾患名や重要な用語は、英語、日本語とも覚える。以下に挙げた教科書を原著のまま理解できる程度の能力と知識を到達目標とする。

2. 授業内容（講義・実習項目）

講義項目：講義予定表を参照のこと。

3. 教科書、参考書等

以下のテキストを中心に講義を行う。

書名	著者	出版社	定価
Robbins Basic Pathology 9th edition	Kumar V, et al	Saunders	99.95 US\$

4. 成績評価の方法・基準

病理総論筆記試験を行う。出席状況、レポートの提出の有無を含め、総合的に評価する。感染症、事故等やむをえない事情により定期試験を欠席した場合、追試験を行うことはある。原則として再試験は行わない。

5. 教員名

病理学：下川功、森亮一、林洋子、朴盛浚
非常勤講師：小川 佳宏（東京医科歯科大学）

6. 備考（準備学習等）

授業項目に関連する解剖学、組織学、生理学等の知識を再確認しておくこと。推薦された教科書だけではなく、他の病理学の教科書を読み比べること。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
9	29	木	1	細胞傷害	傷害の原因・機序、傷害の型と形態、適応	病理1・下川	1講
9	29	木	2	炎症	炎症の定義と分類、急性炎症	病理1・森	1講
10	6	木	1	炎症	化学走性因子	病理1・森	1講
10	6	木	2	炎症	慢性炎症、炎症の組織形態		1講
10	13	木	1	組織の修復	再生、創傷治療	病理1・森	1講
10	13	木	2	組織障害、炎症、修復	実習	病理1・下川、森、林、朴	実2
12	15	木	2	腫瘍総論	腫瘍の概念・定義・分類	病理1・森	1講
12	22	木	1	特別講義	代謝のepigenimic memory	東京医科歯科大学・小川	1講
12	22	木	2	腫瘍総論	腫瘍の発育・進展、原因	病理1・森	1講
1	5	木	1	腫瘍各論	上皮性、非上皮性腫瘍	病理1・林	1講
1	5	木	2	腫瘍各論	実習	病理1・下川、森、林、朴	実2
1	12	木	1	循環障害	充血・うっ血、出血・凝固	病理1・下川	1講
1	12	木	2	循環障害	血栓・塞栓・梗塞		1講
1	19	木	1	環境と疾患	物理的、化学的傷害	病理1・森	1講
1	19	木	2	栄養障害	栄養障害による疾患		1講
1	26	木	1	遺伝性疾患	遺伝子、染色体異常	病理1・下川	1講
1	26	木	2	小児の疾患	奇形、発達異常		1講
2	2	木	1	免疫病理	自己免疫疾患、移植の病理	病理1・森	1講
2	2	木	2	老化	老化と病態、その制御因子	病理1・下川	1講
2	2	木	3	感染症	感染症の一般病理学		1講

腫瘍系

責任者	氏名	池田 裕明	内線	7079
	教室	腫瘍医学	e-mail	hikeda@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	9:00-18:00		

対象年次・学期	2年・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1
英語名	The Biology of Cancer		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

本講座は昭和61年、我が国最初の腫瘍医学講座として発足した。

医学教育としては腫瘍に関する基礎科学から臨床腫瘍学までを集中的かつ系統的に担当する。とりわけ、近年急速に発展した癌の発生、進展の機構の分子生物学的知見、診断と治療の技術革新の展開に関する内容を大幅に取り入れ、今日的な腫瘍に対する見方を探り、新たな発展の礎となる教育を目指している。具体的には発がんからがんの進展、浸潤、転移に関するがんの分子生物学とがんの個別性、がんと生体の相互作用、分子標的薬、免疫機能を利用した治療法、遺伝子治療等の新しい治療法の臨床応用を行うトランスレーショナル研究、臨床腫瘍学の入門まで、幅広い学習を目指す。

2. 授業内容（講義・実習項目）

講義

3. 教科書、参考書等

書名	著者	出版社	定価
がんの生物学	R. A. ワインバーグ	南江堂	12000円
PUB Med に無料で公開されている以下の4つの参考書を自在に参照できるようにすること Molecular Cell Biology (4th ed.) Retroviruses Molecular Biology of the Cell (4th ed.) Cancer Medicine (6th ed.)	http://www.ncbi.nlm.nih.gov/books		

4. 成績評価の方法・基準

筆記試験およびレポート（小テスト含む）。レポート又は小テストは毎回の授業の最後に実施し、提出を出席とみなす。出席が2/3に満たなかったものは評価の対象としない。

5. 教員名

腫瘍医学： 池田 裕明
MEDURA： 林 日出喜
病院薬剤部：佐々木 均
臨床腫瘍学：芦澤 和人

フロンティア生命医科学：益谷 美都子
原研内科：今泉 芳孝
島根大学：浦野 健
九州大学：藤田 雅俊

6. 備考（準備学習等）

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

腫瘍系授業予定（2年後期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
10	20	木	1	腫瘍の発生	がんの分子生物学概論	島根大・浦野	1講
10	20	木	2	腫瘍の発生	がん遺伝子・がん抑制遺伝子	島根大・浦野	1講
10	27	木	1	腫瘍の発生	細胞周期と細胞増殖シグナル	九州大・藤田	1講
10	27	木	2	腫瘍の発生	DNA修復異常と発がん	九州大・藤田	1講
11	4	金	1	腫瘍の発生	多段階発がん	MEDURA・林	1講
11	4	金	2	腫瘍の発生	化学発がん	病薬剤・佐々木	1講
11	17	木	1	腫瘍の発生	染色体異常	血液内科・今泉	1講
11	17	木	2	腫瘍の進展	がんと血管新生	MEDURA・林	1講
11	24	木	1	腫瘍の進展	がんとアポトーシス	フロンティア生命医学 ・益谷	1講
11	24	木	2	腫瘍の進展	転移・浸潤・EMT	腫瘍医学・池田	1講
12	1	木	1	腫瘍の進展	がんと炎症	腫瘍医学・池田	2講
12	1	木	2	腫瘍の診断／治療	がん幹細胞／個別化がん治療	腫瘍医学・池田	2講
12	8	木	1	腫瘍の診断／治療	がんと免疫	腫瘍医学・池田	1講
12	8	木	2	腫瘍の診断／治療	がん免疫療法／ トランスレーショナル・リサーチ	腫瘍医学・池田	1講
12	15	木	1	腫瘍の診断／治療	臨床腫瘍学入門	臨床腫瘍学・芦澤	1講

基礎医学 TBL

責任者	氏名	西田 教行	内線	7059
	教室	感染分子解析学	e-mail	noribaci@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	木曜日午後4時30分から6時30分		

対象年次・学期	2年・後期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	1
英語名	Team-based learning (I)		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

実際の症例から問題点を抽出し、学習目標を設定し、自ら学ぶ。すでに学んだ基礎医学全般の知識を使えるものにするために知識の整理を行う。医学的知識を用いて実際の患者の抱える種々の問題を理解し、解決するために医師が取った行動、判断について批判的に学ぶ。必要な情報・知識を収集する能力を高め、実践での知識の応用力を養う。同時に病態の理解を具体例の検討をすることで理解を深め、解剖、生理、生化学、組織学、免疫学、微生物学などの基礎医学的知識と用語の復習と再確認を必要に応じて行う。

2. 授業内容（講義・実習項目）

実際の患者のシナリオを入院まで、入院時、入院後と時系列にて提示し、それぞれを読み解く作業をグループワークとして行う。学習課題については自己学習し、グループ内で情報を共有し、議論を深める。授業で自らの考えを発表し、他のグループと意見交換を行う。議論に積極的に参加し、チームワーク医療における個人の役割を理解する。

3. 教科書、参考書

書名	著者	出版社	定価
ハワイ大学式PBLマニュアル	黒川清監修	羊土社	3999

4. 成績評価の方法・基準

出席状況、セルフポートフォリオ、課題レポートの総合判断で評価する。
レポートは基準に満たない場合、再提出を求めることがある。

5. 教員名

感染免疫学講座 西田教行（教授）、田口 謙（助教）
放射線生命科学講座 永山雄二（教授）
先端医育センター 田中邦彦（准教授）
保健学科 佐藤克也（教授）

6. 備考

7. アクティブラーニング

高次のアクティブラーニング

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
9	28	水	1	ガイダンス	総論 (PBLとTBLとは?)	西田/佐藤/田口	専齋ホール、ボードインホール
9	28	水	2	PBL (シナリオ 1-1)	シナリオ1 (症例1) のシナリオを通してTBLの流れ	西田/佐藤/田口	専齋ホール、ボードインホール
10	5	水	1	PBL (シナリオ 1-2)	シナリオ1-1 についてのグループごとの検討・発表	西田/佐藤/田口	専齋ホール
10	5	水	2	PBL (シナリオ 1-2)	シナリオ 1-2 について問題点の抽出・自習	西田/佐藤/田口	専齋ホール
10	12	水	1	PBL (シナリオ 1-3)	シナリオ1-2 についてのグループごとの検討・発表	西田/佐藤/田口	専齋ホール
10	12	水	2	PBL (シナリオ 1-3)	シナリオ 1-3 について問題点の抽出・自習	西田/佐藤/田口	専齋ホール
10	19	水	1	PBL (シナリオ 1-4)	まとめ、発表、病態まとめ	西田/佐藤/田口	専齋ホール、ボードインホール
10	19	水	2	PBL (シナリオ 1-4)	解説・ロールプレイ	西田/佐藤/田口	専齋ホール、ボードインホール
10	26	水	1	PBL (シナリオ 2-1)	シナリオ 2-1 について問題点の抽出・自習	永山/田中	専齋ホール
10	26	水	2	PBL (シナリオ 2-1)	シナリオ 2-1 についてのグループごとの検討・発表	永山/田中	専齋ホール
11	2	水	1	PBL (シナリオ 2-2)	シナリオ 2-1 についてのグループごとの検討・発表	永山/田中	専齋ホール
11	2	水	2	PBL (シナリオ 2-2)	シナリオ 2-2 について問題点の抽出・自習	永山/田中	専齋ホール
11	9	水	1	PBL (シナリオ 2-3)	シナリオ 2-2 についてのグループごとの検討・発表	永山/田中	4講
11	9	水	2	PBL (シナリオ 2-3)	シナリオ 2-3 について問題点の抽出・自習	永山/田中	4講
11	16	水	1	PBL (シナリオ 2-4)	発表、まとめ、ロールプレイ	永山/田中	専齋ホール、ボードインホール
11	16	水	2	PBL (シナリオ 2-4)	解説	永山/田中	専齋ホール、ボードインホール

プレリサーチセミナー

責任者	氏名	柳原 克紀	内線	7574
	教室	臨床検査医学（病態解析・診断学）	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日の17:00～18:00		
対象年次・学期	1年～3年：通年		講義形態	担当教員が講義形態を決定する。
必修・選択	必修 (研究医枠及び熱帯医学研究医枠)		単位数	各1単位
英語名	Pre research seminar			

1. 授業のねらい・目標

基礎医学を担う研究者の育成により卓越した教育及び研究成果を社会に還元することは医学部の使命である。基礎教室配属による少人数教育により基礎科学に必須の基礎的学力や柔軟な応用力を身につけ、科学的思考により問題を解決できる将来の医療人を養うことを目標とする。

2. 配属教室の選択方法

配属教室は、2年次前期終了後に、科目責任者と相談のうえ、仮配属として決定し、3年次のプレリサーチセミナー及びリサーチセミナーで本配属とする。

また、リサーチセミナーの海外実習については、配属教室と相談のうえ、派遣学生としての応募を可能とする。

3. 配属教室

医学部基礎系、熱帯医学研究所及び原爆後障害医療研究所の各教室

4. 授業内容等

1年次：論文研究（ゼミ形式）と各教室研究内容の紹介セミナー

2年次前期：先導生命科学研究支援センター及び共同利用研究センターにおいて、研究医実習を行う。

2年次後期～3年次：配属教室において、研究テーマ・目標を設定し実験を行う。

5. 成績評価の方法・基準

1年次：出席状況及び課題レポート等により総合判断で評価する。

2年次：出席状況及び課題レポート等により総合判断で評価する。

3年次：配属教室での活動、研究成果に基づき配属先の担当教員が100点満点で評価する。

6. 指導教員など

医学部基礎系教室等の教員

7. 備考（準備学習等）

担当教員が提示する。

8. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

English for International Medicine

Instructors: Luc Loosveldt/Jim Briganti

Class Time : to be decided

E-mail: lluc@nagasaki-u.ac.jp

Office Hours: to be announced in class

Course Objectives	
<p>This course is designed for students interested in careers in international medicine. Focus will be on developing relevant and effective communication techniques, building fluency in spoken and written English, and reinforcing critical thinking skills in English. A range of materials will be introduced to discuss global health issues. Students will be asked to research and introduce their own materials in class to show their understanding.</p>	
Required Textbooks	
<p>A range of materials will be used to introduce global health issues for discussion.</p>	
Topics	
1	First topic - pre-discussion, useful vocabulary and phrases, assignment of group roles
2	Small group discussion of readings - preparation of introductory presentation
3	Short presentations with Q&A
4	In-group review of short presentations + choosing the next topic
5	Small group discussion of readings - preparation of second short presentation
6	Short presentations with Q&A
7	In-group review of short presentations + choosing the next topic
8	Small group discussion of readings - preparation of third short presentation
9	Short presentations with Q&A
10	In-group review of short presentations + choosing the next topic
11	Small group discussion of readings - preparation of fourth short presentation
12	Short presentations with Q&A
13	Choosing the topic for the final presentation, preparing the poster
14	Review of the poster + practice sessions
15	Final poster presentations + evaluations and review of performance
Course work and Evaluation	
<p>Students will be evaluated on the basis of classwork, assignments, group work, group presentation, on-line forum participation, written assignments, and review tests. A detailed breakdown of the evaluation process will be provided in class.</p>	
<p><i>*The above syllabus is meant as a general guide, not a definite time table.</i></p>	

医学ゼミ

責任者	氏名	柳原 克紀	内線	7574
	教室	臨床検査医学（病態解析・診断学）	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日の17:00～18:00		

対象年次・学期	1年：前期、後期 2年：前期、後期 3年：前期 4年：前期	講義形態	担当教員が講義形態を決定する。
必修・選択	必修	単位数	前期、後期各1
英語名	Small group medical seminar		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

必修選択の科目であり、各科目10名前後の少人数教育を行う。自らが特に学習したい分野を選択し、その分野についてコアとなる教科内容を越えて特定の内容を深く掘り下げる学習を行う。当該分野の医学・科学に対する探求心・問題解決能力の育成と、より深い理解を目指す。少人数で担当教員との双方向性の授業を行うことにより教官と親しく交流すると共に、1年次から4年次まで学年間の壁を越えて共に学ぶ環境を提供する。AO学生は、医学ゼミを通して当該領域の知識を深める。

2. 授業科目の選択方法

- 各開講科目について、教育目標、授業内容、担当教員、開講場所、開講時間帯等を公示する。
- 各学年開始前に、前期・後期別に受講希望科目を学務係に提出する（第3希望まで）。
- 第1希望を優先し、各科目へ学生の割り振りを行う。

3. 教科書、参考書等

担当教員が提示する。

4. 成績評価の方法・基準

1、2年次前期・後期、3年次前期、4年次前期に開講する。3年次への進級には2年次で1単位以上、4年次への進級には3年次までに2単位以上、5年次への進級には4年次までに3単位以上修得する必要がある。卒業のための最低修得単位数は3単位である。

5. 指導教員など

医学科、熱帯医学研究所、先導生命科学研究支援センター教員

6. 備考（準備学習等）

担当教員が提示する。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

平成28年度「医学ゼミ」開講テーマ一覧(2年生)

教室	責任者名	ゼミテーマ(サブタイトル)	目的・方針	内容	対象学年 開講時期	開講時間	場所	評価方法	備考
神経形態学 (第一解剖)	森 望	Neuroanatomy of the Mind:心の神経解剖学	神経解剖学、神経生理学の知識をベースに「認知」「意識」「認識」「感性」「行動」「意欲」等の脳内原理を理解する。その上で、「心」がどう生まれ、成長し、円熟するのか、あるいは、ゆらぎ、崩れるのか、自分の頭で考える。脳神経科学、精神医学への橋渡しとする。自らの頭で考え、自らの言葉で語り、自らのスタイルで発表できるようにする。	脳には形があるが、心には形がない。しかし、心は脳内に生まれる。では、脳に心はどう形成されるのか?現代の神経科学、脳科学の知識をベースに、心の形成のナゾへ挑む。	2年後期	金曜日1校時	視聴覚セミナー室3	出席、発表内容、質疑応答、レポート	
肉眼解剖学 (第二解剖)	弦本 敏行	臨床解剖学への招待	様々な疾患の病態・治療を解剖学的側面から理解することにより、それら疾患への理解を深めること	さまざまな臓器に生じる各種の疾患を提示し、それらの発症メカニズムの肉眼的背景について考察する。ゼミは抄読会形式で進行する。解剖学に関連した臨床分野の英語論文を自ら調べた上で読んで理解し、プレゼンテーションする	2年後期	金曜日1校時	ゼミナール室等	出席、発表の評価、質疑応答	
組織解剖 (第三解剖)	小路 武彦	ビデオで学ぶ組織発生	発生学・組織実習で得た知識を深めることを目的とする。	日本語の動画教材を用い、発生学から疾患への理解を深める。各回組織発生に関するDVDを鑑賞の後、グループ討論を行う。	2年前期 3年前期	金曜日1校時	小会議室	出席、レポートを総合的に評価。	
神経生理 (第二生理)	篠原 一之	心の個人差の脳科学	英語論文、原著輪読を通して心の個人差の脳科学基盤について理解を深めるとともに、英語読解・プレゼンテーション能力を養う。	近年、性格をはじめとした心の個人差、及び、社会的コミュニケーション能力障害を呈する発達障害と、脳機能・形態、遺伝子多型、内分泌機能との関わりが明らかになりつつある。そこで、これら心の個人差・発達障害の生物学的基盤に関する最新の研究論文を読み、その内容に関するプレゼンと議論を行う。これらの活動を通して、心の科学に関する理解を深めるとともに、臨床・研究活動に必須の英語読解・プレゼン能力を身につける。	1年後期 2年後期	金曜日1校時	神経機能学教室	レポート、出席、発表内容等を加味して総合的に評価する。	
医科薬理学	有賀 純 中川 慎介 巽 理恵 畑山 実	最新の論文から探る医学 生物学研究の潮流	トップジャーナルに掲載された脳神経、血管、幹細胞に関する論文の学術的背景や意義を理解して、最新の研究動向を把握し、今後の研究戦略を考える。	Nature, Science, Cellなどの国際科学誌の最新号に掲載された文献を毎週1報ずつ紹介する。発表はパワーポイントなどを使用し、論文に記載されている実験内容や結果を解説する形式で行う。なお、論文の選定から読解、発表まで教官がマンツーマンで指導する。期間中に2回の発表を予定している。	2年前期 3年前期 4年前期	金曜日1校時	薬理学教室 セミナー室	出席内容、発表内容を考慮して評価する。	
免疫学	由井 克之	論文から学ぶ免疫学	重要な原著論文に触れることにより、免疫学の方法論とその根底にあるアイデアに対する理解を深め、問題解決能力を滋養する。「免疫学」の授業を履修した4年生を主な対象とするが、意欲ある2年生も歓迎する。	免疫学関連の主要な論文(英文)の抄読会を行う。学生があらかじめ自学した論文の内容を紹介し、それについて全員で議論し、理解を深める。論文の選択、読み方は適宜指導する。	2年前期 3年前期 4年前期	金曜日1校時	免疫学分野 集会室	発表内容、参加態度、レポート、出席を総合的に評価	
感染分子	西田 教行 田口 謙	ケースレポートから学ぶ感染症	原著論文を読むことで、科学的批判力を養う	NEJMのCase reportから感染症の症例を選択的に取り上げ、丁寧に読解を行う。	2年前期 3年前期 4年前期	金曜日1校時	基礎棟8階 集会室	出席およびレポート	
感染分子	石橋 大輔	論文から“生物学的現象” を学ぶ	分子生物学的研究を中心とした論文を理解することで、読解力(著者の考えに対する整合性・論理性)を養う	教官および各自が選んだ感染症を題材とした基礎研究についての論文を題材とし、各自が紹介・説明・発表し、議論・討論を行う。	2年後期	金曜日1校時	基礎棟9階 集会室	出席およびレポート	
公衆衛生	青柳 潔	論文から学ぶ公衆衛生学	文献を通して医学の社会性について学ぶ	公衆衛生学に関連した論文を各自が紹介・発表し、討論する。	2年前期 3年前期 4年前期	金曜日1校時	公衆衛生学 資料室	積極性、レポート	
精神神経科	小澤 寛樹	映画から見る精神医学	具体的にイメージしにくい精神医学の様々な現象、症状、問題に関して映画・テレビなどの映像表現を通じて、人の心に対する理解を深め、自己の考え・感情を論理的・能動的に議論することを目的とする。	精神疾患を取り扱った映像作品を毎回取り上げ鑑賞し、1~2、3人がその疾患に関して事前研究と資料作成、講義当日にプレゼンテーション。また様々なトピックでのディスカッションを実施する事で、能動的な参加姿勢を養う。	2年前期	原則として水曜 17時開始	第3講義室または精神科 外来63番診察室	①出席点50% ②視聴後に行うディスカッションへ参加意欲・各回の提出レポート50%	毎回映画の視聴後にテーマディスカッション、解説講義を21時頃まで行います。期間内で5校時目以降に他科目を受講する必要のある人、その他予定のある人などは、その点留意して下さい。
精神神経科	今村 明	児童思春期の精神医学を 考える	精神医学の世界に於いて児童・思春期の精神医学はその社会的な重要性に比して、専門家が不足している領域である。本ゼミではこの分野を中心に取り上げ、学んでいく。	児童・思春期精神医学についての概要を学んでいく。日本語文献だけでなく、英語文献も含め、正確な知識を学ぶ。映像作品等での視覚的な学習も随時実施する。時間が許せば、課外実習として各種施設などを見学し、実地に学ぶ事も行いたいと考えている。	2年後期	月・水・金曜日 いずれかの18 時以降	精神科外来6	①ゼミへの積極的な参加姿勢や自主性 ②講義終了後に提出してもらった課題の成果以上を総合的に判断する	参加希望者が10名を超過する場合には、希望者への事前課題等で選考を実施する場合もある。また夕方からの実施のため、その時間帯での別の講義や私的予定など、受講にあたっては十分考慮すること。

教室	責任者名	ゼミテーマ(サブタイトル)	目的・方針	内容	対象学年 開講時期	開講時間	場所	評価方法	備考
精神神経科	黒滝 直弘	パトグラフィーと司法精神医学を究める	パトグラフィー(病跡学)とは、過去の偉人等を対象に精神医学・心理学等の視点からその生涯での疾病の意義を分析する。この手法は司法精神医学等にも応用される。本ゼミではこれを学ぶ。	パトグラフィーについて、まず基礎的な知識を学ぶ。その上で参加者一人(又はグループ)毎に、実際に特定の人物(過去だけでなく現代人や事件等も含め)を対象にして、パトグラフィーによる分析を実習する。映像作品等での視覚的な学習も随時実施する。	2年前期 3年前期 4年前期	月曜日又は水曜日18時以降	精神科外来 62番診察室	①ゼミへの積極的な参加姿勢や自主性 ②講義終了後に提出してもらう課題の成果以上を総合的に判断する	参加希望者が10名を超過する場合には、希望者への事前課題等で選考を実施する場合もある。また夕方からの実施のため、その時間帯での別の講義や私的予定など、受講にあたっては十分考慮すること。
精神神経科	木下 裕久	リエゾン症例から学ぶ臨床精神医学(基礎編)	総合病院の一般病棟で遭遇しやすい(する可能性のある)精神障害の症例を題材として、リエゾン精神医学の基本的な考え方を診断から治療にいたる経過を通して学べるような講義とする。	評価ツールの使い方を入れながら、低学年でも興味を持っていただけるような内容にしたいと考える。	2年後期	原則として木曜日19時開始	精神科医局	①ゼミへの積極的な参加姿勢や自主性 ②講義終了後に提出してもらう課題の成果以上を総合的に判断する	参加希望者が11名を超過する場合には、希望者への事前課題等で選考を実施する場合もある。また夕方からの実施のため、その時間帯での別の講義や私的予定など、受講にあたっては十分考慮すること。
小児科	中嶋 有美子	小児在宅医療とは(家に帰るとのこと)	医療の進歩により救命できるお子さんが増えた一方、その後の長期入院により親子家族の絆がほぐれやすくなることがある。命を救うだけではなく、これからは家族が自宅でケアをする在宅医療へ向けての取り組みが重要となってきている。「生きる」ということはどのようなことを在宅医療を通して考える機会にして欲しい。	在宅医療とはどのような症例が対象となるのか、どのような人々が関わるか、どのような制度があるか、何が必要かを知った上で、そこにある問題点や現実を見つけて改善できることがないかを考えてもらいます。	2年後期	木曜日 17:00~	10階小児科医局カンファランス室	レポート提出	
移植・消化器外科 (第二外科)	江口 晋	Nagasaki Surgical Club 一外科の歴史から手術理論、手術手技、さらには国試対策まで	外科の入門編から実技さらには国試対策まで幅広く、週替りの講師陣による座談会形式のゼミです。外科実技や英会話も取り入れ、実践的な能力アップも図りたいと思います。	科の歴史まで) 2. 外科の基本手技(縫合、鏡視下手術実技などの実技を含みます) 3. 診察、学会発表に役立つ英会話 4. 外科におけるEBM(論文の見方、読み方教えます) 5. 消化管外科の温故知新:ピルロートって知ってる? 6. 国試に出る外科学(2年生にも分かり易く解説します) 7. 移植についてともに語ろう 8. 乳腺外科のトピックス 9. 小児外科医が未来の子供に出来ること 10. 未来の外科学(ロボット手術、再生医療) 11. 先輩外科医から聞く深い話(座談会形式で熱く語り合います)	2年前期 3年前期 4年前期	金曜日 16:30~17:30	移植・消化器外科医局(第二カンファランス室):医局受付で問い合わせてください。	出席を重要視する。ディスカッション内容。フリートーク形式です。レポート・試験などはありません。	*講義内容、順番は予定であり若干の変更があり得ます。 *学会などにより開催されない場合がありますので、開講日にはご注意ください。 *欠席する場合は、医局まで連絡ください。 *時間帯が合わない場合は、申し出て下さい。
泌尿器科	宮田 康好	マンガで学ぶ“泌尿器科ってなんだ?”	本ゼミを初歩の泌尿器科学入門と位置づけ、マンガという身近な教材を用いて泌尿器科学の受け持つ領域と特徴を知り、さらに発展させて現代医学・医療の基本部分の理解へもつなげていく。	泌尿生殖器の解剖、機能および疾患の特徴などを直観的に捉えられるように、主にマンガを用いて、学生自身が司会進行する形で発表を行う。これに適宜教官からの補足をを行う。また、その発表を通じて簡単なプレゼンテーションスキルやアイデア抽出法についても学ぶ。	2年前期 3年前期 4年前期	金曜日1校時	泌尿器科医局	出席率、発表および討論への参加態度。	
眼科	Masafumi Uematsu, Yasser Helmy Mohamed (上松聖典、ヤッセルヘルミーモハメド)	Eye: visual sensory organ	To improve English skill and knowledge of eye diseases	Discussion about eye diseases by using audiovisual materials, etc.	2年前期 3年前期 4年前期	月曜日17:00-18:30	眼科医局	出席、態度、レポートなどにより総合的に評価する	
産科婦人科	増崎 英明 (北島 道夫)	女性の健康について考える	産婦人科の最新の知見について、教員とのディスカッションを通じて理解を深める	論文抄読、トピックスセミナー、症例検討、講演会	2年前期 3年前期 4年前期	水曜日18:30~	病院11階産婦人科医局ゼミナール室	レポート提出	
病理診断科学	古里 文吾	形態から見る「癌って?」	組織を見て癌に起こっている生物学を考えるブレインストーム	がん細胞は本当にモノクローナルなのか?浸潤とは何か?癌が惹き起こす周囲の環境の変化はどう考えるのか?なぜ癌はCR1にならないのか? などについて、病理学的にアプローチし、ディスカッションを行う。	2年後期	金曜日1校時	病理診断科医局(歯学部C棟)	ディスカッションの能力と理解度	
救命救急センター	田崎 修	救急医療を体験しよう	救急医療は拙速であってはならない。本ゼミにおいては、限られた時間の中で論理的に思考し、救急疾患の診断と治療を進める救急医療の醍醐味を体験する。	臓器や診療科の枠を超えて、「救急的」診療法を学ぶ。また、蘇生、診断、災害への対応、緊急の手技、集中治療等、救急医療で必要となる技術をシミュレーションで体験する。	2年前期 3年前期 4年前期	金曜日1校時	大学病院救命救急センターに集合	出席や授業態度で評価する。	
臨床感染症学・感染制御教育センター	泉川 公一	世界の感染症は制圧できるか?	Ebola出血熱や薬剤耐性微生物の脅威に対して人類はどのように対応しているかを学ぶ。生き物vs生き物の独特な医療においてヒトが勝者になれるか、その可能性を探る。	日本のみならず世界各地で発生している様々な感染症について、その診断、治療ならびに先端的な研究について学び、ヒトが微生物をどのように攻略していくのかそのプロセスを学び、臨床と基礎のbridgingとは何かを習得する。	2年前期 3年前期 4年前期	月曜日5校時	長崎大学病院	出席状況、発表などの総合評価	
地域医療学	前田 隆浩	地域医療学入門	地域医療の現状について、自ら調べ、現場のプロフェッショナルから話を聞き、地域医療を理解する。	・地域医療に関する論文(邦文・欧文)や記事、教科書、書籍を集めまとめる。 ・WS形式で知識を共有し理解を深める。 ・実際に地域医療の現場のプロフェッショナルに話を聞く。 ・現在の地域医療について把握し、地域医療の今後について考える。 ・月に一回程度行われる、地域医療の現場で働く人を招いて行う研究会に出席する。	1年前期 2年前期 3年前期 4年前期	・金曜日1校時(7回程度) ・月一回程度18時~20時30分(地域医療研究会・曜日不定)(4回程度) 上記2つ全てに出席が必要でず。	地域医療学分野セミナー室(医学部基礎棟5階)ボンベ会館(予定)	出席とレポートとゼミ受講態度	

教室	責任者名	ゼミテーマ(サブタイトル)	目的・方針	内容	対象学年 開講時期	開講時間	場所	評価方法	備考
地域医療学	前田 隆浩	しまで学ぶ地域医療集中ゼミ	島嶼部における地域医療の現場を体験し、地域における保健・医療・福祉の役割と機能、そして地域包括ケアについての基礎を理解する。	坂本キャンパスで実施される地域医療研究会で地域医療への知識と理解を深める。そのうえで五島市で行われる集中合宿(2泊3日)に参加し、講義・ワークショップ・施設訪問など現場の地域医療を体験してより理解を深める。	1年前期 2年前期 3年前期	地域医療研究会(未定・2か月に1回開催予定) 長崎地域医療セミナー in GOTO 8月19日(金)～8月21日(日)	地域医療研究会(坂本キャンパス) 長崎地域医療セミナー in GOTO(長崎県五島市)	出席・発表・レポート	地域医療研究会および長崎地域医療セミナー in GOTOの両方への参加が必須です。地域枠入学生を主な対象としますが、地域医療に関心のある地域枠でない学生さんの受講も可です。 ※地域医療セミナー期間中の食費については5000円/人を予定しています。
地域包括ケア教育センター	永田 康浩	医師になるってどんなこと?—包括医療事始め—	医師として患者治療の意義を知り、これに関わる医療資源と社会資源について認識させる。	最先端医療のゴールは患者さんの社会復帰である。疾病を患った患者さんが、医療機関で治療を受け、社会に復帰するまでに、どれだけの医療資源、社会資源を要するかを認識し、理解する。これに関わる、基礎医学、臨床医学、社会医学について考察する。診療の基本手技を学びながら、在宅医療の現場を体験する。	2年後期	金曜日1校時	医学部基礎棟教育カンファレンス室	出席態度およびレポート内容	
地域包括ケア教育センター	松坂 雄亮	精神科医と学ぶ総合診療への道	人体の基礎知識と疾患の成り立ちを中心に網羅的に復習し、症例を題材とした学習を通して診断から治療への流れを感覚として身に着ける。精神科医という職種「その道のプロではない者」とともに行うことで、これからの臨床実習・初期研修で習得すべきエッセンスを見出す機会とする。	1回の授業で1つの症例をテーマにする。ロールプレイ形式で医療面接の練習を行い、症例に関する基礎医学的、病理学的な知識を復習する。また、診断に至る過程と基本的な治療法も学び、1つの疾患を時系列的なストーリーとして把握することで、実臨床に近い形で知識を習得する。毎回異なる臓器の異なる病態について学び、ゼミ全体として総合診療的な能力を身に着ける。	2年後期	金曜日 17:00-18:30	精神科医局	ゼミへの積極的な参加姿勢や取り組み状況を総合的に評価する	
原研国際	高村 昇	国際保健入門(2)	一年時に引き続き、推薦入学国際枠で入学した学生を中心に、世界を目指す医師・医学者を養成する目的で、国際保健に関する成書の輪読会を行い、あわせて国際保健に関する概説を行う。勿論、一般入試での学生も歓迎する。	「Textbook of International Health」をはじめとする国際保健関連の英文資料を輪読することで国際保健、国際医療の実践についてより深い理解を得る。	2年後期	月曜日5校時	原研棟3階コミュニティセンター	出席状況、ゼミにおける発表内容等を考慮して評価する。	
探索病理(病理1)	下川 功林 洋子	楽しい病理学; 剖検例の検討	解剖症例を通して、主要な疾患の臨床所見、病態、および死因を考察する。	解剖症例の臨床的および病理組織学的検討。	2年前期 3年前期 4年前期	金曜日1校時	第一病理医局図書室	出欠、参加態度、発表を総合的に評価する。	
へき地病院再生支援・教育機構	調 漸 中桶 了太	離島・へき地医療の達人から学ぶ	へき地や離島医療の現状を学び、これからの地域医療や我が国のこれからの医療について考える	離島・へき地の第一線で活躍する多職種によるを双方向性の講義を中心とする。地域医療に密接に関係する家庭医や、病院総合医、プライマドクターとして活躍する医師のほか行政や地域の保健師も講師として招き、「地域医療」という漠然としたイメージをリアルなものとして認識する。ゼミの後半では平戸市民病院で複合宿や、実際にへき地や離島医療を体験する離島ツアーも2泊3日程度で開催する予定である。地域枠学生に限らず、幅広い学生の参加を歓迎する。	1年前期 2年後期 3年前期 4年前期	金曜日 18:00～19:30	医学部基礎棟 1階 視聴覚教室1	出席、講義のレポート、最終日に実施する地域医療に関するプレゼンテーション等で総合的に判定する。 1年次に関しては地域医療合宿での地域医療実習への出席を必須とする。	地域医療、へき地・離島医療に関心のある一般枠の学生の受講も歓迎する。
先端体育センター	安武 亨	スポーツ医学概論	スポーツを通じて医学を学ぶ	運動生理学・スポーツ栄養学など	2年後期 3年前期	火曜日または木曜日16:30から	医学部セミナー室2など	授業参加状況、レポートなど	体育会系部活に所属する人、スポーツに興味がある人、グループ討議が出来る人を募ります。

English Foundation Skills for Second Year Medical Students

Instructors: Luc Loosveldt
Jim Briganti

Class Time : to be decided

E-mail: lluc@nagasaki-u.ac.jp

Office Hours: to be announced in class

Course Objectives	
<p>This is a continuation of the previous year's English for Medical Students. The course will build on the foundation laid in the previous course, but with a focus on developing oral skills. Group and pair presentations, discussion, debate practice, and professional email writing protocol will be some of the activities students will be required to actively participate in to successfully complete the course</p>	
Required Textbooks	
<ul style="list-style-type: none"> • Readings to be assigned in class. 	
Topics	
1	Introduction and overview of the course, introduction to the Pecha-Kucha (PK) presentation
2	Introducing and discussion of topics for first group presentation/discussion+ building your Pecha-Kucha (PK); introduction of the rubric
3	Discussion and listening practice; email writing protocol
4	Reviewing the PK scripts; PK practice; using the rubric to review PK performance
5	First PK sessions
6	More email writing tips; reviewing PK sessions
7	First poster session practice + script review
8	First poster session
9	Topics for second group presentation; preparing spoken summaries; more email writing tips
10	Introducing the presentation topics for peer evaluation
11	Reviewing the PK scripts; body language and intonation to convey meaning
12	Second PK sessions
13	discussion and review of second script + introduction on how to make a poster
14	Second poster session practice + script review
15	Final Poster Sessions + evaluations
Course work and Evaluation	
<p>Students will be evaluated on the basis of classwork, assignments, vocabulary quizzes, group project, written work. A detailed breakdown of the evaluation process will be provided in class.</p>	
<p><i>*The above syllabus is meant as a general guide,, not a definite time table.</i></p>	

医と社会Ⅲ

前期

責任者	氏名	安武 亨	内線	7987
	教室	先端医育センター	e-mail	toru@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16時30分～17時30分		

対象年次・学期	3年・通年（前期）	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2.5
英語名	Medical ethics and philosophy		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

患者の立場に立った医療を行える医師を目指すために、診療所の体験を通して、患者との良好なコミュニケーションのとり方、患者の診察法、チーム医療の重要性を理解する。また病気に苦しんでいる人と接する際の医学生としての基本的マナーや心構えおよび対応の仕方などを学ぶ。

同時に診察、介護などの体験実習を通して、診察や介護面で出てきた問題点を抽出し、自己による問題解決能力を身につける能動学習法を実践する。また、前学年に引き続き地域包括ケアシステムの理解をさらに深め、診療器具を実際に操作する中で、診療の心得を習得する。また、ワークライフバランスについて、仕事と生活の相乗効果を高める考え方を学ぶ。

2. 授業内容（講義・実習項目）

1) 実習

(1) 診療所体験実習 (2) 診療の心得

2) 講義(実習も含む)内容

- (1) 患者とのコミュニケーション（模擬患者）
- (2) 患者診察入門
- (3) 介護・介助
- (4) 多職種間医療連携
- (5) 地域医療
- (6) ワークライフバランス
- (7) 地域包括ケアシステム

3) 体験討論・レポート作成

診療所等の体験について討論し、レポートを作成する。

3. 教科書、参考書等

適宜プリントを配付する。

4. 成績評価の方法・基準

実習状況、出欠状況などを総合して評価する。講義・実習には全て出席すること。授業回数の3分の1を超えて欠席した者は失格とする。

5. 教員名

メディカルワークライフバランスセンター：伊東 昌子

榑木晶子（九州大学大学院医学研究院保健学部門）

保健学科：井口 茂

歯学部：藤原 卓

周術期口腔管理センター：梅田 正博

摂食嚥下リハビリテーションセンター：三串 伸哉

薬学部：中嶋 幹郎

歯学部：吉村 篤利

先端医育センター：安武 亨、田中 邦彦、江川 亜希子

地域包括ケア教育センター：永田 康浩、久芳 さやか、西野 文子、松坂 雄亮、
濱口 由子

消化器内科：中尾一彦、竹島史直

地域医療学：前田隆浩、門田耕一郎

6. 備考

学外実習については、オリエンテーションを行うので実施要項に従う。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

後期

責任者	氏名	安武 亨	内線	7987
	教室	先端医育センター	e-mail	toru@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16時30分～17時30分		

対象年次・学期	3年・通年（後期）	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2.5
英語名	Medical ethics and philosophy		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

これまで医と社会では、「病気を診るだけでなく病める人の心とおかれている社会・環境を洞察しうる医師となる」ことなどをめざして、主として医療従事者から見た講義・実習が行われてきた。一方、我々がおかれている現代社会において、「何が正義か?」、「何に価値をおくべきか?」、「倫理観とはどうあるべきか?」、といった根本的な哲学については、病気の診断・治療などの現場の対応に追われていると、社会背景を考慮しているようでも、しだいに見えなくなってゆくものがある。3年生後期の医と社会では、医療職でない立場の人から見た場合の、それら哲学・倫理・社会観を紹介していただき、そこで提起される問題について、学生の皆さんと一緒に考えてもらうことをひとつの目標とする。また、これまでなかなか触れる機会の少なかった歯学系分野についても学んでいく。

2. 授業内容（講義・実習項目）

本年度は、医療倫理分野、歯学系分野、薬害問題、国家行政等幅広い分野についてのお話を聞き、医療をより様々な面より考える。

3. 教科書、参考書等

適宜プリントを配付する。

4. 成績評価の方法・基準

出席状況などを総合して評価する。講義には全て出席すること。授業回数の3分の1を超えて欠席した者は失格とする。

5. 教員名

秋葉 悦子（富山大学経済学部）
間宮 清（いしずえの会）
貝沼 茂三郎（九州大学大学院医学研究院地域医療教育ユニット）
坂上 祐樹（宮崎市健康管理部）
秋野 公造（参議院議員）
藤原 卓（歯学部）
中山 鋼（研究高度化支援室）
裴英洙（ハイズ株式会社代表取締役社長）
中富 克己（第二内科）

6. 備考

10/7、10/14、10/21は 歯学部（5年次）との共修である。

H28年度3年生

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	7	木	3	地域包括	地域包括ケアにおける医療の役割	地域包括ケア教育センター：永田 康浩 保健学科：井口 茂	4講
4	7	木	4		リハビリテーション総論		4講
4	14	木	3	医育センター	う蝕（むし歯）について	歯学部：藤原 卓	4講
4	14	木	4	医育センター	行動科学	医育センター：安武 亨	4講
4	21	木	3	地域包括	口腔ケアに関する授業	地域包括ケア教育センター：永田 康浩 周術期口腔ケアセンター：梅田 正博	4講
4	21	木	4		摂食嚥下リハビリに関して		地域包括ケア教育センター：永田 康浩 摂食嚥下リハビリテーションセンター：三串 伸哉
4	28	木	3	地域包括	地域包括ケアにおける薬剤師の役割	薬学部：中嶋 幹郎 地域包括ケア教育センター：永田 康浩	4講
4	28	木	4		医療と栄養		4講
5	25	水	3	オリエンテーション	学外体験実習について	地域包括ケア教育センター	4講
5	25	水	4		未定		4講
6	3	金	3	Early Exposure	診療所（1）	診療の心得	地域包括ケア教育センター
6	3	金	4				地域包括ケア教育センター
6	10	金	3	Early Exposure	診療所（2）	診療の心得	地域包括ケア教育センター
6	10	金	4				地域包括ケア教育センター
6	17	金	3	Early Exposure	診療の心得	診療所（1）	地域包括ケア教育センター
6	17	金	4				地域包括ケア教育センター
6	24	金	3	Early Exposure	診療の心得	診療所（2）	地域包括ケア教育センター
6	24	金	4				地域包括ケア教育センター
6	28	火	3	医育センター	歯周病について	歯周病学分野：吉村 篤利	1講
6	28	火	4	医育センター	矯正医療について	福岡矯正管区	1講
7	4	月	1	ワークライフバランス	医師にとってのワークライフバランス	伊東 昌子	4講
7	4	月	2		PBL グループ討論	伊東 昌子	4講
7	4	月	3		グループ発表・全体討論	伊東 昌子	4講
7	4	月	4		キャリア講習	伊東 昌子、 外部講師：樗木 晶子	4講
7	13	水	1	Early Exposure	実習のフィードバック・まとめ	地域包括ケア教育センター	4講
7	13	水	2				4講

医と社会授業予定(3年後期)

10	7	金	3	医療安全や医療の質管理		歯学部：藤原 卓	4講	↑ 歯学部と共修 ↓
10	7	金	4	国家行政での業務について		研究高度化支援室（MEDURA）： 中山 鋼	4講	
10	14	金	3	未定			4講	
10	14	金	4	終末期医療における倫理と法 — 医師の職業倫理に立脚した法の形成に向けて —		富山大学：秋葉 悦子	4講	
10	21	金	3	薬害問題(市販薬の薬害/サリドマイド)		間宮 清	4講	
10	21	金	4	日常診療の臨床倫理		第二内科：中富 克己	4講	
10	28	金	3	地域医療	我が国の医療・介護制度について	宮崎市健康管理部 坂上 祐樹	4講	
10	28	金	4		地域医療	参議院議員 秋野 公造	4講	
11	4	金	3	漢方について		貝沼 茂三郎	4講	
11	4	金	4	病院経営について		ハイズ株式会社代表取締役 社長：斐英洙	4講	

環境因子系

責任者	氏名	工藤 崇	内線	7101
	教室	原研放射（アイソトープ診断治療学）	e-mail	tkudo123@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16:30～17:30		

対象年次・学期	3年・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1
英語名	Environmental Science		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

生活環境には電離放射線や紫外線が存在し、特に電離放射線は医療や研究に利用されている。これらの放射線の性質・作用および医療における利用法を学び、放射線に関する基礎知識を身につける。さらには、放射線・紫外線の健康影響を自分で調査・評価できる技術を習得する。

2. 授業内容（講義・実習項目）

放射線・紫外線の性質・作用・健康リスクを分子レベルから組織レベル、個体レベルにいたる多方面から幅広く解説する。また、長崎原爆や福島原発事故の話題も交えながら放射線防護、疫学について解説する。

実習では、放射線の測定および被ばくによる健康リスク評価を体験し、技術を習得する。

3. 教科書、参考書等

書名	著者	出版社	定価
放射線基礎医学	青山 喬 編纂	金芳堂	5,900 円

この他に、各自で授業に関連した興味深い本を探してください。

4. 成績評価の方法・基準

期末試験：80%

授業への取り組み：20%

5. 教員名

原研放射：工藤 崇、井原 誠、西 弘大

原研医療：鈴木啓司

原研情報：三根真理子、近藤久義

原研アイソ：松田尚樹、山内基弘

6. 備考（準備学習等）

LACSに講義資料を掲示するので、予習しておくこと。

実習に欠席しなければならない場合は、あらかじめ届けるか、連絡すること。

7. アクティブラーニング

小テスト、実習レポートをLACSで行い、授業への取り組みを評価する。

環境因子系授業予定(3年前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	5	火	3	放射線物理学	放射能・放射線の基礎物理学	西	2講
4	5	火	4	放射線生物学 (1)	放射線生物作用	井原	2講
4	12	火	3	放射線生物学 (2)	DNA損傷修復と放射線分子細胞応答	鈴木	2講
4	12	火	4	放射線生物学 (3)	放射線による細胞死誘導と組織反応	鈴木	2講
4	19	火	3	放射線生物学 (4)	個体レベルの放射線影響とがんの放射線治療	山内	2講
4	19	火	4	放射線生物学 (5)	集団レベルの放射線影響	山内	2講
4	26	火	3	放射線防護学	放射線防護のための規制科学と福島原発事故	松田	2講
4	26	火	4	非電離放射線	太陽紫外線による健康影響	松田	2講
5	10	火	3	原爆放射線の影響	長崎原爆と医科大学	三根	2講
5	10	火	4	放射線影響の解析	統計・疫学的解析	近藤	2講
5	24	火	3	放射線の利用	医療における放射線利用と放射線防護の基礎	工藤	2講
5	24	火	4	放射線計測学	放射線計測の基礎	西	2講
5	31	火	3	実習	放射線被ばくによる健康リスク解析実習	原研放射アイソトープ実験施設	RI実験施設
5	31	火	4		データ解析	原研情報	CBT室
6	7	火	3	実習	放射線被ばくによる健康リスク解析実習	原研放射アイソトープ実験施設	RI実験施設
6	7	火	4		データ解析	原研情報	CBT室
6	14	火	3	実習	放射線被ばくによる健康リスク解析実習	原研放射アイソトープ実験施設	RI実験施設
6	14	火	4		データ解析	原研情報	CBT室
6	21	火	3	実習	放射線被ばくによる健康リスク解析実習	原研放射アイソトープ実験施設	RI実験施設
6	21	火	4		データ解析	原研情報	CBT室

薬 理 系

責任者	氏 名	有賀 純	内 線	7043
	教 室	医科薬理学	e-mail	aruga@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	水曜日17:00 - 18:30		

対象年次・学期	3年・通年	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2.5
英語名	Medical Pharmacology		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

ねらい：薬理学は薬と生体の相互作用について研究する科学である。薬理学は疾患の治療体系の構築に密接に関わると同時に、解剖学、生理学、生化学、化学、情報科学などさまざまな周辺科学の進展に支えられ、貢献してきた。したがって、薬理学の講義・実習においては、薬についての知識を既習の臨床・基礎医学についての知識・経験に関連づけ、柔軟に応用が可能な知識体系を各自が構築することが求められる。講義においては、自ら問題点を見だし、解決していく能力を養うことを重視する。新薬の利害得失を勘案し、安全で最適な薬物療法を考える能力をもつ医師や研究者の育成を目的とする。

到達目標： 生体と薬物の相互作用について系統的に説明できる。

薬物の起源と性質、薬物開発の戦略について説明できる。

適切に取り扱いのもとに動物実験を行い、結果を評価することができる。

2. 授業内容（講義・実習項目）

薬理学総論、及び臓器機能別薬物の作用機序並びに各病態における薬物応用理論、さらに医薬品創薬について講ずる。一部項目については実習を課す。

3. 教科書・参考書等

書 名	著 者	出版社	定 価
薬がみえる (vol. 1-4)	医療情報科学研究所	メディックメディア	3,600円/vol
NEW 薬理学 (第6版)	編者：田中千賀子、加藤隆一	南江堂	9,240円
Lippincott's Illustrated Reviews: Pharmacology (6 th Ed)	編者：R. A. Harvey	Wolters Kluwer	7,645円
ハーバード大学講義テキスト：臨床薬理学 (原書3版)	編者：D. E. Golan 監訳：渡邊 裕司	丸 善	14,580円
Goodman & Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics (12 th Ed)	編者：L. L. Brunton	McGraw-Hill	20,385円

4. 成績評価の方法・基準

試験は筆答形式で行い、実習レポート、課題レポート、授業内試験の評価を加えて総合的に評価する。100点満点中、60点以上の得点をもって合格とする。薬理学実習は、薬理学筆答試験受験のために必修である。実習を行い、実習レポートをすべて提出し、受理された者のみが、薬理学筆答試験を受験する資格を有する。

5. 教員名

医科薬理学：有賀純、中川慎介、巽理恵、畑山実

薬学部薬物治療学：塚元和弘

6. 備考（準備学習等）

教科書・参考書などで予習し、かつ適応となる疾患の理解をしておくこと。

実習前には、配布される実習テキストを読んで予習しておくこと。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

薬理系授業予定（3年前期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	6	水	3	総論・薬理学総論1	総論	薬理・有賀	2講
4	7	木	1	総論・薬理学総論2	薬物受容体と細胞内情報伝達系	薬理・有賀	2講
4	7	木	2	総論・生理活性物質	カテコールアミン	薬理・有賀	2講
4	13	水	3	総論・末梢神経作用薬1	アドレナリン作用薬	薬理・有賀	2講
4	14	木	1	総論・末梢神経作用薬2	抗アドレナリン薬	薬理・有賀	2講
4	14	木	2	総論・生理活性物質	アセチルコリン	薬理・有賀	2講
4	20	水	3	総論・末梢神経作用薬3	コリン薬・抗コリン薬	薬理・有賀	2講
4	21	木	1	循環薬理1	降圧薬	薬理・中川	2講
4	21	木	2	循環薬理2	虚血性心疾患治療薬	薬理・中川	2講
4	27	水	3	循環薬理3	心不全治療薬	薬理・中川	2講
4	28	木	1	循環薬理4	利尿薬	薬理・中川	2講
4	28	木	2	循環薬理5	抗不整脈薬	薬理・中川	2講
5	11	水	3	総論・生理活性物質	ペプチド	薬理・中川	2講
5	12	木	1	総論・生理活性物質	セロトニン・ヒスタミン	薬理・中川	2講
5	12	木	2	総論・生理活性物質	アミノ酸	薬理・中川	2講
5	19	木	1	総論・末梢神経作用薬4	自律神経作用薬・神経筋作用薬	薬理・有賀	2講
5	19	木	2	総論・末梢神経作用薬5	局所麻酔薬	薬理・有賀	2講
5	26	木	1	総論・生理活性物質	エイコサノイド・サイトカイン	薬理・有賀	2講
5	26	木	2	総論・炎症免疫薬理学	鎮痛薬・解熱薬	薬理・有賀	2講
6	2	木	1	総論・炎症免疫薬理学	抗炎症薬・副腎皮質ステロイド	薬理・有賀	2講
6	2	木	2	総論・薬物動態	薬物代謝・薬物相互作用	薬理・有賀	2講
6	9	木	1	呼吸器	呼吸器作用薬	薬理・巽	3講
6	9	木	2	消化器	消化器疾患治療薬	薬理・巽	3講
6	16	木	1	総論・感染症	抗菌薬	薬理・有賀	2講
6	16	木	2	総論・感染症	抗真菌薬・抗ウイルス薬	薬理・有賀	2講
6	23	木	1	総論・腫瘍薬理学	抗腫瘍薬	薬理・畑山	3講
6	23	木	2	総論・腫瘍薬理学	抗腫瘍性分子標的薬	薬理・畑山	3講
6	30	木	3	総論・薬物治療学	薬剤感受性遺伝子と抗腫瘍薬の薬剤耐性	薬学部・塚元	2講
6	30	木	4	総論・創薬	臨床試験・実験動物の取り扱い	薬理・有賀	2講
7	11	月	3	薬理学実習1	1) 血圧に作用する薬物 2) 腸管に作用する薬物	薬理学教員	実1、セミナー 3・4・5
7	11	月	4	薬理学実習1	3) 中枢神経系に作用する薬物 4) カフェインの作用	薬理学教員	実1、セミナー 3・4・5
7	13	水	3	薬理学実習2	1) 血圧に作用する薬物 2) 腸管に作用する薬物	薬理学教員	実1、セミナー 3・4・5
7	13	水	4	薬理学実習2	3) 中枢神経系に作用する薬物 4) カフェインの作用	薬理学教員	実1、セミナー 3・4・5

薬理系授業予定（3年前期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
7	19	火	3	薬理学実習3	1) 血圧に作用する薬物 2) 腸管に作用する薬物	薬理学教員	実1、セミナー 3・4・5
7	19	火	4	薬理学実習3	3) 中枢神経系に作用する薬物 4) カフェインの作用	薬理学教員	実1、セミナー 3・4・5
7	20	水	3	薬理学実習4	1) 血圧に作用する薬物 2) 腸管に作用する薬物	薬理学教員	実1、セミナー 3・4・5
7	20	水	4	薬理学実習4	3) 中枢神経系に作用する薬物 4) カフェインの作用	薬理学教員	実1、セミナー 3・4・5

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
11	11	金	1	内分泌代謝	糖尿病薬	薬理・有賀	3講
11	11	金	2	内分泌代謝	高脂血症・痛風治療薬	薬理・有賀	3講
11	25	金	1	内分泌代謝	内分泌代謝疾患治療薬	薬理・中川	3講
11	25	金	2	血液リンパ	抗凝固抗血小板薬	薬理・中川	3講

病 理 各 論 系

責任者	氏名	福岡 順也	内線	7055
	教室	病理学 (病理二)	e-mail	fukuokaj@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	9:00-17:00 事前予約してください。		

対象年次・学期	3年・通年	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	4
英語名	Organ Pathology		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

病理診断は、臨床において疾患の最終診断を決定する、重要な診断部門を担う。病理総論では、生体の基本的な防御機構や反応、及び組織の病変形成機序について学んだ。病理各論は病理疾病論と病理診断学の2つに分かれる。病理疾病論として各臓器における代表的な疾患の病理学的概念を学び、病理診断学においては、臨床に則した病理診断のポイント、鑑別疾患について学ぶ。各論を通じて具体的な疾患の病理組織変化を自らの目で確かめ、代表疾患の病理診断を行う事が出来、各疾患の持つ特徴的病変が臨床へどのように反映されるかを学び、更に治療の効果やその影響を理解する上で重要な病理学的知識を習得する。臓器別の臨床各系の講義の前後に各分野の病理各論を配置し、その領域の総合的理解を深めるように時間割りが組まれている。

2. 授業内容（講義・実習項目）

[病理各論 I] 3年前期に第一病理、第二病理、病院病理診断科、原研病理にて担当し、以下の各項目の講義および実習を行う。

講義項目：呼吸器、消化器、循環器。

[病理各論 II] 3年後期に第二病理、病院病理診断科、原研病理、口腔病理にて担当し、以下の各項目の講義および実習を行う。

講義項目：生殖器、乳腺、内分泌、血液、腎泌尿器、脳神経、細胞診。

3. 教科書、参考書等

特に指定教科書はないが、掲げた教科書以外にも良書は多い。英語の優れたテキストも多く、読みやすいものを選ぶとよい。

テキストブック

	書名	著者	出版社	定価
原著	新病理学各論	菊池浩吉、他	南山堂	12,600円
原著	Pathologic Basis of Disease	Cotran, R. S. 他	W. B. Saunders Co	12,285円
訳本	ロビンス基礎病理学	Kumar, V. 他 (森亘、桶田理喜 監訳)	廣川書店	18,900円
訳本	カラー版アンダーウッド病理学	Underwood, J. C. E. (鈴木利光、森道夫 監訳)	西村書店	7,875円
訳本	人体病理学	Stevens, A. & Lowe, J. (石倉 浩 監訳)	南江堂	9,450円
訳本	ルービンカラー基本病理学	Ruben, E. (河原栄、横井豊治 監訳)	西村書店	6,510円

アトラス

	書名	著者	出版社	定価
原著	病理組織の見方と鑑別診断 カラーアトラス	赤木忠厚、他	医歯薬出版	13,650円
原著	組織病理アトラス	藍沢茂雄、他（編集）	文光堂	12,600円
訳本	カラーアトラス 基礎組織病理学	Stevens, A. 他 （今井大、山川光徳 監訳）	西村書店	7,140円
訳本	アンダーソン 病理学カラーアトラス	Damjanov, I. & Linder, J. （山口和克 翻訳）	メディカルサイエンス インターナショナル	12,600円

4. 成績評価の方法・基準

前期末及び後期末の講義終了後に、それぞれ[病理各論Ⅰ]と[病理各論Ⅱ]の試験を行う。試験問題、解答は基本的に英語で実施。試験点に加え、出席状況とレポートの内容を加味して評価する。各領域ともに6割以上を合格点とする。

5. 教員名

探索病理学（病理1）：下川功、森亮一、林洋子、Park Seongjoon

病理診断科学（病理2）：福岡順也、新野大介、二反田隆夫

原研病理：中島正洋、七條和子、三浦史郎

病院病理診断科：安倍邦子、木下直江、田畑和宏

口腔病理：池田通

非常勤講師：伊藤智雄（神戸大学）、伊東正博（長崎医療センター）、大谷博（福岡白十字病院）、Kevin Leslie (Mayo Clinic)、Mathew Zarka (Mayo Clinic)、浅田祐士郎（宮崎大学）、杉谷雅彦（日本大学）岸川正大（長崎病理診断科）

6. 備考（準備学習等）

病理総論で学んだ事項を十分に理解しておくこと。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

病理各論系授業予定（3年前期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	1	金	2	病理疾患論	感染症（各論の疾患概論）	三浦	3講
4	5	火	1	病理疾患論	呼吸器（各論の疾患概論）	中島	1講
			2		呼吸器（各論の疾患概論）		
4	8	金	2	病理診断学	感染症（講義・実習）	新野	1講
4	12	火	1	病理診断学	呼吸器・間質性肺炎（講義）	橋迫	CBT室
			2		呼吸器・間質性肺炎（実習）		
4	15	金	2	病理診断学	消化器・口腔（講義・実習）	池田	1講
4	19	火	1	病理疾患論	消化器（各論の疾患概論）	三浦	1講
			2		消化器（各論の疾患概論）		
4	22	金	2	病理診断学	呼吸器・びまん性肺疾患1（講義・実習）	福岡	CBT室
4	26	火	1	病理診断学	心疾患概論（各論の疾患概論）（講義）	下川	1講
			2		心疾患概論（各論の疾患概論）（実習）		CBT室
5	6	金	2	病理診断学	呼吸器・びまん性肺疾患2（講義・実習）	福岡	CBT室
5	10	火	1	病理診断学	循環器・心虚血性疾患（講義）	下川	1講
			2		循環器・心虚血性疾患（実習）		CBT室
5	13	金	2	病理診断学	呼吸器・肺癌（e-learning）	福岡	CBT室
5	20	金	2	病理診断学	呼吸器・肺癌（講義・実習）	福岡	CBT室
5	24	火	1	病理診断学	消化器・唾液腺・食道（講義）	田畑	CBT室
			2		消化器・唾液腺・食道（実習）		
5	27	金	2	病理診断学	呼吸器・肺癌（実習）	福岡	CBT室
5	31	火	1	病理診断学	消化器・腸炎症（講義）	新野	CBT室
			2		消化器・腸炎症（実習）		
6	3	金	2	病理疾患論	呼吸器・縦隔（講義・実習）	福岡	CBT室
6	7	火	1	病理診断学	消化器・腸腫瘍（講義）	田畑	CBT室
			2		消化器・腸腫瘍（実習）		
6	10	金	2	病理診断学	細胞診/分子・呼吸器（講義・実習）	福岡・布村	CBT室
6	14	火	1	病理診断学	消化器・胃（講義）	福岡・唐田	CBT室
			2		消化器・胃（実習）		
6	17	金	2	病理診断学	消化器・肝胆膵炎症（講義・実習）	木下	CBT室
6	21	火	1	病理診断学	消化器：臨床と病理（講義）	橋口	2講
			2		消化器：肝疾患（講義）	伊東（非常勤・長崎医療センター）	
6	24	金	2	病理診断学	消化器・肝非腫瘍（講義・実習）	伊藤（神戸大）	CBT室
6	28	火	1	病理診断学	消化器・胆嚢・膵臓（講義）	木下	CBT室
			2		消化器・胆嚢・膵臓（実習）		
7	1	金	2	病理疾患論	細胞診・消化器/体腔（講義・実習）	二反田・Ruben	CBT室
7	5	火	1	病理診断学	循環器・心・非虚血性疾患（講義）	下川	1講
			2		循環器・心・非虚血性疾患（実習）		CBT室
7	8	金	2	病理診断学	脈管・硬化/解離/瘤（講義・実習）	福岡・石田	CBT室
7	12	火	3	病理診断学	脈管・血管炎（講義・実習）	福岡	CBT室
			4		脈管・奇形/腫瘍（講義・実習）		
7	15	金	2	病理診断学	症例検討（呼吸器/消化器/循環器）（実習）	福岡	CBT室

病理各論系授業予定（3年後期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
9	5	月	1	病理疾患論	内分泌（各論的疾患概論）	中島	3講
			2		内分泌（各論的疾患概論）		
9	8	木	1	病理診断学	乳腺（講義）	安倍	3講
			2		乳腺（実習）		
9	12	月	1	病理診断学	血液・リンパ系・腫瘍（講義）	新野	3講
			2		血液・リンパ系・腫瘍（実習）		
9	15	木	1	病理診断学	内分泌・下垂体（講義・実習）	安倍	CBT室
			2		内分泌・副腎（講義・実習）		
9	26	月	1	病理診断学	血液・リンパ系・非腫瘍（講義）	新野	CBT室
			2		血液・リンパ系・非腫瘍（実習）		
9	29	木	1	病理診断学	泌尿器・前立腺（講義）	古里	3講
			2		泌尿器・前立腺（実習）		
10	3	月	1	病理診断学	内分泌・甲状腺（講義・実習）	安倍	CBT室
			2		内分泌・副甲状腺, 膵島他（講義・実習）		
10	6	木	1	病理診断学	細胞診	松田	2講
			2		脳神経：循環障害・感染症（講義）	中島	
10	13	木	1	病理診断学	脳神経：腫瘍（講義）	中島	実2
			2		脳神経：循環障害・感染症・腫瘍（実習）		
10	17	月	1	病理診断学	生殖系・子宮頸部（講義・実習）	福岡・三上	CBT室
			2		生殖系・子宮体部（講義・実習）		
10	24	月	1	病理診断学	生殖系・卵巣（講義・実習）	古里	CBT室
			2		生殖系・男性生殖器（講義・実習）		
10	31	月	1	病理診断学	脳神経：変性疾患（講義）	岸川(非常勤・長崎病理診断科)	実2
			2		脳神経：変性疾患（実習）		
11	7	月	1	病理診断学	泌尿器・膀胱・尿管（講義・実習）	古里	CBT室
			2		泌尿器・腎（講義・実習）		
11	14	月	1	病理診断学	細胞診・生殖・泌尿器（講義・実習）	二反田・Ruben	実2
			2		分子病理診断（講義・実習）	古里・今岡	
11	21	月	1	病理診断学	Pathology in US	非常勤講師（未定）	3講
			2		病理診断に関わるその他全て・展望	福岡	

循環器系

責任者	氏名	前村 浩二	内線	7288
	教室	循環器内科学	e-mail	maemura@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16:30~17:30		

対象年次・学期	3年・前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	2.5
英語名	Cardiovascular Medicine		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

循環器疾患の病因と病態を理解した上で、診察法、検査法、治療法について系統的に効率よく理解することを目標とする。単に知識だけを学習するにとどまらず、循環器疾患特有の即座に対応せねばならない判断力、患者さんに対する倫理観を踏まえての対話・表現力などを習得する。

2. 授業内容（講義・実習項目）

講義内容は心臓血管系の発生、形態および機能、循環器検査法、循環器診断学、心不全、先天性心疾患、心臓弁膜症、心筋症、心内膜疾患、心膜疾患、心臓腫瘍、循環器感染症、虚血性心疾患、肺循環障害、動脈硬化、大動脈疾患、中・小動脈疾患、静脈疾患、不整脈、高血圧、低血圧とする。

近年の循環器疾患の進歩は目覚ましく、従来のように心行動態を中心とした理解のみでは不十分である。講義内容はその領域の専門家に重要事項がもれないようにお願いし、しかも簡潔に要領よく講義して疾患および病態の本質が正確に理解できるように努める。また、講義内容があまり専門的にならず基本的事項を十分に理解できるようにすることを原則とする。

3. 教科書、参考書等

書名	著者	出版社	定価
内科学 第10版	矢崎義雄 監修	朝倉書店	29,000円
新臨床内科学 第9版	高久史麿 他監修	医学書院	22,000円
循環器内科学	水野杏一 他編	丸善出版	4,900円
HARRISON'S PRINCIPLES OF INTERNAL MEDICINE, 19th Edition	Longo, et.al	McGraw-Hill	39,840円
BRAUNWALD'S HEART DISEASE, 10th Edition	Mann et.al	南江堂	32,000円
標準小児科学 第8版	内山聖 監修	医学書院	8,800円
周生期循環異常	中澤誠 編	メジカルビュー社	5,500円
新 目で見える循環器病シリーズ13—先天性心疾患—	中澤誠 編	メジカルビュー社	9,500円

4. 成績評価の方法・基準

講義終了後に試験を施行して評価する。試験100%であるが、国家試験形式では評価できない修得度は記述式問題で評価する。**60%以上**を合格とする。ただし、総合点が60%以上であっても、循環生理、放射線科(アイソトープ診断治療含む)、小児科、心臓血管外科、循環器内科それぞれで**45%**に満たない場合は、それぞれの科の分だけの再試とする。

5. 教員名

循環器内科：前村浩二、河野浩章、小出優史、池田聡司、片山敏郎、深江学芸
恒任章、土居寿志、古賀聖士、米倉剛、荒川修司

分子生理：蒔田直昌

小児科：蓮把朋之

心臓血管外科：江石清行、谷川和好

放射線科：坂本一郎

アイソトープ診断治療：工藤崇

非常勤講師：瀬戸信二、芦澤直人、山近史郎、濱脇正好、松岡陽治郎、本村秀樹

6. 備考（準備学習等）

循環器学教科書および診断学教科書を用いて講義の前に予め予習しておくこと。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

循環器系授業予定（3年前期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	4	月	3	循環器総論	総論・症候学	循環器内科・前村	3講
4	4	月	4	心機能検査	心エコー図、心臓カテーテル検査	循環器内科・恒任	3講
4	6	水	4	心電図	心電図の基本	循環器内科・深江	3講
4	11	月	3	循環器総論	心臓血管の構造と機能（1）	分子生理・蒔田	3講
4	11	月	4		心臓血管の構造と機能（2）	分子生理・蒔田	3講
4	13	水	4	循環器画像診断	循環器の画像診断（総論・後天性心疾患）	放射線科・坂本	3講
4	18	月	3	弁膜疾患	弁膜症（1）	非常勤・瀬戸	3講
4	18	月	4		弁膜症（2）	非常勤・瀬戸	3講
4	20	水	4		心エコー・手術適応	非常勤・山近	3講
4	25	月	3		弁膜症の外科（1）	心外科・江石	3講
4	25	月	4		弁膜症の外科（2）	心外科・江石	3講
4	27	水	4	心電図	心電図判読の実際	循環器内科・荒川	3講
5	2	月	3	心膜・心内膜・腫瘍	心膜炎、感染性心内膜炎、心臓腫瘍	循環器内科・米倉	3講
5	2	月	4	小児心疾患	リウマチ熱、川崎病	小児科・蓮把	3講
5	9	月	3	心不全	急性心不全	循環器内科・小出	3講
5	9	月	4		慢性心不全	循環器内科・小出	3講
5	11	水	4	心電図	心電図演習	循環器内科・荒川	3講
5	16	月	3	虚血性心疾患	狭心症	循環器内科・片山	3講
5	16	月	4		心筋梗塞	循環器内科・片山	3講
5	23	月	3		狭心症・心筋梗塞の治療	循環器内科・古賀	3講
5	23	月	4		虚血性心疾患の外科	心外科・江石	3講
5	30	月	3	血圧異常	本態性高血圧症	循環器内科・河野	3講
5	30	月	4		二次性高血圧症、低血圧	循環器内科・河野	3講
6	6	月	3	先天性心疾患	非チアノーゼ群	非常勤・本村	3講
6	6	月	4		チアノーゼ群	小児科・蓮把	3講
6	13	月	3	不整脈	上室性・心室性不整脈、WPW症候群	循環器内科・土居	3講
6	13	月	4		房室ブロック、洞不全症候群、ペースメーカ	循環器内科・土居	3講
6	20	月	3	循環器画像診断	循環器系の核医学検査	アイソトープ診断治療・工藤	3講
6	20	月	4	循環器画像診断	先天性心疾患の画像診断	非常勤・松岡	3講
6	27	月	3	心筋疾患	心筋症・心筋炎	非常勤・芦澤	2講
6	27	月	4		心筋症・心筋炎	非常勤・芦澤	2講
6	29	水	3	動静脈疾患	動脈・静脈疾患の内科	循環器内科・池田	1講
6	29	水	4		動脈・静脈疾患の外科	心外科・谷川	1講
7	7	木	3	肺循環	肺血栓塞栓症、肺高血圧症、肺性心	循環器内科・池田	4講
7	7	木	4	先天性心疾患	先天性心疾患の外科	非常勤・濱脇	4講
7	11	月	1	不整脈	心臓突然死、植込型除細動器	循環器内科・深江	1講
7	11	月	2	先天性心疾患	成人にみられる先天性心疾患	非常勤・山近	1講
7	12	火	1	TBL	循環器系TBL	循環器内科・土居	4講
7	12	火	2				4講
7	19	火	1	TBL	循環器系TBL	循環器内科・古賀	4講
7	19	火	2				4講

呼 吸 器 系

責 任 者	氏 名	迎 寛	内 線	7271
	教 室	内科学第二 (呼吸器内科)	e-mail	hmukae@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	火曜日 9:00-17:00		

対象年次・学期	3年・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2
英語名	Respiratory Diseases		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

ねらい: 正常呼吸器系の解剖と生理の知識をもとに、各呼吸器系疾患の病態、診断、治療方法を理解する。
 到達目標: (1) 正常呼吸器系の構造と機能を説明できる。(2) 各呼吸器疾患の病態について説明できる。
 (3) 各呼吸器疾患の診断について説明できる。(4) 各呼吸器疾患の治療について説明できる。

2. 授業内容(講義・実習項目)

正常呼吸器系の構造・機能を基本として各疾患の病態について学ぶ。さらに、内科、外科、放射線学的立場より疾患の症候、診断方法を理解し、疾患に応じた内科および外科的治療について学ぶ。

3. 教科書、参考書等

書 名	著 者	出版社	定 価
ガイドラインをふまえた成人市中肺炎診療の実際	河野 茂 編	医学書院	4,830 円
レジデントのための呼吸器疾患診療マニュアル 第2版	河野 茂、早田 宏 編	医学書院	4,700 円
咳嗽に関するガイドライン第2版	咳嗽に関するガイドライン第2版作成委員会 (委員長、河野 茂)	日本呼吸器学会	3,000 円
臨床腫瘍学	日本臨床腫瘍学会 編	癌と化学療法社	25,000 円
呼吸器外科	正岡 昭 編	南江堂	13,390 円
新版: 胸部単純X線診断	林 邦昭、中田 肇 編	秀潤社	4,800 円
胸部単純X線アトラス vol.1肺	芦澤和人 編著	ベクトル・コア	4,500 円
胸部単純X線アトラス vol.2縦隔、胸膜他	芦澤和人 編著	ベクトル・コア	4,300 円

4. 成績評価の方法・基準

○定期考査を100%として評価するが、正当な理由なく全授業時間の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。定期考査は授業時間に応じて各分野(生理・内科・外科・放射線科)から出題を行い、合計60点以上を合格とする。但し、合計60点以上であっても、各分野の得点はその分野で4割未満の場合は不合格となる。

5. 教員名

呼吸器内科学 (第二内科): 迎 寛、福島千鶴、尾長谷 靖、坂本憲徳、今村圭文、角川智之、山口博之、原 敦子、早田 宏(非常勤講師)、掛屋 弘(非常勤講師)
 臨床腫瘍学: 泉川公一、宮崎泰可
 腫瘍外科 (第一外科): 永安 武、山崎直哉、土谷智史、松本桂太郎
 臨床腫瘍学 (がん診療センター): 芦澤和人

6. 備考(準備学習等)

予習については、すでに履修した正常呼吸器系の解剖と生理の項目を復習しておく。

7. アクティブラーニング

10%程度アクティブラーニングを加味する。

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	6	水	1	呼吸器病学総論	構造と疾患	第二内科・迎 寛	4講
4	6	水	2	呼吸生理	呼吸性酸塩基平衡異常と肺による代償機能	第二内科・尾長谷靖	4講
4	13	水	1	びまん性肺疾患	特発性間質性肺炎	第二内科・迎 寛	4講
4	13	水	2		びまん性肺疾患（1）	第二内科・坂本 憲穂	4講
4	27	水	1	呼吸器画像診断	画像診断総論（1）	臨床腫瘍学・芦澤 和人	4講
4	27	水	2		画像診断総論（2）	臨床腫瘍学・芦澤 和人	4講
5	11	水	1	呼吸器感染症	呼吸器感染症総論	臨床感染症学・泉川 公一	4講
5	11	水	2		市中肺炎、肺化膿症	第二内科・迎 寛	4講
5	25	水	1	びまん性肺疾患	びまん性肺疾患（2）	第二内科・角川 智之	4講
5	25	水	2	閉塞性・職業性肺疾患	COPD、塵肺など	第二内科・福島 千鶴	4講
6	1	水	1	呼吸器画像診断	画像診断各論（1）	臨床腫瘍学・芦澤 和人	4講
6	1	水	2		画像診断各論（2）	臨床腫瘍学・芦澤 和人	4講
6	8	水	1	呼吸器感染症	気道感染症	第二内科・非常勤・掛屋 弘	4講
6	8	水	2		結核、非結核性抗酸菌症	第二内科・西條 知見	4講
6	9	木	3	呼吸器外科	縦隔の外科（1）	腫瘍外科・山崎 直哉	4講
6	9	木	4		縦隔の外科（2）	腫瘍外科・山崎 直哉	4講
6	15	水	1	呼吸器外科	肺の外科（1）	腫瘍外科・永安 武	4講
6	15	水	2		肺の外科（2）	腫瘍外科・永安 武	4講
6	16	木	3	呼吸器外科	胸部外傷	腫瘍外科・土谷 智史	4講
6	16	木	4		外科診断技術・周術期管理・手術様式	腫瘍外科・松本 桂太郎	4講
6	22	水	1	呼吸器腫瘍	肺癌、良性腫瘍、放射線肺臓炎	第二内科・山口 博之	4講
6	22	水	2		胸膜と胸壁腫瘍、縦隔腫瘍	第二内科・山口 博之	4講
6	23	木	3	呼吸器感染症	院内肺炎、医療・介護関連肺炎	第二内科・今村 圭文	4講
6	23	木	4		日和見感染症	臨床感染症学・宮崎 泰可	4講
6	29	水	1	アレルギー性肺疾患	気管支喘息	第二内科・尾長谷 靖	4講
6	29	水	2		好酸球性肺疾患	第二内科・尾長谷 靖	4講
7	5	火	3	呼吸器腫瘍	分子標的薬総論	第二内科・非常勤・早田 宏	4講
7	6	水	1	びまん性肺疾患	びまん性肺疾患（3）	第二内科・原 敦子	4講
7	6	水	2	呼吸器内科総括	まとめと復習	第二内科・迎 寛	4講
7	14	木	3	呼吸器外科	肺の外科（3）	腫瘍外科・宮崎 拓郎	4講
7	14	木	4		胸壁・胸膜・横隔膜の外科	腫瘍外科・永安 武	4講

消 化 器 系

責任者	氏名	中尾一彦	内線	7481
	教室	消化器内科	e-mail	kazuhiko@nagasaki-u.ac.jp
	オフィス	木曜日 午前8:30~12:00		

対象年次・学期	3年・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2.5
英語名	Digestive disease		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

消化器系は口腔・唾液腺に始まり、食道・胃・小腸・結腸・直腸・肛門に至る消化管系と肝臓、胆嚢、胆管、膵臓よりなる肝胆膵系に大別される。消化器の病理、症状、検査、内科的消化器疾患、外科的消化器疾患、手術法などを統合包括的に把握し、消化器疾患における基礎的、臨床的な基本的知識を理解、修得する。

2. 授業内容（講義・実習項目）

消化器系を消化管系と肝胆膵系に大別し、それぞれを病理学、内科学、外科学の順に講義を進行させる。

3. 教科書、参考書等

書名	著者	出版社	定価
1. 消化器病（胃・腸・食道） 分子カギから病態・診断・治療まで	菅野健太郎 日比紀文 星原芳雄	編 羊土社	6,700円
2. 図説病態内科講座 消化管2	矢崎義雄	編 Medical View	22,000円
3. 消化器内視鏡診断テキスト 第1巻：食道・胃・十二指腸 第2巻：小腸・大腸	竹本忠良 長廻 紘	編 文光堂	6,500円 6,500円
4. 外科病理学 第4版	向井 清 真鍋俊明 深山正久	編 文光堂	40,000円
5. 内科学書（全2冊）	島田 馨	編 中山書店	25,000円

4. 成績評価の方法・基準

試験は病理、内科、外科がそれぞれの担当時間数に応じて配分された点数をもって出題する。各科目の総点を1000点とし、最終的に100点として評価を行う。

5. 教員名

原研病理：中島正洋、三浦史郎
 消化器内科：中尾一彦、竹島史直、田浦直太、宮明寿光、三馬聡、赤澤祐子、柴田英貴、
 本田琢也、松島加代子、小澤栄介、橋口慶一、中舗卓、山島美緒
 光学医療診療部：大仁田賢、山口直之
 第一外科：飛永修一、角田順久
 第二外科：金高賢悟、藤田文彦、小林和真、井上悠介、山口泉
 非常勤講師：八橋弘、

6. 備考（準備学習等）

出欠チェックは1コマ毎に行う。出欠状況は成績に反映する。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

消化器系授業予定（3年前期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	1	金	3	消化管ホルモン	消化管ホルモン	消内 赤澤祐子	3講
4	1	金	4	上部消化管－構造機能	食道・胃	消内 竹島史直	3講
4	8	金	3	下部消化管-症候論、機能性疾患	下血、便通異常、脂肪便、過敏性腸症候群など	消内 竹島史直	3講
4	8	金	4	下部消化管 - 構造・機能	小腸、大腸、先天性異常など		3講
4	15	金	3	上部消化管－症候	腹痛など	消内 松島加代子	3講
4	15	金	4	食道疾患	先天異常、憩室、炎症、腫瘍性疾患など		3講
4	22	金	3	癌取扱い規約	食道・胃	原病 三浦史郎	3講
4	22	金	4		大腸		3講
5	6	金	3	消化管の内視鏡検査と治療	消化管の内視鏡検査と治療	光学 大仁田賢	3講
5	6	金	4	胃・十二指腸疾患	胃十二指腸の炎症、潰瘍など		3講
5	12	木	3	消化管（外科的疾患）	概念と疾患群など	外2 藤田文彦	3講
5	12	木	4	腸管外科的疾患	小腸・大腸 先天異常	外2 井上悠介	3講
5	13	金	3	食道・胃・十二指腸手術術式	食道損傷など 食道	外2 金高賢悟	3講
5	13	金	4	食道・胃・十二指腸手術術式	胃・十二指腸	外2 小林和真	3講
5	19	木	3	腹壁疾患 直腸・肛門の疾患	外傷など	外2 山口泉	3講
5	19	木	4	胃・十二指腸疾患	胃癌など	光学 大仁田賢	3講
5	20	金	3	大腸疾患（腫瘍）	ポリープ、ポリポーシスなど	光学 山口直之	3講
5	20	金	4		癌、カルチノイド腫瘍など		3講
5	26	木	3	大腸疾患(炎症)	炎症性腸疾患(IBD)、虚血性腸炎、腸型パーチエット病など	消内 竹島史直	3講
5	26	木	4		感染症腸疾患、憩室、放射線照射性腸炎、MPSなど		3講
5	27	金	3	全身性疾患と消化管	膠原病、アミロイドーシス、血液疾患など	消内 橋口慶一	3講
5	27	金	4	小腸疾患	小腸疾患、吸収不良症候群、蛋白漏出性胃腸症	消内 赤澤祐子	3講
6	1	水	3	胆膵疾患	主要症候と検査	消内 小澤栄介	3講
6	1	水	4		胆道癌、膵癌など		3講

消化器系授業予定（3年前期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
6	2	木	3	肝	正常組織・生理機能	消内 中尾一彦	3講
6	2	木	4		先天異常		3講
6	8	水	3	肝	病態生理	消内 中尾一彦	3講
6	8	水	4		代謝性肝疾患(NASH、ASHなど)、薬剤性 ¹		消内 宮明寿光
6	15	水	3	肝	肝癌、肝良性腫瘍	消内 田浦直太	3講
6	15	水	4				3講
6	22	水	3	肝	急性肝炎（特別講義）	長崎医療センター 八橋弘	3講
6	22	水	4		慢性肝炎（特別講義）		3講
6	30	木	1	外科的疾患	胆道系	外1 飛永修一	2講
6	30	木	2		内分泌腫瘍		2講
7	1	金	3	膵疾患	膵炎など	光学 大仁田賢	1講
7	1	金	4	胆道疾患	炎症・結石		1講
7	7	木	1	外科的疾患	膵臓の手術術式など	外1 角田順久	1講
7	7	木	2	病理の要点	肝胆膵	原病 中島正浩	1講
7	8	金	3	外科的疾患	肝細胞癌など	外1 角田順久	3講
7	8	金	4		肝移植		3講
7	14	木	1	肝	HEV、肝炎ウイルス以外のウイルスと寄生虫膿瘍などの感染症	消内 柴田英貴	3講
7	14	木	2		己免疫性肝炎、原発性胆汁性肝硬		3講
7	15	金	3	肝	代謝性肝疾患(NASH、ASHなど)、薬剤性 ²	消内 宮明寿光	3講
7	15	金	4		肝硬変、肝不全、静脈瘤、非硬変性門亢症		消内 三馬聡
7	20	水	1	消化器疾患	消化器癌の化学療法	消内 本田琢也	3講
7	20	水	2	肝	胆管癌、転移性肝癌		3講
7	21	木	1	消化器系TBL		消内 橋口慶一、山島美緒、中鋪卓	4講
7	21	木	2				4講

感 染 症 系

責任者	氏名	泉川 公一	内線	7731
	教室	臨床感染症学	e-mail	koizumik@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	水曜日 17:00-18:00		
対象年次・学期	3年・前期	講義形態	講義・実習	
必修・選択	必修	単位数	2	
英語名	Infectious Diseases			

1. 授業のねらい・方法・到達目標

ねらい：感染症は、あらゆる臓器に発症しうる疾病であり、原因微生物も多岐にわたる。感染症が疑われる患者にいかによりアプローチし、的確な診断、適切な治療、さらには感染予防へと結びつけていくかを、多角的な視点から学ぶ。病原体の多様性や感染症の臨床像に対し応用力をつけ、感染予防の方法についても学ぶ。

到達目標：臨床医学の中における感染症の特徴を理解して、説明することができる。感染症の患者へのアプローチや診断、治療、予防を総合的にとらえて説明することができる。また、熱帯感染症についてその背景、特徴を説明することができる。院内感染について、その対策や制御および重要な原因微生物について説明することができる。

2. 授業内容（講義・実習項目）

概要 内科学の一部を構成する「感染症学」に相当する内容を学習する。主に一般細菌、ウイルス、真菌、寄生虫、抗酸菌感染症の診断と治療を学習する。また、院内感染の予防や感染対策も重要な問題であるため、その対策の実際を学び、実習も行う。さらにグローバル化を背景に日本でも見られるようになったマalaria、デング熱、下痢症、新興感染症についても学ぶ。おのおのの病原体の基礎知識、宿主-病原体関係について理解し感染症の病態生理を根本的に理解する。

3. 教科書、参考書等

以下のものを参考書として推薦する。

Mandel GL, Bennett JE, Dolin R. 8th ed 「Principles and Practice of Infectious Diseases」

Mayhall CG. 4th ed 「Hospital Epidemiology and Infection Control」

Richard A. Harvey 山口恵三/松本哲哉 監訳 「イラストレイテッド微生物学 第2版」丸善株式会社

河野 茂 編 「感染症のとりえ方」文光堂

4. 成績評価の方法・基準

期末試験100%。授業内容を中心に出题する試験により行う。60%未満の得点は不合格とする。

5. 教員名

臨床感染症学：泉川公一、宮崎泰可、高園貴弘、田代将人

病態解析・診断学（検査部）：柳原克紀

呼吸器病態制御学（第二内科）：今村圭文、西條知見

感染制御教育センター：山本和子、田中章貴

感染病態制御学分野（小児科）：森内浩幸

臨床感染症学分野（熱研内科）：有吉紅也、森本浩之輔

熱研 ウイルス学分野：森田公一

熱研 寄生虫学分野：濱野真二郎

比較動物医学分野（動物実験施設）：大沢一貫

分子治療研究分野（原研内科）：田口 潤

6. 備考（準備学習等）

すでに2年次に履修した感染系の各項目を復習しておくこと。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味し、授業の15%をアクティブラーニングとする。

感染症系授業予定(3年前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	4	月	1 (8:50-10:20)	感染症の救急診療	感染症領域における救急診療のポイントを実際の症例を交えながら学ぶ。	第二内科・今村	4講
4	4	月	2 (10:30-12:00)	感染症診療のための基本的アプローチ：感染症の診断法	感染症の古典的な鏡顕や培養、抗血清による診断法から、近年開発された尿中抗原検査や遺伝子診断まで適応や意義を学ぶ。	臨床感染症学・泉川	4講
4	11	月	1 (8:50-10:20)	感染症の予防(1)：能動免疫	ワクチン接種による感染症の予防法についての総論と、代表的なワクチンの各論について学ぶ。	小児科・森内	4講
4	11	月	2 (10:30-12:00)	感染症の予防(2)：受動免疫, その他	免疫グロブリン療法による受動免疫やその他の手段による感染症の予防法について学ぶ。	小児科・森内	4講
4	18	月	1 (8:50-10:20)	ウイルス感染症の診断	ウイルス感染症の診断法の総論と、他の授業では取り上げられないウイルスの診断法の各論を概説する。	小児科・森内	4講
4	18	月	2 (10:30-12:00)	ウイルス感染症の治療	ウイルス感染症の治療法の総論と、他の授業では取り上げられないウイルスの治療法の各論を概説する。	小児科・森内	4講
4	25	月	1 (8:50-10:20)	抗菌薬の選択法	最新の一般抗菌薬の種類、各系統のスペクトルや副作用の特徴、典型的な適応症について学ぶ。	病態解析・診断学・柳原	4講
4	25	月	2 (10:30-12:00)	耐性菌による感染症	現在、各種領域で問題となっている耐性菌を紹介するとともに、耐性菌による感染症の発症に至る機序や治療について学ぶ。	東京医科大・松本	4講
5	2	月	1 (8:50-10:20)	不明熱と敗血症, SIRS	不明熱の3大原因の一つが感染症である。不明熱をみた場合に鑑別すべき感染症と診断法について学ぶ。	臨床感染症学・宮崎	3講
5	2	月	2 (10:30-12:00)	寄生虫感染症の診断と治療	熱帯地でみられる寄生虫感染症の疫学・病態・臨床・診断・治療・予防について体系的に説明する。	熱研・濱野	3講
5	9	月	1 (8:50-10:20)	グローバルヘルスと感染症	熱帯感染症を概説するとともに、国境を越えた課題として感染症を地球規模でとらえる視野を持たせる。	熱研内科・有吉	4講
5	9	月	2 (10:30-12:00)	マラリアの診断と治療および予防	熱帯地でみられるマラリアを中心とする原虫疾患の疫学・病態・臨床・診断方法・治療・予防について体系的に説明する。	熱研内科・有吉	4講
5	16	月	1 (8:50-10:20)	難治性感染症	問題となる難治性感染症の原因として耐性菌やバイオフィルム感染症などがあるが、具体的な疾患について学ぶ。	第二内科・西條	4講
5	16	月	2 (10:30-12:00)	熱帯でよくみる細菌感染症の診断と治療	主に熱帯地でみられる、細菌性感染症について、病態、診断、治療について解説する。	熱研内科・森本	4講
5	23	月	1 (8:50-10:20)	院内感染とその対策 I	接触感染、飛沫感染、空気感染の違いと、院内感染対策の上で重要な病原菌の病態や対処方法を学ぶ。	臨床感染症学・泉川	4講
5	23	月	2 (10:30-12:00)	院内感染とその対策 II	院内感染を防止するための理論と対策を学ぶ。	感染制御教育センター 田中	4講
5	30	月	1 (8:50-10:20)	抗酸菌感染症の診断と治療	結核症と非結核性抗酸菌症の疫学、病態と鑑別診断、さらに診断方法と標準的な治療法に関して学習する。	富山大学・山本	4講
5	30	月	2 (10:30-12:00)	院内感染対策実習	院内感染防止の具体的手順について実習する。	臨床感染症学・泉川・田代 感染制御教育センター 田中	4講
6	6	月	1 (8:50-10:20)	TBL		熱研・森本	4講
6	6	月	2 (10:30-12:00)	TBL		熱研・森本	4講
6	13	月	1 (8:50-10:20)	深在性真菌症の診断と治療	深在性真菌症の主要な病原菌、重要な基礎疾患、エビデンスに基づく抗真菌薬療法について学ぶ。	臨床感染症学・宮崎	4講
6	13	月	2 (10:30-12:00)	熱帯地方のウイルス感染症の診断と治療	熱帯地域で重要な日本脳炎、デング出血熱、西ナイル熱などの蚊媒介性ウイルス感染所の診断、治療、予防について講義する。	熱研・森田	4講
6	20	月	1 (8:50-10:20)	エイズの疫学, 自然経過, 予防	国内外のエイズ流行の動向について概説し、エイズの疫学、自然経過、予防対策の本質について学ぶ。	熱研内科・有吉	4講
6	20	月	2 (10:30-12:00)	エイズの臨床, 治療	HIV感染者・エイズ患者に対する臨床的アプローチの仕方、日和見感染症の予防・治療、最新の抗HIV薬併用療法について学ぶ。	熱研内科・有吉	4講
6	27	月	1 (8:50-10:20)	性行為感染と母子感染	ヒトの再生に関わる性行為、妊娠、分娩、授乳の営みを介して起こる感染症の総論と、代表的疾患の各論を学ぶ。	小児科・森内	1講
6	27	月	2 (10:30-12:00)	人獣共通感染症	人獣共通（動物由来）感染症について、微生物の概説、伝播方式、予防策などトピックを交えながら講義する。	比較動物医学・大沢	1講
7	5	火	4 (14:40-16:10)	現代医療における易感染性宿主と日和見感染症	抗がん剤治療後のがん患者などにおける免疫不全と併発する感染症の病態生理を講義する。	原研内科・田口	4講
7	6	水	3 (13:00-14:30)	TBL		臨床感染症学・田代	4講
7	6	水	4 (14:40-16:10)	TBL		臨床感染症学・田代	4講
7	21	木	3 (13:00-14:30)	インフルエンザの臨床, 治療	インフルエンザウイルス感染に関連する様々な臨床像について説明する。	第二内科・今村	4講
7	21	木	4 (14:40-16:10)	感染症の画像診断	感染症領域における画像診断のポイントを実際の症例を交えながら学ぶ。	臨床制御教育センター・山本和子	4講

臨床医学 TBL (I・II・III)

責任者	氏名	安武 亨	内線	7987
	教室	先端医育センター	e-mail	toru@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16:30 ~ 17:30		

対象年次・学期	3年前期・後期 4年前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	I : 2 単位, II : 1 単位 III : 1 単位
英語名	Team Based Learning		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

チーム基盤型学習 (Team-based learning : TBL) は、各臨床系統講義終了後にまとめの意味も含んで行われる学習形態である。7~8人ずつの小グループに分かれ、大講義室で一斉に討論する。

下記に具体的な流れを記載する。

- ① 講義前に、与えられたテーマや内容に沿った事前学習を行っておく。(LACSへ課題が掲載される)
- ② 講義当日にまず事前学習内容に沿った準備確認テスト (個人⇒グループ) を行う。
- ③ テスト後の解説を受ける。
- ④ 応用問題をグループ内、グループ間で討論する。
- ⑤ まとめを行う。

このように自分の理解度を確認し、他人と知識を交換・共有することにより、より記憶に残り学習効果が増加することが分かっている。座学による受動的な学習を行った後にTBLのような能動的学習を行うことにより、学んだ知識を臨床医療に沿って利用することができるようになり、臨床実習へのステップとなることを期待する学習形態である。

2. 授業内容 (講義・実習項目)

担当教官によって内容は異なる。

3. 教科書、参考書

適宜。事前学習方法・内容に関しても担当教官によって異なる。

4. 成績評価の方法・基準

出席の状況、準備確認テストの結果、討論への参加状況をもとに評価する。

5. カリキュラム

チーム編成、授業内容、担当教官等は別途。

6. 備考

7. アクティブラーニング

高次のアクティブラーニング

血液・リンパ系

責任者	氏名	宮崎 泰司	内線	7109
	教室	原研内科（血液内科学）	e-mail	y-miyaza@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	火曜日17時～17時30分		

対象年次・学期	3年・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
英語名	Hematopoietic and lymphoid system		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

ねらい：骨髄とリンパ節の構造、そこで産生される造血細胞（赤血球、白血球[顆粒球・リンパ球]、血小板）の形態、機能、産生機序、および止血機構を理解する。これらの基本的理解に立って、各血液疾患、リンパ系疾患、止血・線溶機構異常による疾患の病因と病態、臨床事項について理解する。

到達目標：正常血球の認識に基づき血液細胞の産生や機能、凝固止血機構を説明できる。主要血液疾患の病因と病態、臨床事項（症状、所見、診断と治療）を説明できる。

2. 授業内容（講義・実習項目）

血液の構成成分、骨髄と血球産生機序を学習し、血球形態理解のために、顕微鏡実習を行う。次に赤血球の異常、造血幹細胞異常、顆粒球の異常、リンパ球および免疫細胞の異常、止血機構と出血性素因、小児の血液疾患、血液疾患の治療の各項目について講義を行う。

3. 教科書、参考書等

LACSにあらかじめ資料を提示する。各担当教官より必要に応じて資料が配布される。

書名	著者	出版社	定価
講義録 血液・造血器疾患学	小澤敬也 他	メジカルビュー社	5,500 円
カラーテキスト血液病学（参考書）	木崎 昌弘 他	中外医学社	26,000 円
三輪 血液病学（参考書）	浅野茂隆 他	文光堂	45,000 円
血液専門医テキスト（参考書）	日本血液学会編集	南江堂	15,000 円
臨床に直結する血栓止血学	朝倉 英策 他	中外医学社	7,600 円

4. 成績評価の方法・基準

毎回、出席カードによる出席の確認を行う。実習ではレポートを提出する。出席率2/3以上の者は定期試験の受験資格を有する。内科・小児血液についての定期試験と実習レポートをあわせて評価する。合計60点以上を合格とする。

5. 教員名

原研内科：宮崎泰司、波多智子、今泉芳孝、田口 潤、澤山 靖、佐藤信也
小児科：森内浩幸、岡田雅彦

6. 備考（準備学習等）

LACSの資料にて予習することが望ましい。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

血液・リンパ系授業予定（3年後期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
9	6	火	3	血液学総論	造血総論：血球の個体発生・造血細胞の分化と増殖	宮崎	実2
9	6	火	4	血液形態実習	末梢血：血液の成分と機能、正常末梢血液細胞	宮崎	実2
9	13	火	3	血液形態実習	骨髄：造血幹細胞と血球の分化、正常骨髄細胞	宮崎	実2
9	13	火	4				実2
9	20	火	3	赤血球系疾患（1）	赤血球総論・貧血総論・鉄欠乏性貧血・二次性貧血	澤山	4講
9	20	火	4	赤血球系疾患（2）	巨赤芽球性貧血、溶血性貧血	澤山	4講
9	27	火	3	赤血球系疾患（3）	造血障害（再生不良性貧血、骨髄異形成症候群など）	澤山	4講
9	27	火	4	白血球系疾患（1）	白血球総論	波多	4講
10	4	火	3	白血球系疾患（2）	急性白血病	波多	4講
10	4	火	4	白血球系疾患（3）	慢性骨髄性白血病、骨髄増殖性腫瘍	波多	4講
10	11	火	3	リンパ系疾患（1）	リンパ系総論、反応性リンパ系疾患	今泉	4講
10	11	火	4	リンパ系疾患（2）	悪性リンパ腫	今泉	4講
10	18	火	3	リンパ系疾患（3）	慢性リンパ性白血病、成人T細胞白血病	今泉	4講
10	18	火	4	リンパ系疾患（4）	脾疾患、血漿蛋白質の異常	今泉	4講
11	1	火	3	出血・血栓性疾患（1）	止血機構	佐藤	4講
11	1	火	4	出血・血栓性疾患（2）	血小板異常、凝固異常	佐藤	4講
11	8	火	3	出血・血栓性疾患（3）	DIC、血栓性疾患	佐藤	4講
11	8	火	4	血液疾患の治療	造血幹細胞移植	田口	4講
11	15	火	3	小児血液疾患（1）	小児貧血（溶血性貧血、Fanconi貧血など）	岡田（小児科）	4講
11	15	火	4	小児血液疾患（2）	好中球機能と先天異常、出血性素因	岡田（小児科）	4講
11	17	木	4	小児血液疾患（3）	悪性新生物（小児白血病など）	岡田（小児科）	4講
11	22	火	3	T B L	リンパ系疾患	今泉	4講
11	22	火	4				4講
11	28	月	3	T B L	赤血球系疾患	波多	4講
11	28	月	4				4講

内 分 泌 ・ 代 謝 ・ 栄 養 系

責 任 者	氏 名	川上 純	内 線	7260
	教 室	内科学第一	e-mail	atsushik@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	8:00～9:00		

対象年次・学期	3年・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
英語名	Endocrinology and Metabolism		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

ねらい：内分泌・代謝疾患の病因、病態生理、症状・所見、検査、治療について理解する。

到達目標：代表的な内分泌・代謝疾患について病因、病態生理、症状・所見、検査、治療について説明できる。

2. 授業内容（講義・実習項目）

内分泌学の基本であるホルモンは特異的な内分泌腺から分泌され、血流を介して各ホルモンに特異的受容体を有する標的細胞に作用する生理活性物質と定義されています。講義ではまず、総論としてすべてのホルモンに共通した概念、作用機序、分泌調節機序を理解してもらい、次に各論として代表的ホルモンを分泌する内分泌腺（視床下部下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、性腺）別に、個々のホルモンの作用、分泌調節、さらに代表的な疾患（末端肥大症、尿崩症、バセドウ病、クッシング症候群など）および最近のトピックについて話を進める予定です。

代謝・栄養系として、栄養学ならびに糖代謝について基本的な概念を習得し、その上で、糖尿病、低血糖、高脂血症、肥満、痛風などの疾患を講義します。糖尿病はインスリン分泌および作用の不足の結果、高血糖を生じますが、慢性的な高血糖が持続しますと糖尿病に特有な腎症・網膜症・神経障害などの合併症を生じます。最初に、糖尿病の分類、診断、糖尿病合併症および糖尿病の治療について講義します。また、トピックとしていくつかの遺伝子異常による糖尿病や、新しい糖尿病治療薬などについてふれます。

高脂血症とは血中脂質（コレステロール、中性脂肪）が増加した状態であり、動脈硬化性疾患（心筋梗塞、狭心症）の主な危険因子です。まず最初にリポ蛋白代謝について説明し、次に高脂血症の分類、動脈硬化の発生機序、メタボリック症候群について講義します。

外科分野として、乳癌や乳腺良性疾患および甲状腺癌、バセドウ病、副甲状腺機能亢進症などの外科治療を中心に基礎的な知識や最新のトピックスについて触れていきます。また乳癌に関しては分子標的治療薬を含めた薬物療法についても講義します。

3. 教科書、参考書等

書 名	著 者	出版社	定 価
NIM LECTURE:内分泌・代謝病学	井村裕夫・清野 裕 編	医学書院	7,500 円
CECIL TEXTBOOK OF MEDICINE (23rd ed)	Arend, Armitage Clemmons 他 編	W. B. Saunders company	

Harrison`s PRINCIPLES of INTERNAL MEDICINE (17th ed)	Fauci, Kasper, Longo Braunwald 他 編	Mc Graw-Hill	
Williams textbook of Endocrinology (11th ed.)	Kronenberg, Melmed, Polns ky Larsen 他 編	Saunders	
標準外科学 (第13版)	監修 : 加藤 治文	医学書院	

4. 成績評価の方法・基準

定期考査 100%

筆記試験において60点以上を合格とする。

5. 教員名

第一内科：阿比留教生、安藤隆雄、森良孝、堀江一郎、原口 愛

生活習慣病予防診療部：世羅至子

国際ヒバクシャ医療センター：宇佐俊郎

医育支援センター：桑原宏永

保健・医療推進センター：古林正和、相良郁子

腫瘍外科：矢野洋

移植・消化器外科：山之内孝彰

栄養管理室：花田浩和

6. 備考（準備学習等）

教科書・参考図書にて予習しておくことが望ましい。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

内分泌・代謝・栄養系授業予定（3年後期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
9	5	月	3	内分泌総論	ホルモン作用機序・疾患総論	第一内科 安藤	3講
9	5	月	4	甲状腺	甲状腺総論		3講
9	9	金	2	代謝・栄養学	栄養学	栄養管理室 花田	3講
9	9	金	3	視床下部・下垂体	視床下部・下垂体後葉疾患	第一内科 安藤	3講
9	9	金	4		下垂体前葉疾患		3講
9	12	月	3	糖尿病	糖代謝総論	第一内科 阿比留	3講
9	12	月	4		糖尿病の分類と診断		3講
9	16	金	3	糖尿病	糖尿病昏睡・急性合併症	医育支援センター 桑原	3講
9	16	金	4	痛風	核酸代謝・高尿酸血症・低血糖	第一内科 森	3講
9	23	金	3	甲状腺	甲状腺機能亢進症	第一内科 世羅	3講
9	23	金	4		甲状腺機能低下症		3講
9	26	月	3	糖尿病	糖尿病の治療	第一内科 阿比留	3講
9	26	月	4				3講
9	30	金	3	副腎	副腎皮質疾患	第一内科 原口	3講
9	30	金	4		副腎髄質疾患		3講
10	3	月	3	甲状腺	甲状腺腫瘍	第一内科 堀江	3講
10	3	月	4	カルシウム代謝	高・低カルシウム血症・代謝性骨疾患	保健・医療推進センター 相良	3講
10	17	月	3	乳腺・内分泌	甲状腺外科	移植消化器外科 山之内	3講
10	17	月	4	乳腺・内分泌	乳腺外科	腫瘍外科 矢野	3講
10	24	月	3	糖尿病	糖尿病の慢性合併症	保健・医療推進センター 古林	3講
10	24	月	4	性腺・消化管ホルモン	性分化異常症・消化管ホルモン産生腫瘍	第一内科 堀江	3講
10	31	月	3	脂質異常症	リポ蛋白代謝・分類、治療	非常勤講師 山崎	3講
10	31	月	4	肥満	分類・成因・治療、メタボリックシンドローム		3講
11	7	月	3	TBL	代謝疾患	第一内科 森・阿比留	4講
11	7	月	4				4講
11	14	月	3	TBL	内分泌疾患	第一内科 堀江	4講
11	14	月	4				4講

免疫・アレルギー疾患系

責任者	氏名	川上 純	内線	7260
	教室	内科学第一	e-mail	atsushik@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日の午後		

対象年次・学期	3年・後期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	1
英語名	Immunology and Allergy		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

免疫・アレルギー疾患、特にリウマチ・膠原病の病態・診断・治療について講義する。リウマチ・膠原病の分野は病態解析、診断技術、治療法の進歩が著しい分野である。これら疾患群の共通所見、疾患特異的所見および病態に応じた治療法の選択などを学んでほしい。内容は各疾患を講義した後に、これら疾患群の理解に重要な臓器病変や治療のまとめおよび最近のトピックスも授業する。

2. 授業内容（講義・実習項目）

講義主体（スライドとシラバス）

3. 教科書、参考書等

書名	著者	出版者	定価
シラバス	講義担当者		
膠原病・リウマチ診療	東京女子医科大学附属 膠原病リウマチ痛風センター	MEDICAL VIEW	9500 円
膠原病学(改訂第6版)	塩沢 俊一	丸善	16200 円
膠原病診療ノート第3版	三森 明夫	日本医事新報社	5800 円

4. 成績評価の方法・基準

筆記試験の点数 60%以上で合格とする。

5. 教員名

第一内科 : 川上 純、中村英樹、一瀬邦弘、岩本直樹

保健学科 : 折口智樹

第二内科 : 西野友哉、角川智之

皮膚科 : 鋤塚さやか

非常勤講師: 井田弘明 (久留米大学医学部呼吸器・神経・膠原病内科教授)

右田清志 (国立病院機構長崎医療センター)

6. 備考（準備学習等）

シラバスに目を通しておくこと。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

免疫・アレルギー疾患系講義予定（3年後期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
9	9	金	1	総論1	自己免疫、リウマチ性疾患総論	第一内科：川上	3講
9	16	金	1	各論1	全身性エリテマトーデス	第一内科：一瀬	3講
9	16	金	2	各論2	強皮症、シェーグレン症候群	第一内科：中村	3講
9	23	金	1	総論2	リウマチ膠原病の主要徴候、臨床検査	非常勤講師：右田	3講
9	23	金	2	各論3	多発性筋炎／皮膚筋炎 混合性結合組織病	第一内科：川上	3講
9	30	金	1	各論4	脊椎関節炎／ベーチェット病	非常勤講師：右田	3講
9	30	金	2	各論5	関節リウマチの病態	非常勤講師：井田	3講
10	7	金	1	各論6	その他のリウマチ性疾患、類縁疾患	第一内科：岩本	3講
10	7	金	2	各論7	関節リウマチの治療 成人発症ステイル病	保健学科：折口	3講
10	14	金	1	各論8	血管炎症候群	保健学科：折口	3講
10	14	金	2	リウマチ性疾患の治療	リウマチ性疾患の治療	第一内科：中村	3講
10	21	金	1	リウマチ性疾患の腎病変	リウマチ性疾患と腎	第二内科：西野	3講
10	21	金	2	膠原病の皮膚症状	膠原病の皮膚症状	皮膚科：鋤塚	3講
10	28	金	1	リウマチ性疾患の病因	診断、治療、病態：最近のトピックス	第一内科：川上	3講
10	28	金	2	リウマチ性疾患の肺病変	リウマチ性疾患と肺	第二内科：角川	3講
11	4	金	1	免疫・アレルギー系 TBL		第一内科：岩本	4講
11	4	金	2				4講

腎 泌 尿 器 系

責任者	氏名	酒井英樹	内線	7340
	教室	腎泌尿器病態学（泌尿器科学）	e-mail	hsakai@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16:00～17:00（火曜日）泌尿器科医局		

対象年次・学期	3年・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
英語名	Nephro-urology		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

ねらい：小児から高齢者まで、すべての年齢層を対象にした腎・尿路系疾患の病態、診断および治療を理解する。

方法：生理学、腎臓内科学、小児科学、泌尿器科学の各分野が分担して講義を行う。

到達目標：1) 腎・泌尿器の構造と機能を理解し、異常所見を識別できる—特に腎の生理と排尿の生理を理解することが重要である。2) 腎・泌尿器系疾患の主要症候を理解し、鑑別疾患を挙げることができる。3) 腎・泌尿器系の検査法を理解し、診断へ応用できる。4) 各疾患の治療法を概説できる。また、小児と成人の差違、内科的あるいは外科的治療の差違について説明できる。

2. 授業内容（講義・実習項目）

体液の恒常性維持における腎の機能について学び、腎・泌尿器系疾患の病態、症候、検査、診断および治療について系統的に講義する。この系で学ぶ主要な疾患は、腎不全、糸球体疾患、ネフローゼ症候群、尿細管間質病変、高血圧・腎血管病変、全身性疾患に合併した腎病変、小児の腎疾患、外科的処置が必要な腎・尿路系疾患（腫瘍、結石、外傷）、排尿障害、尿路感染症である。

3. 教科書、参考書等

書名	著者	出版社	定価
エッセンシャル腎臓内科学	富野康日己 編	医歯薬出版	5,000 円
ダイナミックメディスン6巻	下条文武・斉藤康	西村書店	3,800 円
講義録 泌尿器科学	荒井陽一 小川 修 編	メジカルビュー	6,000 円
Smith's General Urology	Emil Tanagho	Lange	8,000 円
病気が見える腎・泌尿器		医療情報科学研究所	3,564 円
Renal disease:classification and atlas of glomerular disease.	Churg/Bernstain/ Glassock	IGAKU/SHOIN	23,900 円
小児腎臓病学	日本小児腎臓病学会編	診断と治療社	10,290円
図解腎臓内科学テキスト	富野康日己 編	中外医学社	7,600円

4. 成績評価の方法・基準

前期末に筆記試験を行う。各分野の配点は、小児科10点、腎臓内科45点、泌尿器科45点とし、合計60点以上を合格とする。

5. 教員名

病態生理制御学（腎臓内科）：西野友哉、小畑陽子、浦松 正、牟田久美子、太田裕樹
 血液浄化療法部：錦戸雅春、北村峰昭
 展開医療科学（小児科）：森内浩幸、白川利彦
 腎泌尿器科学（泌尿器科）：酒井英樹、宮田康好、望月保志、木原敏晴、松尾朋博、井川掌（久留米大）

6. 備考（準備学習等）

腎・尿路系の解剖、生理、病理学について復習しておくこと。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

腎泌尿器系授業予定（3年後期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
9	7	水	3	腎・泌尿器系	腎・泌尿器系 イントロダクション	泌尿器科・酒井	4講
9	7	水	4	内科的腎疾患	臨床総論；腎臓の構造・機能、腎疾患の主要症候	腎臓内科・西野	4講
9	14	水	3	内科的腎疾患	腎疾患の検査（検尿異常、腎機能検査）	腎臓内科・太田	4講
9	14	水	4		尿細管間質疾患		4講
9	21	水	3	内科的腎疾患	糸球体腎炎	腎臓内科・浦松	4講
9	21	水	4		ネフローゼ症候群		4講
9	28	水	3	内科的腎疾患	二次性腎障害（代謝性疾患、薬剤、妊娠と腎など	腎臓内科・牟田	4講
9	28	水	4		総括①		4講
10	5	水	3	内科的腎疾患	慢性腎不全、CKD、CKD-MBD(Ca、P代謝)、透析と血液浄化療法	腎臓内科・北村	4講
10	5	水	4		急性腎不全、AKI		4講
10	12	水	3	内科的腎疾患	電解質異常(水、Na異常)	腎臓内科・小畑	4講
10	12	水	4		電解質異常(酸塩基異常)		4講
10	19	水	3	内科的腎疾患	総括②	腎臓内科・太田	4講
10	19	水	4	泌尿器科疾患	泌尿器科学総論：解剖・生理	泌尿器科・宮田	4講
10	26	水	3	泌尿器科疾患	泌尿器科学総論：症候・検査法	泌尿器科・宮田	4講
10	26	水	4		尿路性器外傷		4講
11	2	水	3	小児の腎疾患	先天性腎疾患、先天性尿細管疾患	小児科・森内（白川）	4講
11	2	水	4		腎尿路奇形、後天性腎疾患、腎不全		4講
11	9	水	3	泌尿器科疾患	腎腫瘍、腎血管性病変	血液浄化・錦戸	4講
11	9	水	4		腎不全、腎移植、腎不全外科		4講
11	11	金	3	泌尿器科疾患	性機能障害	泌尿器科・宮田	4講
11	11	金	4		小児泌尿器疾患		泌尿器科・木原
11	16	水	3	泌尿器科疾患	尿路結石	泌尿器科・井川（久留米大学）	4講
11	16	水	4		排尿機能障害		泌尿器科・松尾
11	18	金	3	内科的腎疾患	腎臓内科TBL	腎臓内科・浦松	4講
11	18	金	4				4講
11	21	月	3	泌尿器科疾患	膀胱疾患、尿路上皮腫瘍	泌尿器科・宮田	4講
11	21	月	4		炎症性疾患		泌尿器科・酒井
11	25	金	3	泌尿器科疾患	泌尿器科TBL	泌尿器科・望月	4講
11	25	金	4				4講

生殖系

責任者	氏名	増崎英明	内線	7361
	教室	産科婦人科学	e-mail	bunbuku@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金 17:00～17:30		

対象年次・学期	3年・後期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	2.5
英語名	Reproductive Medicine		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

(ねらい) 男女の生殖器の解剖、生理および病理について系統的に理解するのがねらいである。

(到達目標) 男性生殖器、女性生殖器の解剖、発生およびその異常について説明できる。男性不妊症や主な男性生殖器疾患について説明できる。女性の性周期、妊娠成立のしくみ、不妊症および不育症について説明できる。正常妊娠・胎児・分娩の経過およびその異常としてのハイリスク妊娠・分娩について説明できる。主な女性生殖器疾患について説明できる。

2. 授業内容（講義・実習項目）

講義時間は6時間（4コマ）であり、その内訳は、第三解剖1.5時間（1コマ）、泌尿器科4.5時間（3コマ）、産婦人科5.4時間（3.6コマ）およびIBL6時間（4コマ）である。

3. 教科書、参考書等

	著者	出版社	定価
ムーア人体発生学	Moore, Persaud	医歯薬出版	9,500円
新泌尿器科学	内藤誠二	南山堂	8,700円
標準産科婦人科学	岡井 崇 他編	医学書院	8,610円
臨床産科超音波診断 改訂2版	増崎英明	メディカ出版	7,800円

4. 成績評価の方法・基準

出席点および筆記試験により評価する。筆記試験問題は担当教員が分担して作成する。原則として60%以上の得点をもって合格とする。

5. 教員名

第三解剖 : 小路武彦
 泌尿器科 : 酒井英樹
 産婦人科 : 増崎英明、三浦清徳、金内優典、吉田 敦、北島道夫、増崎雅子、嶋田貴子、長谷川ゆり、濱口大輔、北島百合子、谷口憲、原田亜由美

非常勤講師 : 吉村泰典 (元慶應義塾大学) 榎原久司 (大分大学)
 片渕秀隆 (熊本大学) 藤森敬也 (福島県立医大)
 村上 誠 (佐世保市立総合病院) 藤下 晃 (済生会長崎病院)
 中山大介 (佐世保市立総合病院) 小寺宏平 (長崎市立市民病院)
 中島久良 (長崎市立市民病院) 江口二郎 (佐世保共済病院)

6. 備考（準備学習等）

とくになし。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

生殖系授業予定(3年後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
9	6	火	1	イントロダクション	産婦人科学について	産婦人科・増崎	3講
9	6	火	2	性分化と性器の発生	性器の発生、性分化異常	解剖3・小路	3講
9	7	水	1	不妊(1)	性分化異常／男性不妊症	非常勤・江口	3講
9	7	水	2	女性の性機能	性機能系のホルモン／視床下部-下垂体-卵巣系／性器の周期的変化	産婦人科・北島百	3講
9	13	火	1	婦人科腫瘍の病因学	ノーベル生理医学賞と子宮頸癌予防HPVワクチン	非常勤・片渕	3講
9	13	火	2	外陰・膣の疾患(1)	外陰・膣の炎症／性感染症／骨盤内炎症性疾患(PID)	産婦人科・嶋田	3講
9	14	水	1	男性生殖器の疾患(1)	前立腺癌／前立腺肥大症	泌尿器科・酒井	3講
9	14	水	2	男性生殖器の疾患(2)	精巣腫瘍／陰茎腫瘍	泌尿器科・酒井	3講
9	20	火	1	女性性器の構造	女性性器の構造／産婦人科診察	非常勤・藤下	3講
9	20	火	2	女性性器の異常	形態異常／位置異常／損傷と瘻	非常勤・藤下	3講
9	21	水	1	子宮の疾患(1)	子宮筋腫／子宮内膜症／子宮腺筋症	産婦人科・原田	3講
9	21	水	2	子宮の疾患(2)	子宮頸管ポリープ／子宮頸部異形成／子宮頸癌	非常勤・中島	3講
9	27	火	1	月経	月経周期・排卵の調節機構	非常勤・檜原	3講
9	27	火	2	不妊(2)	不妊症—生殖補助技術の光と陰	産婦人科・谷口	3講
9	28	水	1	付属器の疾患(1)／子宮の疾患(3)	卵巣腫瘍・類腫瘍病変／子宮内膜増殖症・子宮体癌	産婦人科・金内	3講
9	28	水	2	外陰・膣の疾患(2)	外陰癌／膣癌	非常勤・村上	3講
10	4	火	1	付属器の疾患(2)	卵巣癌・卵管癌	非常勤・小寺	3講
10	4	火	2	妊娠の生理(1)	生命のはじまり—受精と着床／胚形成と胎盤形成	産婦人科・北島	3講
10	5	水	1	婦人科手術	エキスパートが教える婦人科手術の種類とその特徴	産婦人科・金内	3講
10	5	水	2	加齢と疾患	更年期障害／老年期障害	産婦人科・北島	3講
10	11	火	1	妊娠の生理(2)	胎児の発育／胎児-胎盤系の生理／妊娠による母体の変化	産婦人科・濱口	3講
10	11	火	2	女性医学	女性の不定愁訴／漢方	産婦人科・増崎雅	3講
10	12	水	1	医療倫理	生殖医療と生命倫理	非常勤・吉村	3講
10	12	水	2	正常分娩(1)	分娩の概念／陣痛初来機序／分娩の3要素／分娩機転	産婦人科・北島百	3講
10	18	火	1	妊娠の異常(1)	妊娠悪阻／流産／不育症／子宮外妊娠	非常勤・藤下	3講
10	18	火	2	正常分娩(2)	正常分娩の経過と管理／産褥期／新生児	産婦人科・谷口	3講

生殖系授業予定(3年後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
10	19	水	1	難産	陣痛の異常／児頭骨盤不均衡 (CPD) ／胎位・胎向・胎勢の異常	産婦人科・嶋田	3講
10	19	水	2	妊娠の異常 (2)	早産と前期破水	産婦人科・吉田	3講
10	26	水	1	産科処置	産科手術／分娩誘発・促進／産科麻酔	産婦人科・濱口	3講
10	26	水	2	妊娠の異常 (3)	妊娠中の高血圧	産婦人科・吉田	3講
11	1	火	1	胎児機能不全	胎児心拍数陣痛図 (CTG) の読み方	非常勤・藤森	3講
11	1	火	2	妊娠の異常 (4)	産科出血／産科ショックとDICー産科救急の対処法	産婦人科・原田	3講
11	2	水	1	妊娠の異常 (5)	多胎妊娠	産婦人科・三浦	3講
11	2	水	2	妊娠の異常 (6)	絨毛性疾患／胎児発育遅延 (FGR)	産婦人科・北島百	3講
11	8	火	1	先天異常	先天異常／遺伝／出生前診断／胎児治療	非常勤・中山	3講
11	8	火	2	妊娠の異常 (7)	羊水過多症／羊水過少症／胎盤・臍帯の異常	産婦人科・長谷川	3講
11	9	水	1	妊娠の異常 (8)	妊娠と感染／周産期感染症	産婦人科・嶋田	2講
11	9	水	2	合併症妊娠 (1)	内分泌・代謝／自己免疫／精神神経疾患	産婦人科・長谷川	2講
11	15	火	1	TBL (1)	婦人科腫瘍	産婦人科・金内	4講
11	15	火	2	TBL (2)	周産期 1	産婦人科・吉田	4講
11	16	水	1	産婦人科の遺伝	胎児／妊婦／がんに関する遺伝	産婦人科・三浦	3講
11	16	水	2	合併症妊娠 (2)	婦人科／心血管／血液／腎・泌尿器／消化器／呼吸器疾患	産婦人科・長谷川	3講
11	28	月	1	TBL (3)	周産期 2	産婦人科・三浦	4講
11	28	月	2	TBL (4)	生殖内分泌	産婦人科・北島	4講

小 児 系

責 任 者	氏 名	森 内 浩 幸	内 線	7298
	教 室	小児科学	e-mail	hiromori@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	17:00 - 18:00 / Tel095-819-7298		

対象年次・学期	3年・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
英語名	Pediatrics & Pediatric Surgery		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

ねらい：ヒトが胎芽期、胎児期、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期を駆け抜けながら刻々と成長発達していく過程における生理と病理を、内科的および外科的な観点から学んでいく。『小児は大人を小さくしたものではない』ことを理解してもらう。

到達目標：正常発達過程を理解することができる。小児の特異性を身体的・精神的・社会的側面から理解することができる。成長発達していく過程で生じる主な内科的・外科的疾患の病態生理・臨床的特徴・診断法・予防法・治療法を覚える。（小児科総括講義と併せて）小児患者に対する症候学的アプローチの基礎を習得し、小児科臨床実習を行うにあたって必要な臨床知識を整理することができる。

2. 授業内容（講義・実習項目）

概要：オムニバス形式で小児の正常発達、（他の系で取り上げられていない）小児内科的疾患、小児外科的疾患、小児形成外科的疾患、小児歯科学を講義する。

3. 教科書、参考書等

先天奇形症候群アトラス	梶井・黒木・新川 編	南江堂
標準小児外科学	鈴木・横山・岡田 編	医学書院
標準形成外科学	秦・野崎 編	医学書院

（注：小児科に関しては、特に指定しない。必要な資料は適宜配布または紹介する。）

4. 成績評価の方法・基準

定期考査（95%）によって、主な小児疾患の病態生理・臨床像・診断・予防・治療法の理解と習得できた知識のレベルを評価する。レポート（5%）によって、小児の成長発達に関する理解度を評価する。

5. 教員名

森内浩幸、木下史子、橋本邦生（小児科）；田浦康明（外科1）；小坂太一郎（外科2）；矢野浩規（形成外科）；【非常勤講師】本村克明（長崎市保健所）、藤原 卓（歯学部）；近藤達郎（みさかえの園）；平松公三郎（みさかえの園あゆみの家）；本山和徳、小柳憲司（長崎県立こども医療福祉センター）

7. 備考（準備学習等）

小児の疾患については他の多くの系の授業の中でも取り上げられており、それらを総合して始めて小児の疾患を網羅的に学ぶことができる。小児系とこれらの系の関連講義で学んだことを相互に連結されるように予習・復習する。

8. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

小児系授業予定（3年後期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
9	8	木	3	総論・成長・発達・育児	総論・成長・発達・育児：乳幼児期は感受性が高く、両親から多くを学び、親子が共に急速に成長する時期である。妊娠・出産・子育てを理解し、人生で最も大事な時期を医師として如何に支援していくかを学ぶ。	森内（小児科）	4 講
9	8	木	4				4 講
9	15	木	3	新生児	新生児期は胎児期から乳児・小児期への移行期にあたり、特殊な生理・病態を呈する。胎児・新生児の生理をよく理解してもらった上で、早産に代表されるハイリスク新生児の病態や疾患について解説する	木下（小児科）	4 講
9	15	木	4				4 講
9	29	木	3	呼吸器・アレルギー・免疫	①小児気管支喘息の病態生理・診断・重症度分類・治療（急性発作への対応、長期管理の為の薬物療法）、②食物アレルギーの臨床型分類・診断・治療・予防、③アナフィラキシーの定義・対応を学ぶ。④小児期に発症する自己免疫疾患を習得する。	橋本（小児科）	4 講
9	29	木	4				4 講
10	6	木	3	内分泌・代謝・栄養	小児の成長の特性について理解するとともに、発達期の栄養と内分泌代謝疾患の概要を把握する。	本村（非常勤：長崎市保健所）	4 講
10	6	木	4				4 講
10	13	木	3	先天異常・遺伝	メンデル遺伝、多因子遺伝、ミトコンドリア遺伝、染色体異常、後成的修飾による疾患を各々概説し、遺伝性疾患患者がおかれている諸問題及びそれに対する遺伝カウンセリングについて論じる。	近藤（非常勤：みさかえの園）	4 講
10	13	木	4				4 講
10	20	木	3	小児心療内科	小児の心と身体の間わりについて学ぶ。小児の心身症、行動障害、不登校など、心身医学的配慮が必要な病態と、その対応について理解する。	小柳（非常勤：長崎県立こども医療福祉センター）	4 講
10	20	木	4	感染症	小児の免疫学的特徴を理解し、種々の病原体の疫学と生態学を知り、小児における主な感染症を学ぶ。	森内（小児科）	4 講
10	25	火	3	小児外科（1）	顔面・頸部、胸部（胸壁・肺・気管・縦隔・横隔膜・乳腺・食道）、消化管（胃・十二指腸・空回腸・結腸・直腸）疾患の発生、病態、診断、治療について理解する。	小坂（第2外科）	4 講
10	25	火	4				4 講
10	27	木	3	小児形成外科	顔面・手の発生と様々な先天異常、および発達中の小児における治療とその影響について講義する。	矢野（形成外科）	4 講
10	27	木	4	前半：療育医療	医療を要する重度重複障害児の存在を認識し、命を支え障害と共に生きるために必要な医療について理解する。	平松（非常勤：国立病院機構長崎病院）	4 講
				後半：小児歯科	①口腔や歯に影響を及ぼす疾患や薬剤について、②齲蝕菌の伝播と齲蝕の発生メカニズムについて	藤原（非常勤：歯学部）	
11	10	木	3	小児外科（2）	肝胆膵・腹壁・移植・腫瘍（特に胆道閉鎖症、先天性胆道拡張症）、腹壁形成異常（臍帯ヘルニア、腹壁破裂）、鼠径ヘルニア、臍ヘルニア、小児の移植、小児固形腫瘍と集学的治療について概説する。	田浦（第1外科）	4 講
11	10	木	4				4 講
11	17	木	3	発達障害	発達障害の概念、医療的対応について述べ、児の早期発達支援ならびに家族支援の重要性を学ぶ。	本山（非常勤：長崎県立こども医療福祉センター）	4 講
11	24	木	3	TBL		森内（小児科）	4 講
11	24	木	4				4 講

放射線医学

責任者	氏名	上谷 雅 孝	内 線	7353
	教室	放射線医学 (放射線診断治療学)	e-mail	uetani@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日午前10時～12時		

対象年次・学期	3年・後期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	1
英語名	Radiology		

1. 授業のねらい・方法・到達目標 と 2. 授業内容

放射線医学は、放射線診断学、核医学および放射線治療学から成り立っている。放射線診断学には、胸部、消化器、循環器、骨軟部、泌尿器、脳神経などの疾患の診断が含まれ、診断法としては単純X線撮影、種々の造影X線検査、超音波検査、CT、MRIなどがある。これらの中には放射線を用いないものも含まれ、画像診断と呼ばれることも多い。本講義では、各種診断法及び核医学検査の基本的な原理、正常像および代表的な疾患の異常像を学び、また放射線治療の原理と基本的な技術および適応について学ぶ。到達目標は、国家試験レベルの代表的疾患の画像診断ができるようになること、および放射線治療の適応・方法についての理解である。

3. 教科書、参考書等

書 名	著 者	出版社	定 価
標準放射線医学 第7版	西谷 弘 他編	医学書院	10,500円
画像診断を学ぼう 単純写真とCTの基本	Hering W 著、江原 茂訳	メディカルサイエンス・インターナショナル	6,800円
スクワイア放射線診断学	Novelline RA著、藤原卓哉訳	羊土社	8,400円
新版胸部単純X線診断	林 邦昭、中田 肇 編	秀潤社	4,800円
胸部単純X線アトラス	芦澤和人 編著	ベクトル・コア	4,500円

4. 成績評価の方法・基準

4年時学年末試験にて60%以上の得点率にて合格とする。

5. 教員名

放射線科：上谷雅孝、坂本一郎、森川 実、末吉英純、林 秀行、石丸英樹、西田暁史、瀬川景子、井手口怜子

先端医育センター：江川亜希子

臨床腫瘍学：芦澤和人

原研アイソトープ診断治療学：工藤 崇

非常勤講師：松永尚文（山口大学医学部放射線科）

6. 備考（準備学習等）

画像診断や放射線治療の理解は、各疾患の病態生理・病理学等の理解が基本となる。これまで学習してきた各臓器・領域の主な疾患について復習しておいてほしい。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

放射線医学授業予定（3年後期）

月	日	曜日	校時	授業内容	担当講座等・教員	教室
10	20	木	1	骨・関節（1）	上谷	4講
10	20	木	2	腹部（1）	林	4講
10	25	火	1	腹部（2）	西田・石丸	4講
10	25	火	2	脳神経（1）	森川	4講
10	27	木	1	脳神経（2）	井手口	4講
10	27	木	2	放射線治療（1）	江川	4講
11	17	木	1	放射線治療（2）	山崎	4講
11	17	木	2	乳腺	瀬川	4講
11	18	金	1	胸部（1）	芦澤	4講
11	18	金	2	胸部（2）	芦澤	4講
11	22	火	1	血管造影・IVR	坂本・末吉	4講
11	22	火	2	核医学（1）	工藤	4講
11	24	木	1	核医学（2）	工藤	4講
11	24	木	2	心・大血管	松永（山口大学）	4講

プレリサーチセミナー

責任者	氏名	柳原 克紀	内線	7574
	教室	臨床検査医学（病態解析・診断学）	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日の17:00～18:00		
対象年次・学期	1年～3年：通年		講義形態	担当教員が講義形態を決定する。
必修・選択	必修 (研究医枠及び熱帯医学研究医枠)		単位数	各1単位
英語名	Pre research seminar			

1. 授業のねらい・目標

基礎医学を担う研究者の育成により卓越した教育及び研究成果を社会に還元することは医学部の使命である。基礎教室配属による少人数教育により基礎科学に必須の基礎的学力や柔軟な応用力を身につけ、科学的思考により問題を解決できる将来の医療人を養うことを目標とする。

2. 配属教室の選択方法

配属教室は、2年次前期終了後に、科目責任者と相談のうえ、仮配属として決定し、3年次のプレリサーチセミナー及びリサーチセミナーで本配属とする。

また、リサーチセミナーの海外実習については、配属教室と相談のうえ、派遣学生としての応募を可能とする。

3. 配属教室

医学部基礎系、熱帯医学研究所及び原爆後障害医療研究所の各教室

4. 授業内容等

1年次：論文研究（ゼミ形式）と各教室研究内容の紹介セミナー

2年次前期：先導生命科学支援センター及び共同利用研究センターにおいて、研究医実習を行う。

2年次後期～3年次：配属教室において、研究テーマ・目標を設定し実験を行う。

5. 成績評価の方法・基準

1年次：出席状況及び課題レポート等により総合判断で評価する。

2年次：出席状況及び課題レポート等により総合判断で評価する。

3年次：配属教室での活動、研究成果に基づき配属先の担当教員が100点満点で評価する。

6. 指導教員など

医学部基礎系教室等の教員

7. 備考（準備学習等）

担当教員が提示する。

8. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

リサーチセミナー

責任者	氏名	福岡順也	内線	7053
	教室	臨床病理学	e-mail	fukuokaj@nagasaki-u.ac.jp
	アドバイザー			
対象年次・学期	3年・後期	講義形態	講義・実習	
必修・選択	必修	単位数	11.5	
英語名	Research Seminar			

1. 授業のねらい・方法・到達目標

有能な医師になる為には、基礎研究を理解し、実施する能力が必須である。医学はまだ発展途上にあり、有能な医師は、その発展の一端を担える能力、研究成果の是非を判断する能力を習得しなければならない。現在、専門医の重要性が強調される裏側で、研究に対する意識が薄らぐ傾向にあると言えるが、リサーチセミナーでは、研究の実践を通じて「医学」が「科学」としていかに発展するかというプロセスを学ぶ。セミナー期間中は、熱帯医学研究所・原爆後遺症医療研究所を含む基礎系教室で終日研究活動に従事し、配属先の基礎医学系教員とマンツーマンの指導を受け、研究背景を学術論文から理解し、研究計画書を作成して実践し、研究結果をまとめ、発表および討論を行う能力を身につけることを目標とする。なお合同発表会は、可能な限り一般公開する。

2. 期間

平成29年1月4日（水）から2月24日（金）
 研究報告書は学務係まで提出すること。（締め切り3月1日（水））

3. 研究テーマの選択方法

1. 各教室から研究テーマ、そのテーマを指導する責任教官名とそのテーマに従事する学生数が公示される。
2. 各学生は希望する教室とテーマを1つ選択して提出する。
3. この時点で学生自身がテーマを提案してもよい。その場合にはそのテーマについて指導することを承諾する講座を必要とする。
4. 各研究テーマの定員を超過した場合には、学生間の抽選により決定する。
5. 抽選にもれた学生は、定員に満たないテーマの中から、テーマを1つ選択して提出する。
6. 全学生が何れかのテーマに属するまで上記4. と5. の操作を繰り返す。

4. リサーチセミナー履修の認定の条件

1. セミナー開始時にオリエンテーション（総合オリエンテーション、実験動物についての講義）、必要な動物実験施設やアイソトープ実験施設の使用に関する説明会に出席していること。
2. 研究活動に200時間以上に従事していること。
3. 研究報告書（A4のフォーマットを準備）を学務係へ提出すること。（〆切り3月1日）
 （ワープロまたはボールペン書きのものに限る。鉛筆書きは不可）
4. 実際の研究記録は配属教室の指導責任者に提出すること。配属教室ではリサーチセミナー終了時に発表会を開き、研究記録とともに評価をしてもらう。指導教官はこの評価をリサーチセミナー責任者に提出する。（〆切り3月1日）
5. 今年度5月に開催される「リサーチセミナー合同発表会」に出席していること。
6. 翌年度に開催される「リサーチセミナー合同発表会」に出席し、発表・討論を行うこと。

5. 指導講座等

医学部及び熱帯医学研究所・先導生命科学支援センターの基礎系講座。

6. 成績評価の方法・基準

研究報告書・担当教官の評価・発表会の評価から総合的に評価する。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

English for International Medicine

Instructors: Luc Loosveldt/Jim Briganti

Class Time : to be decided

E-mail: lluc@nagasaki-u.ac.jp

Office Hours: to be announced in class

Course Objectives	
<p>This course is designed for students interested in careers in international medicine. Focus will be on developing relevant and effective communication techniques, building fluency in spoken and written English, and reinforcing critical thinking skills in English. A range of materials will be introduced to discuss global health issues. Students will be asked to research and introduce their own materials in class to show their understanding.</p>	
Required Textbooks	
<p>A range of materials will be used to introduce global health issues for discussion.</p>	
Topics	
1	First topic - pre-discussion, useful vocabulary and phrases, assignment of group roles
2	Small group discussion of readings - preparation of introductory presentation
3	Short presentations with Q&A
4	In-group review of short presentations + choosing the next topic
5	Small group discussion of readings - preparation of second short presentation
6	Short presentations with Q&A
7	In-group review of short presentations + choosing the next topic
8	Small group discussion of readings - preparation of third short presentation
9	Short presentations with Q&A
10	In-group review of short presentations + choosing the next topic
11	Small group discussion of readings - preparation of fourth short presentation
12	Short presentations with Q&A
13	Choosing the topic for the final presentation, preparing the poster
14	Review of the poster + practice sessions
15	Final poster presentations + evaluations and review of performance
Course work and Evaluation	
<p>Students will be evaluated on the basis of classwork, assignments, group work, group presentation, on-line forum participation, written assignments, and review tests. A detailed breakdown of the evaluation process will be provided in class.</p>	
<p><i>*The above syllabus is meant as a general guide, not a definite time table.</i></p>	

医学ゼミ

責任者	氏名	柳原 克紀	内線	7574
	教室	臨床検査医学（病態解析・診断学）	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日の17:00～18:00		

対象年次・学期	1年：前期、後期 2年：前期、後期 3年：前期 4年：前期	講義形態	担当教員が講義形態を決定する。
必修・選択	必修	単位数	前期、後期各1
英語名	Small group medical seminar		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

必修選択の科目であり、各科目10名前後の少人数教育を行う。自らが特に学習したい分野を選択し、その分野についてコアとなる教科内容を越えて特定の内容を深く掘り下げる学習を行う。当該分野の医学・科学に対する探求心・問題解決能力の育成と、より深い理解を目指す。少人数で担当教員との双方向性の授業を行うことにより教官と親しく交流すると共に、1年次から4年次まで学年間の壁を越えて共に学ぶ環境を提供する。AO学生は、医学ゼミを通して当該領域の知識を深める。

2. 授業科目の選択方法

- 各開講科目について、教育目標、授業内容、担当教員、開講場所、開講時間帯等を公示する。
- 各学年開始前に、前期・後期別に受講希望科目を学務係に提出する（第3希望まで）。
- 第1希望を優先し、各科目へ学生の割り振りを行う。

3. 教科書、参考書等

担当教員が提示する。

4. 成績評価の方法・基準

1、2年次前期・後期、3年次前期、4年次前期に開講する。3年次への進級には2年次で1単位以上、4年次への進級には3年次までに2単位以上、5年次への進級には4年次までに3単位以上修得する必要がある。卒業のための最低修得単位数は3単位である。

5. 指導教員など

医学科、熱帯医学研究所、先導生命科学研究支援センター教員

6. 備考（準備学習等）

担当教員が提示する。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

平成28年度「医学ゼミ」開講テーマ一覧(3年生)

教室	責任者名	ゼミテーマ(サブタイトル)	目的・方針	内容	対象学年 開講時期	開講時間	場所	評価方法	備考
組織解剖 (第三解剖)	小路 武彦	ビデオで学ぶ組織発生	発生学・組織実習で得た知識を深めることを目的とする。	日本語の動画教材を用い、発生学から疾患への理解を深める。各回組織発生に関するDVDを鑑賞の後、グループ討論を行う。	2年前期 3年前期 4年前期	金曜日1校時	小会議室	出席、レポートを総合的に評価。	
医科薬理学	有賀 純 中川 慎介 巽 理恵 畑山 実	最新の論文から探る医学生物学研究の潮流	トップジャーナルに掲載された脳神経、血管、幹細胞に関する論文の学術的背景や意義を理解して、最新の研究動向を把握し、今後の研究戦略を考える。	Nature, Science, Cellなどの国際科学誌の最新号に掲載された文献を毎週1報ずつ紹介する。発表はパワーポイントなどを使用し、論文に記載されている実験内容や結果を解説する形式で行う。なお、論文の選定から読解、発表まで教官がマンツーマンで指導する。期間中に2回の発表を予定している。	2年前期 3年前期 4年前期	金曜日1校時	薬理学教室 セミナー室	出席内容、発表内容を考慮して評価する。	
免疫学	由井 克之	論文から学ぶ免疫学	重要な原著論文に触れることにより、免疫学の方法論とその根底にあるアイデアに対する理解を深め、問題解決能力を滋養する。「免疫学」の授業を履修した4年生を主な対象とするが、意欲ある2年生も歓迎する。	免疫学関連の主要な論文(英文)の抄読会を行う。学生があらかじめ自学した論文の内容を紹介し、それについて全員で議論し、理解を深める。論文の選択、読み方などは適宜指導する。	2年前期 3年前期 4年前期	金曜日1校時	免疫学分野 集会室	発表内容、参加態度、レポート、出欠を総合的に評価	
感染分子	西田 教行 田口 謙	ケースレポートから学ぶ感染症	原著論文を読むことで、科学的批判力を養う	NEJMのCase reportから感染症の症例を選択的に取り上げ、丁寧に読解を行う。	2年前期 3年前期 4年前期	金曜日1校時	基礎棟8階 集会室	出席およびレポート	
公衆衛生	青柳 深	論文から学ぶ公衆衛生学	文献を通して医学の社会性について学ぶ	公衆衛生学に関連した論文を各自が紹介・発表し、討論する。	2年前期 3年前期 4年前期	金曜日1校時	公衆衛生学 資料室	積極性、レポート	
第一内科	川上 純	臨床内科のエッセンス	Early Bird lesson(EBL)への参加を行ない、臨床の基本的な考え方を学ぶ。	当科では臨床実習生、初期研修医に対して行なわれるEarly Bird lesson(EBL)へ参加する。EBLは、鑑別診断・病態の説明や標準的治療の解説から、最新のトピックスまでの内容を含み、参加を通じて実際の臨床の考え方を学ぶ。	3年前期 4年前期	火曜日・水曜日 午前7時45分～ 8時30分	本館9階ゼミ 室(906号室)	出席やレポートによる総合評価	
消化器内科	竹島 史直	GUT CLUB	様々な腸疾患の臨床をより深く学習する。	入院、外来の症例検討を行うことで腸疾患に対する興味を喚起するとともに、それに関する最新の英文臨床研究やUp to Dateの抄読会を通じて理解を深める。	3年前期	金曜日16時30分	病院本館9階 チェアマン室	出席や発表内容より総合的に評価	
精神神経科	黒滝 直弘	パトグラフィーと司法精神医学を究める	パトグラフィー(病跡学)とは、過去の偉人等を対象に精神医学・心理学等の視点からその生涯での疾病の意義を分析する。この手法は司法精神医学等にも応用される。本ゼミではこれを学ぶ。	パトグラフィーについて、まず基礎的な知識を学ぶ。その上で参加者一人(又はグループ)毎に、実際に特定の人物(過去だけでなく現代人や事件等も含め)を対象にして、パトグラフィーによる分析を実習する。映像作品等での視覚的な学習も随時実施する。	2年前期 3年前期 4年前期	月曜日又は水曜日18時以降	精神科外来 62番診察室	①ゼミへの積極的な参加姿勢や自主性 ②講義終了後に提出してもらう課題の成果以上を総合的に判断する	参加希望者が10名を超過する場合には、希望者への事前課題等で選考を実施する場合もある。また夕方からの実施のため、その時間帯での別の講義や私的予定など、受講にあたっては十分考慮すること。
腫瘍外科 (第一外科)	日高 重和	内視鏡下手術入門～応用	20世紀後半から急速に進歩した内視鏡下手術は外科手術の概念を変え、現在でもその装置、手術手技は進歩し続けている。最先端の技術であってもその基本手技は以前の開腹手術と同様に非常に重要である。内視鏡下手術の原理、基本操作から応用をトレーニング装置で学びながら、内視鏡下手術への理解を深めてもらう。	内視鏡下手術の基礎としてドライボックス、VRシミュレーターを用いて実際の操作手技を修練してみる。次第に高度なテクニックに移行する。その後、シミュレーターを用いた胆嚢摘出術、ロボット手術シミュレーターに挑戦する。	3年前期 4年前期	水曜日5校時	腫瘍外科医 局	実践トレーニングが主なため出席が重視されます。レポート提出あり。	
移植・消化器外科 (第二外科)	江口 晋	Nagasaki Surgical Club 一外科の歴史から手術理論、手術手技、さらには国試対策まで	外科の入門編から実技さらには国試対策まで幅広く、週替りの講師陣による座談会形式のゼミです。外科実技や英会話も取り入れ、実践的な能力アップも図りたいと思います。	科の歴史まで) 2. 外科の基本手技(縫合、鏡視下手術実技などの実技を含みます) 3. 診察、学会発表に役立つ英会話 4. 外科におけるEBM(論文の見方、読み方教えます) 5. 消化管外科の温故知新:ピルロートって知ってる? 6. 国試に出る外科学(2年生にも分かり易く解説します) 7. 移植についてともに語ろう 8. 乳腺外科のトピックス 9. 小児外科医が未来の子供に出来ること 10. 未来の外科学(ロボット手術、再生医療) 11. 先輩外科医から聞く深い話(座談会形式で熱く語り合います)	2年前期 3年前期 4年前期	金曜日 16:30～17:30	移植・消化器 外科医局(第 二カンファ 室): 医局受 付で問い合 わせてくださ い。	出席を重視する。 ディスカッション内 容。フリートーク形式 ですので、レポート・ 試験などはありませ ん。	* 講義内容、順番は予定であり若干の変更があり得ます。 * 学会などにより開催されない場合がありますので、開講日にはご注意ください。 * 欠席する場合は、医局まで連絡ください。 * 時間帯が合わない場合は、申し出て下さい。
泌尿器科	宮田 康好	マンガで学ぶ“泌尿器科ってなんだ?”	本ゼミを初歩の泌尿器科学入門と位置づけ、マンガという身近な教材を用いて泌尿器科学の受け持つ領域と特徴を知り、さらに発展させて現代医学・医療の基本部分の理解へもつなげていく。	泌尿生殖器の解剖、機能および疾患の特徴などを直観的に捉えられるように、主にマンガを用いて、学生自身が司会進行する形で発表を行う。これに適宜教官からの補足をを行う。また、その発表を通じて簡単なプレゼンテーションスキルやアイデア抽出法についても学ぶ。	2年前期 3年前期 4年前期	金曜日1校時	泌尿器科医 局	出席率、発表および討論への参加態度。	
眼科	Masafumi Uematsu, Yasser Helmy Mohamed (上松聖典、ヤッセル ヘルミーモハメド)	Eye: visual sensory organ	To improve English skill and knowledge of eye diseases	Discussion about eye diseases by using audiovisual materials, etc.	2年前期 3年前期 4年前期	月曜日17:00- 18:30	眼科医局	出席、態度、レポートなどにより総合的に評価する	

教室	責任者名	ゼミテーマ(サブタイトル)	目的・方針	内容	対象学年 開講時期	開講時間	場所	評価方法	備考
産科婦人科	増崎 英明 (北島 道夫)	女性の健康について考える	産婦人科の最新の知見について、教室員とのディスカッションを通じて理解を深める	論文抄読、トピックセミナー、症例検討、講演会	2年前期 3年前期 4年前期	水曜日18:30～	病院11階産婦人科医局ゼミナール室	レポート提出	
臨床検査医学	柳原 克紀	分子診断	臨床検査の観点から分子診断を学ぶ	臨床検査の観点から、臨床微生物や腫瘍の分子診断に関する文献を読む。学生は提供された文献について学習し、発表する。	3年前期 4年前期	金曜日1校時(隔週)	臨床検査医学医局(12階)	積極的な参加、文献の理解、発表を評価する。	
救命救急センター	田崎 修	救急医療を体験しよう	救急医療は拙速であってはならない。本ゼミにおいては、限られた時間の中で論理的に思考し、救急疾患の診断と治療を進める救急医療の醍醐味を体験する。	臓器や診療科の枠を超えて、「救急的」診療法を学ぶ。また、蘇生、診断、災害への対応、緊急の手技、集中治療等、救急医療で必要となる技術をシミュレーションで体験する。	2年前期 3年前期 4年前期	金曜日1校時	大学病院救命救急センターに集合	出席や授業態度で評価する。	
臨床感染症学・感染制御教育センター	泉川 公一	世界の感染症は制圧できるか？	Ebola出血熱や薬剤耐性微生物の脅威に対して人類はどのように対応しているかを学ぶ。生き物vs生き物の独特な医療においてヒトが勝者になれるか、その可能性を探る。	日本のみならず世界各地で発生している様々な感染症について、その診断、治療ならびに先端的な研究について学び、ヒトが微生物をどのように攻略していくのかそのプロセスを学び、臨床と基礎のbridgingとは何かを習得する。	2年前期 3年前期 4年前期	月曜日5校時	長崎大学病院	出席状況、発表などの総合評価	
地域医療学	前田 隆浩	地域医療学入門	地域医療の現状について、自ら調べ、現場のプロフェッショナルから話を聞き、地域医療を理解する。	・地域医療に関する論文(邦文・欧文)や記事、教科書、書籍を集めまとめる。 ・WS形式で知識を共有し理解を深める。 ・実際に地域医療の現場のプロフェッショナルに話を聞く。 ・現在の地域医療について把握し、地域医療の今後について考える。 ・月に一回程度行われる、地域医療の現場で働く人を招いて行う研究会に出席する。	1年前期 2年前期 3年前期 4年前期	・金曜日1校時(7回程度) ・月一回程度18時～20時30分(地域医療研究会・曜日不定) (4回程度) 上記2つ全てに出席が必要でず。	地域医療学分野セミナー室(医学部基礎棟5階)ポムベ会館(予定)	出席とレポートとゼミ受講態度	
地域医療学	前田 隆浩	しまで学ぶ地域医療集中ゼミ	島嶼部における地域医療の現場を体験し、地域における保健・医療・福祉の役割と機能、そして地域包括ケアについての基礎を理解する。	坂本キャンパスで実施される地域医療研究会で地域医療への知識と理解を深める。そのうえで五島市で行われる集中台宿(2泊3日)に参加し、講義・ワークショップ・施設訪問など現場の地域医療を体験してより理解を深める。	1年前期 2年前期 3年前期	地域医療研究会(未定・2か月に1回開催予定) 長崎地域医療セミナー in GOTO 8月19日(金)～8月21日(日)	地域医療研究会(坂本キャンパス)長崎地域医療セミナー in GOTO(長崎県五島市)	出席・発表・レポート	地域医療研究会および長崎地域医療セミナー in GOTOの両方への参加が必須です。地域枠入学生を主な対象としますが、地域医療に関心のある地域枠でない学生さんの受講も可です。 ※地域医療セミナー期間中の食費については5000円/人を予定しています。
探索病理(病理1)	下川 功林 洋子	楽しい病理学; 剖検例の検討	解剖症例を通して、主要な疾患の臨床所見、病態、および死因を考察する。	解剖症例の臨床的および病理組織学的検討。	2年前期 3年前期 4年前期	金曜日1校時	第一病理医局図書室	出欠、参加態度、発表を総合的に評価する。	
へき地病院再生支援・教育機構	調 漸 中 桶 了太	離島・へき地医療の達人から学ぶ	へき地や離島医療の現状を学び、これからの地域医療や我が国のこれからの医療について考える	離島・へき地の第一線で活躍する多職種による双方向性の講義を中心とする。地域医療に密接に関係する家庭医や、病院総合医、プライマリーケアとして活躍する医師のほか行政や地域の保健師も講師として招き、「地域医療」という漠然としたイメージをリアルなものとして認識する。ゼミの後半では平戸市民病院で夏合宿や、実際にへき地や離島医療を体験する離島ツアーも2泊3日程度で開催する予定である。地域枠学生に限らず、幅広い学生の参加を歓迎する。	1年前期 2年後期 3年前期 4年前期	金曜日18:00～19:30	医学部基礎棟1階視聴覚教室1	出席、講義のレポート、最終日に実施する地域医療に関するプレゼンテーション等で総合的に判定する。 1年次に関しては地域医療合宿での地域医療実習への出席を必須とする。	地域医療、へき地・離島医療に関心のある一般枠の学生の受講も歓迎する。
先端体育センター	安武 亨	スポーツ医学概論	スポーツを通じて医学を学ぶ	運動生理学・スポーツ栄養学など	2年後期 3年前期	火曜日または木曜日16:30から	医学部セミナー室2など	授業参加状況、レポートなど	体育会系部活に所属する人、スポーツに興味がある人、グループ討議が出来る人を募ります。

Practical English Skills for Third Year Medical Students

Instructors: Luc Loosveldt
Jim Briganti

Class Time : to be decided

E-mail: lluc@nagasaki-u.ac.jp
jbrigantit@nagasaki-u.ac.jp

Office Hours: to be announced in class

Course Objectives	
This is a continuation of the second years' English courses, but with a special focus on the language of medical research. Students will support each other's learning in class and prepare short presentations to demonstrate their comprehension of the topics introduced in class.	
Required Textbooks	
Materials will be assigned and made available in class,	
Topics	
1	Introduction to the course
2	First group meeting: establishing group roles, deciding on first topic, deciding on topic focus, presentation proposal/ rubric
3	First group discussion; first presentation proposal
4	The abstract + presentation script script
5	Short presentations + Q&A practice
6	Second topic; second group discussion
7	Second report; giving feedback on each other's report
8	The abstract + presentation script + presentation practice
9	Second Short Presentation followed by Q&A
10	Third topic; second group discussion
11	Third report; giving feedback on each other's reports
12	Third Short Presentation followed by Q&A - choosing the final topic
13	Final topic - synthesizing what we learned for the final poster session
14	Final report; review posters, review scripts, practice scripts
15	Final Poster sessions
Course work and Evaluation	
Students will be evaluated on the basis of classwork, assignments, vocabulary quizzes, group project, written work, and written research proposals. A detailed breakdown of the evaluation process will be provided in class.	
<i>*The above syllabus is meant as a general guide, not a definite time table.</i>	

医 と 社 会 IV

責任者	氏名	安武 亨	内線	7987
	教室	先端医育センター	e-mail	toru@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16時30分～17時30分		

対象年次・学期	4年・通年（前期・後期）	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	0.5
英語名	Medicine and Society		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

がん患者などのターミナルケアなどの医療場面では、たびたび対応が難しい場面に遭遇する。このような状況でのがん患者などへのインフォームドコンセントの取り方及び患者や家族の心の葛藤及びケアについて学ぶ。大学病院及び地域医療におけるターミナルケアの現状及び取り組みについても学ぶ。また、コア・カリキュラムにもあげられているリスクマネジメント、医療事故及び医療法制、死生学を取り上げる。臨床の現場では、医療事故を如何に防止するかについて安全管理に関する心構えを身に付けかつ倫理面を認識した上での医事法制を学ぶ。また、前学年に引き続き地域包括ケアシステムの理解をさらに深める。

2. 授業内容（講義・実習項目）

がん患者やその家族の心の葛藤及びケアについて学ぶとともに、医師としてのがん患者やターミナルケアにおける実際の接し方を教授する。また大学病院及び地域医療でターミナルケアがどのように実践されているかを講義する。その他ターミナルケアが必要ながん患者へのインフォームドコンセントの行い方を模擬患者を使って経験する。

また、医療マネジメント、医療事故に関し具体例をあげ、医療リスクマネジメントの実際を学ぶ。さらに医師にとって重要である医療情報のITとその安全管理や医事法制についても法律の専門家による講義を予定する。医師にとって必要な法的側面及び倫理観、宗教観からみた死生学について講義する。また、地域包括ケアシステムの理解を深めるため、地域包括支援センターや訪問看護の役割等について講義を行う。多職種連携症例検討も行う。

3. 教科書、参考書等

特に指定しない。医療マネジメント、医事法制などの出版物は少なくない。必要に応じて各講義で紹介する。

4. 成績評価の方法・基準

出欠状況及び授業を行った教員の評価結果を総合して決定する。講義・実習には全て出席すること。授業回数の3分の1を超えて欠席した者は失格とする。

5. 教員名

先端医育センター：安武亨、田中邦彦、江川亜希子

麻酔科：北條美能留

細胞療法部：長井一浩

救命救急センター：山下和範

保健学科教授：大西真由美

小児歯科教授：藤原卓

非常勤：江崎宏典（長崎医療センター院長）

非常勤：児島達美（長崎純心大学人文学部教授）

非常勤：永田耕司（活水女子大学教授）

非常勤：浅野直人（福岡大学名誉教授）

非常勤：福田浩久（弁護士）

非常勤：早島理（龍谷大学大学院・実践真宗学研究科教授）

地域包括ケア教育センター：永田康浩、久芳さやか、西野文子、松坂雄亮、濱口由子

6. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

H28年度4年生(前期)

月	日	曜日	校時	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	1	金	2	がん患者とのコミュニケーション	活水女子大学 永田 耕司	第4講義室
4	8	金	2	災害医療（保健学科と共修）	救急救命センター 山下 和範	第2講義室
4	15	金	2	がん患者と家族（保健学科と共修）	長崎純心大学 児島 達美	第4講義室
4	22	金	2	死生学	龍谷大学 早島 理	良順会館・ボードインホール
5	2	月	1	大学病院における緩和ケア	麻酔科 北條 美能留	第4講義室
			2	医療安全1 医療のクオリティマネジメントと安全管理	歯学部 藤原 卓	第4講義室
5	6	金	2	医療事故と医師の民事責任	福岡大学 浅野 直人	良順会館・ボードインホール
5	13	金	2	法社会と医療	弁護士 福田 浩久	第1講義室
5	20	金	2	医療安全2 医療の質と安全の確保	細胞療法部 長井 一浩	第4講義室
7	7	木	3	途上国における国際保健	保健学科 大西 眞由美	第4講義室
			4	医療リスクマネジメント	長崎医療センター 江崎 宏典	第4講義室
7	14	木	3	未定	未定	第4講義室
			4	地域包括ケアシステムと多職種連携Ⅰ	地域包括ケア教育センター 長崎純心大学 潮谷有二	第1講義室 視聴覚・セミナー室
7	21	木	3	地域包括ケアシステムと多職種連携Ⅱ	地域包括ケア教育センター	第1講義室 視聴覚・セミナー室
			4			第1講義室 視聴覚・セミナー室

医と社会授業予定(4年後期) 医歯薬共修

10	17	月	5	多職種連携症例検討(1)	地域包括ケア教育センター、先端医育センター	第2, 3, 4講義室
10	24	月	5	多職種連携症例検討(2)	地域包括ケア教育センター、先端医育センター	第2, 3, 4講義室

人 体 構 造 系 III

責任者	氏名	弦本敏行	内線	7021
	教室	肉眼解剖学(解剖学第二)	e-mail	tsurumot@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	18:00-19:00		

対象年次・学期	4年・前期	講義形態	実習
必修・選択	必修	単位数	1
英語名	Human Body Structure 3		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

ねらい：人体の構造に関する知識は、すべての臨床科目の理解・習得において必須のものである。人体構造系ⅠおよびⅡにおいては人体解剖学に関する基礎的知識を習得した。人体構造系Ⅲのねらいは、次の3点である。(1) 臨床科目を学習した上で、解剖学に関する知識を再確認するとともに、各臓器における様々な病態・疾患の解剖学的背景を理解すること(2) 各臓器の3次元構造およびそれら相互の位置関係を理解し、各種画像診断のための臨床解剖学的知識を習得すること(3) 実習対象のご遺体は例外なく、死に至るまでに多くの疾病に罹患し、また様々な治療を施されている。そのような実態を自らの目で再確認し、疾患に関する理解を深めること。

到達目標：人体構造のうち内臓器をはじめとする諸構造を理解し、それらの臨床解剖学的意義を説明できること。

2. 授業内容

胸部・腹部・骨盤・頸部等の内臓器を中心に、決められた手技に則って解剖学実習を行う。

3. 教科書、参考書等 (★は教科書、必携)

書名	著者	出版社	定価(税抜)
★グラント解剖学実習	新井良八 監訳	西村書店	4,800 円
★ネッター解剖学アトラス	相磯貞和 訳	南江堂	10,000 円
★グレイ解剖学 (for students)	塩田浩平 他訳	エルゼビア・ジャパン	10,000 円
臨床のための解剖学	佐藤達夫・坂井建雄 監訳	MEDSi	14,000 円

4. 成績評価の方法・基準

解剖学実習について、筆答試験を行う

(1) 受験資格 原則として皆出席(無届欠席は失格)

(2) 試験と評価 本試験と再試験

※ 本試験, 再試験とも無届欠席は失格とする。

5. 教員名

肉眼解剖学分野：弦本敏行、岡本圭史、佐伯和信

6. 備考(解剖学実習事前学習等について)

シラバスを参考に、胸部・腹部・骨盤・頸部等の各臓器に関する解剖学的知識を再確認しておくこと。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
5	12	木	3 4	内臓系解剖実習 1	オリエンテーション 胸膜、腹膜、自然位の腹部内臓	解剖2・弦本、岡本 佐伯	解剖 実習室
5	19	木	3 4	内臓系解剖実習 2	胸膜、肺、縦隔・心臓①	解剖2・弦本、岡本 佐伯	解剖 実習室
5	26	木	3 4	内臓系解剖実習 3	縦隔・心臓②、小腸・大腸①	解剖2・弦本、岡本 佐伯	解剖 実習室
6	2	木	3 4	内臓系解剖実習 4	上腹部臓器②	解剖2・弦本、岡本 佐伯	解剖 実習室
6	9	木	3 4	内臓系解剖実習 5	上腹部臓器②、小腸・大腸② 後腹膜臓器	解剖2・弦本、岡本 佐伯	解剖 実習室
6	16	木	3 4	内臓系解剖実習 6	骨盤内臓	解剖2・弦本、岡本 佐伯	解剖 実習室
6	23	木	3 4	内臓系解剖実習 7	骨盤の血管・神経	解剖2・弦本、岡本 佐伯	解剖 実習室
6	30	木	3 4	内臓系解剖実習 8	咽頭・喉頭 総復習	解剖2・弦本、岡本 佐伯	解剖 実習室

薬 理 系

責任者	氏 名	有賀 純	内 線	7043
	教 室	医科薬理学	e-mail	aruga@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	水曜日17:00 - 18:30		

対象年次・学期	4年・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	2.5
英語名	Medical Pharmacology		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

ねらい：薬理学は薬と生体の相互作用について研究する科学である。薬理学は疾患の治療体系の構築に密接に関わると同時に、解剖学、生理学、生化学、化学、情報科学などさまざまな周辺科学の進展に支えられ、貢献してきた。したがって、薬理学の講義・実習においては、薬についての知識を既習の臨床・基礎医学についての知識・経験に関連づけ、柔軟に応用が可能な知識体系を各自が構築することが求められる。講義においては、自ら問題点を見だし、解決していく能力を養うことを重視する。新薬の利害得失を勘案し、安全で最適な薬物療法を考える能力をもつ医師や研究者の育成を目的とする。

到達目標：生体と薬物の相互作用について系統的に説明できる。

薬物の起源と性質、薬物開発の戦略について説明できる。

2. 授業内容（講義・実習項目）

薬理学総論、及び臓器機能別薬物の作用機序並びに各病態における薬物応用理論、さらに医薬品創薬について講ずる。

3. 教科書・参考書等

書 名	著 者	出版社	定 価
薬がみえる (vol. 1)	医療情報科学研究所	メディックメディア	3,600円/vol
NEW 薬理学 (第6版)	編者：田中千賀子、加藤隆一	南江堂	9,240円
Lippincott's Illustrated Reviews: Pharmacology (6 th Ed)	編者：R. A. Harvey	Wolters Kluwer	7,645円
ハーバード大学講義テキスト：臨床薬理学 (原書3版)	編者：D. E. Golan 監訳：渡邊 裕司	丸 善	14,580円
Goodman & Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics (12 th Ed)	編者：L. L. Brunton	McGraw-Hill	20,385円

4. 成績評価の方法・基準

試験は筆答形式で行い、実習レポート、課題レポート、授業内試験の評価を加えて総合的に評価する。100点満点中、60点以上の得点をもって合格とする。

5. 教員名

医科薬理学：有賀純、中川慎介

6. 備考（準備学習等）

教科書・参考書などで予習し、かつ適応となる疾患の理解をしておくこと。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	5	火	3	中枢神経薬理学1	抗てんかん薬・抗不安薬	薬理・中川	3講
4	5	火	4	中枢神経薬理学2	抗パーキンソン病薬・抗認知症薬	薬理・中川	3講
4	12	火	3	中枢神経薬理学3	抗精神病薬	薬理・有賀	3講
4	12	火	4	中枢神経薬理学4	抗うつ薬・気分安定薬	薬理・有賀	3講

病 理 各 論 系

責 任 者	氏 名	福岡 順也	内 線	7055
	教 室	病理診断科学 (病理二)	e-mail	fukuokaj@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	9:00AM-17:00PM		

対象年次・学期	4年・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	4
英語名	Organ Pathology		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

病理診断は、臨床において疾患の最終診断を決定する、重要な診断部門を担う。病理総論では、生体の基本的な防御機構や反応、及び組織の病変形成機序について学んだ。病理各論では、臨床に則した代表的疾患における病理診断のポイント、鑑別疾患について学ぶ。具体的な疾患の病理組織変化を自らの目で確かめ、代表疾患の病理診断を行う事が出来、各疾患の持つ特徴的病変が臨床へどのように反映されるかを学び、更に治療の効果やその影響を理解する上で重要な病理学的知識を習得する。運動器および皮膚科領域の総合的理解を深めるように時間割りが組まれている。

2. 授業内容（講義・実習項目）

[病理各論 I] 4年前期に第二病理で、以下の各項目の講義および実習を行う。

講義項目：運動器および皮膚の腫瘍および非腫瘍病変の病理診断。

3. 教科書、参考書等

特に指定教科書はないが、掲げた教科書以外にも良書は多い。英語の優れたテキストも多く、読みやすいものを選ぶとよい。

テキストブック

	書 名	著 者	出 版 社	定 価
原著	新病理学各論	菊池浩吉、他	南山堂	12,600円
原著	Pathologic Basis of Disease	Cotran, R. S. 他	W. B. Saunders Co	12,285円
訳本	ロビンス基礎病理学	Kumar, V. 他 (森亘、桶田理喜 監訳)	廣川書店	18,900円
訳本	カラー版アンダーウッド病理学	Underwood, J. C. E. (鈴木利光、森道夫 監訳)	西村書店	7,875円
訳本	人体病理学	Stevens, A. & Lowe, J. (石倉 浩 監訳)	南江堂	9,450円
訳本	ルービンカラー基本病理学	Ruben, E. (河原栄、横井豊治 監訳)	西村書店	6,510円

アトラス

	書名	著者	出版社	定価
原著	病理組織の見方と鑑別診断 カラーアトラス	赤木忠厚、他	医歯薬出版	13,650円
原著	組織病理アトラス	藍沢茂雄、他（編集）	文光堂	12,600円
訳本	カラーアトラス 基礎組織病理学	Stevens, A. 他 （今井大、山川光徳 監訳）	西村書店	7,140円
訳本	アンダーソン 病理学カラーアトラス	Damjanov, I. & Linder, J. （山口和克 翻訳）	メディカルサイエンス インターナショナル	12,600円

4. 成績評価の方法・基準

前期末講義終了後に試験を行う。

試験問題、解答は基本的に英語で実施。試験点に加え、出席状況とレポートの内容を加味して評価する。各領域ともに6割以上を合格点とする。

5. 教員名

病理診断科学（病理2）：福岡順也、新野大介、二反田隆夫

6. 備考（準備学習等）

病理総論で学んだ事項を十分に理解しておくこと。各論では、すべての疾患を網羅した講義は行わない。ただし、試験は講義で網羅していない範囲からも出題する。講義スライド、試験問題および解答は基本的に英語を用いる。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	4	月	1 2	病理診断学	運動系・骨軟部腫瘍（講義） 運動系・骨軟部腫瘍（実習）	田畑	CBT室
4	11	月	1 2	病理診断学	皮膚・腫瘍（講義・実習） 皮膚・非腫瘍（講義・実習）	石田 新野	CBT室

精 神 系

責任者	氏名	小澤 寛 樹	内 線	7293
	教室	精神神経学 (精神神経科学)	e-mail	ozawa07@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	水曜日・12:00-13:00		

対象年次・学期	4年・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
英語名	Neuropsychiatry		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

ねらい：精神と行動の障害として表現される精神疾患の症候、病態生理、成因とそれに対応する治療とケアについて理解する。精神疾患（精神障害）を、分子レベルから、神経系・内分泌系・免疫系・循環系が交錯する脳、個体、家族、社会、文化、倫理などの多次元の病理が個人の精神と行動の障害として現れたものとして理解し説明するために自主性を持って学習する。さらに、精神疾患に対する治療とケアを通して、多様な思考力や想像力を養う。

到達目標：精神疾患に罹患した人々の内的苦悩を実感できる。
精神疾患の病態と成因、治療・ケアの基本的な理解ができる。
こころと行動の理解を目指す諸科学のめざましい発展の実状を理解する。

2. 授業内容（講義・実習項目）

精神障害の成り立ちや治療を理解する上での精神医学全般に関する知識の提供。精神医学分野でのbio-psycho-social-ethicalといった多軸的な観点を養う。

3. 教科書、参考書等

書 名	著 者	出 版 社	定 価
標準精神医学	野村総一郎、樋口輝彦	医学書院	6,500円
現代臨床精神医学	大熊輝雄	金原出版	7,500円
精神医学	大月三郎	文光堂	7,200円
シネマサイキアトリー 映画からみる精神医学	小澤寛樹	中外医学社	4,968円
おとなの発達症のための 医療系支援のヒント	今村明	星和書店	3,024円

4. 成績評価の方法・基準

定期考査（筆記試験）80%、レポート20%などの他、出席状況も評価に含める。

5. 教員名

精神神経科：小澤寛樹、今村 明、黒滝直弘、木下裕久、久保達哉、金替伸治、山口尚宏
非常勤講師：岡崎祐士（道ノ尾病院）、齋藤利和（幹メンタルクリニック）、
高橋克朗（長崎県精神医療センター）、肥田裕久（ひだクリニック）、
中根秀之（保健学科作業療法学専攻）

6. 備考（準備学習等）

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	18	月	5	精神医学入門	歴史、主な理論・分野	精神科・小澤	4講
4	25	月	3	精神疾患の分類と診断/精神症候学	分類概念、分類体系、診断基準、治療模擬患者VTR、精神病症状、感情障害症状、神経症症状	保健学科・中根	4講
4	25	月	4	症状評価・検査法	面接法、評価尺度、生理学検査(脳波など)、脳画像検査、心理検査(投影法、非投影法など)	精神科・小澤、松坂	4講
4	25	月	5	精神療法・摂食障害	精神分析、摂食障害	精神科・小澤、松坂	4講
5	9	月	3	統合失調症の症状と治療	精神薬理学、早期介入、薬物療法	精神科・久保	4講
5	9	月	4	統合失調症の病態生理と成因	脳形態、精神生理、心理学、遺伝疫学、分子遺伝学	非常勤・岡崎	4講
5	16	月	3	気分障害の病態生理と治療①	脳形態、精神生理、心理学、生化学、薬物療法	精神科・小澤	4講
5	16	月	4	気分障害の病態生理と治療②	脳形態、精神生理、心理学、生化学、薬物療法	精神科・小澤	4講
5	25	水	3	「ひだクリニック」の活動①	ユーザーによる社会的活動	非常勤・肥田	3講
5	25	水	4	「ひだクリニック」の活動②	ユーザーによる社会的活動	非常勤・肥田	3講
5	30	月	3	認知症の症候学、疫学、病態、治療、ケア	症候学、病態、疫学、薬物療法、非薬物療法	精神科・黒滝	4講
5	30	月	4	パーソナリティ障害、生理機能の障害	パーソナリティ障害の概念史、分類、診断基準、睡眠障害	精神科・黒滝	4講
6	6	月	3	器質性・症状性精神障害	概説、対象疾患、せん妄、身体疾患に伴う精神障害、症状精神病の概説	精神科・木下	4講
6	6	月	4	司法精神医学	精神保健福祉法、触法精神障害、精神鑑定	精神科・金替	4講
6	13	月	3	精神作用物質性障害	アルコール&薬物関連精神障害、急性中毒、依存症候群(モルヒネ、アンフェタミン、大麻など)	非常勤・齋藤	4講
6	13	月	4	神経症性障害	神経症の全般的説明、強迫性障害、パニック障害、全般性不安障害	非常勤・高橋	4講
6	20	月	3	小児・思春期における精神障害①	自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動性障害、学習障害	精神科・今村	4講
6	20	月	4	小児・思春期における精神障害②	不登校、被虐待児、行為障害その他	精神科・今村	4講
6	29	水	3	リエゾン・コンサルテーション精神医学	概説、対象疾患、せん妄、チーム医療の概説	精神科・木下	4講
6	29	水	4	災害精神医学	トラウマの概念、PTSDの疫学、介入、治療	精神科・木下	4講
7	4	月	3	精神医学における今日のニューロサイエンス	精神障害のニューロサイエンスの最近の研究から	非常勤・小野	2講
7	11	月	3	T B L		精神科・松坂	4講
7	11	月	4	T B L		精神科・松坂	4講
7	11	月	5	まとめ		精神科・小澤	4講

脳・神経系

責任者	氏名	川上 純	内線	7262
	教室		e-mail	atsushik@nagasakiu.ac.jp
	オフィスアワー	16時30分～17時30分		

対象年次・学期	4年・前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	2.5
英語名	Diseases of Nervous System		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

人間の脳・神経系は巧みに構築された高次構造・ネットワークによって機能している。神経疾患は、種々の原因（先天異常・遺伝子異常・感染症・炎症・外傷・血管障害・腫瘍・脱髄・変性・免疫異常など）に基づいたこれらの異常によって生じてくる。脳・神経系は中枢神経・末梢神経・神経筋接合部・筋に分けられるが、それらの場において、多種多様な病因・病態が存在する。脳・神経系の教育目標・方針は、神経学に必要な基礎的領域をもとに、神経疾患をSystematicに学ぶことにある。

2. 授業内容（講義・実習項目）

全51時間のうち、神経内科学18、脳神経外科学15、小児神経学9、整形外科6、精神神経学3時間から、構成されている。まず、神経学総論は、解剖学・生理学などの基礎的知識をもとに全ての神経系を網羅し、主として神経内科学が担当して行われる。加えて小児神経学の立場から、発達神経学の基礎知識の修得、精神神経学より知能についての講義が行われる。更に、神経診断学を含めた神経学的検査法が、神経内科学、脳神経外科学的立場より講義される。神経学各論では、個々の機能的、器質的疾患に関して、神経内科、脳神経外科、小児神経、整形外科、精神神経科学的領域よりそれぞれ講義される。

3. 教科書、参考書等

必要に応じてプリントを配布する。

書名	著者	出版社	定価
★神経内科ハンドブック	水野美邦	医学書院	14,500 円
★Pediatric Neurology	Swaiman	Mosby	
★標準整形外科学	広畑和志他	医学書院	8,700 円
★ニュースタANDARD 脳神経外科学	生塩之敬，種子田護， 山田和雄	三輪書店	7,350 円

4. 成績評価の方法・基準

筆記試験。

5. 教員名

脳神経内科：辻野 彰、白石裕一、立石洋平、中嶋秀樹、佐藤克也（保健学科）、
本村政勝（非常勤講師）、木下郁夫（非常勤講師）、長郷国彦（非常勤講師）
脳神経外科：松尾孝之、角田圭司、鎌田健作、出雲剛、堀江信貴、氏福健太、馬場史郎
栗原正紀（非常勤講師）、田渕和雄（非常勤講師）

小児科：里 龍晴

整形外科：梶山史郎、田上敦士

精神神経科：松坂雄亮、木下 裕久

6. 備考（準備学習等）

講義ごとに学習テーマを呈示する。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	1	金	3	神経学総論	脳・神経系の構成と機能局在	脳神経内科・辻野	4講
4	1	金	4	神経学総論	神経症候学と神経学的検査	脳神経内科・辻野	4講
4	7	木	3	神経内科学各論	神経変性疾患	脳神経内科・白石	3講
4	7	木	4	神経内科学各論	パーキンソン病	脳神経内科・白石	3講
4	8	金	3	神経内科学各論	虚血性脳血管障害	脳神経内科・立石	4講
4	8	金	4	神経内科学各論	脱随性疾患とHAM	脳神経内科・中嶋	4講
4	14	木	3	神経内科学各論	筋疾患	脳神経内科・白石	3講
4	14	木	4	神経内科学各論	重症筋無力症とLambert-Eaton筋無力症候群	非常勤・本村	3講
4	15	金	3	神経内科学各論	髄膜炎・脳炎とCJD	保健学科・佐藤	4講
4	15	金	4		休講		4講
4	21	木	3	神経内科学各論	てんかん、代謝性・中毒性疾患	脳神経内科・中嶋	3講
4	21	木	4	神経内科学各論	頭痛・めまい	非常勤・木下	3講
4	22	金	3	頭部外傷	急性期頭部外傷 (I)	脳神経外科・氏福	4講
4	22	金	4	神経内科学各論	末梢神経障害	非常勤・長郷	4講
5	6	金	3	頭部外傷	急性期頭部外傷 (II) ・頭部外傷合併症	脳神経外科・氏福	4講
5	6	金	4	脳腫瘍	脳腫瘍各論	脳神経外科・松尾	4講
5	13	金	3	脳血管障害	虚血性脳血管障害	脳神経外科・堀江	4講
5	13	金	4	脳腫瘍	脳腫瘍総論	脳神経外科・鎌田	4講
5	20	金	3	脳血管障害	出血性脳血管障害	脳神経外科・出雲	4講
5	20	金	4	神経学的検査/先天異常・発育障害	神経学的検査 水頭症 その他	脳神経外科・角田	4講
5	27	金	3			休講	4講
5	27	金	4			休講	4講
6	1	水	3	脳血管障害	これからの脳卒中リハビリテーション	非常勤・栗原	4講
6	1	水	4	脳神経外科概論	脳科学と脳外科臨床のかかわり	非常勤・田淵	4講
6	3	金	3	筋疾患・麻痺性疾患/末梢神経(b)	筋疾患, 麻痺性疾患の診断と治療 末梢神経の解剖, 生理とその診断治療	整形外科・梶山	3講
6	3	金	4			休講	3講
6	8	水	3	小児神経各論①	小児てんかんの診断・治療	里 龍晴	4講
6	8	水	4	小児神経各論①～②	小児てんかんの診断治療と基礎疾患	里 龍晴	4講
6	10	金	3	小児神経各論②	小児の急性脳症	里 龍晴	3講
6	10	金	4	小児神経各論②	小児脳変性疾患	里 龍晴	3講
6	17	金	3	小児発達総論	神経系の発達と精神運動機能 小児神経学的診察	里 龍晴	3講
6	17	金	4	小児発達各論	フロッピーインファント	里 龍晴	3講
6	24	金	3	知能低下	知能の定義・測定法・因子構成 知能低下の諸様相	精神科・松坂	3講
6	24	金	4	てんかん(b)	遅発性(非小児期)発症てんかん てんかんと精神症状	精神科・木下	3講
7	1	金	3	脊椎・脊髄疾患	脊髄の生理・解剖	整形外科・田上	4講
7	1	金	4	脊椎・脊髄疾患	頸椎, 頸髄疾患 胸椎, 胸髄疾患	整形外科・田上	4講
7	8	金	3	脊椎・脊髄疾患	腰椎疾患	整形外科・田上	4講
7	8	金	4	てんかん(a)	てんかんの外科的治療	脳神経外科・馬場	4講
7	15	金	3	TBL		脳神経内科・中嶋	4講
7	15	金	4	TBL		脳神経内科・中嶋	4講

皮膚系

責任者	氏名	宇谷 厚志	内線	7331
	教室	皮膚科学 (皮膚病態学)	e-mail	utani@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	9:00～17:00 必ず事前にアポイントを取ること		

対象年次・学期	4年・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
英語名	Dermatology		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

皮膚病変は実際に目で見る事が出来る病変であり、生検も容易に行える点の特異といえる。しかし皮膚病変の原因は無数にあり、診断名も煩雑であることが理解されにくい一因であろう。この系では、臨床医に必要な皮膚疾患の概説を行うが、単なる暗記ではなく、皮膚の構造と状態を理解し、病変を見た場合の診断の仕方を、(1)皮疹の見方、(2)病理所見、(3)病因、(4)病態などを把握しながら学んでほしい。

また、「皮膚は内臓の鏡」ともいわれ、思わぬ内臓疾患が判明することもある。皮膚病変の位置づけを全身疾患との関連性の面でも理解してほしい。

到達目標としては、発疹学が説明できるようになり、多彩な皮膚病変を分類することが出来、その症状、発生病理を説明できることである。

2. 授業内容 (講義・実習項目)

全20時間の講義は、皮膚科15、形成外科4、病理1からなる。講義は皮膚の解剖、生理、病理、診断に始まり、皮膚科からは各種皮膚疾患の講義を、形成外科より形態異常、熱傷、瘢痕及びケロイド、皮膚潰瘍などの講義を行い、皮膚と内臓病変、治療をもって終了とする。詳細は講義日程を参照のこと。

3. 教科書、参考書等

皮膚科、病理：要点を記載したプリントを配布するが、全てはカバーできないため、参考書はぜひ一冊持ってほしい。

書名	著者	出版社	定価
あたらしい皮膚科学 第2版	清水 宏 著	中山書店	8,208 円
皮膚科学 改訂9版	大塚藤男著、上野賢一 原著	金芳堂	12,960 円

形成外科：プリント配布予定

書名	著者	出版社	定価
標準形成外科学 第6版	平林真一・鈴木茂彦 編集	医学書院	6,090 円
TEXT形成外科 第2版・第3版(予定)	波利井清紀 監修	南山堂	9,064 円

4. 成績評価の方法・基準

講義終了後に筆記試験を行う。各科の時間数に応じて配点を割り当て、総計100点として評価する。60点以上を合格とするが、60点以上であっても各分野での得点が40点に満たない時は不合格となることもある。また、評価には出席率も考慮する。

5. 教員名

皮膚科：宇谷厚志、竹中 基、原 肇秀、富村沙織、鋤塚 大、小池雄太、鋤塚さやか

形成外科：田中克己、秋田定伯、吉本 浩、大石正雄

病理診断科：木下直江

非常勤：宿輪哲生 (日赤長崎原爆病院)

6. 備考 (準備学習等) 上記参考資料で、当該部分を一読しておくこと。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	19	火	3	皮膚科概括講義	総論1：皮膚の構造と機能、湿疹・蕁麻疹	皮膚科・宇谷	3講
4	19	火	4	皮膚科概括講義	総論2：皮膚病理組織学	病理診断科 ・木下	3講
4	26	火	3	形成外科概論、組織移植	形成概論、組織移植、人工医用材料	形成外科・田中	3講
4	26	火	4	特論1	皮膚科治療法	皮膚科・原	3講
5	10	火	3	皮膚科概括講義	各論1：紅斑・血管炎・膠原病	皮膚科・宇谷	3講
5	10	火	4	皮膚科概括講義	各論2：紫外線皮膚障害	皮膚科・宇谷	3講
5	24	火	3	皮膚科概括講義	各論3：角化症など	皮膚科・宇谷	3講
5	24	火	4	皮膚科概括講義	各論4：ウイルス感染症など	皮膚科・宇谷	3講
5	31	火	3	物理的皮膚損傷	熱傷・化学損傷	形成外科・吉本	3講
5	31	火	4	特論2	毛髪・爪の異常、汗腺性疾患、脂腺系疾患	非常勤・宿輪	3講
6	7	火	3	創傷治癒、瘢痕・ケロイド、慢性創傷	創傷治癒、瘢痕・ケロイド、褥瘡・難治性潰瘍	形成外科・秋田	3講
6	7	火	4	特論3	細菌・真菌による皮膚感染症、虫などによる皮膚炎	皮膚科・竹中	3講
6	14	火	3	皮膚形成の基礎	皮膚縫合法、植皮・各種皮弁、Z形成術	形成外科・大石	3講
6	14	火	4	皮膚科概括講義	各論5：水疱症・膿疱症	皮膚科・富村	3講
6	21	火	3	特論4	皮膚良性悪性腫瘍（メラノーマを含む）	皮膚科・鍬塚 大	3講
6	21	火	4	特論5	母斑・色素異常症	皮膚科・鍬塚さやか	3講
6	28	火	3	皮膚科概括講義	各論6；肉芽腫症・アミロイドーシス	皮膚科・宇谷	2講
6	28	火	4	特論6	真皮結合組織異常	皮膚科・宇谷	2講
7	5	火	3	特論7	薬疹	皮膚科・竹中	1講
7	5	火	4	特論8	皮膚リンパ腫及び関連疾患	皮膚科・小池	1講
7	12	火	3	TBL		皮膚科・竹中/ 原	4講
7	12	火	4	TBL		皮膚科・竹中/ 原	4講

運 動 系

責任者	氏 名	尾崎 誠	内 線	7321
	教 室	整形外科学 (構造病態整形外科学)	e-mail	mosaki@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	17:00~18:00		

対象年次・学期	4年・前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	1.5
英語名	Musculo-skeletal system, lecture		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

四肢、脊椎、顔面等の運動器では、炎症、変性、腫瘍、外傷、先天異常、代謝疾患、血行障害など数多くの疾患が生じる可能性を含んでいる。これらの疾患を理解するためには、骨・関節系統のみならず神経・筋系統の広範な領域にわたる正常の機能を把握する必要がある。これらの疾患の治療目的は、生命の維持と疾患の予防ならびに機能確保・機能再建である。

学生諸君には運動器疾患の基礎として骨・関節・筋・神経の生理・代謝・構造の理解を求める。次に種々の検査法を含めた診断学、さらに治療学の概略ならびに各部位別の疾患とその治療法につき理解を求める。また急性疾患では適切な救急処置が出来るよう教育する。

2. 授業内容（講義・実習項目）

主にプリントとスライドによる講義である。

3. 教科書、参考書等

書 名	著 者	出版社	定 価
標準整形外科学	中村利孝・内田淳正ほか	医学書院	9,870 円
整形外科サブノート	東 博彦ほか	南江堂	5,460 円
標準形成外科学 第5版	秦 維郎・野崎幹弘 編集	医学書院	7,140 円
TEXT 形成外科学 第2版	波利井清紀 監修	南山堂	6,300 円

4. 成績評価の方法・基準

筆記試験（出題範囲は講義内容と上記教科書）

評価には出席日数を考慮する

5. 教員名

整形外科： 尾崎 誠、小関弘展、富田雅人、米倉暁彦、辻本 律、宮本俊之、木寺健一、宮田倫明、穂積晃、松林昌平、梶山史郎、安達信二、福島達也、田口憲士、千葉恒、前田純一郎、津田圭一、岡崎成弘、野村賢太郎、森 圭介

形成外科： 田中克己、矢野浩規

6. 備考（準備学習等）

解剖学、生理学、生化学等の基礎的知識を整理しておくこと。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	4	月	3	運動系総論（1）	総論、歴史	整形・尾崎	4講
4	4	月	4	運動系総論（2）	骨・軟骨の生理と病理	整形・宮田	4講
4	6	水	3	手の外傷	手・指の機能解剖と手の外傷	形成・田中	4講
4	6	水	4	腫瘍性疾患（1）	骨軟部腫瘍；診断学	整形・富田	4講
4	11	月	3	腫瘍性疾患（2）	良性骨軟部腫瘍	整形・宮田	4講
4	11	月	4	腫瘍性疾患（3）	悪性骨軟部腫瘍	整形・宮田	4講
4	13	水	3	リハビリ（1）	リハビリ（総論）	保健学科・小関	4講
4	13	水	4	リハビリ（2）	リハビリ（各論1）	整形・松林	4講
4	20	水	3	リハビリ（3）	リハビリ（各論2）	整形・松林	4講
4	20	水	4	下肢の疾患（1）	小児股関節疾患	整形・松林	4講
4	27	水	3	脊椎（1）	脊椎総論	整形・安達	4講
4	27	水	4	脊椎（2）	脊椎外傷	整形・安達	4講
5	2	月	3	顔面外傷	顔面外傷総論；軟部組織損傷・顔面骨骨折	形成・矢野	4講
5	2	月	4	骨・関節の外傷（1）	外傷総論	整形・宮本	4講
5	11	水	3	骨・関節の外傷（2）	上肢の外傷	整形・福島	4講
5	11	水	4	骨・関節の外傷（3）	下肢の外傷	整形・田口	4講
5	23	月	3	脊椎（3）	脊椎各論（A）	整形・津田	4講
5	23	月	4	脊椎（4）	脊椎各論（B）	整形・津田	4講
6	15	水	3	下肢の疾患（2）	股関節（成人）（総論）	整形・穂積	4講
6	15	水	4	下肢の疾患（3）	膝関節・足関節・足趾	整形・米倉	4講
6	22	水	3	上肢の疾患（1）	肘・手関節疾患	整形・辻本	4講
6	22	水	4	上肢の疾患（2）	肩関節疾患	整形・梶山	4講
6	27	月	3	炎症性疾患（1）	関節リウマチ	整形・千葉	4講
6	27	月	4	炎症性疾患（2）	リウマチ類似疾患	整形・千葉	4講
7	6	水	3	運動系総論（3）	治療学	整形・辻本	1講
7	6	水	4	運動系総論（4）	診断学	整形・木寺	1講
7	13	水	3	下肢の疾患（4）	股関節（成人）（各論）	整形・穂積	4講
7	13	水	4	炎症性疾患（3）	骨・関節の感染症	整形・岡崎	4講
7	20	水	3	運動系TBL		整形・森	4講
7	20	水	4	運動系TBL		整形・野村	4講

視 覚 系

責任者	氏 名	北 岡 隆	内 線	7344
	教 室	眼科学 (眼科・視覚科学)	e-mail	tkitaoka@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	水曜日 18:00-19:00 眼科医局		

対象年次・学期	4年・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
英語名	Ophthalmology		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

外界からの情報の80%以上は視覚を通して入力され、「失明宣告」は「死の宣告」にも匹敵する場合がある。視覚を得るための眼球他の構造と機能を学習し、さらにその視覚を脅かす疾患について理解させる。また眼科独自の検査についても学習する。

医師として必要な眼科領域の知識・技能の習得および内科に密接な関係をもつ眼科の重要性について十分な学習をすることを目標とする。

2. 授業内容 (講義・実習項目)

基礎医学の知識を駆使して、眼科学を体系づけ、他臓器疾患との関連性をも理解させる。思考過程を重視し、考える講義にする。実習では講義で学んだ事項を身をもって体験させ、単なる知識の修得に終わらせないようにする。スライドおよび実際の眼科診療機材を提示し、視覚的アプローチを重視した講義を行う。

3. 教科書、参考書等

書 名	著 者	出 版 社	定 価
Vaughan & Asbury's General Ophthalmology. 18th Ed.	Paul Riordan-Eva, Emmett T. Cunningham Jr	McGraw-Hill Medical Publishing	約 12,000円
Clinical Ophthalmology: A Systematic Approach 7 th Ed.	Jack J. Kanski	Butterworth-Heinemann Medical	約 33,000円
標準眼科学 第13版	木下 茂 (監) 中澤 満/村上 晶 (編)	医学書院	約 7,600円
現代の眼科学 改訂第12版	所 敬 (監) 吉田晃敏/谷原秀信 (編)	金原出版	約 7,800円

4. 成績評価の方法・基準

筆記試験にて合否を判定するが、出席状況も加味し、60点以上を合格とする。

5. 教員名

眼 科 学：北岡 隆、藤川亜月茶、上松聖典、築城英子、松本牧子、木下博文、
草野真央、大野 梢、山田義久、前川有紀

非常勤講師：山之内宏一 (思案橋ツダ眼科)、嵩 義則 (ダケ眼科)、
今村直樹 (南長崎ツダ眼科)、三島一晃 (三島眼科)

6. 備考 (準備学習等)

眼球および付属器に関して、今までに学んできた知識をもって授業に臨むこと。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	18	月	1	眼科総論	眼の構造・機能	眼科・北岡	3講
			2	眼科総論	眼科検査Ⅰ	眼科・北岡	3講
4	25	月	1	眼科総論	眼科検査Ⅱ	眼科・前川	3講
			2	眼科総論	眼科症候学	眼科・藤川	3講
5	9	月	1	発生	発生・奇形	眼科・上松	3講
			2	発達・眼位	斜視・弱視	眼科・上松	3講
5	16	月	1	中間透光体	水晶体	眼科・木下	3講
			2	ぶどう膜	ぶどう膜炎	眼科・大野	3講
5	23	月	1	眼底	黄斑疾患	眼科・築城	3講
			2	眼底	網膜循環障害	眼科・築城	3講
5	30	月	1	前眼部	角膜・涙液	非常勤・今村	3講
			2	前眼部	眼瞼・結膜・涙道	眼科・上松	3講
6	6	月	1	網膜	網膜疾患Ⅰ	眼科・松本	3講
			2	網膜	網膜疾患Ⅱ	眼科・木下	3講
6	13	月	1	全身疾患と眼	糖尿病網膜症	眼科・松本	3講
			2	遺伝	全身疾患・遺伝と眼疾患	眼科・山田	3講
6	20	月	1	眼窩・神経眼科	眼窩疾患	非常勤・三島	3講
			2	神経眼科	神経眼科	眼科・松本	3講
6	27	月	1	緑内障	緑内障Ⅰ	非常勤・嵩	4講
			2	緑内障	緑内障Ⅱ	眼科・藤川	4講
7	4	月	1	リハビリテーション	ロービジョンケア	非常勤・山之内	1講
			2	救急	眼科救急と外傷	眼科・草野	1講
7	11	月	1	TBL	未定	眼科・北岡、上松	4講
			2	TBL	未定	眼科・北岡、上松	4講

耳 鼻 咽 喉 口 腔 系

責任者	氏名	高橋晴雄	内線	7349
	教室	耳鼻咽喉・頭頸部外科学（展開医療科学講座）	e-mail	htak0831@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	19時30分		

対象年次・学期	4年・前期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
英語名	Otorhinolaryngology—Head and Neck Surgery		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

感覚器を中心とした耳鼻咽喉科・頭頸部外科学領域の基礎を学び、検査、診断、治療法を理解する。また救急処置の基本を学び、併せて全身ないしは環境と耳鼻咽喉科領域の関連について学習をする。

2. 授業内容（講義・実習項目）

講義は4年次前期より始まる。耳科学、平衡神経学、鼻科学、口腔・咽頭科学、喉頭科学、頭頸部外科学、救急医学に分類される。

3. 教科書、参考書等

書名	著者	出版社	定価
新耳鼻咽喉科学 改訂11版	野村恭也、加我君孝	南山堂	17,280円

4. 成績評価の方法・基準

講義内容について、筆記試験にて60点以上を合格とする。
講義は出欠をとり、出席状況が試験の採点に反映される。

5. 教員名

耳鼻咽喉科：高橋晴雄、金子賢一、吉田晴郎、陣内進也、木原千春、原稔
北岡杏子、渡邊毅
非常勤講師：重野浩一郎、隈上秀高、神田幸彦、宮崎総一郎

6. 備考（準備学習等）

解剖・生理を復習しておく。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	7	木	1	耳科学	聴器の解剖・生理	耳鼻科・高橋	4講
4	7	木	2		聴力検査	耳鼻科・木原	4講
4	14	木	1	耳科学	耳の疾患（1）	耳鼻科・原	4講
4	14	木	2		中耳の手術	耳鼻科・高橋	4講
4	28	木	1	耳科学	耳の疾患（2）	耳鼻科・原	4講
4	28	木	2	神経耳科学	頭頸部領域の脳神経	耳鼻科・吉田	4講
5	12	木	1	耳科学	補聴器と先天性難聴	非常勤・神田	4講
5	12	木	2		人工内耳	耳鼻科・高橋	4講
5	19	木	1	口腔・咽頭科学	嚥下の生理と障害	耳鼻科・原	4講
5	19	木	2		口腔ケアと嚥下性肺炎	特殊歯科・久松	4講
5	26	木	1	平衡神経学	めまいの診断・平衡機能検査	非常勤・重野	4講
5	26	木	2		めまい疾患各論	非常勤・隈上	4講
6	2	木	1	喉頭科学	喉頭の解剖と生理	耳鼻科・金子	4講
6	2	木	2		喉頭疾患・音声外科	耳鼻科・金子	4講
6	9	木	1	鼻科学	鼻・副鼻腔の解剖と生理	耳鼻科・渡邊	4講
6	9	木	2		鼻・副鼻腔疾患各論	耳鼻科・渡邊	4講
6	16	木	1	頭頸部外科学	頭頸部腫瘍（1）	耳鼻科・陣内	4講
6	16	木	2		頭頸部腫瘍（2）	耳鼻科・陣内	4講
6	23	木	1	頭頸部外科学	側頭骨・頭蓋底	耳鼻科・吉田	4講
6	23	木	2	救急医学	耳鼻咽喉科の救急疾患	耳鼻科・北岡	4講
6	30	木	1	口腔・咽頭科学	耳鼻咽喉科に関連した睡眠学	非常勤・宮崎	4講
6	30	木	2		口腔・咽頭の解剖・生理と疾患	耳鼻科・渡邊	4講
7	7	木	1	T B L		耳鼻科・金子	4講
7	7	木	2			耳鼻科・金子	4講

衛生学・分子疫学

責任者	氏名	中込 治	内線	7061
	教室	分子疫学 (旧衛生学)	e-mail	onakagom@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスワー	火17:00-18:00		

対象年次・学期	4年・前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	1.5
英語名	Hygiene and Molecular Epidemiology		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

ねらい：集団のレベルで疾病の原因と予防を究明する学問である疫学の基本とその考え方を習得する。

到達目標：社会・環境と健康・疾病の関係、保健統計の意義と現状、疫学の概念と疫学の諸指標を説明できる。医療の発展における臨床研究の重要性を理解し、研究デザイン・メタ研究について概説できる。

2. 授業内容（講義・演習項目）

講義・演習を行う。講義は4年前期に行われる。

3. 教科書

「NEW予防医学・公衆衛生学」改訂第三版
岸礼子、大前和幸、小泉昭夫、古野純典 編集（南江堂）

1部 総論

第1章 衛生学・公衆衛生学の現状と歴史、基本的方法、活動分野

第3章 医の倫理

2部 人口統計、疫学と医用統計

第1章 人口統計と保健統計

第2章 疫学と方法

第3章 医用統計

4部 環境と健康

第1章 感染症の疫学と予防

第4章 食品保健

5部 社会保障と公衆衛生行政

第4章 国際保健

4. 参考書

書名	著者	出版社
Clinical Epidemiology	Fletcher et al.	Wolters Kluwer
Field Epidemiology	Gregg	Oxford University Press
Primer of Epidemiology	Friedman	McGraw-Hill

5. 成績評価の方法・基準

4年前期試験期間に筆答試験を行う。60点以上を合格とする。

6. 教員名

分子疫学：中込 治、Punita Gauchan；原研：高村 昇；広報戦略本部：堀口逸子；

地域リハビリテーション学：本田純久；法医学：池松和哉；

分子標的医学研究センター：田中義正；非常勤講師：佐野大輔（北海道大学）

7. 備考（準備学習等）

各回の授業では特定のテーマに沿って重点的な講義を行う一方、期末試験（本試験）では指定教科書の記述内容に準拠した出題をする。教科書の指定項目について十分に読んでおくこと。

8. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

衛生学・分子疫学講義予定

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
5	10	火	1	疫学	疾病量の把握、記述疫学	分子疫学・中込	1講
5	10	火	2	疫学	分析疫学・リスク・因果関係	分子疫学・中込	1講
5	24	火	1	衛生工学	水利用に関わる疾病リスク	北大・佐野大輔	1講
5	24	火	2	衛生工学	定量的微生物リスク評価	北大・佐野大輔	1講
5	31	火	1	感染症	感染症法と感染症対策	分子標的・田中	2講
5	31	火	2	Global Health	Global burden of disease 1	Mol Epi: Gauchan	2講
6	7	火	1	臨床疫学	Translational Medicine	分子標的・田中	2講
6	7	火	2	臨床疫学	Randomized Controlled Trial (RCT)	分子標的・田中	2講
6	14	火	1	Global Health	国際保健とグローバルヘルス	原研・高村	1講
6	14	火	2	Global Health	Global burden of disease 2	Mol Epi: Gauchan	1講
6	21	火	1	臨床疫学	Evidence-Based Medicine	分子疫学・中込	1講
6	21	火	2	感染症	ワクチンと予防接種政策	分子疫学・中込	1講
6	28	火	1	食品保健	国民栄養、食中毒	広報戦略・堀口	1講
6	28	火	2	食品保健	食品安全基本法と食品安全委員会	広報戦略・堀口	1講
7	5	火	1	人口統計	人口静態統計、人口動態統計	地域リハ・本田	1講
7	5	火	2	保健統計	主要死因の動向、疾病統計	地域リハ・本田	1講
7	12	火	1	医事法制	医事法制概論(1)	法医学・池松	1講
7	12	火	2	医事法制	医事法制概論(2)	法医学・池松	1講
7	19	火	1	医事法制	医事法制概論(3)	法医学・池松	1講
7	19	火	2	医事法制	死亡診断書(死体検案書)の書き方	法医学・池松	1講

公衆衛生学

責任者	氏名	青柳 潔	内線	7065
	教室	公衆衛生学 (公衆衛生学)	e-mail	kiyoshi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月・火・水の12:00-13:00		

対象年次・学期	4年・前期		講義形態	講義
必修・選択	必修		単位数	1.5
英語名	Medical Care & Public Health			

1. 授業のねらい・方法・到達目標

ねらい：この科目は衛生学及び公衆衛生学を主体とした社会医学に関する教育を体系化したものである。人間が生物的・社会的存在であるとの理解の上に、その健康擁護 (Health Care) を図るのが社会医学の基本的立場である。本科目の講義を通じて人々の健康像・疾病像が生活環境や保健医療システムに大きく関わっていること、および地域あるいは職域の保健医療等の知識を得る。

到達目標：社会・環境と健康、生活習慣と疾病、保健・医療・福祉と介護の制度を説明できる。

2. 授業内容 (講義・実習項目)

講義及び実習を行う。講義は4年前期に行われる。実習は5年期の臨床実習期間内に離島において行う。

3. 教科書

特に指定しない。必要に応じプリントを配布する。

4. 参考書

書名	著者	出版社
<ul style="list-style-type: none"> シンプル衛生公衆衛生学 臨床疫学 EBM実践のための必須知識。 厚生指針「国民衛生の動向」 	鈴木庄亮、久道茂監修 福井次矢 監訳 厚生統計協会	南江堂 メディカル・サイエンス・インターナショナル、

5. 成績評価の方法・基準

4年前期試験期間に筆答試験を行う。60点以上を講義分の合格とする。

6. 教員名

公衆衛生学：青柳潔、安部恵代、有馬和彦、西村貴孝
 地域医療学：前田隆浩、
 広報戦略本部：堀口逸子
 病院・看護部：赤星衣美
 非常勤講師：草野洋介、今井秀樹、實森千香子

7. 備考 (準備学習等)

授業項目について教科書を読んでおくこと。

8. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

公衆衛生学シラバス講義予定

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
4	5	火	1	予防医学・健康増進	生活習慣病と保健	公衆衛生・安部	3講
4	5	火	2	予防医学・健康増進	健康日本21、健康増進法、プライマリ・ヘルス・ケア、ヘルスプロモーション	非常勤・草野	3講
4	12	火	1	保健・医療・福祉	社会保障制度	公衆衛生・青柳	3講
4	12	火	2	保健・医療・福祉	医療保険・公費医療・医療経済	公衆衛生・西村	3講
4	19	火	1	産業保健	労働衛生行政、労働安全衛生法、産業医	公衆衛生・青柳	3講
4	19	火	2	産業保健	労働衛生管理、労働災害	公衆衛生・青柳	3講
4	26	火	1	産業保健	重金属中毒、農薬中毒	公衆衛生・有馬	3講
4	26	火	2	産業保健	騒音と振動、異常気圧・気温	公衆衛生・西村	3講
5	27	金	2	保健・医療・福祉	高齢者の現状・高齢者医療確保法	公衆衛生・安部	4講
6	3	金	2	保健・医療・福祉	保健所、へき地・離島、災害・救急、在宅医療	公衆衛生・安部	3講
6	10	金	2	母子保健	現状、母子保健、母体保護、児童虐待防止	看護部・赤星	3講
6	17	金	2	学校保健	学校保健安全法、保健管理	公衆衛生・有馬	3講
6	24	金	2	保健・医療・福祉	保健・医療・福祉施設・従事者	広報戦略本部・堀口	4講
7	1	金	2	産業保健	職業癌、頸肩腕障害、腰痛、VDT	公衆衛生・安部	4講
7	8	金	2	産業保健	ガス中毒・酸欠、有機溶剤・化学物質中毒	非常勤・實森	4講
7	14	木	1	環境保健	環境保全、公害、廃棄物処理	非常勤・今井	4講
7	14	木	2	環境保健	内分泌攪乱物質・環境モニタリング	非常勤・今井	4講
7	15	金	2	保健・医療・福祉	障害と社会、障害者福祉	公衆衛生・青柳	4講
7	21	木	1	保健・医療・福祉	医師法、医療法・医療計画、医療費適正化計画	地域医療学・前田	3講
7	21	木	2	保健・医療・福祉	介護保険、保健・医療・福祉の連携	地域医療学・前田	3講

外科治療学

責任者	氏名	江口 晋	内線	7312
	教室	移植・消化器外科学	e-mail	sueguchi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	17:00~18:00		

対象年次・学期	4年・前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	2
英語名	Surgical Therapeutics		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

外科治療学では外科総論、救急医学、臓器移植と人工臓器および麻酔科学について学ぶ。

2. 授業内容（講義）

外科総論においては外科的侵襲と手術患者の病態生理を理解し、基本的手術手技や術前術後管理を中心に学ぶ。救急医学においては救急患者の診断および重症病態の管理について学ぶ。臓器移植においては臓器移植の種類、内容と移植免疫、人工臓器においては人工臓器の種類と必要条件および問題点を中心に学ぶ。麻酔科学においては麻酔法、麻酔薬および呼吸循環管理など周術期管理を中心に学ぶ。

3. 教科書、参考書等

書名	著者	出版社	定価
標準外科学 13版	監修：加藤治文	医学書院	8,925 円
Principles of Surgery, 9th ed.	Schwartz S. I.	McGraw-Hill	15,513 円
Textbook of Surgery, 19th ed	Sabiston D. C	Saunders	16,334 円
TEXT麻酔・蘇生学 4版	澄川耕二、土肥修司編	南山堂	6,800 円
外傷初期診療ガイドライン	日本外傷学会・日本救急医学会 監修	へるす出版	16,800円

4. 成績評価の方法・基準

講義終了後に筆記試験を行い評価する。60点以上を合格とする。再試験は1回行なう。

5. 教員名

腫瘍外科：永安 武、山崎直哉、土谷智史、日高重和、角田順久、矢野 洋、田浦康明、野中 隆

移植・消化器外科：江口 晋、高槻光寿、金高賢悟、小林和真、山之内孝彰、日高匡章、小坂太一郎、足立智彦、曾山明彦、井上悠介、大野慎一郎、原 貴信

鹿児島大学：井本 浩

麻酔科：原 哲也、村田寛明、北條美能留、境 徹也、樋田久美子

集中治療部：関野元裕

救命救急センター：田崎 修、山下和範、田島吾郎、猪熊孝実、山野修平

救急医療教育室：長谷敦子

外傷センター：宮本俊之

心臓血管外科：谷川和好

泌尿器科：錦戸雅春

6. 講義時間割 ① 8:50-9:50 ② 9:55-10:55 ③ 11:00-12:00
④ 13:00-14:00 ⑤ 14:05-15:05 ⑥ 15:10-16:10

7. 備考（準備学習等）

解剖学、生理学、臓器機能・体液系を復習しておく。

8. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員		教室
4	6	水	1	基本的外科手術手技	(1)手術器具、(2)基本的手術操作、(3)小外科手術手技	腫瘍外科	日高重和	3講
				術前・術後の患者管理(1)	(1)術前の患者管理一般、(2)術前の特殊状態の評価と管理	腫瘍外科	永安 武	
			2	麻酔科学(1)	歴史・麻酔科学の領域	麻酔科	原 哲也	
4	13	水	1	外科の歴史と外科医の立場	(1)外科の歴史、(2)外科医と法、(3)専門医制度	移植・消化器外科	江口 晋	3講
				問診ならびに外科的診察法	(1)病歴、(2)理学的所見	移植・消化器外科	金高賢悟	
			2	麻酔科学(2)	全身麻酔：吸入麻酔薬・静脈麻酔薬	麻酔科	原 哲也	
4	20	水	1	術前・術後の患者管理(2)	(3)術後の患者管理一般、(4)術後合併症とその対策	腫瘍外科	永安 武	3講
				救急医学(1)	救急医学概論、救急医療システム	救命救急センター	田崎 修	
			2	麻酔科学(3)	全身麻酔：オピオイド・筋弛緩薬	麻酔科	原 哲也	
4	27	水	1	ショック(1)	(1)ショックの概念、(2)ショックの原因と分類、(3)ショックの病態	腫瘍外科	野中 隆	3講
				救急医学(2)	心肺蘇生法と脳死判定	救命救急センター	長谷敦子	
			2	麻酔科学(4)	局所麻酔	麻酔科	村田寛明	
4	28	木	3	ショック(2)	(4)ショックの治療、(5)ショックの合併症とショック臓器	腫瘍外科	野中 隆	3講
				救急医学(3)	救急診察法及び診断、外傷初期診療	救命救急センター	猪熊孝実	
			4	麻酔科学(5)	脊髄くも膜下麻酔・硬膜外麻酔	麻酔科	原 哲也	
5	11	水	1	小児外科の特徴	(1)小児外科の特徴、(2)新生児・未熟児の特徴、(3)術前・術後の栄養管理	腫瘍外科	田浦康明	3講
				損傷と創傷治癒	(1)機械的損傷、(2)非機械的損傷、(3)創傷の治癒過程、(4)創傷治癒を左右する因子、(5)創傷管理の実際	移植・消化器外科	足立智彦	
			2	麻酔科学(6)	周術期全身管理：呼吸管理	麻酔科	原 哲也	
5	25	水	1	炎症と感染(1)	(1)炎症の概念と病態生理、(2)臨床症状と所見、(3)外科的感染症の起炎菌	腫瘍外科	山崎直哉	3講
				体液の変動と輸液	(1)正常体液分布、(2)侵襲と体液変動、(3)水・電解質異常、(4)酸塩基平衡傷害、(5)輸液療法	移植・消化器外科	日高匡章	
			2	麻酔科学(7)	集中治療と急性重症病態	麻酔科	関野元裕	
6	1	水	1	炎症と感染(2)	(4)全身感染症と敗血症、(5)外科的特殊感染症、(6)治療	腫瘍外科	山崎直哉	3講
				血液凝固異常と輸血	(1)止血機構、(2)止血機構の傷害、(3)輸血の目的、(4)血液製剤の種類と特徴、(5)輸血法、(6)輸血の副作用と合併症	移植・消化器外科	原 貴信	
			2	麻酔科学(8)	周術期全身管理：循環管理	麻酔科	原 哲也	

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員		教室
6	8	水	1	外科と免疫(1)	(1)免疫機構と調節、(2)腫瘍免疫	移植・消化器外科	山之内孝彰	3講
			—	救急医学(4)	環境異常と生体反応	救命救急センター	田島吾郎	
			2	麻酔科学(9)	周術期全身管理：体液管理	麻酔科	原 哲也	
6	15	水	1	外科と免疫(2)	(3)移植免疫、(4)免疫不全と日和見感染	移植・消化器外科	小坂太一郎	3講
			—	救急医学(5)	災害医療（特別講義）	救命救急センター	山下和範	
			2	麻酔科学(10)	ペインクリニック：痛み診療の基礎	麻酔科	境 徹也	
6	22	水	1	腫瘍	(1)良性腫瘍と悪性腫瘍、(2)発癌メカニズム、(3)悪性腫瘍の病態(4)臨床診断と特殊検査、(5)悪性腫瘍の治療、(6)悪性腫瘍の疫学	移植・消化器外科	小林和真	3講
			—	救急医学(6)	外傷治療プロトコール	外傷センター	宮本俊之	
			2	麻酔科学(11)	ペインクリニック：腰下肢痛	麻酔科	樋田久美子	
6	29	水	1	外科と栄養(1)	(1)外科における栄養管理の意義、(2)栄養アセスメント	腫瘍外科	角田順久	1講
			—	救急医学(7)	熱傷、化学損傷、電撃症	救命救急センター	山野修平	
			2	麻酔科学(12)	緩和医療	麻酔科	北條美能留	
7	6	水	1	老人外科の特徴	(1)老人外科の特徴、(2)手術適応、(3)周術期管理の特徴	腫瘍外科	矢野 洋	1講
			—	外科的侵襲と生体反応(1)	(1)神経内分泌系の反応、(2)循環系の反応、(3)代謝系の反応	移植・消化器外科	井上悠介	
			2	外科的侵襲と生体反応(2)	(4)免疫系の反応、(5)血液凝固系の反応、(6)術後の生体反応と回復過程	移植・消化器外科	大野慎一郎	
7	13	水	1	外科と栄養(2)	(3)経腸栄養、(4)経静脈栄養	腫瘍外科	角田順久	1講
			—	移植と人工臓器	消化器系の移植と人工臓器	移植・消化器外科	曾山明彦	
			2	移植と人工臓器	泌尿器系の移植と人工臓器	泌尿器科	錦戸雅春	
7	19	火	3	心臓血管外科	先天性心疾患の外科治療	鹿児島大学第二外科	井本 浩	4講
			—	移植と人工臓器	呼吸器系の移植と人工臓器	腫瘍外科	土屋智史	
			4	移植と人工臓器	循環器系の移植と人工臓器	心臓血管外科	谷川和好	
7	20	水	1	TBL	Team Based Learning	移植・消化器外科	高槻光寿	4講
			2					

臨床医学 TBL (I・II・III)

責任者	氏名	安武 亨	内線	7987
	教室	先端医育センター	e-mail	toru@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	16:30 ~ 17:30		

対象年次・学期	3年前期・後期 4年前期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	I : 2単位, II : 1単位 III : 1単位
英語名	Team Based Learning		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

チーム基盤型学習 (Team-based learning : TBL) は、各臨床系統講義終了後にまとめの意味も含んで行われる学習形態である。7~8人ずつの小グループに分かれ、大講義室で一斉に討論する。

下記に具体的な流れを記載する。

- ① 講義前に、与えられたテーマや内容に沿った事前学習を行っておく。(LACSへ課題が掲載される)
- ② 講義当日にまず事前学習内容に沿った準備確認テスト (個人⇒グループ) を行う。
- ③ テスト後の解説を受ける。
- ④ 応用問題をグループ内、グループ間で討論する。
- ⑤ まとめを行う。

このように自分の理解度を確認し、他人と知識を交換・共有することにより、より記憶に残り学習効果が増加することが分かっている。座学による受動的な学習を行った後にTBLのような能動的学習を行うことにより、学んだ知識を臨床医療に沿って利用することができるようになり、臨床実習へのステップとなることを期待する学習形態である。

2. 授業内容 (講義・実習項目)

担当教官によって内容は異なる。

3. 教科書、参考書

適宜。事前学習方法・内容に関しても担当教官によって異なる。

4. 成績評価の方法・基準

出席の状況、準備確認テストの結果、討論への参加状況をもとに評価する。

5. カリキュラム

チーム編成、授業内容、担当教官等は別途。

6. 備考

7. アクティブラーニング

高次のアクティブラーニング

法 医 学 系

責任者	氏 名	池松 和哉	内 線	7076
	教 室	社会医学・法医学	e-mail	k-ikema@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	木曜日 16:30～17:30		

対象年次・学期	4年・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1.5
英語名	Forensic Medicine		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

法医学は「医学的解明助言を必要とする法律上の案件・事項について、科学的で公正な医学的判断を下すことによって、個人の基本的な人権の擁護、社会の安全、福祉の維持に寄与することを目的」としており、これを達成するために必要な知識獲得を到達目標とする。

到達目標：

1. 「異状死」という概念を説明できること。
2. 医師の専任事項である死体検案（死後診察）について確実に理解できること。
特に、検案の主目的である「死因」、「死亡推定時刻」、「個人識別」、「法医学的異状の有無」に関しては、論理的で正確な判断を行なえること。
3. 医師として必要な「死亡診断書（死体検案書）」を正確に記載・作成できること。

2. 授業内容（講義・実習項目）

到達目標に則して、死因論、損傷論、個人識別、及び異状死の概念と死体検案の方法並びに死体検案書の記載・作成法等の講義を行なう。

3. 教科書、参考書等

書 名	著 者	出版社	定 価
★学生のための法医学（改訂6版）	田中宣幸 他	南山堂	5,300 円
★死体検案マニュアル2010 年	日本法医学会	日本法医学会	2,000 円

4. 成績評価の方法・基準

定期考査70%、小テスト15%、レポート15%で評価する。

上記到達目標を60%以上到達できた場合を合格とする。

5. 教員名

法医学：池松和哉、山本琢磨、梅原敬弘

放射線科：村上友則

非常勤講師：久保真一（福岡大学）、木下博之（香川大学）、北村修（金沢医科大学）
小片守（鹿児島大）、神田芳郎（久留米大学）

6. 備考（準備学習等）

講義前に教科書を読み、法医学用語を学習しておく。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
9	29	木	3	法医学概論	法医学の定義・歴史	法医・山本	3講
9	29	木	4	死の判定と死因 外因死と内因死	生から死への過程、死の判定、死因、 死因論・外因死と内因死の定義		3講
10	4	火	1	損傷（1）	損傷総論・鈍器損傷	法医・池松	4講
10	4	火	2	損傷（2）	鋭器・銃器損傷		4講
10	6	木	3	損傷（3）	損傷の評価法	法医・池松	3講
10	6	木	4	損傷（4）	頭部の損傷（外景・内景所見と死因）	非常勤・久保	3講
10	11	火	1	死後画像診断	法医学における画像診断	放射線科・村上	4講
10	11	火	2	損傷（5）	交通事故による損傷	法医・池松	4講
10	13	木	3	窒息死（1）	窒息総論・頸部圧迫による窒息死1	法医・山本	3講
10	13	木	4	窒息死（2）	頸部圧迫による窒息死2		3講
10	18	火	1	個人識別（1）	血液型・DNA型	非常勤・神田	4講
10	18	火	2	個人識別（2）	個人識別の実際	法医・梅原	4講
10	20	木	3	溺死	溺死体と水中死体	法医・山本	3講
10	20	木	4	異常環境下の死	高温による障害・低温による障害		3講
10	25	火	1	法医中毒学（1）	中毒総論・アルコール	非常勤・木下	3講
10	25	火	2	法医中毒学（2）	農薬・医薬品中毒		3講
10	27	木	3	死体現象	死体現象と死後経過時間の推定	法医・池松	3講
10	27	木	4	損傷（6）	小児・配偶者・高齢者に対する虐待	非常勤・小片	3講
11	1	火	1	胎・嬰兒の死	嬰兒殺	法医・池松	4講
11	1	火	2	内因死	法医学における内因性急死	非常勤・北村	4講
11	4	金	3	検案の実際	検案の方法と注意点	法医・山本	3講
11	4	金	4	法医学演習	症例の検討	法医・池松	3講

診 断 学

責任者	氏名	中尾一彦	内線	7481
	教室	消化器内科	e-mail	kazuhiko@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	木曜日 午前8:30~12:00		

対象年次・学期	4年・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	3
英語名	Physical Diagnosis		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

診断学では、臨床の第一歩として医師－患者信頼関係を重視した医療面接技能及び基本的臨床技能を修得する。さらに症候から診断への的確なアプローチ法を学ぶとともに患者の立場に立った医療を行える医師となるための基礎を築くことを目標とする。

2. 授業内容（講義・実習項目）

講義：総論として医療面接技能、基本的身体診察技能とともに内科、外科、臨床検査診断、放射線、内視鏡、症候診断、眼底、鼓膜診察法を教授する。

実習：実習要領に沿って総論実習2回と項目についての各論実習を10回行う。

総論実習では、チューターとなる教官がそれぞれのグループの学生に基本的診察技能を指導する。各論実習では、それぞれの専門医が主要症候から診断法、身体診察法を指導する。

3. 教科書、参考書等

基本的臨床技能マニュアル(長崎大学医学部編)を配付する。それに加えて下記の教科書・参考書が参考となる。

書名	著者	出版社	定価
内科診断学	武内重五郎	南江堂	8,715 円
診察診断学	高久史麿 監修 橋本信也、福井次矢	医学書院	6,300 円

4. 成績評価の方法・基準

筆記試験：講義及び実習内容について筆答試験を行う。

実技試験：共用試験OSCE（客観的臨床技能試験）により実技試験を行い修得度を判定する。

出席：講義・実習とも出席状況を評価に入れる。

評価方法：筆記試験と実技試験を総合して評価する。

成績評価の基準：総点の60%以上かつ実技試験の60%以上を合格とする

5. 教員名

第一内科：川上純、阿比留教生、中村英樹、一瀬邦弘、岩本直樹、森良孝、堀江一郎
 脳神経内科：辻野彰、白石裕一、中嶋秀樹
 第二内科：迎寛、尾長谷靖、福島千鶴、坂本憲穂、角川智之、山口博之、西條知見、原敦子、石本裕士、池田喬哉
 腎臓内科：西野友哉、小畑陽子、浦松正、牟田久美子、北村峰昭、太田祐樹
 循環器内科：前村浩二、河野浩章、小出優史、池田聡司、片山敏郎、深江学芸、石松卓、恒任章、土居寿志、古賀聖士、米倉剛、中田智夫、荒川修司
 原研内科：宮崎泰司、波多智子、今泉芳孝
 熱研内科：有吉紅也、田中健之、高木理博、山下嘉郎、高橋健介
 消化器内科：中尾一彦、竹島史直、

田浦直太、宮明寿光、赤澤祐子、三馬聡、小澤栄介、柴田英貴、本田琢也、松島加代子、橋口慶一
 第二外科：江口晋、曾山明彦、小坂太一郎、久芳さやか、井上悠介、足立智彦、大野慎一郎、夏田孔史
 放射線科：上谷雅孝、工藤崇、坂本一郎
 検査部：柳原克紀、宇野直輝、小佐井康介、賀来敬仁
 耳鼻科：高橋晴雄、北岡杏子
 眼科：北岡隆
 光学医療診療部：大仁田賢、山口直之
 総合診療科：大園恵幸、中道聖子、河津多代
 先端医育支援センター：安武亨
 地域包括ケア教育センター：永田康浩

6. 備考（準備学習等）

実習の前には、基本的臨床技能マニュアル(長崎大学医学部編)やその他の教科書であらかじめ予習しておくこと。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
9	21	水	2	外科学診断学総論	乳腺・リンパ節の診察, ガウンテクニック	第2外科 久芳さやか	4講
9	21	水	3	診断学総論①	基本的身体診察	総診 中道聖子、河津多代	3講
9	21	水	4	診断学総論①	基本的身体診察	総診 中道聖子、河津多代	3講
9	23	金	2	外科学診断学総論	直腸・肛門の診察, 外科縫合	第2外科 井上悠介	4講
9	23	金	3	放射線診断学総論	X線撮影, CT, MRI	放射線科 上谷雅孝	4講
9	23	金	4	放射線診断学総論	医療被曝と放射線防護	放射線科 工藤崇	4講
9	27	火	3	診断学総論②	診断のプロセス, 医療面接	総診 大園恵幸	3講
9	27	火	4	診断学総論②	診断のプロセス, 医療面接	総診 大園恵幸	3講
9	28	水	2	放射線診断学総論	造影検査と造影剤	放射線科 坂本一郎	4講
9	28	水	3	臨床検査医学総論	検査診断学総論	検査部 賀来敬仁	3講
9	28	水	4	臨床検査医学総論	微生物検査診断学	検査部 小佐井康介	3講
10	4	火	3	診断学各論実習①	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・2外科	3講
10	4	火	4	診断学各論実習①	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・2外科	3講
10	5	水	2	臨床検査医学総論	血液・血清診断学	検査部 宇野直輝	4講
10	5	水	3	診断学各論実習②	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・2外科	3講
10	5	水	4	診断学各論実習②	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・2外科	3講
10	7	金	2	症候診断学①	検尿異常の診かた	腎臓内科 西野友哉	4講
10	7	金	3	内視鏡診断学総論	消化管非腫瘍	光学 大仁田 賢	3講
10	7	金	4	内視鏡診断学総論	消化管腫瘍	光学 大仁田 賢	3講
10	11	火	3	診断学各論実習③	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・2外科	3講
10	11	火	4	診断学各論実習③	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・2外科	3講
10	12	水	2	症候診断学②	症候診断学とMEDLINE	第一内科 川上純	4講
10	12	水	3	診断学各論実習④	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・2外科	3講
10	12	水	4	診断学各論実習④	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・2外科	3講
10	18	火	3	診断学各論実習⑤	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・2外科	3講
10	18	火	4	診断学各論実習⑤	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・2外科	3講
10	19	水	2	症候診断学③	循環器診断学のポイント	循環器内科 前村浩二	4講
10	19	水	3	診断学各論実習⑥	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・2外科	3講
10	19	水	4	診断学各論実習⑥	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・2外科	3講
10	21	金	2	症候診断学④	呼吸器診断学のポイント	第2内科 迎 寛	4講

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
10	21	金	3	眼底の診察法	眼底検査の理論と実際	眼科 北岡 隆	3講
10	21	金	4	症候診断学⑤	腹痛の診断学	消化器内科 竹島史直	3講
10	25	火	3	診断学各論実習⑦	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・2外科	3講
10	25	火	4	診断学各論実習⑦	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・2外科	3講
10	26	水	2	症候診断学⑥	血液疾患の兆候から診断までのプロセス	血液内科 宮崎泰司	4講
10	26	水	3	診断学各論実習⑧	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・2外科	3講
10	26	水	4	診断学各論実習⑧	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・2外科	3講
11	1	火	3	診断学各論実習⑨	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・2外科	3講
11	1	火	4	診断学各論実習⑨	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・2外科	3講
11	2	水	2	症候診断学⑦	発熱患者の診かた	熱研内科 田中健之	4講
11	2	水	3	診断学各論実習⑩	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・2外科	3講
11	2	水	4	診断学各論実習⑩	各論実習ローテーション表参照	内科・総診・2外科	3講
11	9	水	2	鼓膜の診察法	耳鏡の使い方	耳鼻咽喉科 北岡杏子	3講
11	9	水	3	内科診断学総論実習①	内科診断学総論要項参照	内科・総合診療科	3講
11	9	水	4	内科診断学総論実習①	内科診断学総論要項参照	内科・総合診療科	3講
11	16	水	2	OSCE	OSCEについて	先端医育支援センター 安武 亨	4講
11	16	水	3	内科診断学総論実習②	内科診断学総論要項参照	内科・総合診療科	3講
11	16	水	4	内科診断学総論実習②	内科診断学総論要項参照	内科・総合診療科	3講

8. 内科診断学総論要項

(1) 総論実習

基本的身体診察法を学ぶための実習2回（11/9, 11/16のいずれも午後）は、A～Pの16グループに分かれて、下表の指導教員のもとで行う。各実習日の13:30に下表の場所に集合すること。

グループ（学生番号）	指導担当教員	集合場所・実習場所
A（ ）	（脳神経内科）辻野彰	病院7階 シミュレーション室
B（ ）	（第1内科）阿比留教生	病院7階 シミュレーション室
C（ ）	（第1内科）中村英樹	病院7階 シミュレーション室
D（ ）	（第2内科）尾長谷靖	病院3階 呼吸器内科外来集合
E（ ）	（第2内科）福島千鶴	病院3階 呼吸器内科外来集合
F（ ）	（第2内科）坂本憲穂	病院3階 呼吸器内科外来集合
G（ ）	（循環器内科）河野浩章	病院2階循環器内科外来
H（ ）	（循環器内科）小出優史	病院2階循環器内科外来
I（ ）	（消化器内科）竹島史直	病院3階 消化器内科外来
J（ ）	（消化器内科）田浦直太	病院9階 ゼミ室
K（ ）	波多智子（原研内科）	病院3階 血液内科外来
L（ ）	今泉芳孝（原研内科）	病院3階 血液内科外来
M（ ）	山下嘉郎（熱研内科）	病院3階 呼吸器感染症外来
N（ ）	高木理博（熱研内科）	病院3階 呼吸器感染症外来
O（ ）	中道聖子（総合診療科）	第3講義室・1F総診外来
P（ ）	河津多代（総合診療科）	第3講義室・1F総診外来

☆ A・Bは総論実習のグループ編成を示す。以下同様

☆ グループ編成は後日知らせる。

☆ 実習（総論）の開始は13:30からである。講義とは異なっている
ので気をつけること

(2) 各論実習

下記の日程に従って、神経、血液、感染症、代謝、内分泌、消化器、呼吸器、循環器、膠原病、腎臓、外科、プライマリケア、疾患についての基本的診断手技の実習を行う。

各論実習ローテーション表

実習期日			10/4	10/5	10/11	10/12	10/18	10/19	10/25	10/26	11/1	11/2
実習項目 担当責任教員	実習時間	集合場所 実習場所	火	水	火	水	火	水	火	水	火	水
医療面接 (地域包括ケア教育 センター) 永田康浩 (総合診療科) 中道聖子 (消化器内科) 竹島史直	13:30~15:00	第3講義室	I・II		IX・X		VII・VIII		V・VI		III・IV	
プライマリケア・ BLS (総合診療科) 河津多代	15:20~16:50	第3講義室	I・II		IX・X		VII・VIII		V・VI		III・IV	
神経疾患 (脳神経内科) 白石裕一	13:30~15:00	病院本館9F 多目的室1 (第一会議室)		I・II		IX・X		VII・VIII		V・VI		III・IV
	15:20~16:50			I・II		IX・X		VII・VIII		V・VI		III・IV
血液疾患 (原研内科) 今泉芳孝	13:30~15:00	病院3階 血液内科外来	III・IV		I・II		IX・X		VII・VIII		V・VI	
感染症疾患 (熱研内科) 高橋健介	15:20~16:50		III・IV		I・II		IX・X		VII・VIII		V・VI	
代謝疾患 (第1内科) 森良孝	13:30~15:00	病院9F チェアマン室		III・IV		I・II		IX・X		VII・VIII		V・VI
内分泌疾患 (第1内科) 堀江一郎	15:20~16:50	病院9F チェアマン室		III・IV		I・II		IX・X		VII・VIII		V・VI
消化器疾患 (消化器内科) 山口直之	13:30~15:00	病院9階 ゼミ室(906)	V・VI	V・VI	III・IV	III・IV	I・II	I・II	IX・X	IX・X	VII・VIII	VII・VIII
	15:20~16:50		V・VI		III・IV		I・II		IX・X		VII・VIII	
膠原病疾患 (第1内科) 中村英樹	15:20~16:50	病院本館9F 多目的室1 (第一会議室)		V・VI		III・IV		I・II		IX・X		VII・VIII
呼吸器疾患 (第2内科) 角川智之	13:30~15:00	病院9階 ゼミ室(905)	VII・VIII	VII・VIII	V・VI	V・VI	III・IV	III・IV	I・II	I・II	IX・X	IX・X
	15:20~16:50		VII・VIII		V・VI		III・IV		I・II		IX・X	
腎臓疾患 (腎臓内科) 浦松正	15:20~16:50	病院9階 ゼミ室(905)		VII・VIII		V・VI		III・IV		I・II		IX・X
循環器疾患 (循環器内科) 池田聡司	13:30~15:00	シミュレーション室(7階)	IX・X	IX・X	VII・VIII	VII・VIII	V・VI	V・VI	III・IV	III・IV	I・II	I・II
	15:20~16:50		IX・X		VII・VIII		V・VI		III・IV		I・II	
外科 (第2外科) 小坂太一郎	15:20~16:50	シミュレーション室(7階)		IX・X		VII・VIII		V・VI		III・IV		I・II

☆ I・IIは各論実習のグループ編成を示す。以下同様

☆ グループ編成は後日知らせる。

☆ 総論と各論でグループ編成が異なることに注意

☆ BLS: Basic Life Support

☆ 実習(各論)の開始は13:30からである。講義とは異なっているので気をつけること

臨床検査医学

責任者	氏名	柳原 克紀	内線	7574
	教室	臨床検査医学 (病態解析・診断学)	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日の17:00～18:00		

対象年次・学期	4年・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1
英語名	Laboratory Medicine		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

ねらい：医療における検査の意義を系統的に理解し解釈する能力を養う。

方法（学習指導法）：講義形式とし、プリントやプロジェクターを用いて解説する。

到達目標：検査情報を正しく分析・解釈することができ、また検査情報を活用した適正な医学的判断能力を習得できる。

2. 授業内容（講義・実習項目）

正しい臨床診断を得るためには検査データの科学的かつ総合的な解釈能力が要求される。病院の中核部門の1つである検査部や輸血部で行われている検査について理解を深め、各種検査についての基本的知識や解釈原理、異常値が出る病態生理学的機序を理解する授業を行う。

3. 教科書、参考書等

書名	著者	出版社
臨床検査ガイド 標準臨床検査医学 臨床検査法提要 よくわかる輸血学・改訂版 移植・輸血検査学 血液細胞アトラス	大久保光夫	文光堂 医学書院 金原出版 羊土社 講談社 文光堂
Handbook of Hematologic Pathology Molecular Diagnostics Methods and Clinical Applications	Lela Buckingham	Marcel Dekker Inc, USA F. A. Davis
戸田新細菌学	吉田眞一、柳雄介、 吉開泰信	南山堂
標準臨床検査学「微生物学・臨床微生物学・ 医動物学」	一山智、田中美智男	医学書院

4. 成績評価の方法・基準

講義終了後に筆記試験を行い、60点以上を合格とする。講義に1/3以上欠席すると受験の資格はないものとする。

5. 教員名

臨床検査医学：柳原克紀、長谷川寛雄、宇野直輝、小佐井康介、賀来敬仁
病院細胞療法部：長井一浩

6. 備考（準備学習等）

授業の前に参考書で予習をしておくこと。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

月	日	曜日	校時	授業内容	担当講座等・教員	教室
9	21	水	1	医療と臨床検査	臨床検査医学・柳原	4講
9	28	水	1	検査値の解釈原理	臨床検査医学・柳原	4講
9	30	金	1	一般検査	臨床検査医学・長谷川	4講
9	30	金	2	検査血液学	臨床検査医学・長谷川	4講
10	5	水	1	臨床化学検査総論	臨床検査医学・宇野	4講
10	7	金	1	臨床化学検査各論（1）	臨床検査医学・賀来	4講
10	12	水	1	臨床化学検査各論（2）	臨床検査医学・賀来	4講
10	14	金	1	微生物検査（1）	臨床検査医学・小佐井	4講
10	14	金	2	微生物検査（2）	臨床検査医学・小佐井	4講
10	19	水	1	生理機能検査	臨床検査医学・賀来	4講
10	21	金	1	免疫血清検査	臨床検査医学・長谷川	4講
10	26	水	1	輸血（1）	病院細胞療法部・長井	4講
10	28	金	3	輸血（2）	病院細胞療法部・長井	3講
11	2	水	1	遺伝子検査総論	臨床検査医学・宇野	4講
11	9	水	1	遺伝子検査各論	臨床検査医学・長谷川	3講
11	16	水	1	検査の実際	臨床検査医学・柳原	4講

臨床疫学・医療情報学

責任者	氏名	大園 恵 幸	内 線	7323
	教 室	(総合診療学)	e-mail	oozono@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	17:30-18:30		
責任者	氏名	本 多 正 幸	内 線	7536
	教 室	(医療情報部)	e-mail	m-honda@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	17:30-18:30		

対象年次・学期	4年・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	0.5
英語名	General Medicine・Medical Informatics		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

[臨床疫学]

臨床の現場では、患者に対し最適で最良の医療を提供するため Evidence に基づいた臨床判断を下すことが重要である。そのために必要な基本的臨床疫学の知識と Evidenced Based Medicine (EBM) の実践法の授業を行う。到達目標として患者の種々の医療問題に対し EBM を実践する方法を学ぶ。

[医療情報学]

ねらい：医療分野における IT 化に向けた政府や厚生労働省の動向、病院情報システムや地域医療情報システムの実態とその問題点を把握し、病院における患者データの管理や研究支援（統計学）に関してその方法を理解する。授業方法：資料および PC 等を用いた講義形式により授業を展開する。

到達目標：医療分野における IT 化の動向、医療機関における情報システム・電子カルテと特徴と問題点、地域医療連携システムの実情とメリット、離島医療支援の経過と現状、データの標準化、セキュリティに関して概ね基礎的内容が説明できる。基本的な統計学の概念が説明できる。

2. 授業内容（講義・実習項目）

- ・臨床疫学に必要な統計学、EBM の実際（臨床上の問題点の抽出、情報の収集、批判的吟味、患者への適用）についての講義及び演習
- ・医療情報システム、病院情報システム、広域医療情報ネットワーク、システム運用、患者データベース、データの再利用（統計解析）などに関する講義

3. 教科書、参考書等

書名	著名	出版社	定価
EBM 実践ワークブック 削除 一より良い治療を目指して一	名郷直樹	南江堂	3000 円
論文が読める！早わかり統計学—臨床研究データを理解するためのエッセンス	Geoffrey R. Norman, David L. Streiner (著)、中野正孝、他 (訳)	メディカル・サイ エンス・インター ナショナル	4095 円

4. 評価の方法・基準

(臨床疫学) 出席および与えられたテーマに対するレポートで行う。

(医療情報学) 出席点 50%、レポート 50% (レポートの評価の基準は、与えられたテーマについて調査し、適切なキーワードを用いて的確に内容が説明できているかどうかを判断基準とする。)

5. 教員名

大園恵幸、中道聖子、本多正幸、松本武浩

6. 備考（準備学習等）

(臨床疫学) これまで学習した医学統計学を復習しておく。

(医療情報学) これまで学習した、情報処理関連の講義・演習等を復習しておく。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
9	26	月	1	医療情報学	医療情報システム概要と病院情報システム	医療情報部・松本武浩	4講
9	26	月	2	医療情報学	地域連携のIT化	医療情報部・松本武浩	4講
10	3	月	1	医療情報学	情報セキュリティ、統計解析Ⅰ（統計学の基礎）	医療情報部・本多正幸	4講
10	3	月	2	医療情報学	統計解析Ⅱ（推定・検定・他）	医療情報部・本多正幸	4講
10	17	月	1	臨床疫学	臨床に必要な統計学	総合診療科・大園恵幸	4講
10	17	月	2	臨床疫学	EBMの実践 患者問題の定式化	総合診療科・大園恵幸	4講
10	24	月	1	臨床疫学	EBMの実際のための情報収集法	総合診療科・大園恵幸・中道聖子	4講
10	24	月	2	臨床疫学	EBMの患者への適用	総合診療科・大園恵幸 中道聖子	4講

臨床薬理学

責任者	氏名	佐々木 均	内線	7245
	教室	臨床薬物動態学（薬剤部）	e-mail	sasaki@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	佐々木 均、sasaki@nagasaki-u.ac.jp、095-819-7245、18:00以降（薬剤部部長室） 北原 隆志、kitappy@nagasaki-u.ac.jp、095-819-7246、火曜日18:00以降（薬剤部副部長室）		

対象年次・学期	4年・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	0.5
英語名	Clinical Pharmacology		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

臨床で薬物治療を実施する場合、薬剤の体内動態を合理的に予測し、病態に影響する各種要因や最新の相互作用・副作用の情報を考慮し、適正な製剤を選択し、総合的な投与計画を設計する必要がある。この講義では、薬物投与設計のための薬物速度論を理解し、相互作用や製剤の基礎知識を深め、実際に臨床で応用できる能力を身に付ける。

2. 授業内容（講義・実習項目）

薬物の臨床使用を想定した点滴投与、経口投与などの薬物速度論を講義する。さらに、薬物投与設計のための投与量、投与間隔、投与方法などの理論を学び、実際の薬物について、自分で投与設計を行う。また、Therapeutic Drug Monitoringの症例をもとに影響因子を考察する。さらに、処方設計の考え方、薬物相互作用の基礎知識、新規製剤の知識、特定薬剤治療管理料を算定できる薬剤の詳細について講義する。

3. 教科書、参考書等 必要に応じて資料配布

書名	著者	出版社	定価
資料配布			

4. 成績評価の方法・基準

課題レポート提出・内容（60%）と、出席・小テスト（40%）を考慮して判定する。

5. 教員名

大学病院薬剤部 佐々木均、北原隆志

6. 備考（準備学習等）

LACSを用いて授業資料を事前配布する。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
9	26	月	3	医薬品概論	医薬品開発の歴史、医薬品にかかわる法規制について概説する。	薬剤部・佐々木	4講
9	26	月	4	処方設計	処方箋の法律的意義や処方設計における注意点などに関して講義する。	薬剤部・北原	4講
10	3	月	3	薬物動態1	薬物の体内動態(吸収・分布)の原理と影響する各種要因について講義する。	薬剤部・佐々木	4講
10	3	月	4	薬物動態2	薬物の体内動態(代謝・排泄)の原理と影響する各種要因について講義する。	薬剤部・佐々木	4講
10	17	月	3	薬物速度論	静脈注射、経口投与、点滴注射などの基礎理論を講義する。	薬剤部・佐々木	4講
10	17	月	4	TDM	Therapeutic Drug Monitoring対象薬剤の紹介及び処方における注意点を症例をもとに講義する。	薬剤部・北原	4講
10	24	月	3	製剤	種々の製剤の特徴に関して講義する。	薬剤部・北原	4講
10	24	月	4	相互作用	薬物の製剤学的、生物薬剤学的、薬理学的な相互作用について講義する。	薬剤部・北原	4講

東 洋 医 学

責 任 者	氏 名	有賀 純	内 線	7043
	教 室	医科薬理学	e-mail	aruga@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	水曜日17:00 - 18:30		

対象年次・学期	4年・後期	講義形態	講義
必修・選択	必修	単位数	0.5
英語名	Kampo (Japanese traditional medicine)		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

ねらい：保険適応の医療用薬剤として漢方薬は30年以上の歴史があり、多くの医師が様々な疾患の治療に漢方薬を使用する。日本の漢方薬は、米国など海外でも治療体系に組み込まれている。診療に必要な和漢薬治療の基本、漢方薬の基礎概念を学ぶ。同時に、漢方薬を含めた薬剤反応（薬効）の個人差（多様性）の遺伝子レベルでの理解を深め、より実践的な「薬物療法の論理」を学び、将来臨床の場において「自家薬籠中の薬（P-drug）」を正しく形成する基盤を作ること为目标とする。

到達目標：漢方医学の基本的な考え方について概説できる。

代表的な漢方処方構成と効果、副作用を概説できる。

漢方医学が臨床において用いられている現状を概説できる。

2. 授業内容（講義・実習項目）

漢方医学を用いている臨床、西洋医学(エビデンス)の観点から漢方処方、生薬についての研究、漢方医学の歴史、漢方医学における診察法と証、針灸治療の適応などについて、それぞれの分野の専門家が講義を行う。生薬を観察する、漢方薬の試飲を行うなどの体験学習も予定されている。

3. 教科書・参考書等

プリント資料配布

参考書：漢方医学テキスト 日本東洋医学会学術教育委員会 南江堂

症例から学ぶ和漢診療学 寺澤捷年 医学書院

はじめての漢方診療ノート 三瀧忠道 医学書院

4. 成績評価の方法・基準

試験は筆答形式で行い、授業内試験の評価を加えて総合的に評価する。100点満点中、60点以上の得点をもって合格とする。

5. 教員名

医科薬理学： 有賀 純

巽 理恵

非常勤講師： 田原英一（麻生飯塚病院東洋医学センター）

服部智久（ツムラ薬理研究所）

溝口和臣（ツムラ薬理研究所）

麻酔科： 境 徹也

産婦人科： 吉田 敦

薬学部天然物化学： 田中 隆

歯学部生体情報科学： 戸田 一雄

6. 備考（準備学習等）

日常生活の中で漢方薬がどのように用いられているかに注意を払い、触れる機会があればその都度、調べてみることを。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

臨床特論（東洋医学）授業予定（4年後期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・ 教員	教室
9	27	火	1	漢方薬Ⅰ	漢方薬の臨床1(麻酔)	境 徹也	2講
			2	漢方薬Ⅱ	漢方薬の臨床2(産婦人科)	吉田 敦	2講
9	30	金	3	漢方薬Ⅲ	漢方薬の基礎と臨床	服部 智久	2講
			4	漢方薬Ⅳ	漢方薬はなぜ効くのか	溝口 和臣	2講
10	14	金	3	漢方薬Ⅴ	生薬の有効成分について	薬学部・田中	2講
			4	特別講義	針灸治療の科学	歯学部・戸田	2講
10	31	月	1	漢方薬Ⅵ	漢方医学の診断・治療1	田原 英一	2講
			2	漢方薬Ⅶ	漢方医学の診断・治療2	田原 英一	2講

総合病理学

責任者	氏名	中島 正洋	内線	7105
	教室	原研病理	e-mail	moemoe@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	木曜日12時から15時		

対象年次・学期	4年・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	1
英語名	Clinical pathology		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

臨床医としての診療の中で、病因解明や死因究明のため亡くなられた患者さんの剖検の機会があり、病理解剖の結果を踏まえてのCPC(clinico-pathological conference)も多い。また、臨床研修制度のなかで、病理解剖症例のCPCレポートが義務づけられている。本授業の目的は、学生が与えられた病理剖検症例を通して、CPCを体験し、患者さんの病態を総合的に解析し、最終診断に至る過程を学ぶことである。

2. 授業内容

病理学講座(旧第1、第2病理)と原研病理の教員が各1回ずつ担当する。

授業は、病理解剖症例を用いて、CPC方式で行う。

実際の病理解剖症例について、臨床病歴、現症、検査データ、画像などのプレゼンテーション資料から病態を推察し臨床診断を行い、さらに問題点を提起する。

その後、病理解剖所見(肉眼所見・組織所見)を観察(標本検鏡を含む)し、病理診断をまとめ、総合討論する。

3. 成績評価の方法・基準

期末試験は行わず、卒業試験科目として卒業判定時に出席と受講態度とともに評価する。

4. 教員名

第1病理：下川 功、林 洋子

第2病理：福岡順也、安倍邦子、新野大介

原研病理：中島正洋、三浦史郎

5. 備考(準備学習等)

病理学総論・各論の総括的復習

6. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

総合病理学授業予定(4年後期)

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
9	29	木	1, 2	剖検症例1	CPC形式	原研病理・中島	実2
10	6	木	1, 2	剖検症例2	CPC形式	病理1・下川	実2
10	13	木	1, 2	剖検症例3	CPC形式	病理2・福岡	実1
10	20	木	1, 2	剖検症例4	CPC形式	原研病理・三浦	実2
10	27	木	1, 2	剖検症例5	CPC形式	病理1・林	実2
10	28	金	1, 2	剖検症例6	CPC形式	病理2・安倍	実2
11	4	金	1, 2	剖検症例7	CPC形式	病理2・新野	実2

臨床推論PBL

責任者	氏名	柳原 克紀	内線	7574
	教室	臨床検査医学（病態解析・診断学）	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日の17:00～18:00		

対象年次・学期	4年・後期	講義形態	講義・実習
必修・選択	必修	単位数	3
英語名	Problem-based learning		

1. 臨床推論PBLとは

Problem-based learning (PBL)は、4年次の学生に対し臨床各科ローテーションが始まる前に、課題探索・自己問題解決能力のトレーニングとして、平成16年度から導入することになった教育方法です。

医学部（医学科）学生はこの時期までは、主に座学により医学的知識の蓄積に努めてきましたが、実際の臨床医療を学ぶためには自主的問題解決型の思考、学習が必要になります。そこで、臨床実習に入る前に、あるテーマに対して調査、討論を重ねて解答、解決法を自ら見出す学習としてPBLを行います。

2. 授業のねらい・方法・到達目標

- (1) 与えられた知識の記憶にとどまらず、必要な知識を自ら獲得する方法と習慣を身に付ける。
- (2) 臨床に即した問題解決が行えるよう、病態の基礎医学的理解から診断・治療までを症例に基づいて一貫して学ぶことにより、臨床実習に必要な基本的知識と考え方を習得する。
- (3) グループ学習を通じてコミュニケーション能力を身に付け、チーム医療の基本を学ぶ。

3. 成績評価の方法・基準

出席の状況、討論への参加状況をもとに評価する。

4. カリキュラム

ローテーション表及び各科時間割は、別途手引きとして配付する。

5. 備考（準備学習等）

6. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

臨床実習

責任者	氏名	上谷 雅孝	内線	7355
	教室	放射線医学	e-mail	uetani@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日午前10時～12時		

対象年次・学期	4年・後期、 5年・前期、後期	講義形態	実習
必修・選択	必修	単位数	55単位
英語名	Clinical Clerkship I (Core clerkship rotation)		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

臨床の現場を実際に体験し、これまでに学んできた基礎医学、社会医学および臨床医学の基本的知識を再構築して応用し、患者が抱えている問題を解決する能力を身につける。目標は、①受持ち患者の情報を収集し、診断して治療計画を立てる。②受持ち患者の基本的な身体診察ができる。③基本的手技を学ぶ。である。更に、患者を全人格としてとらえ、対応する能力、医療を支える他職種の役割の理解と協力の重要性をも学びとる。

以下の診療科をローテートする。

第1内科、整形外科・形成外科、麻酔科、救命救急センター、眼科・脳神経外科、消化器内科、精神神経科・耳鼻咽喉科、第2外科、臨床検査医学・原研内科、産科婦人科、皮膚科・泌尿器科、小児科、循環器内科、心臓血管外科・地域病院、第2内科、放射線科・熱研内科、第1外科、総合病理学・総合診療科・社会医学

2. 授業内容（講義・実習項目）

診療科により異なる。臨床実習要項を参照。

3. 教科書、参考書等

適宜。

4. 成績評価の方法・基準

各科で、出席状況、実習状況等を総合的に評価する。Advanced OSCEの成績は臨床実習の成績の一部となる。なお、期間を通じた到達目標達成度・mini-CEX・ポートフォリオ・チーム医療実習においても評価する。

5. 教員名

臨床実習要項を参照。

6. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

医学ゼミ

責任者	氏名	柳原 克紀	内線	7574
	教室	臨床検査医学（病態解析・診断学）	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日の17:00～18:00		

対象年次・学期	1年：前期、後期 2年：前期、後期 3年：前期 4年：前期	講義形態	担当教員が講義形態を決定する。
必修・選択	必修	単位数	前期、後期各1
英語名	Small group medical seminar		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

必修選択の科目であり、各科目10名前後の少人数教育を行う。自らが特に学習したい分野を選択し、その分野についてコアとなる教科内容を越えて特定の内容を深く掘り下げる学習を行う。当該分野の医学・科学に対する探求心・問題解決能力の育成と、より深い理解を目指す。少人数で担当教員との双方向性の授業を行うことにより教官と親しく交流すると共に、1年次から4年次まで学年間の壁を越えて共に学ぶ環境を提供する。AO学生は、医学ゼミを通して当該領域の知識を深める。

2. 授業科目の選択方法

- 各開講科目について、教育目標、授業内容、担当教員、開講場所、開講時間帯等を公示する。
- 各学年開始前に、前期・後期別に受講希望科目を学務係に提出する（第3希望まで）。
- 第1希望を優先し、各科目へ学生の割り振りを行う。

3. 教科書、参考書等

担当教員が提示する。

4. 成績評価の方法・基準

1、2年次前期・後期、3年次前期、4年次前期に開講する。3年次への進級には2年次で1単位以上、4年次への進級には3年次までに2単位以上、5年次への進級には4年次までに3単位以上修得する必要がある。卒業のための最低修得単位数は3単位である。

5. 指導教員など

医学科、熱帯医学研究所、先導生命科学研究支援センター教員

6. 備考（準備学習等）

担当教員が提示する。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

平成28年度「医学ゼミ」開講テーマ一覧(4年生)

教室	責任者名	ゼミテーマ(サブタイトル)	目的・方針	内容	対象学年 開講時期	開講時間	場所	評価方法	備考
医科薬理学	有賀 純 中川 慎介 巽 理恵 畑山 実	最新の論文から探る医学 生物学研究の潮流	トップジャーナルに掲載された脳神経、血管、幹細胞に関する論文の学術的背景や意義を理解して、最新の研究動向を把握し、今後の研究戦略を考える。	Nature, Science, Cellなどの国際科学誌の最新号に掲載された文献を毎週1報ずつ紹介する。発表はパワーポイントなどを使用し、論文に記載されている実験内容や結果を解説する形式で行う。なお、論文の選定から読解、発表まで教官がマンツーマンで指導する。期間中に2回の発表を予定している。	2年前期 3年前期 4年前期	金曜日1校時	薬理学教室 セミナー室	出席内容、発表内容を考慮して評価する。	
免疫学	由井 克之	論文から学ぶ免疫学	重要な原著論文に触れることにより、免疫学の方法論とその根底にあるアイデアに対する理解を深め、問題解決能力を滋養する。「免疫学」の授業を履修した4年生を主な対象とするが、意欲ある2年生も歓迎する。	免疫学関連の主要な論文(英文)の抄読会を行う。学生があらかじめ自学した論文の内容を紹介し、それについて全員で議論し、理解を深める。論文の選択、読み方などは適宜指導する。	2年前期 3年前期 4年前期	金曜日1校時	免疫学分野 集会室	発表内容、参加態度、レポート、出欠を総合的に評価	
感染分子	西田 教行 田口 謙	ケースレポートから学ぶ感染症	原著論文を読むことで、科学的批判力を養う	NEJMのCase reportから感染症の症例を選択的に取り上げ、丁寧に読解を行う。	2年前期 3年前期 4年前期	金曜日1校時	基礎棟8階 集会室	出席およびレポート	
公衆衛生	青柳 潔	論文から学ぶ公衆衛生学	文献を通して医学の社会性について学ぶ	公衆衛生学に関連した論文を各自が紹介・発表し、討論する。	2年前期 3年前期 4年前期	金曜日1校時	公衆衛生学 資料室	積極性、レポート	
第一内科	川上 純	臨床内科のエッセンス	Early Bird lesson(EBL)への参加を行ない、臨床の基本的な考え方を学ぶ。	当科では臨床実習生、初期研修医に対して行なわれるEarly Bird lesson(EBL)へ参加する。EBLは、鑑別診断・病態の説明や標準的治療の解説から、最新のトピックスまでの内容を含み、参加を通じて実際の臨床の考え方を学ぶ。	3年前期 4年前期	火曜日・水曜日 午前7時45分～ 8時30分	本館9階ゼミ 室(906号室)	出席やレポートによる総合評価	
消化器内科 (光学医療診療部)	大仁田 賢	内視鏡道場	内視鏡画像を見て、診断にたどり着くまでの技術を身につけ、内視鏡に親しみを持てるようにする。	実際の上下部消化管、カプセル内視鏡などの画像を見て、まずは異常所見の拾い上げ、そしてそれがどういふ疾患であるのか鑑別診断を考えながら診断にたどり着くまでの過程を身につける。	4年前期	金曜日5校時	消化器内科 医局	出席や積極性など総合的に評価する	
循環器内科	前村 浩二	心電図道場(好きになる心電図)	心電図に対する苦手意識をなくし、楽しく判読ができるようになることをめざす。	講義で学んだだけでは、心電図判読に苦手意識を持っている学生が多い。心電図判読のコツは最初に心電図判読の作法を理解した上で、多くの症例の心電図を自分で読んでみることである。本ゼミでは、さまざまな症例の心電図を自分で実際に読んでもらい、それを添削しながら判読のコツをつかんでもらう。後半では症例に即してクイズ形式で読んでもらう。また心電図判読を入口にして、循環器疾患が好きになるような心エコーなどの実地的な内容も盛り込む。	4年前期	金曜日5校時	病院本館9階 ゼミナール 室(906)	出席率、討論参加度	
精神神経科	黒滝 直弘	パトグラフィーと司法精神医学を究める	パトグラフィー(病跡学)とは、過去の偉人等を対象に精神医学・心理学等の視点からその生涯での疾病の意義を分析する。この手法は司法精神医学等にも応用される。本ゼミではこれを学ぶ。	パトグラフィーについて、まず基礎的な知識を学ぶ。その上で参加者一人(又はグループ)毎に、実際に特定の人物(過去だけでなく現代人や事件等も含め)を対象にして、パトグラフィーによる分析を実習する。映像作品等での視覚的な学習も随時実施する。	2年前期 3年前期 4年前期	月曜日又は水曜日18時以降	精神科外来 62番診察室	①ゼミへの積極的な参加姿勢や自主性 ②講義終了後に提出してもらった課題の成果以上を総合的に判断する	参加希望者が10名を超過する場合には、希望者への事前課題等で選考を実施する場合もある。また夕方からの実施のため、その時間帯での別の講義や私的予定など、受講にあたっては十分考慮すること。
腫瘍外科 (第一外科)	日高 重和	内視鏡下手術入門～応用	20世紀後半から急速に進歩した内視鏡下手術は外科手術の概念を変え、現在でもその装置、手術手技は進歩し続けている。最先端の技術であってもその基本手技は以前の開腹手術と同様に非常に重要である。内視鏡下手術の原理、基本操作から応用をトレーニング装置で学びながら、内視鏡下手術への理解を深めてもらう。	内視鏡下手術の基礎としてドライボックス、VRシミュレータを用いて実際の操作手技を修練してみる。次第に高度なテクニクに移行する。その後、シミュレーターを用いた胆嚢摘出術、ロボット手術シミュレータに挑戦する。	3年前期 4年前期	水曜日5校時	腫瘍外科医 局	実践トレーニングが主なため出席が重視されます。レポート提出あり。	
移植・消化器外科 (第二外科)	江口 晋	Nagasaki Surgical Club 一外科の歴史から手術理論、手術手技、さらには国試対策まで	外科の入門編から実技さらには国試対策まで幅広く、週替りの講師陣による座談会形式のゼミです。外科実技や英会話も取り入れ、実践的な能力アップも図りたいと思います。	科の歴史まで) 2. 外科の基本手技(縫合、鏡視下手術実技などの実技を含みます) 3. 診察、学会発表に役立つ英会話 4. 外科におけるEBM(論文の見方、読み方教えます) 5. 消化管外科の温故知新:ピルロートって知ってる? 6. 国試に出る外科学(2年生にも分かり易く解説します) 7. 移植についてともに語ろう 8. 乳腺外科のトピックス 9. 小児外科医が未来の子供に出来ること 10. 未来の外科学(ロボット手術、再生医療) 11. 先輩外科医から聞く深い話(座談会形式で熱く語り合います)	2年前期 3年前期 4年前期	金曜日 16:30～17:30	移植・消化器 外科医局(第 二カンファ 室):医局受 付で問い合 わせてくださ い。	出席を重要視する。 ディスカッション内 容。フリートーク形式 ですので、レポート・ 試験などはありませ ん。	* 講義内容、順番は予定であり若干の変更があり得ます。 * 学会などにより開催されない場合がありますので、開講日にはご注意ください。 * 欠席する場合は、医局まで連絡ください。 * 時間帯が合わない場合は、申し出て下さい。
泌尿器科	宮田 康好	マンガで学ぶ“泌尿器科ってなんだ?”	本ゼミを初歩の泌尿器科学入門と位置づけ、マンガという身近な教材を用いて泌尿器科学の受け持つ領域と特徴を知り、さらに発展させて現代医学・医療の基本部分の理解へもつなげていく。	泌尿生殖器の解剖、機能および疾患の特徴などを直観的に捉えられるように、主にマンガを用いて、学生自身が司会進行する形で発表を行う。これに適宜教官からの補足をを行う。また、その発表を通じて簡単なプレゼンテーションスキルやアイデア抽出法についても学ぶ。	2年前期 3年前期 4年前期	金曜日1校時	泌尿器科医 局	出席率、発表および討論への参加態度。	

教室	責任者名	ゼミテーマ(サブタイトル)	目的・方針	内容	対象学年 開講時期	開講時間	場所	評価方法	備考
眼科	Masafumi Uematsu, Yasser Helmy Mohamed (上松聖典、ヤッセル ヘルミーモハメド)	Eye: visual sensory organ	To improve English skill and knowledge of eye diseases	Discussion about eye diseases by using audiovisual materials, etc.	2年前期 3年前期 4年前期	月曜日17:00- 18:30	眼科医局	出席、態度、レポート などにより総合的に 評価する	
産科婦人科	増崎 英明 (北島 道夫)	女性の健康について考える	産婦人科の最新の知見について、教室員とのディスカッションを通じて理解を深める	論文抄読、トピックセミナー、症例検討、講演会	2年前期 3年前期 4年前期	水曜日18:30～	病院11階産 婦人科医局 ゼミナール 室	レポート提出	
臨床検査医学	柳原 克紀	分子診断	臨床検査の観点から分子診断を学ぶ	臨床検査の観点から、臨床微生物や腫瘍の分子診断に関する文献を読む。学生は提供された文献について学習し、発表する。	3年前期 4年前期	金曜日1校時 (隔週)	臨床検査医 学医局(12 階)	積極的な参加、文献 の理解、発表を評価 する。	
救命救急センター	田崎 修	救急医療を体験しよう	救急医療は拙速であってはならない。本ゼミにおいては、限られた時間の中で論理的に思考し、救急疾患の診断と治療を進める救急医療の醍醐味を体験する。	臓器や診療科の枠を超えて、「救急的」診療法を学ぶ。また、蘇生、診断、災害への対応、緊急の手技、集中治療等、救急医療で必要となる技術をシミュレーションで体験する。	2年前期 3年前期 4年前期	金曜日1校時	大学病院救 命救急セン ターに集合	出席や授業態度で評 価する。	
臨床感染症学・ 感染制御教育 センター	泉川 公一	世界の感染症は制圧できるか？	Ebola出血熱や薬剤耐性微生物の脅威に対して人類はどのように対応しているかを学ぶ。生き物vs生き物の独特な医療においてヒトが勝者になれるか、その可能性を探る。	日本のみならず世界各地で発生している様々な感染症について、その診断、治療ならびに先端的な研究について学び、ヒトが微生物をどのように攻略していくのかそのプロセスを学び、臨床と基礎のbridgingとは何かを習得する。	2年前期 3年前期 4年前期	月曜日5校時	長崎大学病 院	出席状況、発表など の総合評価	
地域医療学	前田 隆浩	地域医療学入門	地域医療の現状について、自ら調べ、現場のプロフェッショナルから話を聞き、地域医療を理解する。	・地域医療に関する論文(邦文・欧文)や記事、教科書、書籍を集めまとめる。 ・WS形式で知識を共有し理解を深める。 ・実際に地域医療の現場のプロフェッショナルに話を聞く。 ・現在の地域医療について把握し、地域医療の今後について考える。 ・月に一回程度行われる、地域医療の現場で働く人を招いて行う研究会に出席する。	1年前期 2年前期 3年前期 4年前期	・金曜日1校時 (7回程度) ・月一回程度18 時～20時30分 (地域医療研究 会・曜日不定) (4回程度) 上記2つ全てに 出席が必要で す。	地域医療学 分野セミナ ー室 (医学部基礎 棟5階) ボンベ会館 (予定)	出席とレポートとゼミ 受講態度	
探索病理 (病理1)	下川 功 林 洋子	楽しい病理学: 剖検例の検討	解剖症例を通して、主要な疾患の臨床所見、病態、および死因を考察する。	解剖症例の臨床的および病理組織学的検討。	2年前期 3年前期 4年前期	金曜日1校時	第一病理 医局図書室	出欠、参加態度、発 表を総合的に評価す る。	
法医学	山本 琢磨	異状死とは？死者からの伝言	法医学教室ではさまざまな死と遭遇する。事件事故であれ病気であれ、死には必ず原因があり、生には常にその原因が付随している。各々の症例についてそんな観点から考え、異状死(突然死)について医療人としての理解を深めてもらう。	各症例の事件発生即報告書、死体検案書、解剖検査記録などを参考にして、「なぜ亡くなったのか」、さらには「防ぐことはできたのか」を考える。適宜、論文検討を加え、最終的に症例報告として報告書をまとめる。	4年前期	金曜日5校時	基礎棟6階 法医学教室 大学院セミ ナー室	総合的に評価する	
第二内科	宮崎 泰可	内科診療実践編	教科書を読むだけではわからない、内科臨床医に求められる実践的な判断力、手技を身につける。	模擬病歴、実際の画像、シミュレーターなどを用いて実践的な内科の知識と手技の習得を目指す。	4年前期	金曜日1校時	病院7Fシ ミュレーシ ョンセンタ ー	出席状況、レポート、 討論への参加具合の 評価。	
へき地病院再生 支援・教育機構	調 漸 中桶 了太	離島・へき地医療の達人から学ぶ	へき地や離島医療の現状を学び、これからの地域医療や我が国のこれからの医療について考える	離島・へき地の第一線で活躍する多職種によるを双方向性の講義を中心とする。地域医療に密接に関係する家庭医や、病院総合医、プライドクターとして活躍する医師のほか行政や地域の保健師も講師として招き、「地域医療」という漠然としたイメージをリアルな物として認識する。ゼミの後半では平戸市民病院で夏合宿や、実際にへき地や離島医療を体験する離島ツアーも2泊3日程度で開催する予定である。地域枠学生に限らず、幅広い学生の参加を歓迎する。	1年前期 2年後期 3年前期 4年前期	金曜日 18:00～19:30	医学部基礎 棟 1階 視 聴覚教室1	出席、講義のレポー ト、最終日に実施す る地域医療に関する プレゼンテーション等 で総合的に判定す る。 1年次に関しては地 域医療合宿での地域 医療実習への出席を 必須とする。	地域医療、へき地・離島医療に関 心のある一般枠の学生の受講も 歓迎する。

アドバンストリサーチセミナー

責任者	氏名	柳原 克紀	内線	7574
	教室	臨床検査医学（病態解析・診断学）	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日の17:00～18:00		
対象年次・学期		4年前・後期, 5年前期・後期、 6年前期	講義形態	講義・実習
必修・選択		必修（研究医コース）	単位数	各1単位
英語名		Advanced research seminar		

1. 授業のねらい・目標

基礎医学を担う研究者の育成により卓越した教育及び研究成果を社会に還元することは医学部の使命である。基礎教室配属による少人数教育により基礎科学に必須の基礎的学力や柔軟な応用力を身につけ、科学的思考により問題を解決できる将来の医療人を養うことを目標とする。プレリサーチセミナー及びリサーチセミナーで修得した基礎医学の基礎的学力をさらに発展させる。

2. 配属教室の選択方法

配属教室は、原則として、リサーチセミナーの配属教室とするが、変更を希望する場合は、教務委員会にて審議のうえ、変更を許可することがある。

3. 活動内容・履修方法等

配属教室において、研究テーマ・目標を設定し実験を行う。

なお、5年次、6年次の履修については、配属教室と相談のうえ、5年次の2単位は4年次での修得可能とし、6年次前期の1単位は、5年次での修得または論文作成による修得を可能とする。

4. 成績評価の方法・基準

配属教室での活動、研究成果に基づき担当教員が100点満点で評価する。

5. 指導教員など

医学部基礎系教室等の教員

6. 備考（準備学習等）

担当教員が提示する。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

English Skills for Fourth Year Medical Students

Instructors: Luc Loosveldt
Jim Briganti

Class Time : to be decided

E-mail: lluc@nagasaki-u.ac.jp

Office Hours: to be announced in class

Course Objectives	
In this course, students will be guided in their selection of specific medical cases, disease trends, other local and global health issues on which to present individually and in groups to their peers. Small group discussion to further critical thinking and communication skills will form an integral part of the course.	
Required Textbooks	
• Class materials will be announced and made available in class.	
Topics	
1	Introduction of the course and its materials; mini-talk: “How to Read to Maximize Learning”
2	First topic - how to read, how to explore, how to discuss; deciding the groups
3	First group discussion; first report
4	Short presentations + Q&A practice
5	Second topic; second group discussion
6	Second report; evaluating other groups’ reports
7	Second Short Presentation followed by Q&A
8	Third topic; second group discussion
9	Third report; evaluating other groups’ reports
10	Third Short Presentation followed by Q&A
11	Fourth topic; second group discussion
12	Fourth report; evaluating other groups’ reports
13	Fourth Short Presentation followed by Q&A + Deciding on final project
14	Final group discussion + reviewing and preparing the final project
15	Final Poster sessions
Course work and Evaluation	
Students will be evaluated on the basis of classwork, assignments, quizzes, group project, written work, and in-class and on-line participation. A detailed breakdown of the evaluation process will be provided in class.	
<i>*The above syllabus is meant as a general guide, not a definite time table and subject to change</i>	

平成28年度 授 業 時 間 割 5年前期

月	日	月						日	火						日	水						日	木						日	金						
		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6	
		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$	
3	28	春季休業						29	春季休業						30	春季休業						31	春季休業						1	春季休業						
4	4	臨床実習Ⅱ						5	臨床実習Ⅱ						6	臨床実習Ⅱ						7	臨床実習Ⅱ						8	臨床実習Ⅱ						研究 医 コ ー ス
	11	臨床実習Ⅱ						12	臨床実習Ⅱ						13	臨床実習Ⅱ						14	臨床実習Ⅱ						15	臨床実習Ⅱ						
	18	臨床実習Ⅱ						19	臨床実習Ⅱ						20	健康診断						21	臨床実習Ⅱ						22	臨床実習Ⅱ						
	25	臨床実習Ⅱ						26	臨床実習Ⅱ						27	臨床実習Ⅱ						28	臨床実習Ⅱ						29	昭和の日						
5	2	臨床実習Ⅱ						3	憲法記念日						4	みどりの日						5	こどもの日						6	臨床実習Ⅱ						研究 医 コ ー ス
	9	臨床実習Ⅱ						10	臨床実習Ⅱ						11	臨床実習Ⅱ						12	臨床実習Ⅱ						13	臨床実習Ⅱ						
	16	臨床実習Ⅱ						17	臨床実習Ⅱ						18	臨床実習Ⅱ						19	臨床実習Ⅱ						20	臨床実習Ⅱ						
	23	臨床実習Ⅱ						24	臨床実習Ⅱ						25	臨床実習Ⅱ						26	臨床実習Ⅱ						27	臨床実習Ⅱ						
6	6	臨床実習Ⅱ						7	臨床実習Ⅱ						8	臨床実習Ⅱ						9	臨床実習Ⅱ						10	臨床実習Ⅱ						研究 医 コ ー ス
	13	臨床実習Ⅱ						14	臨床実習Ⅱ						15	臨床実習Ⅱ						16	臨床実習Ⅱ						17	臨床実習Ⅱ						
	20	臨床実習Ⅱ						21	臨床実習Ⅱ						22	臨床実習Ⅱ						23	臨床実習Ⅱ						24	臨床実習Ⅱ						
	27	臨床実習Ⅱ						28	臨床実習Ⅱ						29	臨床実習Ⅱ						30	臨床実習Ⅱ						1	臨床実習Ⅱ						
7	4	臨床実習Ⅱ						5	臨床実習Ⅱ						6	臨床実習Ⅱ						7	臨床実習Ⅱ						8	臨床実習Ⅱ						研究 医 コ ー ス
	11	臨床実習 振り返り						12	臨床実習Ⅱ						13	臨床実習Ⅱ						14	臨床実習Ⅱ						15	臨床実習Ⅱ						
	18	海の日						19	臨床実習Ⅱ						20	臨床実習Ⅱ						21	臨床実習Ⅱ						22	臨床実習Ⅱ						
	25	臨床実習Ⅱ						26	臨床実習Ⅱ						27	臨床実習Ⅱ						28	臨床実習Ⅱ						29	臨床実習Ⅱ						
8	1	夏季休暇						2	夏季休暇						3	夏季休暇						4	夏季休暇						5	夏季休暇						研究 医 コ ー ス
	8	夏季休暇						9	夏季休暇						10	夏季休暇						11	山の日						12	夏季休暇						
	15	夏季休暇						16	夏季休暇						17	夏季休暇						18	夏季休暇						19	夏季休暇						
	22	夏季休暇						23	夏季休暇						24	夏季休暇						25	夏季休暇						26	夏季休暇						
	29	夏季休暇						30	夏季休暇						31	夏季休暇						1	夏季休暇						2	夏季休暇						
9	5	臨床実習Ⅱ						6	臨床実習Ⅱ						7	臨床実習Ⅱ						8	臨床実習Ⅱ						9	臨床実習Ⅱ						コ ー ス 研 究 医
	12	臨床実習Ⅱ						13	臨床実習Ⅱ						14	臨床実習Ⅱ						15	臨床実習Ⅱ						16	臨床実習Ⅱ						

平成28年度 授 業 時 間 割 5年後期

月	日	月						日	火						日	水						日	木						日	金						
		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6	
		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$	
9	19	敬老の日						20	臨床実習Ⅱ						21	臨床実習Ⅱ						22	秋分の日						23	臨床実習Ⅱ						研究 医 コ ー ス
	26	臨床実習Ⅱ						27	臨床実習Ⅱ						28	臨床実習Ⅱ						29	臨床実習Ⅱ						30	臨床実習Ⅱ						
10	3	臨床実習Ⅱ						4	臨床実習Ⅱ						5	臨床実習Ⅱ						6	臨床実習Ⅱ						7	臨床実習Ⅱ						研究 医 コ ー ス
	10	体育の日						11	臨床実習Ⅱ						12	臨床実習Ⅱ						13	臨床実習Ⅱ						14	臨床実習Ⅱ						
	17	臨床実習Ⅱ						18	臨床実習Ⅱ						19	臨床実習Ⅱ						20	臨床実習Ⅱ						21	臨床実習Ⅱ						
	24	臨床実習Ⅱ						25	臨床実習Ⅱ						26	臨床実習Ⅱ						27	臨床実習Ⅱ						28	臨床実習Ⅱ						
11	7	臨床実習Ⅱ						8	臨床実習Ⅱ						9	臨床実習Ⅱ						10	臨床実習Ⅱ						11	臨床実習Ⅱ						研究 医 コ ー ス
	14	臨床実習Ⅱ						15	臨床実習Ⅱ						16	臨床実習Ⅱ						17	臨床実習Ⅱ						18	臨床実習Ⅱ						
	21	臨床実習Ⅱ						22	臨床実習Ⅱ						23	勤労感謝の日						24	臨床実習Ⅱ						25	臨床実習Ⅱ						
	28	臨床実習Ⅱ						29	臨床実習Ⅱ						30	臨床実習Ⅱ						1	臨床実習Ⅱ						2	臨床実習Ⅱ						
12	5	臨床実習 振り返り						6	臨床実習Ⅱ						7	臨床実習Ⅱ						8	臨床実習Ⅱ						9	臨床実習Ⅱ						研究 医 コ ー ス
	12	臨床実習Ⅱ						13	臨床実習Ⅱ						14	臨床実習Ⅱ						15	臨床実習Ⅱ						16	臨床実習Ⅱ						
	19	臨床実習Ⅱ						20	臨床実習Ⅱ						21	臨床実習Ⅱ						22	臨床実習Ⅱ						23	天皇誕生日						
	26	冬季休業						27	冬季休業						28	冬季休業						29	冬季休業						30	冬季休業						
1	2	振替休日						3	臨床実習Ⅱ						4	臨床実習Ⅱ						5	高次臨床実習オリエンテーション						6	高次臨床実習Ⅰ (第1ターム)						研究 医 コ ー ス
	9	成人の日						10	高次臨床実習Ⅰ (第1ターム)						11	高次臨床実習Ⅰ (第1ターム)						12	高次臨床実習Ⅰ (第1ターム)						13	高次臨床実習Ⅰ (第1ターム)						
	16	高次臨床実習Ⅰ (第1ターム)						17	高次臨床実習Ⅰ (第1ターム)						18	高次臨床実習Ⅰ (第1ターム)						19	高次臨床実習Ⅰ (第1ターム)						20	高次臨床実習Ⅰ (第1ターム)						
	23	高次臨床実習Ⅰ (第1ターム)						24	高次臨床実習Ⅰ (第1ターム)						25	高次臨床実習Ⅰ (第1ターム)						26	高次臨床実習Ⅰ (第1ターム)						27	高次臨床実習Ⅰ (第1ターム)						
2	6	高次臨床実習Ⅰ (第2ターム)						7	高次臨床実習Ⅰ (第2ターム)						8	高次臨床実習Ⅰ (第2ターム)						9	高次臨床実習Ⅰ (第2ターム)						10	高次臨床実習Ⅰ (第2ターム)						研究 医 コ ー ス
	13	高次臨床実習Ⅰ (第2ターム)						14	高次臨床実習Ⅰ (第2ターム)						15	高次臨床実習Ⅰ (第2ターム)						16	高次臨床実習Ⅰ (第2ターム)						17	高次臨床実習Ⅰ (第2ターム)						
	20	高次臨床実習Ⅰ (第2ターム)						21	高次臨床実習Ⅰ (第2ターム)						22	高次臨床実習Ⅰ (第2ターム)						23	高次臨床実習Ⅰ (第2ターム)						24	高次臨床実習Ⅰ (第2ターム)						
	27	高次臨床実習Ⅰ (第2ターム)						28	高次臨床実習Ⅰ (第2ターム)						29	高次臨床実習Ⅰ (第2ターム)						30	高次臨床実習Ⅰ (第2ターム)						31	高次臨床実習Ⅰ (第2ターム)						
3	6	模擬試験						7	模擬試験						8	模擬試験						9	Advanced OSCE						研究 医 コ ー ス							
	13	模擬試験						14	模擬試験						15	模擬試験						16	Advanced OSCE													
	20	春季休業						21	春季休業						22	春季休業						23	春季休業							24	春季休業					
	27	春季休業						28	春季休業						29	春季休業						30	春季休業							31	春季休業					

臨床実習

責任者	氏名	上谷 雅孝	内線	7355
	教室	放射線医学	e-mail	uetani@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日午前10時～12時		

対象年次・学期	4年・後期、 5年・前期、後期	講義形態	実習
必修・選択	必修	単位数	55単位
英語名	Clinical Clerkship I (Core clerkship rotation)		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

臨床の現場を実際に体験し、これまでに学んできた基礎医学、社会医学および臨床医学の基本的知識を再構築して応用し、患者が抱えている問題を解決する能力を身につける。目標は、①受持ち患者の情報を収集し、診断して治療計画を立てる。②受持ち患者の基本的な身体診察ができる。③基本的手技を学ぶ。である。更に、患者を全人格としてとらえ、対応する能力、医療を支える他職種の役割の理解と協力の重要性をも学びとる。

以下の診療科をローテートする。

第1内科、整形外科・形成外科、麻酔科、救命救急センター、眼科・脳神経外科、消化器内科、精神神経科・耳鼻咽喉科、第2外科、臨床検査医学・原研内科、産科婦人科、皮膚科・泌尿器科、小児科、循環器内科、心臓血管外科・地域病院、第2内科、放射線科・熱研内科、第1外科、総合病理学・総合診療科・社会医学

2. 授業内容（講義・実習項目）

診療科により異なる。臨床実習要項を参照。

3. 教科書、参考書等

適宜。

4. 成績評価の方法・基準

各科で、出席状況、実習状況等を総合的に評価する。Advanced OSCEの成績は臨床実習の成績の一部となる。なお、期間を通じた到達目標達成度・mini-CEX・ポートフォリオ・チーム医療実習においても評価する。

5. 教員名

臨床実習要項を参照。

6. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

高次臨床実習

責任者	氏名	上谷雅孝	内線	7353
	教室	放射線医学	e-mail	uetani@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日午前10時～12時		

対象年次・学期	5年・後期、6年・前期	講義形態	実習
必修・選択	必修	単位数	27.5単位
英語名	Clinical Clerkship II (Elective Clerkship courses)		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

学生が診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら医師の職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的な部分を学ぶことを主旨とする。5年次の臨床実習と比較し、より診療参加型の実習となる。

以下の診療科より3科を選択し、1ターム4週間の実習を3ターム行なう。

第1内科（神経、内分泌・代謝、リウマチ・膠原病）、第2内科（呼吸器、腎臓）、循環器内科、消化器内科、原研内科、熱研内科、総合診療科、離島・地域医療（五島中央病院・上五島病院、中対馬病院、対馬いずはら病院）、精神神経科、小児科、第1外科、第2外科、整形外科、皮膚科・アレルギー科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、産科婦人科、麻酔科、救命救急センター、脳神経外科、形成外科、心臓血管外科、法医学、病理部、臨床検査、ライデン大学、ビュルツブルグ大学、プサン大学、ハーリム大学、市民病院、原爆病院、済生会病院

2. 授業内容（講義・実習項目）

各診療科により異なる。臨床実習要項を参照すること。

3. 教科書、参考書等

各診療科の臨床実習要項を参照すること。

4. 成績評価の方法・基準

各タームで、出席状況、実習状況等を総合し、評価表に基づいて評価する。3ターム全ての合格を以て高次臨床実習の合格とする。

5. 教員名

高次臨床実習要項を参照。

6. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

アドバンストリサーチセミナー

責任者	氏名	柳原 克紀	内線	7574
	教室	臨床検査医学（病態解析・診断学）	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日の17:00～18:00		
対象年次・学期		4年前・後期, 5年前期・後期、 6年前期	講義形態	講義・実習
必修・選択		必修（研究医コース）	単位数	各1単位
英語名		Advanced research seminar		

1. 授業のねらい・目標

基礎医学を担う研究者の育成により卓越した教育及び研究成果を社会に還元することは医学部の使命である。基礎教室配属による少人数教育により基礎科学に必須の基礎的学力や柔軟な応用力を身につけ、科学的思考により問題を解決できる将来の医療人を養うことを目標とする。プレリサーチセミナー及びリサーチセミナーで修得した基礎医学の基礎的学力をさらに発展させる。

2. 配属教室の選択方法

配属教室は、原則として、リサーチセミナーの配属教室とするが、変更を希望する場合は、教務委員会にて審議のうえ、変更を許可することがある。

3. 活動内容・履修方法等

配属教室において、研究テーマ・目標を設定し実験を行う。

なお、5年次、6年次の履修については、配属教室と相談のうえ、5年次の2単位は4年次での修得可能とし、6年次前期の1単位は、5年次での修得または論文作成による修得を可能とする。

4. 成績評価の方法・基準

配属教室での活動、研究成果に基づき担当教員が100点満点で評価する。

5. 指導教員など

医学部基礎系教室等の教員

6. 備考（準備学習等）

担当教員が提示する。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

平成28年度 授 業 時 間 割 6年前期

月	日	月						日	火						日	水						日	木						日	金																																																					
		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6																																																
		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$																																																
3	28	春季休業						29	春季休業						30	春季休業						31	春季休業						1	高次臨床実習オリエンテーション																																																					
4	4	高次臨床実習(第1ターム)						5	高次臨床実習(第1ターム)						6	高次臨床実習(第1ターム)						7	高次臨床実習(第1ターム)						8	高次臨床実習(第1ターム)																																																					
	11							健康診断						12	高次臨床実習(第1ターム)							13							高次臨床実習(第1ターム)							14	高次臨床実習(第1ターム)						15	高次臨床実習(第1ターム)																																							
	18							健康診断						19								高次臨床実習(第1ターム)														20							高次臨床実習(第1ターム)							21	高次臨床実習(第1ターム)						22	高次臨床実習(第1ターム)																									
	25													健康診断																						26														高次臨床実習(第1ターム)							27							高次臨床実習(第1ターム)						28	高次臨床実習(第1ターム)						29	昭和の日					
5	2	高次臨床実習(第2ターム)						3	憲法記念日						4	みどりの日						5	こどもの日						6	高次臨床実習(第2ターム)																																																					
	9							高次臨床実習(第2ターム)						10	高次臨床実習(第2ターム)						11	高次臨床実習(第2ターム)						12	高次臨床実習(第2ターム)							13	高次臨床実習(第2ターム)																																														
	16													高次臨床実習(第2ターム)						17	高次臨床実習(第2ターム)						18	高次臨床実習(第2ターム)								19							高次臨床実習(第2ターム)						20	高次臨床実習(第2ターム)																																	
	23																			高次臨床実習(第2ターム)						24	高次臨床実習(第2ターム)									25							高次臨床実習(第2ターム)						26							高次臨床実習(第2ターム)						27	高次臨床実習(第2ターム)																				
6	6	高次臨床実習(第3ターム)						7	高次臨床実習(第3ターム)						8	高次臨床実習(第3ターム)						9	高次臨床実習(第3ターム)						10	高次臨床実習(第3ターム)																																																					
	13							高次臨床実習(第3ターム)						14	高次臨床実習(第3ターム)						15	高次臨床実習(第3ターム)						16	高次臨床実習(第3ターム)							17	高次臨床実習(第3ターム)																																														
	20													高次臨床実習(第3ターム)						21	高次臨床実習(第3ターム)						22	高次臨床実習(第3ターム)								23							高次臨床実習(第3ターム)						24	高次臨床実習(第3ターム)																																	
	27																			高次臨床実習(第3ターム)						28	高次臨床実習(第3ターム)									29							高次臨床実習(第3ターム)						30							高次臨床実習(第3ターム)						31	高次臨床実習(第3ターム)																				
7	4	卒前集中講義						5	卒前集中講義						6	卒前集中講義						7	卒前集中講義						8	卒前集中講義																																																					
	11	卒前集中講義						12	卒前集中講義						13	卒前集中講義						14	卒前集中講義						15	卒前集中講義																																																					
	18							卒前集中講義						19	卒前集中講義						20	卒前集中講義						21	卒前集中講義						22	卒前集中講義																																															
	25													卒前集中講義						26	卒前集中講義						27	卒前集中講義						28	卒前集中講義						29	卒前集中講義																																									
8	1	夏季休暇						2	夏季休暇						3	夏季休暇						4	夏季休暇						5	夏季休暇																																																					
	8							夏季休暇							9							夏季休暇							10							夏季休暇						11	山の日						12	夏季休暇																																	
	15														夏季休暇							16							夏季休暇							17	夏季休暇						18	夏季休暇												19	夏季休暇																										
	22																					夏季休暇							23							夏季休暇						24	夏季休暇						25							夏季休暇							26	夏季休暇																			
9	5	卒業試験						6	卒業試験						7	卒業試験						8	卒業試験						9	卒業試験																																																					
	12	卒業試験						13	卒業試験						14	卒業試験						15	卒業試験						16	卒業試験																																																					
	19							卒業試験						20	卒業試験						21	卒業試験						22	卒業試験						23	卒業試験																																															
		敬老の日																					秋分の日																																																												

平成28年度 授 業 時 間 割 6年後期

月	日	月						日	火						日	水						日	木						日	金																																																																													
		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6																																																																								
		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$		8:50 \$	10:30 \$	13:00 \$	14:40 \$	16:20 \$	18:00 \$																																																																								
9	26	卒業試験						27	卒業試験						28	卒業試験						29	卒業試験						30	卒業試験																																																																													
10	3	卒業試験						4							卒業試験							5	卒業試験						6							卒業試験						7	卒業試験																																																																
	10							卒業試験														11							卒業試験							12	卒業試験												13	卒業試験						14	卒業試験																																																		
	17																					卒業試験														18													卒業試験						19	卒業試験							20	卒業試験						21	卒業試験																																				
11	24	卒業試験						25	卒業試験						26	卒業試験						27	卒業試験						28	卒業試験																																																																													
	31							卒業試験							1							卒業試験							2							卒業試験						3	文化の日						4	卒業試験																																																									
	7														卒業試験														8													卒業試験						9	卒業試験							10	卒業試験						11	卒業試験																																											
	14																												卒業試験																			15								卒業試験						16	卒業試験							17	卒業試験						18	卒業試験																													
12	21	模擬試験(11/26~28)						22	卒業試験						23	卒業試験						24	卒業試験						25	卒業試験																																																																													
	28							卒業試験							29							卒業試験							30							卒業試験						1	卒業試験						2	卒業試験																																																									
	5														卒業試験														6													卒業試験							7							卒業試験						8	卒業試験						9	卒業試験																																					
	12																												卒業試験																				13													卒業試験							14							卒業試験						15	模擬試験(12/16~18)						16	卒業試験																	
1	19	冬季休業						20	卒業試験						21	卒業試験						22	卒業試験						23	卒業試験						24	卒業試験																																																																						
	26							卒業試験							27							卒業試験							28							卒業試験							29	卒業試験						30	天皇誕生日						31	卒業試験																																																	
	2														卒業試験														3														卒業試験							4	卒業試験						5							文化の日						6	卒業試験																																				
	9																												卒業試験																					10							卒業試験							11	卒業試験												12	卒業試験						13	卒業試験																						
2	16	卒業試験						17	卒業試験						18	卒業試験						19	卒業試験						20	卒業試験						21	卒業試験																																																																						
	23							卒業試験							24							卒業試験							25							卒業試験							26	卒業試験						27	卒業試験						28	卒業試験																																																	
	30														卒業試験														31														卒業試験							1							卒業試験							2	卒業試験						3	卒業試験																																			
	6																												卒業試験																					7														卒業試験							8							卒業試験						9	卒業試験						10	卒業試験															
3	13	退職教授記念講演会						14	退職教授記念講演会						15	卒業試験						16	卒業試験						17	卒業試験																																																																													
	20	卒業試験						21	卒業試験						22	卒業試験						23	卒業試験						24	卒業試験						25	卒業試験																																																																						
	27							卒業試験							28							卒業試験							29							卒業試験							30	卒業試験						31	卒業試験																																																								
	6														卒業試験														7														卒業試験							8							卒業試験						9	卒業試験						10	卒業試験																																				
3	13	卒業試験						14	卒業試験						15	卒業試験						16	卒業試験						17	卒業試験						18	卒業試験																																																																						
	20							卒業試験							21							卒業試験							22							卒業試験							23	卒業試験						24	卒業試験						25	卒業試験																																																	
	27														卒業試験														28														卒業試験							29							卒業試験							30	卒業試験						31	卒業試験																																			
		春季休業							春季休業							春季休業							春季休業							卒業証書授与式							春季休業																																																																						

臨床総括講義

責任者	氏名	柳原 克紀	内線	7574
	教室	臨床検査医学（病態解析・診断学）	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日の17:00～18:00		

対象年次・学期	5年前期・6年前期	講義形態	講義・演習・実習
必修・選択	必修	単位数	8.5
英語名	Clinical Core Lecture		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

4年生までに学習した医学の総論・各論を総括する。

2. 授業内容（講義・実習項目）

構成：総括講義、PBLチュートリアル、卒前集中講義

【総括講義】以下の総括講義からなる。内科総括講義、精神神経科総括講義、小児科総括講義、外科総括講義、整形外科総括講義、泌尿器科総括講義、眼科総括講義、産婦人科総括講義、脳神経外科総括講義、形成外科総括講義、心臓血管外科総括講義、総合病理学、東洋医学

【PBLチュートリアル】PBLチュートリアルの授業計画を参照のこと

【卒前集中講義】卒前集中講義の授業計画を参照のこと

3. 教科書、参考書等

適宜。

4. 成績評価の方法・基準

各総括講義、PBLチュートリアル、卒前集中講義の授業計画を参照。

臨床総括講義は、各総括講義（第5年次）、PBLチュートリアル（第5年次）、卒前集中講義（第6年次）から構成され、卒業試験合格及びPBLチュートリアル合格が単位修得要件となる。

総括講義、PBLチュートリアルにおいて、それぞれ出席すべき時間数の3分の1を超えて欠席した者は、第5年次で再履修しなければならない。また、左記に該当する者は、臨床実習を履修することができない。

5. 教員名

授業計画を参照。

6. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

卒前集中講義 (6年前期)

月	日	曜日	校時	授業項目	担当講座等	担当教員 ○・・・オーガナイザー	備考	場所	
6	27	月	1	国家試験のための画像診断の知識	放射線科	上谷 雅孝, 西田 暁史		第3講義室	
			2	救急疾患の画像診断				第3講義室	
			3	先天性心疾患	心臓血管外科	三浦 崇		第3講義室	
			4	消化管癌および炎症性腸疾患	消化器内科	竹島 史直		第3講義室	
6	28	火	1	月経異常、正常異常妊娠	産婦人科	北島 道夫		第3講義室	
			2	腎不全・蛋白尿	内科2	西野 友哉		第3講義室	
			3	創傷外科と慢性創傷, 再生医療	形成外科	田中克己		第3講義室	
			4	脳腫瘍	脳神経外科	松尾 孝之		第3講義室	
6	29	水	1	先天性疾患と遺伝性疾患	小児科, 産婦人科	○森内 浩幸(近藤 達郎), 三浦 清徳		第3講義室	
			2					第3講義室	
			3	神経疾患の診断と治療	内科1	辻野 彰		第3講義室	
			4	国家試験対策 代謝疾患の考え方	内科1	阿比留 教生		第3講義室	
6	30	木	1	統合失調症と双極性障害	精神神経科	小澤 寛樹		第3講義室	
			2	失神	総合診療科	大園 恵幸		第3講義室	
			3	運動麻痺・筋力低下	整形外科, 脳外科, 感染分子(脳神経系)	○富田雅人, 出雲 剛, 白石 裕一		富田先生 13:00-13:50	第3講義室
			4					出雲先生 14:00-14:50	白石先生 15:00-15:50
7	1	金	1	予備				第3講義室	
			2	予備				第3講義室	
			3	心電図の読み方	循環器内科	前村 浩二		第3講義室	
			4	胸痛	循環器内科, 内科2	○前村 浩二, 尾長谷 靖		第3講義室	
7	4	月	1	産業保健	公衆衛生	安部 恵代		第3講義室	
			2	老人保健	公衆衛生	青柳 潔		第3講義室	
			3	眼底所見(糖尿病を含む)	眼科	上松 聖典		第3講義室	
			4	肝炎・肝硬変・肝癌	消化器内科	中尾 一彦		第3講義室	
7	5	火	1	救急蘇生, 小児救急	小児科, 救命救急センター	○森内 浩幸(橋本邦生), 田崎 修, 山下 和範	森内先生 8:50-9:40	第3講義室	
			2				田崎先生 9:50-10:40	山下先生 10:50-11:40	第3講義室
			3	呼吸困難	循環器内科, 耳鼻科, 内科2	○前村 浩二, 迎 寛, 金子 賢一	迎先生 13:00-13:50	第3講義室	
			4				前村先生 14:00-14:50	金子先生 15:00-15:50	第3講義室
7	6	水	1	感染症の診断と治療	内科2, 熱研内科	○泉川 公一(2校時), 有吉 紅也, 田中健之(1校時)		第3講義室	
			2					第3講義室	
			3	胸部外科領域の押さえておくべきポイント	外科1	永安 武		第3講義室	
			4	心エコー	循環器内科	恒任 章		第3講義室	
7	7	木	1	膠原病-血管炎症候群を中心として内臓疾患と皮膚病変	内科1, 皮膚科	○川上 純(折口 智樹), 宇谷 厚志		第3講義室	
			2					第3講義室	
			3	貧血	原研内科	波多 智子		第3講義室	
			4	めまい	耳鼻科, 脳外科	○高橋 晴雄(隈上 秀高), 出雲 剛		第3講義室	
7	11	月	1	救急の輸液管理, ショック, 電解質異常	救命救急センター, 内科2	○田崎 修, 山下 和範, 浦松 正	田崎先生, 山下先生 8:50-10:20	専斎ホール	
			2				浦松先生 10:30-12:00	専斎ホール	
			3	化膿性関節炎/リウマチ性疾患・変形性関節症	整形外科, 内科1	○尾崎 誠(3校時), 川上 純(4校時)		専斎ホール	
			4					専斎ホール	
7	12	火	1	排尿機能と排尿障害	泌尿器科	酒井 英樹		第3講義室	
			2	腹痛	外科1	安武 亨		第3講義室	
			3	腹部外科領域の押さえておくべきポイント	外科2	江口 晋		第3講義室	
			4	白血病	原研内科	宮崎 泰司		第3講義室	
7	13	水	1	不整脈	循環器内科	深江 学芸		第3講義室	
			2	小児に特徴的な common diseases	小児科	森内 浩幸		第3講義室	
			3	肺癌および鑑別を要する疾患	内科2	中富 克己		第3講義室	
			4	予備				第3講義室	
7	14	木	1	検査値の見方	臨床検査	○柳原 克紀, 長井 一浩		第1講義室	
			2	国家試験: 輸血医療からのアプローチ				第1講義室	
			3	予備				第3講義室	
			4	予備				第3講義室	
7	15	金	1	予備				第3講義室	
			2	予備				第3講義室	
			3	予備				第1講義室	
			4	予備				第1講義室	

高次臨床実習

責任者	氏名	上谷雅孝	内線	7353
	教室	放射線医学	e-mail	uetani@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	金曜日午前10時～12時		

対象年次・学期	6年・前期	講義形態	実習
必修・選択	必修	単位数	18単位
英語名	Clinical Clerkship II (Elective Clerkship courses)		

1. 授業のねらい・方法・到達目標

学生が診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら医師の職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的な部分を学ぶことを主旨とする。5年次の臨床実習と比較し、より診療参加型の実習となる。

以下の診療科より3科を選択し、1ターム4週間の実習を3ターム行なう。

第1内科（神経、内分泌・代謝、リウマチ・膠原病）、第2内科（呼吸器、腎臓）、循環器内科、消化器内科、原研内科、熱研内科、総合診療科、離島・地域医療（五島中央病院・上五島病院、中対馬病院、対馬いずはら病院）、精神神経科、小児科、第1外科、第2外科、整形外科、皮膚科・アレルギー科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、産科婦人科、麻酔科、救命救急センター、脳神経外科、形成外科、心臓血管外科、法医学、病理部、臨床検査、ライデン大学、ビュルツブルグ大学、プサン大学、ハーリム大学、市民病院、原爆病院、済生会病院

2. 授業内容（講義・実習項目）

各診療科により異なる。臨床実習要項を参照すること。

3. 教科書、参考書等

各診療科の臨床実習要項を参照すること。

4. 成績評価の方法・基準

各タームで、出席状況、実習状況等を総合し、評価表に基づいて評価する。3ターム全ての合格を以て高次臨床実習の合格とする。

5. 教員名

高次臨床実習要項を参照。

6. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。

アドバンストリサーチセミナー

責任者	氏名	柳原 克紀	内線	7574
	教室	臨床検査医学（病態解析・診断学）	e-mail	k-yanagi@nagasaki-u.ac.jp
	オフィスアワー	月～金曜日の17:00～18:00		
対象年次・学期		4年前・後期, 5年前期・後期、 6年前期	講義形態	講義・実習
必修・選択		必修（研究医コース）	単位数	各1単位
英語名		Advanced research seminar		

1. 授業のねらい・目標

基礎医学を担う研究者の育成により卓越した教育及び研究成果を社会に還元することは医学部の使命である。基礎教室配属による少人数教育により基礎科学に必須の基礎的学力や柔軟な応用力を身につけ、科学的思考により問題を解決できる将来の医療人を養うことを目標とする。プレリサーチセミナー及びリサーチセミナーで修得した基礎医学の基礎的学力をさらに発展させる。

2. 配属教室の選択方法

配属教室は、原則として、リサーチセミナーの配属教室とするが、変更を希望する場合は、教務委員会にて審議のうえ、変更を許可することがある。

3. 活動内容・履修方法等

配属教室において、研究テーマ・目標を設定し実験を行う。

なお、5年次、6年次の履修については、配属教室と相談のうえ、5年次の2単位は4年次での修得可能とし、6年次前期の1単位は、5年次での修得または論文作成による修得を可能とする。

4. 成績評価の方法・基準

配属教室での活動、研究成果に基づき担当教員が100点満点で評価する。

5. 指導教員など

医学部基礎系教室等の教員

6. 備考（準備学習等）

担当教員が提示する。

7. アクティブラーニング

アクティブラーニングを加味する。